

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン モリノミヤイリョウガクエン 学校法人 森ノ宮医療学園							
フリガナ大学の名称	モリノミヤイリョウダイガク 森ノ宮医療大学 (Morinomiya University of Medical Sciences)							
大学本部の位置	大阪府大阪市住之江区南港北1丁目2番16号							
大学の目的	豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。							
新設学部等の目的	【臨床工学科】 臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	保健医療学部 [Faculty of Health Sciences]	4	60	—	240	学士（臨床工学）	平成30年4月 第1年次	大阪府大阪市住之江区 南港北1丁目26番16号
	臨床工学科 [Department of Medical Engineering]							
計		60	—	240				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	大学院保健医療学研究科医療科学専攻博士後期課程 (2) (平成29年3月認可申請) 保健医療学部 理学療法学科[定員増] (10) (平成29年3月認可申請) 看護学科[定員増] (10) (平成29年3月認可申請)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	保健医療学部 臨床工学科	64 科目	38 科目	12 科目	114 科目	124 単位		

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分	保健医療学部 臨床工学科		人	人	人	人	人	人	人
				4 (4)	4 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (9)	0 (0)
	計		4 (4)	4 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	— (—)
組織の概要	既設分	保健医療学部 鍼灸学科	12 (12)	2 (2)	7 (7)	2 (2)	23 (23)	1 (1)	75 (75)
		保健医療学部 理学療法学科	12 (12)	3 (3)	6 (6)	2 (2)	23 (23)	0 (0)	33 (33)
		保健医療学部 看護学科	13 (13)	4 (4)	10 (10)	6 (6)	33 (33)	0 (0)	33 (33)
		保健医療学部 臨床検査学科	8 (8)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	31 (31)
		保健医療学部 作業療法学科	4 (4)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	9 (9)	0 (0)	38 (38)
		計	49 (49)	10 (10)	25 (25)	15 (14)	99 (98)	1 (1)	— (—)
合計			53 (53)	14 (13)	27 (27)	15 (14)	109 (107)	1 (1)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		37 (37)		4 (4)		41 (41)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		3 (3)		4 (4)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計			38 (38)		7 (7)		45 (45)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	32,453.53 m ²	0 m ²		0 m ²		32,453.53 m ²		
	運動場用地	0 m ²	0 m ²		0 m ²		0 m ²		
	小計	32,453.53 m ²	0 m ²		0 m ²		32,453.53 m ²		
	その他	483.12 m ²	0 m ²		0 m ²		483.12 m ²		
合計			32,936.65 m ²		0 m ²		32,936.65 m ²		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
		22,186.82 m ² (22,186.82 m ²)	0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		22,186.82 m ² (22,186.82 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	41室	14室	36室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称 保健医療学部 臨床工学科			室数			個人研究室4室4人 共同研究室1室6人	
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	臨床工学科	36,260 [1,870] (24,660 [1,470])	261 [45] (253 [44])	19 [9] (18 [8])	850 (820)	1,254 (1153)	273 (264)		
	計	36,260 [1,870] (24,660 [1,470])	261 [45] (253 [44])	19 [9] (18 [8])	850 (820)	1,254 (1153)	273 (264)		
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数			大学全体	
	1,027.17 m ²		150		80,000				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	1,284.1 m ²		—						

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。		
		教員1人当り研究費等		280千円	280千円	280千円	280千円	－千円		－千円	
		共同研究費等		9,000千円	9,000千円	9,000千円	9,000千円	－千円		－千円	
		図書購入費	17,500千円	17,500千円	17,500千円	17,500千円	17,500千円	－千円		－千円	
	設備購入費	106,000千円	36,000千円	36,000千円	36,000千円	36,000千円	－千円	－千円			
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体				
	1,830千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	－千円	－千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等									
既設大学等の状況	大学の名称		森ノ宮医療大学							大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号	
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	保健医療学部		年	人	年次人	人		倍			
	鍼灸学科		4	60	－	240	学士(鍼灸学)	1.10	平成19年度		
	理学療法学科		4	60	－	240	学士(理学療法学)	1.15	平成19年度		
	看護学科		4	80	－	320	学士(看護学)	1.11	平成23年度		
	臨床検査学科		4	60	－	120	学士(臨床検査学)	1.20	平成28年度		
	作業療法学科		4	40	－	80	学士(作業療法学)	1.25	平成28年度		
保健医療学研究科											
保健医療学研究科		2	6	－	12	修士(保健医療学)	0.74	平成23年度			
附属施設の概要		名称：森ノ宮医療大学附属施術所 目的：鍼灸学科の学内臨床実習のため 所在地：大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号(森ノ宮医療大学内) 設置年月日：平成19年4月 規模等：床面積180㎡									

教 育 課 程 等 の 概 要																	
（保健医療学部臨床工学科）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2				○			3				兼1	オムニバス	
		物理学	1前	2			○								兼1		
		生物学	1前		2		○								兼1		
		化学	1前		2		○								兼1		
		情報処理	1前		2				○						兼1		
		統計学	1後		2				○						兼1		
	人間理解と社会	心理学	1前		2			○							兼1	兼1	
		生命倫理学	1後		2		○								兼1		
		哲学	2前		2		○								兼1		
		社会福祉学	1前		2		○								兼1		
		日本国憲法	1後		2		○								兼1		
		東洋史概説	1後		2		○								兼1		
語学	英語Ⅰ（初級）	1前	2					○						兼2	兼2		
	英語Ⅱ（中級）	1後	2					○						兼2			
	英会話	2前		2				○						兼2			
	医学英語	2後		2				○						兼2			
	基礎英語演習	2前		2				○						兼2			
	応用英語演習	2後		2				○						兼2			
小計（19科目）			—	8	30	0		—		3	0	0	0	0	兼11	—	
学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	1後		2				○						兼3	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼3 オムニバス	
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	1前		2			○							兼1		
		健康管理学Ⅰ	1後		2			○							兼1		
		健康管理学Ⅱ	2後		2			○							兼1		
		チーム医療とコミュニケーション	2後	2				○				1			兼1		
		栄養学	1後		2			○							兼1		
		身体運動科学	3後		2			○							兼1		
		東洋医療概論	3前		2			○							兼1		
		統合医療概論	3後		2			○							兼3		
		IPW論	3前	1						○			1				兼10
	小計（10科目）			—	3	16	0		—		0	0	1	0	0	兼10	—
	学科専門科目群	人体の構造及び機能	医学概論	1前	1				○							兼1	兼1 兼1 兼1 兼1
公衆衛生学			1後	2			○								兼1		
人体の構造Ⅰ			1前	2			○								兼1		
人体の構造Ⅱ			1後	1			○		○						兼1		
人体の機能Ⅰ			1前	2			○				1				兼1		
人体の機能Ⅱ			1後	1					○		1				兼1		
臨床医学に必要基礎		生化学	1前	2				○							兼1	兼1 兼1 兼1 兼1	
		病理学	2前	2				○							兼1		
		免疫学	2前	2				○							兼1		
		薬理学	2後	2				○							兼1		
		看護学概論	2後	1				○							兼1		
		基礎医学実習	2後	1						○		1	2				
臨床工学に必要基礎		医用工学	1前	2				○				1	1			オムニバス	
		数学演習	1後	1					○			1					
		応用数学	2前	2				○				1					
		応用物理学	2前	1					○			1					
		応用化学	2前	1					○			1					
		電気工学Ⅰ	1後	2				○					1				
		電気工学Ⅱ	1後	2				○					1				
		電気工学実習	2前	1						○		1	1				
	電子工学Ⅰ	2前	2				○				1	1					
	電子工学Ⅱ	2前	2				○				1	1					
放射線工学概論	2後	1						○		1	1			兼1			
臨床工学技術に必要基礎	情報処理工学	2前	2				○				1				兼8		
	医療統計学	2前	2				○				1						
	システム制御工学	2前	2				○					1					
	情報処理・システム制御工学実習	2後	1						○		2	1					
小計（28科目）			—	44	0	0		—		4	3	0	0	0	兼8	—	

教育課程等の概要																
（保健医療学部臨床工学科）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専門科目群	医学生体工学	生体物性工学	2後	2			○			1						
		生体材料工学	2後	2			○			1						
		バイオメカニクス	2後	2			○			1						
		バイオレオロジー	3前		1		○			1						
		計測工学	3前	1				○		1						
		生体情報処理工学	2後		2			○		1						
	医用機器学	医用機器学概論	2後	2			○			1	1					
		生体計測装置学	3前	2			○			1						兼2
		生体計測装置学実習	3前	1					○	1						兼2
		医用治療機器学	3前	2			○				3					
		医用治療機器学実習	3前	1					○		3					
		画像診断装置学	2後		2			○		1						兼1
	生体機能代行装置学	体外循環装置学	2後	1				○			1					
		体外循環療法学	3前	2				○			1					
		体外循環実習	3後	1					○		2					
		血液浄化装置学	2後	1				○				1				
		血液浄化療法学	3前	2				○				1				
		血液浄化実習	3後	1					○		2					
		人工呼吸装置学	2後	1				○			1					
		人工呼吸療法学	3前	2				○				1				
		人工呼吸実習	3後	1					○		1		1			
		人体機能補助装置学	2後		1				○		1					
	全医学管理解安	医用機器安全管理学	3前	2				○			1	1	1			
		医用機器安全管理学実習	3前	1					○		1	2	1			
	関連臨床医学	臨床医学総論（内科学・外科学）	3後	2				○			1					
		内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	3後	2				○			1					
		外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	3後	2				○								兼1
臨床医学演習		3後		1				○		1	1	1				
実臨床	臨床実習	4前	4					○	1	3	2				集中	
小計（33科目）			—	42	12	0	—			4	4	2	0	0	兼4	—
専門特講	臨床工学	医用生体工学特講	4後	1			○			2						オムニバス
		医用機器学特講	4後	1			○			1	2	1				オムニバス
		生体機能代行技術特講	4後	1			○				3	2				オムニバス
		関連臨床医学特講	4後	1			○			1	1	1				オムニバス
		基礎工学特講	4後	1			○			1	1					オムニバス
		基礎工学特講	4後	1			○			1	1					オムニバス
研究分野	先進科学技術	先進科学技術論	3後	1			○			2	1					オムニバス
		先進計測技術学	3後	1			○			1	2					オムニバス
		先進治療技術学	3後	1			○			1	1	2				オムニバス
		機能評価分析学	3後		1			○		1	1					オムニバス
		機能評価学演習	3後		1			○		1	1					オムニバス
		医療情報システム学	3後		1			○		2		1				オムニバス
		医療情報システム学演習	3後		1			○		2		1				オムニバス
		医用ロボット工学	3後		1			○			2					オムニバス
		遺伝子検査学	3後		1			○		1	1	1				オムニバス
		先進科学技術演習	3後		1			○			2	1				オムニバス
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	3通	2			○		4	4	2					
		卒業研究Ⅱ	4通	2			○		4	4	2					
小計（17科目）			—	12	7	0	—			4	4	2	0	0	0	—
合計（107科目）			—	109	65	0	—			4	4	2	0	0	兼31	—
学位又は称号		学士（臨床工学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
4年以上在籍し、教養科目群から必修8単位+選択4単位以上、学部共通科目群から必修3単位+選択4単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目から必修44単位、学科専門科目群の専門科目から必修42単位+選択3単位以上、学科専門科目群の専門特講から必修5単位、学科専門科目群の研究分野から必修7単位+選択4単位以上の計124単位以上修得すること。なお、半期で履修できる単位数は上限22単位、通年では44単位以内とする。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	<p>本演習は、新入生が大学生としての役割を身につけることができるように、学生を支援することを目的としている。具体的には、学生を少人数のグループに分けて担当教員を配属し、(1)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において習得すべき内容の教育、(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3)大学生に求められる一般常識や態度、(4)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1) 片山 俊郎・2 中沢 一雄・3 五十嵐 淳介/8回) 専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。</p> <p>(31) 山本 淳/7回) (1)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において習得すべき内容の教育、(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3)大学生に求められる一般常識や態度について教授する。</p>	オムニバス方式
		物理学	<p>物理学は自然現象を素粒子のような小さなものから宇宙のような大きなものまで、統一した概念で説明できるように発展してきた。そのような物理の基礎的概念は自然現象を説明するだけでなく、テレビや携帯電話、コンピュータ、脳の働きの理解にまで応用されている。ここでは、自然現象を定量的に理解するために必要な数学的事項、物体の運動を理解する力学、波の性質、熱力学とエントロピー、電場、電流と磁界、電磁誘導と電磁波、光の性質、相対性理論、原子と原子核などについて、幅広い知識を教授する。</p>	
		生物学	<p>今日生物学の知識は爆発的に増え続け、生命科学の分野だけでなく自然科学全体にも深く関与し、人文科学や社会科学にも影響を与えている。多様化した生物学の分野で、細胞の概念をとらえることは重要である。そのために、細胞とはどのようなものであるか、その細胞構造の中に含まれている細胞内小器官はどのような働きをするのか、細胞はその内部や外部に対してどのような情報伝達の仕組みをもっているのか、生殖・発生・分化の仕組みはどのようになっているのか、などについて教授する。</p>	
		化学	<p>化学は自然界のさまざまな物質の成り立ちや振る舞いを理解する学問である。そのために、原子の構造とその結合、固体、液体、気体などの物質の状態、溶液の性質、化学反応と熱の授受、化学反応の速さと平衡、金属や非金属とその化合物、有機化合物、量子化学の基礎など、幅広い範囲について教授する。</p>	
		情報処理	<p>本演習では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算を中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、技術の習得のみならず、情報化社会に必要な倫理観を養うため個人情報保護法等についても教授する。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)はWindowsを、ソフトウェアはマイクロソフトのWord、Excel等を使用する。</p>	
		統計学	<p>本演習では代表値や相関と回帰を学ぶことで医学データのまとめ方や確率の基礎・分散分析などを理解する。データと標本調査について解説し、統計学的推定と検定、割合・率・比・リスクについて学んだあと、リスク比、オッズ比、オッズ差の信頼区間へと学修を進める。相関関係と因果関係について学んだあと検定・推定と標本数の関係を理解することで、研究の妥当性、コントロールの必要性、治療の効果、疫学研究から因果関係を調べるための考え方を教授する。</p>	
		人間理解と社会	心理学	<p>心理学を学ぶことで心の仕組みと働き、さらには人間理解を深め、多方面で激動する現代社会の中で、先見性と方向性をもった活動をするための礎の確立を目指す。心理学の基礎的な理論や概念を教授し、さらにそれを実証するための研究法も教授する。また認知心理学分野、学習心理学分野、カウンセリング、ストレス、犯罪心理、家族心理、社会心理などについて学修し、患者心理に向き合い医療従事者として必要な、こころのケアについても具体的に教授する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目群	人間理解と社会	生命倫理学	脳死や安楽死など、現代医療の進歩は、これまで人類が直面したことのない問題を新たに生み出すようになってきている。医療現場でも救急医療では、死に直面する機会にも遭遇する。本講義では、そうした生命倫理の様々な問題を考察しながら、同時に「私達にとって生きるということはどういうことか」を考えさせる。生命倫理の問題は、当事者になって初めて意識するというものではなく、現代人のすべてにそうした生への問いを投げ掛けているということを概説する。	
		哲学	哲学の基礎として、「世界、人間、神」について哲学的に考えることを解説する。著名な哲学者らが、それらについてどのように考えてきたかを考察し、それらへの理解を哲学的に深めるとともに、彼らにある根本や全体から考えるといった哲学的思考方法の基礎を学び、次に東洋哲学と西洋哲学の特色を教授する。	
		社会福祉学	社会福祉の発達を社会環境の歴史的变化との関連で捉え、社会福祉諸法の概要をその成立根拠をふまえながら解説する。また、わが国の社会福祉の特徴や問題点、福祉サービスの現状を解説すると同時にその活用法について実生活との関わりの中で理解する。さらに、少子高齢化の進展をはじめ社会福祉を取り巻く環境が近年大きく変化するなかで、今後の社会変動と社会福祉制度・活動の動向について教授する。福祉の動向・課題について関心を持ち、自らの考えを持ち行動する態度を養うため、新聞記事等から事例を示し考察させる。	
		日本国憲法	法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、過去の歴史的背景や出来事を含めて、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がわれわれにとって非常に身近であることを認識させる。さらに、障害者や母子家庭、父子家庭のこともまたちなどの社会的弱者の問題を含めた、さまざまな社会問題を、人権保障の観点から包括的に考察する。	
		東洋史概説	文献や近年の考古学の成果などを踏まえ、時間的視点・空間的視点でその地域をとらえながら、東アジア世界が果たした役割を歴史的観点から考察する。また、本講義においては、「医学の歴史」の観点からアプローチを行い、東洋医学の背景にある文化や思想について理解する。そして、東洋医学に対して中国医学がどのように影響を与えたかについて考察させる。	
		西洋史概説	本講義では、西洋史における民族社会の形成や文化の歴史的発展を考察し、その基本的問題や特性を理解する。また、西洋の歴史を古代文明から継承されたいくつかの要素を基に掘り起こし、民族社会の形成と発展、キリスト教文化圏や国家の形成等に焦点を当て解説する。なお、本講義においては、西洋における「医」の考え方や歴史的展開等について時間軸に沿った変化を考察する。	
	語学	英語Ⅰ(初級)	英語Ⅰでは、単語・熟語・慣用句の知識を含む語彙力や、文意を正確につかむ文法力を養い、日常生活で目にするようなレベルの会話文を含む、英文を読んで理解する力の習得を目的とする。また、未知語の推測や背景知識、文化的背景の違いに関する知識などを活用して、文章の概要や要点を速く正確に読み取る技術や読解力を養う。医療用語を含めた文章中のキーワードを頼りにして速読を行い、書き手の意図を速く正確に捉える読解力を養う。	
		英語Ⅱ(中級)	英語Ⅱでは、英語Ⅰで獲得した英文読解の知識や技術をさらに発展させることを目的とする。さまざまな分野の英文を多量に読むことにより、中級から上級のレベルの英文を速く読んで正確に理解できる力を養う。パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握するなど、英文読解に必要な技術にも触れながら、速読・多読の演習を行い、重要な情報を正確につかむ読解力を養う。速読によって得た情報をもとに議論をし、文章作成能力の基礎を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	語学	英会話	英会話では、日常生活で用いられる定型的・慣用的な表現について解説し、その表現を自由に使えるように基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。日常生活で自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力を養うだけでなく、日常の話題について基本的な英語表現を用いて自由に表現できる能力の獲得を目指す。対話における受け答えだけでなく、自らも問いかけができるような、会話を発展させる能力をも養い、十分な自己表現ができることを目指す。
		医学英語	医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため(1)コミュニケーションの構成要素について学修し、(2)臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、英語でしかコミュニケーションのとれない患者に対して検査や採血などの行為を行うケースを想定し、具体的に教授する。また患者説明時に、患者の誤解を招かぬように指示を伝えるために必要となる、的確な表現や語彙の選択能力を日本語・英語の相違点を踏まえて解説する。
		基礎英語演習	基礎英語演習では、基礎的な日常会話コミュニケーション能力の向上に焦点を当てながら、総合的な英語運用能力を培うことを目的とする。そのような運用能力を習得するために、(1)日常的な場面で使われる英語の語彙・熟語・構文・文法を確認し理解を深め、(2)実際の会話文のモデルパターンを数多く理解し、またそれらの暗記を実践し、(3)様々な題材を読んだり、聴いたりすることにより正確に要点を捉える能力を育成する。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEICで450点(以上)に相当する英語運用能力習得を目標とする。
		応用英語演習	応用英語演習では、基礎英語演習で獲得した総合的な英語運用能力をさらに発展させることを目的とする。基礎英語演習で修得した語彙力・文法力・リスニング力・読解力を総合的に定着させ、日常の様々な場面において、その状況や文脈を理解し、自ら情報を発信することができる、レベルアップした英語運用能力の獲得を目指す。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEICで500点(以上)に相当する英語運用能力習得を目標とする。
学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	スポーツ(運動)を実施する目的は、健康増進、筋力・持久力向上、ダイエット等、実施する個人によって多種多様である。本演習では、多種多様なスポーツ・運動種目を用意し、目的に応じた効果的トレーニング方法の理論と実際を、スポーツ(運動)の実践を通じて学べる授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図る。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ(運動)を実践する習慣を育成することも本演習の大きな狙いである。
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されているダイエットや運動に関する情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本講義では、日本人の生活習慣や食生活の変化、および健康維持に不可欠な知識を教授する。さらに生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、健康管理に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識の習得を目指す。
		健康管理学 I	本講義では、運動不足の健康への影響を学び、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を教授する。特に、有酸素運動の健康上の必要性を解説し、運動処方条件(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、健康づくりのための運動所要量の算出法や、ウォーミング・アップおよび、クール・ダウンを含めた、運動処方プログラムの構成についても解説する。さらに、食生活と疾病の関係、特に肥満や生活習慣病との関係および健康生活を確立するための食生活の重要性を理解するとともに、肥満に関する正しい知識を身につけ適正な減量の方法を解説する。また、講義だけでなく実際の調査およびエネルギー代謝測定を通じて、栄養素の種類とその機能、栄養の消化・吸収、日本人の栄養所要量、日常生活のエネルギー代謝および消費量、タンパク質等栄養所要量を算出するための方法論の基礎と実際を教授する。

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 共通 科目 群	保健 医療	健康管理学Ⅱ	近年、生活習慣病の危険因子が次第に明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾病に罹患する確率も高くなることから、現代社会では、日常生活においていかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と体力・運動不足の関連性、健康診断(メディカルチェック)に関する基本的な考え方、および健康度の一つの尺度となる体力について、理解を深めさせると同時に、第一予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防に役立つ根拠について教授する。また、個人および集団の健康の現状を把握し、人間の健康を疾病から予防し、維持・増進するための理論や具体的な方法についても解説する。	
		チーム医療とコミュニケーション	本科目では、チーム医療におけるコミュニケーションの特性と基本技術を教授する。具体的には、一般的コミュニケーションの知識と技術、バーバルコミュニケーションやノンバーバルコミュニケーションの特徴について教授する。さらにチーム医療を行う上で重要な、医療従事者間のコミュニケーション、臨床工学技士として習得すべき、患者とのコミュニケーション方法について、臨床場面を想定して体験的に理解しながら実践力を得ることを目標とする。	
		栄養学	栄養は生物が増殖、成長、活動するために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象を指す。ここでは医療人として必要な知識である、栄養と生命活動に焦点を絞った内容とする。それらは食生活と疾病の関連、摂取した栄養素の体内での働き、植物の消化と栄養素の吸収、エネルギー代謝、脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの代謝、遺伝子発現と栄養の関係、人間の成長発達と栄養所要量ならびに栄養状態の判定等で構成する。	
		身体運動科学	本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて教授する。また身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニング方法について解説する。さらに栄養学的な見地から、運動時の筋力増強や、心肺機能を増強させるために効果的な栄養素やその補給方法などを交えて、栄養と運動の関連性についても教授する。	
		東洋医療概論	東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。	
		統合医療概論	現代医学と伝統医学、あるいはBody・Mind・Spiritの視点のいずれも重視しながら患者を包括的にケアすることを目指す統合医療の概念を教授する。まず、今日の医療に必要なEBMの概念と治療法の批判的吟味の仕方について理解させ、次に統合医療の定義、従来の医療や補完代替医療との違い、統合医療の普及状況、現代における統合医療の必要性について解説する。また、各論として統合医療を構成する個々の主要な補完代替療法についても概観し、それを実際に臨床応用している医療機関の実践手法を解説する。統合医療の良い点だけでなく問題点も指摘し、各医療職種が統合医療の概念を取り入れて向かうべき方向性について教授する。 (オムニバス方式/全15回) (16 山下 仁/8回) 医療におけるエビデンスの重要性、EBMの概要と実践例、代替医療研究における倫理、代替医療概論、代替医療の主な診断治療体系の特徴、統合医療の概念と現状、および統合医療の理解と応用について解説する。 (26 森 美侑紀/2回) 代替医療における代表的な手法の一例としてアロマセラピーの概要と実際について解説および実演をする。 (29 増山 祥子/5回) 研究デザイン、有効性検証のための臨床試験、手技療法の概要と実際について解説および実演をする。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通	保健医療	IPW論	<p>本学が有する鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科と臨床工学科において各分野に共通する症状、障害、危機管理、診療計画などをテーマにチームアプローチの実際について教授する。実際の症例を想定し、各学科の専門性を基に専門職間連携の理念を実現するための方法について討議を深める。その際、他者の意見を聞き自らの意見を明確に伝える能力を修得させるとともに、当事者主体の原理に立ったアプローチ方法を検討させる。</p>
学科専門科目群	専門基礎科目	医学概論	<p>医学・医療技術の革新的進歩、超高齢社会の到来、価値観の多様化、社会構造の変化などに伴い、医療を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、医療の本質、現代医療の問題点、生命倫理、患者の権利、EBM(evidence based medicine)、インフォームドコンセント、医療経済等を概説し、医療人の基盤となるべき精神・考え方・知識を教授する。さらに、チーム医療の重要性を鑑み、他医療専門職分野の知識・現状も概説し、広く横断的な視点を持ちつつ、医療における臨床工学の在り方を教授する。</p>
		公衆衛生学	<p>個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うことから社会医学とも呼ばれる。公衆衛生学が網羅する領域は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動を通して身体的・精神的機能の増進をはかる学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、公衆衛生学の理論、衛生統計、衛生行政、食品保健、成人・老人保健、母子保健、産業保健、精神保健などについて教授する。</p>
		人体の構造 I	<p>人体の構造Iでは、循環・内臓系の基本的構造について教授する。循環・内臓系は人体の恒常性維持、すなわち生命維持において重要な機能を有する臓器を包含している。循環系と内臓系の構成要素の体内での相互位置関係や、臓器一つ一つの構造を学修することにより、ヒト一個体での「システム」としての連携した形態と機能の理解に繋がる知識を教授する。単なる部位名称の暗記に留まらず、機能を含めた臨床に繋がる有機的な循環・内臓系の理解を目指す。また、臨床工学技士として必要な微生物学的検査、味覚検査、嗅覚検査にも対応できるよう人体の構造を系統立てて教授する。</p>
		人体の構造 II	<p>人体の構造IIでは神経系の基本的構造について教授する。神経系は末梢神経系と中枢神経系から構成される。末梢神経系は感覚器により得られた外界の情報を中枢神経系に送り、また中枢神経系で処理・統合された命令を効果器に伝える神経系である。中枢神経系は末梢神経系からの感覚情報を整理するとともに、中枢神経系内に蓄積されている情報を統合して最終的な命令を効果器に出力する。これら神経系の構成要素の基本的構造を教授し、人体内での情報伝達機構の精緻さと生命維持における重要性の理解を目指す。</p>
		人体の機能 I	<p>人体の機能Iでは、神経系の機能について解説する。生理学の意義、細胞の一般に続き、神経と筋の機能、神経系の解剖を概説し、反射を中心とした脊髄や脳幹の機能、小脳、大脳基底核、大脳皮質による運動の調節について解説する。また、体性感覚、特殊感覚の受容器レベルでの特性および中枢での情報処理について解説し、感覚が運動の調節にも関わること解説する。また、感覚や運動の情報が、学習により記憶に変換される過程や、情動や動機づけを含めた統合機能についても解説する。最後に、自律機能についても概説する。</p>
		人体の機能 II	<p>人体の機能IIでは、主として生命維持に必要な各臓器の機能について解説する。呼吸、循環、消化について解説した後、運動機能との関連について概説する。また、排泄、循環、体温などの機能について解説し、内分泌系の機能を自律神経との関連も含めながら解説する。さらに、植物性機能の多くが生体に外乱が加わっても生体の内部状態を一定に保つフィードバック機構を備え、外乱に対して予測的に内部状態を制御することを解説する。最後に、生命維持機能の解明がホメオスタシス維持機構の解明に他ならないことを解説する。</p>
	臨床工学に必要な	生化学	<p>生化学は生命現象を分子レベルで学ぶ学問である。本講義では人体を構成している化学物質の生体内での生物化学反応と生命維持との関わりについて教授する。糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸などの主要な生体構成物質の構造と機能およびその合成と分解の代謝経路の詳細について解説し、生命活動が多様なシステムより構築されていることを教授する。分子生物学、ゲノム解析学、構造解析学、実験技術などの最新の進歩についても教授する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床工学に必要な医学的基礎	病理学	病理学とは、病気の原因や病変の成り立ちを、形態的变化や機能異常の面から明らかにする学問であり、病理診断を通じて臨床医学と密接に関係している。本講義では、病理学総論(細胞傷害・適応、炎症と修復、循環障害、代謝異常など)により、種々の病変における臓器、組織、細胞レベルの形態的变化とそのメカニズムを理解するとともに、病理学各論(各臓器・器官系)により、各疾患にみられる病的形態変化と病態との関係について解説する。	
	免疫学	本講義では、生体防御システムの主軸である免疫について、自然免疫と獲得免疫のそれぞれを構成する細胞やそれらの働きを見ることで免疫を理解できるよう進める。さらに、実際の細菌感染やウイルス感染などに対して生じる免疫の働きを確認することで生体防御の仕組みを教授する。一方、免疫に異常が生じることで引き起こされるとされるアレルギー疾患や自己免疫疾患、免疫不全症といった疾病がどのようなメカニズムのもと起こっているのかを教授する。また、最近の抗体を用いた治療法について、その作用機序や作製方法などについても概説する。	
	薬理学	薬物が生体に与える効果について、理論的に考察できるようになることを目標とし、生体内で薬物と生体構成分子がどのように関わりあって作用を示すのか解説する。薬の作用は薬物分子とその受容体との相互関係により引き起こされる。主な薬物の用量と作用の関係、アゴニストとアンタゴニスト、主作用、副作用、有害作用、毒性との関係について教授する。さらに、各種疾患の治療や予防において薬物を適切かつ効果的に使用するために必要な基本的知識を教授する。	
	看護学概論	本講義では、看護の理念、目的、機能、実際の活動等を学修し、看護学についての基礎的な知識やスキルを身に付けさせる。また、「健康の概念」「看護の定義」を理解させ、看護・看護学の歴史的発展過程と現状、今日の看護学を形作っている基礎知識を教授する。各自が看護・看護学の現状とその方向性を理解し、臨床工学技士としての看護・看護学について主体的に考える土台を形成することを目指す。	
	基礎医学実習	人体の構造、人体の機能、生化学、病理学及び免疫学の学習内容についてより理解を深めるために、関連する実験・実習を行う。内容としては、形態計測と体組成計測、人体解剖模型の観察とスケッチ、正常組織の顕微鏡的観察とスケッチ、循環系の生理学的測定(姿勢変換・運動による体温、血圧、心拍数及び心電図)、呼吸機能の計測(スパイロメトリー、フローボリューム曲線及びパルスオキシメータ)、腎機能計測(クレアチニンクリアランス等)、生化学検査(血糖、TG、たんぱく質の定量、酵素活性)などについて教授する。	
臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	<p>医用工学は、電気電子工学、機械工学、情報工学など広範な工学の分野と医学・生物学の境界領域の学問である。まず、医用工学の目指すところおよびその歴史について概説する。医用工学を学ぶ上で必要となる物理・化学・数学・工学の基礎を解説し、工学的なアプローチの生物・医学への応用について教授する。さらに、現代の医療で使用される計測・診断機器の概要などを学ぶことにより、医用工学の全体像を体系的に把握し、その中での臨床工学の位置づけを理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 片山 俊郎/8回) 医用工学の目指すところ・医学と工学の歴史的関係・医学と工学の接点・医用工学の特質と生命倫理等について教授する。</p> <p>(8 布江田 友理/7回) 臨床工学技士の役割・臨床工学部門の役割・他の部門との違い等について教授する。</p>	オムニバス方式
	数学演習	<p>数学に関する計算力や思考力は必要な基礎的能力でもある。数学の解法を覚え問題を解くことだけでなく、数学の基礎的な概念の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を知得するなど、数学に関する知識や能力を固め、数学的な考え方や活用を意識した視点で再度整理する。微分積分学は解析学の基礎であると同時に数学全般のみならず自然科学・工学に欠かせない道具であるので、微分積分の基礎を学び、数列・関数などの概念と基本定理を教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群 専 門 基 礎 科 目 臨 床 工 学 に 必 要 な 理 工 学 的 基 礎	応用数学	生体計測用機器を扱う上で基礎となる、微積分学、微分方程式などの解析学と、ベクトル、行列など線形代数学の理論を教授する。具体的には、集合と論理、関数と極限、導関数、高次導関数、テイラーの定理、マクローリンの定理、速度・加速度と微分、不定積分、定積分、ベクトルとその応用、行列と行列式、固有値と固有ベクトル、1階線形微分方程式、2階定数係数線形微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換、離散スベクトル、自己相関関数について解説する。	
	応用物理学	応用物理学は、人体生理の機序や医用機器の動作原理を理解する上で基礎となる重要な科目であり、物理学を学ぶ過程それ自体が、少数の原理から出発して多様な現象を理解していくという理学・工学的な思考法を習得するために必要である。したがって、生体物性に関連する物理現象と医療で利用されている治療装置、計測装置等の物理的原理について概説するとともに、生体計測、治療等において生体へのエネルギーの作用を安全かつ効果的に行うためには、生体の物理的特性を理解し、エネルギーの作用に対する生体の応答について教授する。	
	応用化学	応用化学では、生体材料の基礎となる有機化合物を第一とし、次に、濃度や浸透圧などの溶液化学について概説する。さらに、血液の物性や流動、拡散や吸着など、医療における様々な現象を化学工学的に解釈し、その論理的な理解を深めることを目的とする。血液浄化装置学および体外循環装置学に必要な化学的基礎知識を高め、血液の流体力学や溶液中の物質移動現象について正しく理解させることを目標として、液中での基本的な物質移動現象について教授する。	
	電気工学 I	電気工学は、様々な分野で広く用いられている。電気工学 I では、その基礎となる直流回路や交流回路などの電気回路理論の骨子を概説する。具体的には、直流回路では、オームの法則、キルヒホッフの法則、閉路方程式を用いた回路解析、重ね合わせの定理、鳳・テブナンの定理、ブリッジ回路などを学習させる。交流回路では、正弦波交流の電圧や電流の振幅や位相と周波数の関係、インピーダンスの複素数表示、複素数を用いた交流回路解析、フェーザ軌跡、電力、周波数特性、電圧伝達関数、電力装置などについて教授する。	
	電気工学 II	電気工学 II では、過渡現象解析と電磁気学について教授する。過渡現象解析では、線形微分方程式の解法と RC 回路および RL 回路の過渡応答、交流電源を含んだ RC 回路、RL 回路、RLC 回路の過渡応答を学習させる。電磁気学では、ベクトル場の表わし方、クーロン法則、電界と電位、電荷と電解、電流と磁界、電磁誘導と変位電流、マクスウェルの方程式、誘電体と静電容量、磁性体とインダクタンス、仮想変位の原理、誘電体や磁性体に働く力、運動と電磁界、力の運動の電磁現象、導体内の電磁界、電磁波などについて解説する。	
	電気工学実習	電気現象を計測するためのオシロスコープ、LCRメータ、マルチメータ、フラックスメータなどの基本的な電子計測器の動作原理や使用方法を解説する。また、電源を含む回路の電流と電圧を測定し、理論値(キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理)と比較する。受動素子を用いた積分回路、微分回路、共振回路などの周波数特性やステップ応答を測定し、理論値と比較する。コイルに交流電流を流して磁界を発生させ、誘導起電力を測定し、起電力と磁束との関係を分析する。これらの実習課題を通して理論に裏付けされた計測法を教授する。	
	電子工学 I	生体計測装置、生体機能代行装置、治療機器などを理解する上で基礎となる電子回路素子および電子回路について教授する。具体的には、抵抗、コンデンサ、コイルなどの受動素子については構造、機能、特性、使い方について解説する。能動素子については、半導体の基礎を踏まえて、ダイオード、トランジスタ、演算増幅器などの機能、特性、使い方を学習させる。さらに、受動素子と能動素子を組み合わせた回路の設計や解析方法を解説する。また応用として各種のアナログ回路、論理回路、通信方式などの理論を解説する。	
	電子工学 II	電子工学 II では、電子回路 I を基礎に、体温計、血圧計、心電モニタ、脳波計、人工呼吸器、ペースメーカ、透析装置など、生体計測装置、生体機能代行装置、治療機器で実際に用いられている電子回路を例に、回路構成、機序解析、特性および素子選択理論を教授する。また、これらの機器に影響を与える攪乱因子とその抽出方法、機序の解析方法、低減化を図る回路設計理論を解説する。最後に回路の制作方法及び留意事項について教授する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(保健医療学部臨床工学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学科専門科目群	臨床工学に必要な理工学的基礎	電子工学実習	演算増幅器やダイオードを用いた回路として反転増幅回路、非反転増幅回路、比較回路、加算回路、減算回路、対数変換回路を、またトランジスタ、ダイオードを用いた回路として、電流増幅回路、スイッチング回路、インバータ回路などを設計、製作し、それらの特性実験を通して回路動作のチェックの仕方、特性データの整理の仕方、機能解析方法を教授する。また、これらを組み合わせて実現される応用課題として電圧・周波数変換回路を設計、製作し、特性実験を行う。これらの課題を通して電子回路素子の機能と適用理論の理解を深める。		
		放射線工学概論	放射線の物理・化学的性質、放射線に関する単位、放射線の生物学的作用、人体に対する影響について総合的に概説する。さらに、医療における放射線診断の実際として、X線検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査、SPECT検査、PET検査、放射線治療、放射線の安全管理、核医学の臨床応用、放射線取り扱いに関する法令に至るまで放射線の臨床応用に関して解説し、放射線の医療利用への理解と放射線に対する正しい知識を習得し、医療現場での放射線の安全な取り扱い、事故の防止について教授する。		
		情報処理工学	デジタル信号の表現と論理演算、論理回路、コンピュータの基本構成とコンピュータの動作原理、オペレーティングシステム、プログラム開発とプログラミング言語、ユーザインターフェース、データ処理アルゴリズム、データベース、データ通信とネットワーク、コンピュータによる計測・制御の考え方と方法、コンピュータが構成要素となっている医療・治療機器事例や計測システム、医療情報システム事例、医療現場でのセキュリティ対策など情報技術の基礎を教授する。		
		医療統計学	臨床医学や基礎医学の各領域、或いは医師や看護師、臨床工学技士などの各医療職種を問わず、医療の現場では生体を中心としたさまざまな数値(データ)を扱うこととなり、統計学的手法を駆使して解析を進めるケースが多い。医療統計学では、母集団と標本、正規分布と区間推定、平均値や標準偏差、差の検定(関連2群、独立2群、関連多群、独立多群など)、帰帰と相関関係などについて、市販されている有用な統計処理ソフトとバイオサイエンスの実際に基づく数値を扱いながら、演習を通して教授する。		
		システム制御工学	システム工学の考え方、システムの構造と特徴、生体システムの構成要素と特徴、システムの設計と評価、システムの信頼性と安全性などシステムの基礎事項を学習する。システム工学の基礎事項を踏まえ医療システム機器に組み込まれて利用されているシーケンス制御、プロセス制御、フィードバック制御、フィードフォワード制御、ファジー制御、ロバスタ制御、最適制御などの制御方法、制御系の記述方法、特性などについて解説し、最後に医療システム機器における制御を教授する。		
	臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	情報処理・システム制御工学実習	流量、液レベル、圧力などを制御対象としたシステムを組み上げ、各構成要素の状態を時系列的に計測しプロセス制御を教授する。受動素子および演算増幅器などの電子要素で構成したシステムを組み上げてP、PI、PIDなどの制御方式の過渡応答を求め、結果の解析を通してフィードバック制御を解説する。温度を制御対象としたシステムを組み上げ、各構成要素の状態を時系列的に計測しフィードフォワード制御を学習する。これらの実習を通してシステム制御のしくみや基礎理論に対する理解を深める。		
		医用生体工学	生体物性工学	臨床において使用される生体計測機器や治療機器の多くは、様々な物理エネルギーを生体に加えており、この物理的エネルギーと生体とのかわり合い(生体物性)を教授する。具体的には、生体物性の特徴と生体物質、生体の受動的電気特性、生体の能動的電気特性、電流の生体作用、電磁界と生体物性、生体の力学的静特性、生体の力学的動特性、生体の流体力学的特性、脈管系の生体物性、生体の音波・超音波に対する性質、生体の熱に対する性質、生体の光に対する性質、生体の放射線に対する性質、医用材料と生体物性などについて解説する。	
			生体材料工学	生体内に埋め込まれ、血液に接触して治療に用いる人工材料の生体適合性、機能性、可滅菌性、非毒性、耐久性などの基本的適合条件や安全性評価について教授する。また実際に用いられている金属材料、非金属材料、有機材料(高分子材料)などについて、その材料特性、用途を解説する。生体と医用材料の相互作用について、血液接触材料や組織接触材料が接触したときの生体反応、生体と接触した材料が受ける変化、医用材料の生体適合性、生体機能代行装置の生体適合性について教授する。	
		専門科目	医用生体工学		

授 業 科 目 の 概 要					
(保健医療学部臨床工学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	バイオメカニクス	医療機器はすべて機械であり、その保守、点検、操作では、機械の動作原理、損傷や破壊、振動や騒音などが起こるメカニズムについて知っておく必要がある。力とモーメント、応力とひずみ、フック法則とヤング率、粘弾性、力と運動、ばねの振動、摩擦、エネルギー、熱と比熱、熱エネルギー、熱の移動、圧力、ボイル・シャルルの法則、パスカルの原理、流体、ベルヌーイの定理、ポアズイユの式、音波と超音波、ドップラー効果、超音波エコーなど、機械工学分野で扱う基本原理や法則あるいは解析手法などを教授する。	
		バイオレオロジー	生体組織の力学的特性は弾性・粘性・塑性のいずれか1つに分類される単純なものではなく、これら3つの特性が混在した複雑な様相を呈する。こうした力学的特性を対象とする学問分野をレオロジーといい、とりわけ生体組織を対象とするレオロジーをバイオレオロジーという。血管の変形や血液の流動といった複雑な現象の理解には、単純化された数理モデルから出発することがその助けとなるため、単に現象の定性的記述にとどまらず、数式を用いた現象の表現を取り入れながら、特に血液の円管内流れおよび血液粘性の特性について教授する。		
		計測工学	生体計測に必要な計測技術である、物理量と国際単位系、測定の実差と有効数字、測定精度、間接測定と誤差、機械的測定(長さ、角度、質量、力、圧力、流量など)、センサとセンシング技術(変位、長さ、速度、角速度、力、磁界、光、温湿度など)に加え、信号の計測、AD変換とサンプリングの定理などのアナログ信号計測技術、時系列データの信号処理、移動平均、フィルター、離散フーリエ変換、窓関数などのデジタル信号処理技術について教授する。		
		生体情報処理工学	生体のもつ高次機能を理解するために、生体情報の基盤となる知識を身につけ、情報処理の工学的手法を修得することは十分意義がある。生体情報処理工学では、生体が有する巧妙な情報処理機能を支えている脳と神経系の機能、心臓の電気生理について概略を理解するとともに、これらを抽象化することによりカイネティックスの特質について教授する。さらに、生体情報の解析に必要な工学的手法について、モデル・シミュレーションなど基礎的な概念や情報処理の理論的基礎について教授する。		
	医用機器学	医用機器学概論	医用機器の全体像と臨床医療における医用機器の役割を教授する。具体的には、医用機器の歴史と発展、生体計測・監視用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、治療用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、生体機能代行補助機器の構成、原理、使用環境および使用条件、医用電子機器の構成、原理、使用環境および使用条件、医用機器で使用する電磁波、超音波、放射線、レーザーなどの人体への影響と適用原理、医用機器の事故事例と安全対策、医用機器適用時の倫理などについて解説する。		
		生体計測装置学	生体計測は様々な現象を計測対象としている。このような生体の計測装置を理解する基礎として、まず、単位と標準および測定の対象となる生体の物理的、化学的、力学的現象について解説する。次に、生体センサやトランスデューサなどの原理と構造、信号の増幅器の原理や回路構成について解説する。さらに、生体電気計測機器(心電計、脳波計、筋電計など)の原理、仕組み、得られるデータの特性、解析の方法などについて解説する。色んな生体計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性について理解し、計測装置の適切な操作と維持管理ができることを目的として教授する。 (オムニバス方式/全15回) (1 片山 俊郎/4回) 生体内圧の種類と測定原理、血圧の直接測定法・間接測定法、血流量・流速の測定法(心拍出量の測定・血管内の血流測定)について教授する。 (2 小宮山 恭弘/6回) 心電計、脳波計、筋電計のシステムと測定法、呼吸における流量・流速の測定法について教授する。 (3 脇 英彦/5回) 血液ガス分析、生化学、血液学、免疫学的検査の構成と原理について教授する。	オムニバス方式	

授 業 科 目 の 概 要					
(保健医療学部臨床工学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学 科 専 門 科 目 群	専 門 科 目	医 用 機 器 学	生体計測装置学実習	臨床において使用される生体計測装置の適切な操作と維持・管理ができることを目標にして、生体センサの種類と検出特性、生体用増幅器のしくみと増幅特性、心電計の構造と測定、脳波計の構造と測定、筋電計の構造と測定、レーザーを利用した測定機器の構造と特徴、超音波ドップラ流速計による血流測定、超音波診断装置の操作、サーモグラフによる体表温度測定等の実習を行う。また、フーリエ解析など生体信号の解析法について実習を行う。	
			医用治療機器学	医療現場では様々な医療機器が用いられている。まず、治療機器の原理を理解するための物理工学的基礎(力学、超磁気学、光学など)を教授する。ついで、医療機器の適切な操作と維持管理ができることを目的として、電磁気治療器(電気メス、マイクロ波手術装置、心臓ペースメーカー、除細動器など)および機械的治療器(吸引器、輸液ポンプ、体外式結石破碎装置など)の原理・構造・操作法・治療のプロセスと評価法・安全管理などについて教授する。 (オムニバス方式/全15回) (5 西垣 孝行/5回) 除細動器、心臓ペースメーカーの適応、原理と構造及び輸液ポンプとシリンジポンプの原理と構造について教授する。 (7 加納 寛也/5回) 操作及び心臓・血管インターベンション治療の概要と適応、使用する機器の原理・構造および設備について教授する。 (8 布江田 友理/5回) 電気メス、超音波吸引装置と超音波凝固切開装置、レーザ手術装置(光凝固、光治療を含む)の原理と構造について教授する。	オムニバス方式
			医用治療機器学実習	医療の現場では様々な医用治療機器が用いられている。これらの機器を安全な使用ならびに保守・点検ができることを目標に実習を行う。機器の動作原理と構造を理解した上で、電磁気治療器、機械的治療器、光・レーザー治療器、超音波治療器、熱治療器等について正しい操作法を修得させるとともに、保守・点検法の実習を通して体得させることを目標とする。具体例として、電気メスの出力と波形から切開の特性を理解させたり、超音波診断装置を使って血管の内径測定やドップラー法による流量測定などを行う。	
			画像診断装置学	臨床で利用されている画像診断装置の原理、構造、得られるデータ及び画像の特徴について教授する。ここでの画像診断装置とは、超音波診断装置、エックス(X)線診断装置として透画像計測、X線CT、核磁気共鳴画像計測装置(MRI)であり、さらに、ラジオアイソトープによる画像計測(SPECT、PET)の原理・装置・診断の特徴、内視鏡画像計測の原理と特徴について解説する。また、これらの機器の安全管理について教授する。 (オムニバス方式/全15回) (1 片山 俊郎/4回) 腹腔鏡、内視鏡の構造と原理及び操作法と点検について教授する。 (41 長井 英仁/11回) 超音波診断装置、核磁気共鳴画像診断装置(MRI)、RI、X線画像診断装置(X線CT)の原理と構造について教授する。	オムニバス方式
			医用監視システム装置学	医用監視システム装置学では、血圧、心拍出量、血管内血流などの循環器系計測器、呼吸、ガスモニタなどの呼吸器系計測、誘発電位、近赤外分光法、fMRIなどの神経系計測および血液、尿などの臨床生化学分析の原理と計測機器の構造・構成及び得られるデータの特性について教授する。さらに、ICU患者に必要な肺動脈カテーテル(スワンガンツカテーテル)による右心系圧や心拍出量のモニタリングや中心静脈カテーテルによる中心静脈圧のモニタリングの詳細について解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群 専門科目 生体機能代行装置学	体外循環装置学	生命維持管理装置の一つである人工心肺システムを構成する材料をはじめ血液ポンプ、人工肺、フィルター、リザーバなどについてその基礎から最新の技術面を含めて教授する。まず、血液ポンプ、人工肺、人工心肺の原理と構成について解説する。次に、血液に対する影響、内分泌・免疫への影響、循環動態などの体外循環の病態生理について解説し、さらに、人工心肺充填液、適正灌流法、モニタリング、心筋保護などの体外循環技術を学習させる。また、体外循環のトラブル対策、合併症など安全管理について教授する。	
	体外循環療法学	体外循環療法学では、心臓血管外科手術の主な対象疾患である虚血性心疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患、静脈疾患（静脈血栓症、肺塞栓症を含む）などを解説し、これらの疾患に対する心臓血管外科手術の内容の理解を深め、人工心肺装置などの体外循環の原理、機器構成及び操作法について教授する。さらに、心筋保護法の詳細や人工心肺療法の施行に伴う非生理的な弊害、機械的な弊害及び血液の凝固能が抑制されることによる弊害などの合併症についても教授する。	
	体外循環実習	体外循環装置学、体外循環療法学を教授し、実際に心肺装置に触れ臨床で使用される必要な技術を修得させる。実習内容は、人工心肺回路の組み立て、プライミング、適正圧閉度調整（メインポンプ、吸引ポンプ）、バックを使用したシミュレーションで人工心肺の開始ワイーニングについても学習し、人工心肺の原理や機能の理解を深める。さらに血液における低体温に関する粘度測定や、牛血を用いた血液凝固の仕組みを学び、生体における人工心肺の影響についても解説する。また、人工心肺装置の保守管理・点検方法についても実習する。	
	血液浄化装置学	人工透析に代表される血液浄化療法について、原理・適応疾患・装置構成・操作方法について総合的に概説する。まず血液浄化療法の目的と原理、血液浄化器(ダイアライザー)の種類と構造について解説する。次に、血液浄化の実態を理解するために、血液浄化器の選択と適応疾患、透析液・補充液・抗凝固薬等の使用方法、治療の実際と患者管理について解説する。さらに、血液浄化施行時の安全管理、水処理装置、保守点検、事故対策等について実践的、総合的に教授する。	
	血液浄化療法学	生命の代謝回転には体液組成の恒常性が必要である。腎不全や肝不全による代謝産物の排泄不全や自己免疫疾患に関連する自己抗体や免疫複合体などの除去に対し、様々な血液浄化療法が施行される。代謝機能代行技術学では、主に腎不全に対する病態生理と治療法としての血液透析療法に関する透析装置の原理や操作および保守点検技術ならびに安全管理技術を中心に解説する。さらに、膜分離や吸着技術を応用したアフエレンス療法の基礎理論や装置の管理技術を教授する。	
	血液浄化実習	血液浄化実習では、治療室を模した実習室にて実際に作業やデータ解析を行うことで臨床工学技士の血液浄化業務に関する一連の流れをつかみ、治療原理、機器原理や操作方法、トラブルシューティングの詳細について実践的に教授する。具体的内容として、HD(血液透析)ではクリアランスに及ぼす血流量の影響、透析液流量の影響及び向流と並流の差違を、HDF(血液透析濾過)とHF(血液濾過)ではクリアランスに及ぼす濾液流量の影響を検討し、血液浄化の分離法について解説する。	
	人工呼吸装置学	補助装置を含めた人工呼吸器の構造・装置・操作について総合的に教授する。まず、人工呼吸器の目的と医用ガスの物性と気体力学などの原理および人工呼吸器の種類と構造について学習させる。人工呼吸の技術として、自発呼吸と人工呼吸、換気モード、開始基準、人工呼吸器の設定、患者状態の把握等について解説する。さらに、在宅呼吸管理(酸素療法、人工呼吸)、安全管理の手法として各機器の安全管理、日常・定期点検、消毒と洗浄などについて解説する。	
	人工呼吸療法学	呼吸療法は医師だけでなく、臨床工学技士、看護師、理学療法士がそれぞれの役割を活かして呼吸管理を行なうことで効果的な治療が行なわれている。人工呼吸器は自発呼吸と異なる非生理的な換気法であることを理解し、なぜ人工呼吸器が必要なのか、合併症を含めその特徴を十分に理解しておく必要がある。まずは、肺の構造や呼吸生理、血液ガスの解釈や肺機能基準値などを解説し、呼吸療法の適応と呼吸管理の実際ならびに操作・保守管理方法について教授する。人工呼吸器および周辺装置の基礎知識を理解し、人工呼吸器の使用法、呼吸モードが説明でき、患者呼吸管理、保守管理・トラブルシューティングについて学生自らが説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群	生体機能代行装置学	人工呼吸実習	人工呼吸実習では、各種人工呼吸療法機器の外観的特徴・機能的特徴を理解させ、始業点検・使用中点検・終業点検・定期点検・回路交換・消毒滅菌の保守管理法を修得させる。さらに、基本的操作方法を習得した後、体験実習として、人工呼吸器の装着によるファイティングを体験し、各種病態のシミュレーションおよび設定モードの変更などを実施することで、人工呼吸器の操作・保守点検管理技術の修得に繋げる。
		人体機能補助装置学	人体機能補助装置学では、循環器系の補助装置である大動脈バルーンパンピング(IABP)、経皮的心肺補助装置(PCPS)、ペースメーカー及び補助人工心臓などの目的、原理、使用する物品・機器及び装着手順と操作方法について解説し、動作チェック及びトラブル対策について教授する。さらに、脈管カテーテル治療・検査の目的、原理、使用する物品・機器及び装着手順と操作方法について解説し、動作チェック及びトラブル対策について教授する。
		人体機能補助療法学	人体機能補助療法学では、循環器系の補助装置である大動脈バルーンパンピング(IABP)、経皮的心肺補助装置(PCPS)、ペースメーカー及び補助人工心臓などの目的、適応疾患及び禁忌事項について解説し、モニタリングのポイント、離脱条件及び患者確認について教授する。さらに、脈管カテーテル治療・検査の目的、適応疾患及び禁忌事項について学び、モニタリングのポイント及び患者状態等の確認事項について教授する。
		人体機能補助実習	手術室、ICUにおいて臨床工学技士が関わる装置・操作方法についての理解を深めさせるとともに、各種装置の操作原理・操作法の習得を目的に以下の実習を行う。具体的には急性血液浄化領域における緩徐式血液透析濾過(CHDF)法や血液吸着療法、補助循環装置であるPCPSの回路の組み立てや操作法、IABPにおける装置の原理を理解した上での操作法、さらには自己血回収装置(セルセーバ)の装置の原理を理解した上で操作法について教授する。
	医用安全管理学	医用機器安全管理学	医用機器を様々な臨床の現場で操作運用する上で患者、操作者などに対して高い安全性と信頼性をもって行えるように医用機器、設備の安全・管理について教授する。各種の物理化学的エネルギーの人体への影響について解説し、特に多くの医療機器が電気エネルギーを使用していることから医用電気機器の安全規格について知識を深めさせる。それをもとに医用電気機器の安全な操作・運用と管理技術について修得させる。また、医療ガスの安全管理及び医用機器を使用する環境における電磁障害についても教授する。
		医用機器安全管理学実習	臨床工学技士の業務に最も必要な「医療機器・医用電気設備」の安全な運用と管理について、実習と事例調査を通じて解説する。実習は大きく3分野に分けて行う。第1は、医用電気・電子機器を用いた安全管理技術に関する実習を行う(漏れ電流の測定回路の作成測定と回路の特性試験・各種医療機器の漏れ電流測定、コンセント保持力の測定、消費電力の測定など)。第2は、医療ガスに関する安全基準をもとにガス設備に関する実習を行う。第3は、実際に起きた医療事故事例を検索し、医療事故を分析するFTAなどの手法を用いて、再防止策について教授する。
		関係法規	臨床工学技士として医療機器の安全管理操作を行う際に知っておくべき法令について教授する。臨床工学技士法を学び、臨床工学技士基本業務指針を理解させる。改正医療法ならびに改正薬事法を学び、医療機器安全管理者としての役割を理解させる。その他の関連法(医師法、薬事法、保健師助産師看護師法など)を学習し、関連医療業務に関する法規を解説する。また、製造物責任法(PL法)、医療機器に求められる清浄度について解説し、医療機器と医療事故防止について教授する。
	関連臨床医学	臨床医学総論(内科学・外科学)	疾病は構造、機能等が異常を起こした状態であるが、そのような異常を起こす原因、病態および種類について基礎的な解説を行う。本講義では臨床医学総論として、まず各種臓器の正常機能について講義した上で診断学・症候学を学び、その後、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、血液疾患、神経・筋疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症について、それぞれの代表的具体的疾患の病態生理、症状、診断、治療等について教授する。

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専門科目群	専門科目	内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	臨床工学技士には疾患の病態理解が不可欠である。循環器・呼吸器・腎・感染症領域は特にデバイスの進化した分野であり、これら分野の病態の理解なくして医療デバイス管理は不可能である。本講座は各領域の疾患の病態生理について内科的アプローチで詳しく言及し、また検査・内科的治療における医療機器の関わり・理論についても概説する。カテーテル・IABP等を治療・検査に使用する虚血性心疾患・心不全、人工呼吸器管理を必要とする呼吸器疾患、透析を使用する腎疾患、多くのデバイスを必要とする感染症疾患について、その概要、病態生理、症状、診断、治療等を教授する。	
		外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	外科学領域においては、治療に様々な医療機器が使用されるため、臨床工学技士には疾患の病態理解及び術後管理の理解が不可欠である。特に、循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学は検査・治療において特に様々な医療機器に触れるところであり、本講座は各領域の疾患の病態生理について外科的アプローチで詳しく言及し、同時に手術手法・術後管理についても概説し、外科分野における医療機器の関わり・理論についても概説する。人工心肺、透析機器、麻酔領域・手術場・集中治療室で使用する多彩な医療機器について、病態とリンクさせながら、外科学を教授する。	
		臨床医学演習	臨床医学演習は、基本的な生命維持管理技術の理解と治療効果およびチーム医療の中での臨床工学技士の役割や責任等について解説し、次に来る臨床実習での事前準備と位置づける。また、チーム医療における臨床工学の重要性を解説することで、他の職種との協調性を養いながら臨床工学技士の使命を自覚し、将来どの分野の技士になるにしても最低限必要な医学知識・臨床推論法・技能・態度などの能力を事前に身に付けさせることを目標とする。	
	臨床実習	臨床実習では、在学中における学修成果をもとに病院などの学外の医療施設において血液浄化、体外循環、集中治療、手術業務及び医療機器管理システムの分野において慢性・急性人工透析業務や循環器外科手術における人工心肺業務や集中治療室での呼吸管理及び医療機器の保守点検管理業務を体験させ、臨床工学技士業務に必要とされる知識や技術を再確認するとともに、チーム医療の必要性やコミュニケーション能力の形成を図り、医療に携わる技士としての倫理観や使命感を教授する。		
専門特講	臨床工学技術特講	<p>医用生体工学特講では、「医用工学」、「生体材料工学」、「生体物性工学」、「バイオメカニクス」および「計測工学」の科目について、相互に関連させながら系統的に復習し、理解を深めさせる。そのための講義法として、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブラーニングを実施し、学生の主体的な学修を促すことにより、生体に関連する基本的な物理化学的現象について工学的観点から説明できるレベルの知識を修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 片山 俊郎/7回) 計測工学、安全管理工学の内容について教授する。</p> <p>(4 稲田 慎/8回) 生体材料工学、生体物性工学、バイオメカニクスの内容のについて教授する。</p>	オムニバス方式	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群	臨床工学技術特講	<p>医用機器学特講では、「医用治療機器学」、「生体計測装置学」及び「医用機器安全管理学」の科目について、相互に関連させながら系統的に復習し、理解を深めさせる。そのための講義法として、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブラーニングを実施し、学生の主体的な学修を促すことにより、ICU、手術室等の医用室で使用される各種治療機器、モニタリング機器の、原理、使用目的、構成及び操作方法について説明できるレベルの知識を修得させることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 片山 俊郎/6回) 生体計測装置学の内容について教授する。</p> <p>(5 西垣 孝行/3回) 医用治療機器学(除細動器、心臓ペースメーカ、脈管カテーテル等)の内容について教授する。</p> <p>(8 布江田 友理/3回) 医用治療機器学(輸液ポンプ等)、医用機器安全管理学(医用ガス)の内容について教授する。</p> <p>(10 辻 義弘/3回) 医用治療機器学(電気メス等)の内容について教授する。</p>	オムニバス方式
		<p>生体機能代行技術特講には、「血液浄化関連」、「体外循環関連」、「人工呼吸器関連」の科目について、技術、治療の相互に関連させながら系統的に復習し、理解を深めさせる。そのための講義法として、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブラーニングを実施し、学生の主体的な学修を促すことにより、これらの機器の、原理、使用目的、構成、操作方法及び適応疾患、禁忌事項について説明できるレベルの知識を修得させることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 西垣 孝行/3回) 心臓ペースメーカ、脈管カテーテル等の業務に関連した内容について教授する。</p> <p>(7 加納 寛也/4回) 体外循環(人工心肺、補助循環)の業務に関連した内容について教授する。</p> <p>(8 布江田 友理/2回) 人工呼吸器の機器業務に関連した内容について教授する。</p> <p>(9 藤江 建朗/3回) 人工呼吸器業務及び集中治療室業務に関連した内容について教授する。</p> <p>(10 辻 義弘/3回) 血液浄化(人工透析等)の業務に関連した内容について教授する。</p>	オムニバス方式
		<p>関連臨床医学特講では、基礎医学、臨床医学の総まとめとして、解剖、生理、病理、各種疾患の症候・検査・治療について復習し、理解を深めさせる。そのための講義法として、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブラーニングを実施し、学生の主体的な学修を促すことにより、臨床工学技士業務において必要とされる基礎医学、臨床医学の幅広い知識を修得させることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 片山 俊郎/4回) 解剖、生理、病理及び公衆衛生の内容について教授する。</p> <p>(7 加納 寛也/6回) 体外循環(人工心肺、補助循環)の対処疾患に関連した内容について教授する。</p> <p>(9 藤江 建朗/5回) 人工呼吸器及び血液浄化(人工透析等)の対象疾患に関連した内容について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群	臨床工学技術特講	<p>基礎工学特講では、「電気工学」、[電子工学]、「システム制御工学」及び「情報処理工学」の科目について、相互に関連させながら系統的に復習し、理解を深めさせる。そのための講義法として、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブラーニングを実施し、学生の主体的な学修を促すことにより、医療現場で必要とされる理工学学的な視点に基づいた様々な医療機器の機能と適用理論が説明できるレベルの知識を修得させることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 片山 俊郎/3回) 情報処理工学の内容について教授する。</p> <p>(6 原 良昭/12回) 電気工学、電子工学、システム制御工学の内容について教授する。</p>	オムニバス方式
	先進科学技術論	<p>先進科学技術論では、臨床工学や医療機器に関する最先端の知識や学際的な知識を広く学習させることにより、医療人としての将来像の構築、研修・研究などの動機づけの一助とすることを目標として教授する。現在進歩が著しく将来の発展が期待されている、内視鏡外科手術、ロボット手術、埋め込み型の人工心臓などの最近の動向について教授する。また、3Dなどの最新の画像診断技法や血管内治療法、重粒子線がん治療や免疫療法についても教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 中沢 一雄/3回) シミュレーション科学の内容について教授する。</p> <p>(4 稲田 慎/3回) イメージング科学の内容について教授する。</p> <p>(6 原 良昭/2回) 放射光科学の内容について教授する。</p>	オムニバス方式
	先進計測技術	<p>先進計測技術学では、生体計測の基礎として光、レーザー、超音波、プラズマなどの物理的性質を理解させ、生体計測に必要な原理、仕組み、得られるデータの特性について解説し、近赤外分光法やfMRIの原理、目的、機器構成及び構造について教授する。次に、得られたデータを処理し、効率良く利用するために、エキスパートシステム、画像認識、機械学習、ニューラルネットといった情報分析技術を解説し、ひいては人工知能についても教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 片山 俊郎/3回) エキスパートシステム、画像認識、機械学習、ニューラルネットといった情報分析技術及び人工知能について教授する。</p> <p>(5 西垣 孝行/2回) fMRIの原理、目的、機器構成及び構造について教授する。</p> <p>(8 布江田 友理/3回) 近赤外分光法の原理、目的、機器構成及び構造について教授する。</p>	オムニバス方式

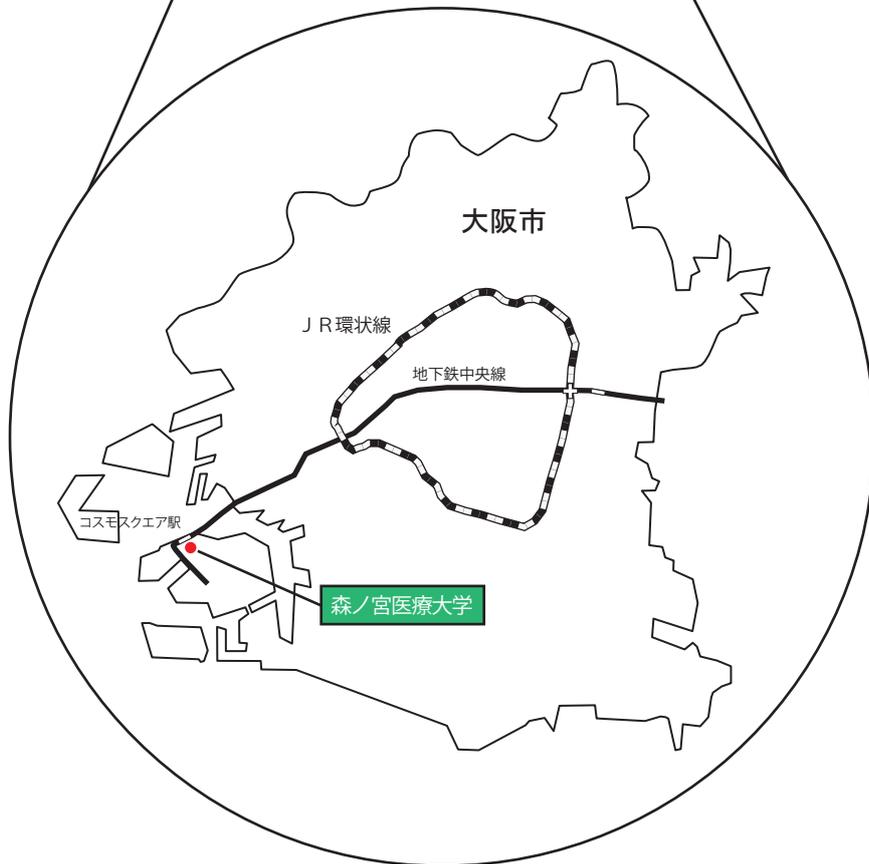
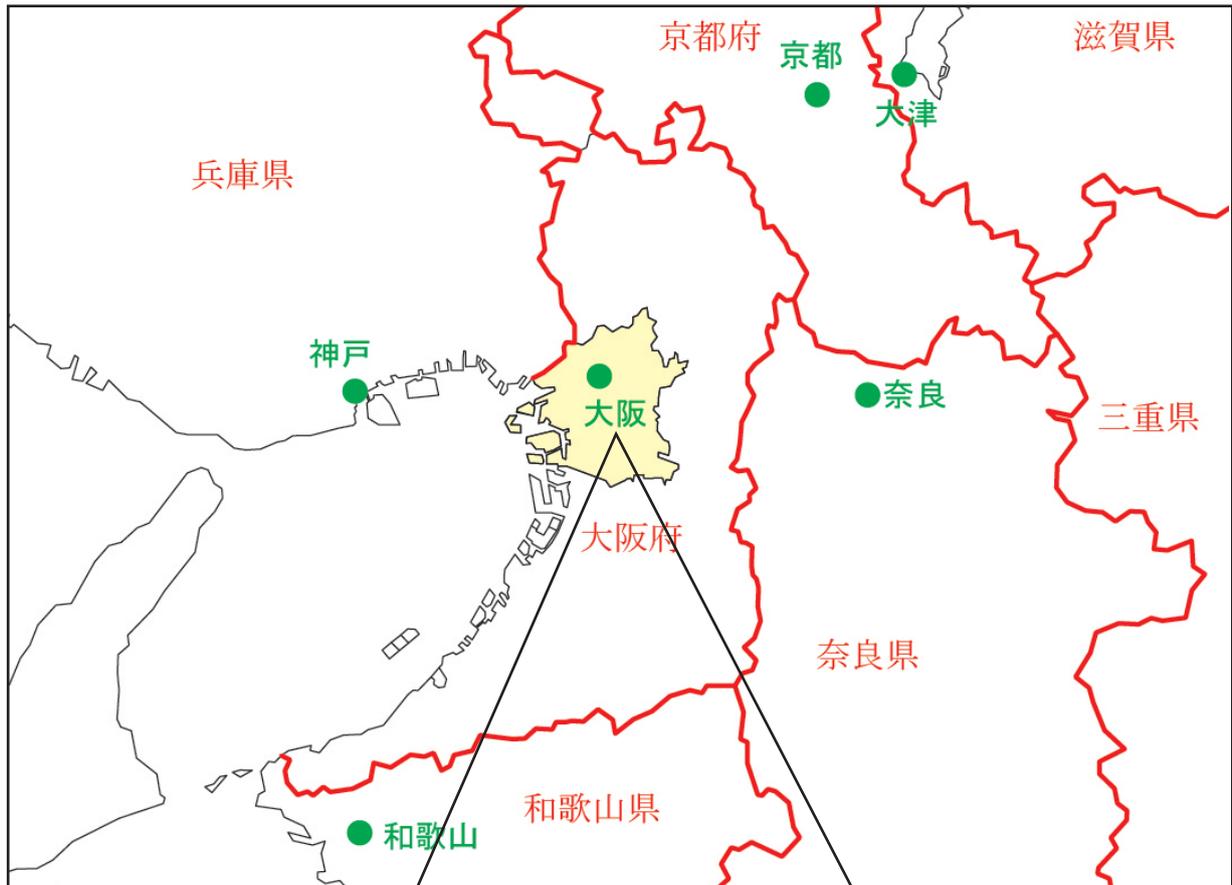
授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部臨床工学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群 研究分野 先進科学技術	先進治療技術学	<p>先進治療技術学では、分子療法、細胞療法、臓器細胞工学、感染症、免疫病態、ゲノム医療情報の概論について学ぶために、まず最初に、細胞生物学および分子生物学的な手法、免疫レセプターの機能、癌化のメカニズムなどについて解説し、治療法としてのがん免疫療法、陽子線、重粒子線及び低温プラズマによるがん細胞の抑制治療、ひいては、ES細胞やiPS細胞による細胞シートを利用した黄斑症や心筋梗塞といった組織再生医療について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 五十嵐 淳介/2回) 自律機能生理学の内容について教授する。</p> <p>(7 加納 寛也/2回) 組織再生医療について教授する。</p> <p>(9 藤江 建朗/2回) がん細胞の抑制治療について教授する。</p> <p>(10 辻 義弘/2回) 細胞生物学および分子生物学的な手法を教授する。</p>	オムニバス方式
	機能評価分析学	<p>機能評価分析学では、生体内の臓器と人工臓器の機能的な違いや特性、さらに具体的な機能評価の方法について教授する。具体的には、生体機能代行装置の血液浄化で使用されるダイアライザー(人工腎臓)の生体成分排出能と交換能、体外循環で使用される人工肺のガス交換能、埋め込み型の人工心臓の心拍出量等の機能を理解させ、その測定法を解説し、得られたデータの分析・評価法を教授する。その結果から生体臓器との機能の違いなどについて理解させる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 片山 俊郎/4回) 生体臓器の機能評価法について教授する。</p> <p>(7 加納 寛也/4回) 人工臓器の機能評価法について教授する。</p>	オムニバス方式
	機能評価学演習	<p>機能評価学演習では、学生をスモールグループに分け、グループ・ワークを行う。その内容は、機能評価分析学で学んだ人工臓器の特性実験を行い、得られたデータを分析し、レポートとスライドを作成する。次に、アクティブ・ラーニングとして、全学生によりグループ毎に実験結果をプレゼンテーションし、グループ・ディスカッション、ディベート等を実施し、人工臓器の特性の理解を深めるとともに、生体臓器との機能の違いなどを教授する。</p>	
	医療情報システム学	<p>医療情報システム学では、まず最初に、医療サービスの質的向上のために、医療情報を電子化し、ネットワーク上でそれらを様々な形態で活用する試みについて教授する。さらに、細胞・生体シミュレーションにより、神経、脳、筋肉、心臓やその他の組織または細胞の電気的性質と生理機能との関係を解説する。具体的には、心臓のペースメーカー電位の発生を洞房結節細胞モデルで、細胞の電気的な膜興奮と心筋収縮を心室筋細胞モデルでシミュレーションする方法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 中沢 一雄/4回) 心臓のペースメーカー電位の発生を洞房結節細胞モデルで、細胞の電気的な膜興奮と心筋収縮を心室筋細胞モデルでシミュレーションする方法について教授する。</p> <p>(4 稲田 慎/2回) 生体臓器の生体シミュレーション法について教授する。</p> <p>(10 辻 義弘/2回) 医療情報システム学の内容について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(保健医療学部臨床工学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学科専門科目群	研究分野	先進科学技術	医療情報システム学演習	医療情報システム学演習では、学生をスモールグループに分け、グループ・ワークを行う。医療情報の電子化では、その試みを調査・検索し、レポートにまとめさせる。医療情報システム学で学んだシミュレーションを実行し、得られたデータを分析させ、レポートとスライドを作成させる。次に、アクティブ・ラーニングとして、全学生によりグループ毎に結果をプレゼンテーションし、グループ・ディスカッション、ディベート等を実施し、医療情報の電子化の理解を深めるとともに、シミュレーション結果と生体臓器の計測データとの差について教授する。	
			医用ロボット工学	医用ロボット工学では、ロボット手術装置や埋め込み型の人工心臓などを構成するアクチュエータや外界の情報を認識・知覚するためのセンサやセンシング手法について教授する。まず、センサの計測原理と基本構造、データ処理及び活用法について解説し、センシングの基礎・構成要素技術、計測手法とメカニズムについて教授する。さらに、センシングにより収集されたデータを基に、データベースの構築法を学び、データを分析する技術としての人工知能(AI)について教授する。 (オムニバス方式/全8回) (5 西垣 孝行/5回) 情報を認識・知覚する為のセンサやセンシング手法について教授する。 (6 原 良昭/3回) ロボット手術装置や埋め込み型の人工心臓等の構造・構成について教授する。	オムニバス方式
			遺伝子検査学	遺伝子検査学では、まず、遺伝子工学の基礎である遺伝子の塩基配列の決定、有用物質の生産、遺伝子診断、クローン動物、遺伝子治療、ワクチンの生産について教授する。次に、遺伝子を構成するDNAのアルファベット 塩基の順序を調べる検査として、病原微生物の同定検査、病原微生物の感染源調査、親子鑑定などの個人識別及び遺伝子レベルの病型診断や遺伝病の確定診断などについて教授する。さらに、遺伝子検査法であるPCR (polymerase chain reaction)法について教授する。 (オムニバス方式/全8回) (3 五十嵐 淳介/4回) 生活習慣病等の病気の仕組みを遺伝子レベルで理解し、生命現象の基本的な仕組みについて教授する。 (8 布江田 友理/2回) 遺伝子検査法であるPCR (polymerase chain reaction)法について教授する。 (9 藤江 建朗/2回) 遺伝子工学の内容について教授する。	オムニバス方式
			先進科学技術演習	先進科学技術演習では、学生をスモールグループに分け、医用ロボット工学或いは遺伝子検査学に関するグループ・ワークを行う。医用ロボット工学では、センサーによるセンシングの実験を行い、遺伝子検査学では、PCR法による遺伝子解析の実験を行う。収集されたデータを基に、グループ・ディスカッション、ディベート等のアクティブ・ラーニングを実施し、医用ロボット工学と遺伝子検査学に関する知識を構築し、先進科学技術に対する理解を深めさせる。	
			卒業研究 I	自主的かつ創造的に活動することにより、大学での勉学を総括するものである。卒業研究 I では、担当教員の指導のもとに、研究デザイン、プロトコル及び文献検索の方法等について解説し、分析手法である統計処理やモデル解析等について教授する。さらに、担当教員の指導のもと、決められたテーマの研究デザインを検討し、プロトコルを作成し、機材器具を準備し、実験を行い、測定データを収集し、統計的分析を行い、最終評価を下すといった一連の研究手順を実践し、レポートを作成させる。	
			卒業研究 II	自主的かつ創造的に活動することにより、大学での勉学を総括するものである。卒業研究 II では、臨床工学関連分野の調査や問題発見を自主的に行い、解決すべき研究テーマを設定する。テーマの現状分析を行い、研究デザインを作成し、担当教員の指導のもとに必要な文献検索を行い、実験・測定・分析・評価などの一連のプロトコルを策定するプロセスを随時見直ししながら、測定・分析・評価・考察を行い、卒業論文として結果をまとめさせる。発表会において口頭で公表し、審査を受け、卒業論文に仕上げるよう教授する。	

学校法人森ノ宮医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
森ノ宮医療大学 保健医療学部					森ノ宮医療大学 保健医療学部					
鍼灸学科	60	-	240	→	鍼灸学科	60	-	240		
理学療法学科	60	-	240		理学療法学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更(10)	
看護学科	80	-	320		看護学科	<u>90</u>	-	<u>360</u>	定員変更(10)	
臨床検査学科	60	-	240		臨床検査学科	60	-	240		
作業療法学科	40	-	160		作業療法学科	40	-	160		
					臨床工学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学科の設置(届出)	
計	300		1200		計	<u>380</u>		<u>1520</u>		
森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科					森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科					
保健医療学専攻(M)	6	-	12	→	保健医療学専攻(M)	6	-	12		
					医療科学専攻(D)	<u>2</u>	-	<u>6</u>	専攻の設置(認可申請)	
計	6		12		計	<u>8</u>		<u>18</u>		
森ノ宮医療学園専門学校					森ノ宮医療学園専門学校					
鍼灸学科					鍼灸学科					
昼間部	120	-	360	→	昼間部	120	-	360		
夜間部	30	-	90		夜間部	30	-	90		
柔道整復学科						柔道整復学科				
昼間部	90	-	270		昼間部	90	-	270		
夜間部	30	-	90	夜間部	30	-	90			
計	270		810		計	270		810		

森ノ宮医療大学 府内における位置関係



森ノ宮医療大学 最寄り駅からの距離、周辺地図



大阪市営地下鉄中央線 コスモスクエア駅より約 80m 徒歩 1 分

森ノ宮医療大学 校舎、運動場等の配置図



森ノ宮医療大学の校地面積…32,453.53 m²

森ノ宮医療大学の校舎面積…22,186.82 m²

-  全学が共用する校舎 (一部、臨床工学科の専用部分を含む)
-  全学が共用する校舎 (一部、他学科等の専用部分を含む)
-  全学が共用する校舎

森ノ宮医療大学

学 則（案）

第一章	目的
第二章	自己点検評価及び第三者評価
第三章	学部・学科等及び附属施設
第四章	学年、学期及び休業日
第五章	修業年限及び在学年限
第六章	入学
第七章	教育課程、履修方法等
第八章	休学、復学、転学、退学及び除籍
第九章	卒業及び学位
第十章	科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴 講生及び外国人留学生
第十一章	職員組織
第十二章	教授会、各種委員等
第十三章	入学検定料、入学料、授業料等
第十四章	賞罰
第十五章	大学開放及び生涯学習事業
第十六章	雑則

第一章 目的

(目的)

第1条 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。

第二章 自己点検評価及び第三者評価

(自己点検評価及び第三者評価)

第2条 本学は、教育水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育・研究・組織・運営・施設及び設備の状況について、自己点検評価を行う。

2 自己点検評価に関する必要な事項は別に定める。

3 本学は前項の措置に加え、その教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下「認証評価機関」という。）による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。

4 自己点検評価および第三者評価の結果を公表するものとする。

(情報の積極的な公開)

第3条 本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができする方法によって積極的にその情報を公開するものとする。

第三章 学部・学科等及び附属施設

(学部、学科、入学定員及び収容定員)

第4条 本学に保健医療学部鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科及び臨床工学科を置く。

2 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
保健医療学部	鍼灸学科	60	240
	理学療法学科	70	280
	看護学科	90	360
	臨床検査学科	60	240
	作業療法学科	40	160
	臨床工学科	60	240

合計		380	1520
----	--	-----	------

- 3 保健医療学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。
- 4 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。

(学部及び学科の目的)

- 第4条の2 保健医療学部は、大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。
- 2 鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
 - 3 鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。
 - 4 理学療法学科は、科学性を持ちつつ人に優しい理学療法と、チーム医療を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
 - 5 看護学科は、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
 - 6 臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
 - 7 作業療法学科は、チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
 - 8 臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(大学院)

- 第4条の3 本学に大学院を置く。
- 2 大学院に関する規則は別に定める。

(専攻科)

- 第4条の4 本学に次の専攻科を置く。
- (1) 助産学専攻科
 - 2 専攻科に関する規則は別に定める。

(附属施設)

- 第5条 本学に次の附属施設を置く。
- (1) 附属図書館
 - (2) 附属臨床実習施設

2 前項の附属施設に関し必要な事項は別に定める。

第四章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を次の2学期にわけるとする。

- (1) 前期4月1日から9月30日まで
- (2) 後期10月1日から3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 春期休業日3月21日から3月31日まで
- (4) 夏期休業日8月11日から9月30日まで
- (5) 冬期休業日12月25日から1月7日まで

2 学長は前項の規定に関わらず、特別の必要があると認めるときは、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更し、若しくは休業日に授業を行うことができる。

第五章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第9条 本学の修業年限は4年とする。

(在学年限)

第10条 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学した学生は、第19条の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する期間を超えて在学することができない。

第六章 入学

(入学の時期)

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

2 ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学する場合及び特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認められる場合は、学期の始めとする。

(入学資格)

第12条 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに該当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) 前各号に定める者の他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学指定の期日までに、入学願書に入学検定料を添えて学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学料及び学納金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第16条 学長は、編入学を志望するものがあるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に編入学を許可することができる。

2 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 大学及び短期大学の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

- (2) 高等専門学校課程を卒業した者か、卒業見込みの者
- (3) 学校教育法第八十二条第十項に定める専修学校を卒業した者か、卒業見込みの者

(転入学)

第17条 学長は、他の大学に在籍しているもので、本学への転入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(再入学)

第18条 学長は、再入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(編入学等の場合の取扱い)

第19条 第16条、第17条、第18条の規定により入学を許可された者が既に修得した授業科目及びその単位数の取扱い、履修すべき授業科目並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

第七章 教育課程、履修方法等

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。

第21条 授業は、講義、演習、実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

第22条 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(単位の計算方法)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実習については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(1年間の授業期間)

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週とすることを原則とする。

(単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者に、担当の教員は所定の単位を与える。

2 前項の試験は、当該授業科目を履修した者でなければ、受けることができない。

(成績の評価)

第26条 成績の評価は、優、良、可及び不可の4段階をもって表示し、優、良及び可を合格とする。

(試験の種類)

第27条 各授業科目の試験は、定期試験、追試験、再試験及び臨時試験等とする。

(入学前及び在学時における他大学等での既修得単位等の認定)

第28条 学長は教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学等で履修した授業科目について修得した単位（大学等で科目等履修生として修得した単位を含む）を、該当する授業科目を本学において履修及び修得したものと見なし、単位を与えることができる。

2 学長は教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学等と協議の上、学生が授業科目を履修することを認め、その履修した授業科目について修得した単位は本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第16条の編入学、第17条の転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を超えないものとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
----	-----	--------	-------

保健医療学部	鍼灸学科スポーツ特修コース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育 保健体育
保健医療学部	看護学科	養護教諭一種免許状	養護

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第2の鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第4の看護学科の教育課程及び別表第8の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。
- 3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

第八章 休学、復学、転学、退学及び除籍

(休学)

- 第29条 疾病その他やむを得ない事情により3ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。
- 2 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合において、学長の許可を得たときは、この限りでない。
- 3 休学の期間は通算して4年を超えることはできない。
- 4 休学の期間は第10条に規定する在学年限に算入しない。

(復学)

- 第30条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

- 第31条 本学への在学期間中、他の大学等への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

- 第32条 退学しようとするものは、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

- 第33条 次の各号に該当する者は、学長が除籍することができる。
- (1) 第10条の規定により定められた在学年限を超えた者
 - (2) 第29条の規定により定められた休学期間を超えて、なお復学することができない者

- (3) 授業料を納入しない者
- (4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- 2 前項(3)により除籍となった者が、所定の期日内に学費を納付した場合、復籍を認めることがある。

第九章 卒業及び学位

(卒業)

- 第34条 本学に4年(第16条、第17条、第18条の規定により入学したものについては、第19条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目を履修し、単位を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。
- 2 学長は、前項の卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位の授与)

- 第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
保健医療学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)
	理学療法学科	学士(理学療法学)
	看護学科	学士(看護学)
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)
	作業療法学科	学士(作業療法学)
	臨床工学科	学士(臨床工学)

第十章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生

(科目等履修生)

- 第36条 本学において、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、学長は選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

(研究生)

- 第37条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。
- 2 研究生となることを志願することができる者は大学を卒業した者又はこれと同等以上の能力があると学長が認めた者とする。

(聴講生)

第38条 本学において、特定の授業科目について聴講を志願するものがあるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

(特別聴講生)

第38条の2 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。以下この条において同じ）の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、学長は、特別聴講生として入学を許可することができる。

(外国人留学生)

第39条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、学長は選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

第十一章 職員組織

(職員)

第40条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他の必要な職員を置く。

2 学長が必要と認めた場合には副学長を置くことができる。

(各組織の長)

第41条 本学に、学長のほか、事務局長、研究科長、学部長、専攻科長、学科長、附属臨床実習施設長、及び附属図書館長等を置く。

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

5 学部長は、本学の教授をもって充て、保健医療学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。

7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。

8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

第十二章 教授会、各種委員等

(教授会)

第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。

2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 教授会は理事長、法人本部長、学長、副学長、教授、准教授、講師及び事務局長をもって組織する。

(専門委員会)

第44条 本学に、専門事項を審議する専門委員会を置く。

2 専門委員会は学長の付託を受け専門事項を審議する。

3 専門委員会に関し、必要な事項は別に定める。

第十三章 入学検定料、入学料、授業料等

(授業料等の金額)

第45条 本学の入学検定料、入学料、授業料、教育充実費の納入額は別表第9のとおりとする。

(授業料等の納付)

第46条 本学の学生の授業料等は4月1日から9月30日までを前期、10月1日から翌年3月31日までを後期とし、その年額の2分の1に相当する額を、学長が指定した日までに納付しなければならない。

2 経済的事由により授業料等の納付が困難であって、学業優秀と認められた者その他やむを得ない事情があると認められた者については、授業料等の全部若しくは一部の納付を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

3 第29条により休学を認められた学生の学納金は、各学期の授業料の5分の1とする。

第十四章 賞罰

(表彰)

第47条 学長は、表彰に値する行為があった学生を表彰することができる。

(懲戒)

第48条 学長は、本学の学則その他学生に関する諸規定に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者に対して、懲戒することができる。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り卒業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第十五章 大学開放及び生涯学習事業

(大学開放)

第49条 本学は、教育研究上の支障のない限りにおいて、その教育研究施設及び設備を積極的に開放する。

(生涯学習事業)

第50条 本学は、地域社会の発展に寄与するため、生涯学習事業をととして本学の教育研究資源の地域社会への還元積極的に努めるものとする。

第十六章 雑則

(雑則)

第51条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項は学長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は平成19年4月1日から施行する。ただし、第12条、第13条、第14条、第15条、第45条、第46条の規定は、文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。
- 2 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成19年度	120人				120人
平成20年度	120人	120人			240人
平成21年度	120人	120人	120人		360人
平成22年度	120人	120人	120人	120人	480人

- 3 この学則は平成23年4月1日から施行する。
- 4 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成23年度	200人	120人	120人	120人	560人
平成24年度	200人	200人	120人	120人	640人
平成25年度	200人	200人	200人	120人	720人
平成26年度	200人	200人	200人	200人	800人

- 5 平成23年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 6 この学則は平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 7 この学則は平成25年4月1日から施行する。
- 8 この学則は平成27年4月1日から施行する。
- 9 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成28年度	300人	200人	200人	200人	900人
平成29年度	300人	300人	200人	200人	1000人
平成30年度	300人	300人	300人	200人	1100人
平成31年度	300人	300人	300人	300人	1200人

- 10 この学則は平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 11 この学則は平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 12 この学則は平成30年4月1日から施行する。

- 1 3 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成30年度	380人	300人	300人	200人	1180人
平成31年度	380人	380人	300人	300人	1360人
平成32年度	380人	380人	380人	300人	1440人
平成33年度	380人	380人	380人	380人	1520人

別表第1

鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		生物学	2		
		物理学	2		
		情報処理	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学・宗教学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		統計学	2		
	語学	英語 I (初級)	2		
		英語 II (中級)	2		
		医学英語 I	2		
		医学英語 II	2		
	学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	2	
			健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
東洋思想史			2		
チーム医療とコミュニケーション			2		
生化学			2		
健康管理学 I			2		
健康管理学 II			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
漢方医学概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)	4
				解剖学 II (神経)	2
				解剖学 III (内臓・脈管)	2
	生理学 I (動物生理学)	2			
	生理学 II (植物生理学)	2			
	生理学 III (応用生理学)	2			
	人体形態機能学演習	2			
	運動学	2			
	疾病の成り立ち、回復の促進	病理学	2		
		病理学演習	2		
		整形外科学	2		
		内科学 I	2		
		内科学 II	2		
		臨床医学各論 I (脳神経外科・心療内科)	2		
		臨床医学各論 II (各科)	2		
		臨床医学各論 III (各科)	2		
		臨床医学各論 IV (外科・麻酔科)	2		
		スポーツ医学	2		
	リハビリテーション医学	2			
	画像診断学	2			
	はり及びきゅうの理念	保健医療福祉と			
		衛生学公衆衛生学	2		
専門科目	基礎はりきゅう学	経絡経穴学 I	1		
		経絡経穴学 II	1		
		経穴局所解剖演習 I	1		
		経穴局所解剖演習 II	1		
		鍼灸科学概論	1		
		東洋医学概論 I	1		
		東洋医学概論 II	1		

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	臨床はりきゅう学	鍼灸安全学	1
		臨床鍼灸学	1
		運動機能検査法	2
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 II (内科系)	1
		東洋医学系検査法	2
		東洋医学各論 I	1
		東洋医学各論 II	1
	社会はりきゅう学	関係法規・経営論	2
		マーケティング入門	2
	実習	基礎鍼実技 I	1
		基礎鍼実技 II	1
		基礎灸実技 I	1
		基礎灸実技 II	1
		現代医学系鍼灸学実習 I	1
		現代医学系鍼灸学実習 II	1
		現代医学系鍼灸学実習	1
		東洋医学系鍼灸実習 I	1
		東洋医学系鍼灸実習 II	1
		東洋医学系鍼灸学実習	1
		附属施術所見学実習	1
		附属施術所基礎実習	2
附属施術所応用実習		2	
学外見学実習 I		1	
学外見学実習 II	1		
総合領域	臨床灸実習	1	
	特殊鍼灸治療学 (刺絡・通電等)	1	
	応用鍼灸治療学 I (スポーツ総論)	1	
	応用鍼灸治療学 II (スポーツ各論)	1	
	応用鍼灸治療学 III (小児・婦人科)	1	
	応用鍼灸治療学 IV (外科・麻酔科・泌尿器科・耳鼻科・眼科)	1	
	応用鍼灸治療学 V (内科)	1	
	応用鍼灸治療学 VI (リハビリ・老年)	1	
	応用鍼灸治療学 VII (物理療法)	1	
	応用鍼灸治療学 VIII (美容・未病)	1	
介護学概論	1		
ケアマネジメント	1		
老年ケア演習	1		
漢方医学各論	1		
キャリアデザイン	1		
鍼灸のための理学療法学・看護学	1		
鍼灸総合演習 I	4		
鍼灸総合演習 II	4		
鍼灸総合演習 III	4		
保健医療研究	2		
卒業研究	2		
スポーツ実習 I 体づくり運動	1		
スポーツ傷害学・栄養学	2		
運動生理機能学演習	2		
トレーニング科学演習 I (レジスタンスエクササイズ1)	1		
トレーニング科学演習 II (エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング)	1		
トレーニング科学演習 III (レジスタンスエクササイズ2・水中運動)	1		
トレーニング科学演習 IV (指導実習)	1		
スポーツ実習 V (ダンス)	1		
スポーツ実習 VII (水泳)	1		
卒業要件 (最低必要単位数)			124

別表第2

鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分	授業科目	単位数			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		生物学	2		
		物理学	2		
		情報処理	2		
		心理学	2		
	人間理解と社会	生命倫理学	2		
		哲学・宗教学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		統計学	2		
	語学	英語Ⅰ(初級)	2		
		英語Ⅱ(中級)	2		
		医学英語Ⅰ	2		
		医学英語Ⅱ	2		
		英会話Ⅰ	2		
学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	2		
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
		東洋思想史	2		
		チーム医療とコミュニケーション	2		
		生化学	2		
		健康管理学Ⅰ	2		
		健康管理学Ⅱ	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		漢方医学概論	2		
		統合医療概論	2		
		学科専門科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4
				解剖学Ⅱ(神経)	2
				解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2
				生理学Ⅰ(動物生理学)	2
生理学Ⅱ(植物生理学)	2				
専門基礎科目	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進		生理学Ⅲ(応用生理学)	2	
			人体形態機能学演習	2	
			運動学	2	
			病理学	2	
			病理学演習	2	
			整形外科科学	2	
			内科学Ⅰ	2	
			内科学Ⅱ	2	
			臨床医学各論Ⅰ(脳神経外科・心療内科)	2	
			臨床医学各論Ⅱ(各科)	2	
臨床医学各論Ⅲ(各科)	2				
臨床医学各論Ⅳ(外科・麻酔科)	2				
スポーツ医学	2				
リハビリテーション医学	2				
画像診断学	2				
学科専門科目群	保健医療福祉とは、及びきゅうの理念	衛生学公衆衛生学	2		
		専門科目	基礎はりきゅう学	経絡経穴Ⅰ	1
				経絡経穴Ⅱ	1
				経穴局所解剖演習Ⅰ	1
				経穴局所解剖演習Ⅱ	1
	鍼灸科学概論			1	
	臨床はりきゅう学		東洋医学概論Ⅰ	1	
			東洋医学概論Ⅱ	1	
			鍼灸安全学	1	
			臨床鍼灸学	1	
			運動機能検査法	2	
	社会はりきゅう学	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	2		
		現代医学系鍼灸学Ⅱ(内科系)	1		
		東洋医学系検査法	2		
		東洋医学各論Ⅰ	1		
東洋医学各論Ⅱ		1			
きゅう学	関係法規・経営論	2			
	マーケティング入門	2			

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	実習	基礎鍼灸Ⅰ	1
		基礎鍼灸Ⅱ	1
		基礎鍼灸Ⅲ	1
		基礎鍼灸Ⅳ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学応用実習	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		東洋医学系鍼灸学応用実習	1
		附属施術所見学実習	1
		附属施術所基礎実習	2
		附属施術所応用実習	2
		学外見学実習Ⅰ	1
		学外見学実習Ⅱ	1
		臨床実習	1
		特殊鍼灸治療学(刺絡・通電等)	1
		応用鍼灸治療学Ⅰ(スポーツ総論)	1
		応用鍼灸治療学Ⅱ(スポーツ各論)	1
		応用鍼灸治療学Ⅲ(小児・婦人科)	1
	応用鍼灸治療学Ⅳ(外科・麻酔科・泌尿器科・耳鼻科・眼科)	1	
	応用鍼灸治療学Ⅴ(内科)	1	
	応用鍼灸治療学Ⅵ(リハビリ・老年)	1	
	応用鍼灸治療学Ⅶ(物理療法)	1	
	応用鍼灸治療学Ⅷ(美容・未病)	1	
	総合領域	介護学概論	1
		ケアマネジメント	1
	総合領域	老年ケア演習	1
		漢方医学各論	1
		キャリアデザイン	1
		鍼灸のための理学療法・看護学	1
		鍼灸総合演習Ⅰ	4
		鍼灸総合演習Ⅱ	4
		鍼灸総合演習Ⅲ	4
		保健医療研究	2
		卒業研究	2
		学校保健(小児保健・精神保健)	2
		学校保健(学校安全・救急処置)	2
		スポーツ心理学	2
		スポーツ実習Ⅰ体づくり運動	1
スポーツ実習Ⅱ生涯スポーツ		1	
スポーツバイオメカニクス		2	
スポーツ傷害学・栄養学		2	
体力トレーニング論		2	
運動生理学		2	
運動生理機能学演習	2		
体育	トレーニング科学演習Ⅰ(レジスタンスエクササイズ1)	1	
	トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング)	1	
	トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンスエクササイズ2・水中運動)	1	
	トレーニング科学演習Ⅳ(指導実習)	1	
	スポーツ実習Ⅲサッカー	1	
	スポーツ実習Ⅳ陸上競技	1	
	スポーツ実習Ⅴ柔道	1	
	スポーツ実習Ⅵダンス	1	
	スポーツ実習Ⅶ器械運動	1	
	スポーツ実習Ⅷ水泳	1	
	体育原理	2	
	卒業要件(最低必要単位数)	140	

別表第3

理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		情報処理	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学・宗教学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		統計学	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		医学英語Ⅰ	2	
		医学英語Ⅱ	2	
		英会話Ⅰ	2	
		英会話Ⅱ	2	
	学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	2
			健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
東洋思想史			2	
生化学			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
チーム医療とコミュニケーション			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
漢方医学概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			専門基礎科目	人体の構造演習(運動器)
	人体の構造Ⅰ(循環・内臓)	2		
	人体の構造Ⅱ(神経系)	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2		
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2		
	基礎運動学	2		
	臨床運動学	1		
	リハビリテーション概論	2		
	公衆衛生学	1		
	病理学	2		
	内科学Ⅰ	2		
	内科学Ⅱ	2		
	救急処置法	1		
	脳神経外科学	1		
	整形外科学	1		
	小児科学(人間発達学)	1		
	精神医学	1		
	臨床心理学	1		
	リハビリテーション医学	1		
	老年医学	1		
	作業療法・芸術療法論	2		
	言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学	2		
	理学療法のための看護学・鍼灸学	1		
介護学概論・ボランティア活動論	2			
スポーツ医学	2			
テーピング技術論	1			

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	基礎理学療法	理学療法セミナーⅠ	1
		理学療法セミナーⅡ	1
		理学療法セミナーⅢ	1
		医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		理学療法評価学	1
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学Ⅰ	1
		臨床理学療法評価学Ⅱ	1
		臨床理学療法評価学Ⅲ	1
		理学療法治療学	基礎日常生活活動学
	基礎運動療法学総論		2
	基礎運動療法学各論		1
	物理療法学		2
	運動器系理学療法学		2
	運動器系理学療法学技術論		1
	神経系理学療法学		2
	神経系理学療法学技術論		1
	内科系理学療法学		2
	内科系理学療法学技術論		1
	義肢装具学		1
	理学療法特論Ⅰ		2
	理学療法特論Ⅱ	2	
	地域理学療法	地域理学療法学	1
		生活環境論	1
		発達障害理学療法学	1
		老年期理学療法学	1
	研究	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ	2
	臨床実習	臨床見学実習	1
		臨床評価実習	3
臨床総合実習Ⅰ		8	
臨床総合実習Ⅱ	8		
卒業要件(最低必要単位数)			124

別表第4

看護学科教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	英語 I (初級)	2		
		英語 II (中級)	2		
		英会話 I	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	2		
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
		健康管理学 I	2		
		健康管理学 II	2		
		チーム医療とコミュニケーション	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		東洋医療概論	2		
		統合医療概論	2		
		IPW論	1		
		学科専門科目群	専門基礎分野	人体の構造と機能	1
				形態機能学 I	1
形態機能学 II	1				
形態機能学 III	1				
形態機能学 IV	1				
フィジカルアセスメント	2				
生化学	2				
発達心理学	2				
微生物学	1				
病理学	1				
臨床薬理学	1				
臨床病態学 I	1				
臨床病態学 II	1				
臨床病態学 III	1				
臨床病態学 IV	1				
臨床病態学 V	1				
臨床心理学	2				
健康支援と社会保障制度	医療概論		1		
	公衆衛生学		2		
	看護関係法規		2		
	保健統計学		2		
	疫学		2		

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門分野 I	看護学概論	1	
		看護理論	2	
		生活援助論 I	2	
		生活援助論 II	2	
		診療援助論 I	2	
		診療援助論 II	2	
		看護過程演習	1	
		実地 実習	基礎看護学実習 I	1
			基礎看護学実習 II	2
		成人看護学	成人看護学概論	2
			成人看護援助論 I	1
			成人看護援助論 II	1
	成人看護援助論 III		1	
	老年看護学	成人看護援助論 IV	1	
		老年看護学概論	2	
		老年看護援助論 I	1	
	母性看護学	老年看護援助論 II	1	
		母性看護学概論	2	
	小児看護学	母性看護援助論 I	1	
		母性看護援助論 II	1	
	精神看護学	小児看護学概論	2	
		小児看護援助論 I	1	
		小児看護援助論 II	1	
	臨地実習	精神看護学概論	2	
精神看護援助論 I		1		
精神看護援助論 II		1		
在宅看護論	成人看護学実習 I (急性)	3		
	成人看護学実習 II (慢性)	3		
	老年看護学実習 I	3		
	老年看護学実習 II	1		
	母性看護学実習	2		
	小児看護学実習	2		
統合分野	在宅看護論	2		
	在宅看護援助論 I	1		
	在宅看護援助論 II	1		
	外来看護論	1		
	健康教育論	2		
	家族看護学	1		
	看護管理論	1		
	災害・国際看護論	1		
	養護概説	2		
	学校保健	2		
	健康相談活動論	2		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習	2	
公衆衛生看護学概論		2		
公衆衛生看護活動論 I		2		
公衆衛生看護活動論 II		2		
臨地実習	公衆衛生看護活動論 III	2		
	公衆衛生看護活動論 IV	2		
	公衆衛生看護管理論	2		
研究 卒業	保健医療福祉行政論	2		
	在宅看護論実習	2		
看護の統合と実践 II	公衆衛生看護学実習	4		
	主題実習 I	2		
	主題実習 II	1		
	看護研究	1		
卒業要件 (最低必要単位数)	卒業研究	2		
	臨床看護学セミナー I	2		
	臨床看護学セミナー II	2		
	公衆衛生看護セミナー	1		
	臨床看護技術セミナー	1		
卒業要件 (最低必要単位数)			124	

別表第5

臨床検査学科 教育課程

区分	授業科目	単位数			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		情報処理	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学・宗教学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		統計学	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		医学英語Ⅰ	2		
		医学英語Ⅱ	2		
英会話Ⅰ		2			
英会話Ⅱ		2			
学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	2		
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	2		
		東洋思想史	2		
		生化学	2		
		健康管理学Ⅰ	2		
		健康管理学Ⅱ	2		
		チーム医療とコミュニケーション	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		漢方医学概論	2		
		統合医療概論	2		
		学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造と機能	人体の構造Ⅰ
人体の構造Ⅱ	2				
人体の構造実習	1				
人体の機能Ⅰ	2				
人体の機能Ⅱ	2				
生化学各論	2				
生化学実習	1				
分析化学	2				
小児医学	2				
老年医学	2				
救急災害医学	2				
薬理学	2				
リハビリテーション概論	2				
その疾病との関連	臨床検査学総論				2
	検査技術科学序論				2
	病理学		2		
保健医療福祉と医学検査	医学概論		2		
	公衆衛生学		2		
	IPW論		1		
医療工学	医用工学概論		2		
	医用工学実習		1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	臨 床 病 態 学	臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
	形 態 検 査 学	血液検査学Ⅰ	2
		血液検査学Ⅱ	2
		血液検査学実習	1
		病理検査学	2
		病理検査学実習	1
		一般検査学	1
	生 物 化 学 分 析 検 査 学	臨床化学検査学Ⅰ	2
		臨床化学検査学Ⅱ	2
		臨床化学検査学実習	1
		放射性同位元素検査学	1
		遺伝子検査学	2
		遺伝子検査学実習	1
		バイオテクノロジー演習	1
	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学	微生物検査学Ⅰ	2
		微生物検査学Ⅱ	2
		微生物検査学実習	1
		寄生虫検査学	1
		免疫検査学Ⅰ	2
		免疫検査学Ⅱ	2
		免疫検査学実習	1
		輸血・移植検査学	2
		輸血・移植検査学実習	1
		生 理 機 能 検 査 学	生理機能検査学Ⅰ
	生理機能検査学Ⅱ		2
	生理機能検査学Ⅲ		2
	生理機能検査学実習		1
	画像検査学		2
	超音波検査学Ⅰ		1
	超音波検査学Ⅱ	1	
	検 査 総 合 管 理 学	検査総合管理学	2
		医療情報科学	2
		関係法規	1
	全 医 学 管 理 安	医療安全管理学	1
		総 合 領 域	臨床薬理学
	食品衛生学		1
	食品関係法規		1
	総合演習Ⅰ		2
	総合演習Ⅱ		2
	総合演習Ⅲ		2
	卒 業 研 究	卒業研究Ⅰ	2
卒業研究Ⅱ		2	
実 臨 習 地	臨地実習	7	
卒業要件（最低必要単位数）		125	

別表第6

作業療法学科教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナル	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		情報処理	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学・宗教学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		統計学	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		医学英語Ⅰ	2		
		医学英語Ⅱ	2		
		英会話Ⅰ	2		
		英会話Ⅱ	2		
	学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	2	
			健康科学（スポーツ社会学を含む）	2	
			東洋思想史	2	
			生化学	2	
健康管理学Ⅰ			2		
健康管理学Ⅱ			2		
チーム医療とコミュニケーション			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
漢方医学概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			身の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習（運動器）	2
				人体の構造Ⅰ（循環・内臓）	2
	人体の構造Ⅱ（神経系）	2			
	人体の構造実習	1			
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2			
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2			
	基礎運動学	2			
	臨床運動学	1			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論		1	
		公衆衛生学		2	
		病理学	2		
		内科学Ⅰ	2		
		内科学Ⅱ	2		
		救急処置法	2		
		脳神経外科学	2		
		整形外科学	2		
		小児科学（人間発達学）	2		
		精神医学	2		
		精神医学各論	2		
		臨床心理学	2		
		老年医学	1		
		リハビリテーション医学	1		
		医療関係法規論	2		
		理学療法概論	1		
		芸術療法論	1		
	言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学	2			
	介護学概論・ボランティア活動論	2			
スポーツ医学	2				
漢方医学各論	2				
東洋医学概論Ⅰ	1				
東洋医学概論Ⅱ	1				
IPW論	1				

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	療法学	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	評価学	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
		作業療法治療学	2
	地域作業療法学	日常生活活動学	2
		身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		老年期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	2
		精神障害作業療法治療学各論	2
		発達障害作業療法治療学各論	1
		老年期障害療法作業治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
	精神障害作業療法治療学演習	1	
	老年期障害作業療法治療学演習	1	
	発達障害作業療法治療学演習	1	
	療法学	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
	研究	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ（身体障害）	2
		卒業研究Ⅱ（精神障害）	2
卒業研究Ⅱ（老年期障害・地域）		2	
卒業研究Ⅱ（発達障害）		2	
卒業研究Ⅱ（発達障害）		2	
臨床実習	臨地見学実習	1	
	臨床検査実習	2	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件（最低必要単位数）			126

別表第7

臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	学科専門科目群	医用生体工学	生体物性工学	2	
		物理学	2			生体材料工学	2	
		生物学	2			バイオメカニクス	2	
		化学	2			バイオレオロジー	1	
		情報処理	2			計測工学	1	
		統計学	2			生体情報処理工学	2	
	人間理解と社会	心理学	2		医用機器学	医用機器学概論	2	
		生命倫理学	2			生体計測装置学	2	
		哲学	2			生体計測装置学実習	1	
		社会福祉学	2			医用治療機器学	2	
		日本国憲法	2			医用治療機器学実習	1	
		東洋史概説	2			画像診断装置学	2	
	語学	西洋史概説	2		生体機能代行装置学	医用監視システム装置学	2	
		英語Ⅰ（初級）	2			体外循環装置学	1	
		英語Ⅱ（中級）	2			体外循環療法学	2	
		英会話	2			体外循環実習	1	
		医学英語	2			血液浄化装置学	1	
		基礎英語演習	2			血液浄化療法学	2	
	学部共通科目群	保健医療	応用英語演習			2	血液浄化実習	1
			スポーツ健康科学演習			2	人工呼吸装置学	1
			健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	人工呼吸療法学	2
			健康管理学Ⅰ			2	人工呼吸実習	1
			健康管理学Ⅱ			2	人体機能補助装置学	1
			チーム医療とコミュニケーション			2	人体機能補助療法学	2
			栄養学		2	人体機能補助実習	1	
			身体運動科学		2	医用機器安全管理学	2	
			東洋医療概論		2	医用機器安全管理学実習	1	
統合医療概論			2	関係法規	2			
学科専門科目群	人体の構造及び機能	IPW論	1	管理安全	関連臨床医学	2		
		医学概論	1		臨床医学総論（内科学・外科学）	2		
		公衆衛生学	2		内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	2		
		人体の構造Ⅰ	2		外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	2		
		人体の構造Ⅱ	1	実臨床	臨床医学演習	1		
		人体の機能Ⅰ	2		臨床実習	4		
	臨床工学に必要となる医学的基礎	人体の機能Ⅱ	1	専門特講	技術臨床工学特講	医用生体工学特講	1	
		生化学	2			医用機器学特講	1	
		病理学	2			生体機能代行技術特講	1	
		免疫学	2			関連臨床医学特講	1	
		薬理学	2	研究分野	先進科学技術	基礎工学特講	1	
		看護学概論	1			先進科学技術論	1	
	基礎医学実習	1	先進計測技術学			1		
	医用工学	2	先進治療技術学			1		
	数学演習	1	機能評価分析学			1		
	応用数学	2	機能評価学演習			1		
	臨床工学に必要な理工学的基礎	応用物理学	1		医療情報システム学	1		
		応用化学	1		医療情報システム学演習	1		
		電気工学Ⅰ	2		医用ロボット工学	1		
		電気工学Ⅱ	2		遺伝子検査学	1		
		電気工学実習	1		先進科学技術演習	1		
		電子工学Ⅰ	2		研卒業	卒業研究Ⅰ	2	
		電子工学Ⅱ	2	卒業研究Ⅱ		2		
		電子工学実習	1	卒業要件（最低必要単位数）		124		
		臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	放射線工学概論	1				
			情報処理工学	2				
			医療統計学	2				
			システム制御工学	2				
				情報処理・システム制御工学実習	1			

別表第8

教職に関する科目 教育課程

区分	授業科目	単位数
教職に関する科目	教職論	2
	教育原理	2
	教育心理学	2
	教育行政学	2
	教育課程論	2
	保健体育科教育法Ⅰ	2
	保健体育科教育法Ⅱ	2
	保健体育科教育法Ⅲ	2
	保健体育科教育法Ⅳ	2
	道徳教育論	2
	特別活動論	2
	教育方法論	2
	生徒指導論	2
	生徒指導論(養護教諭)	2
	教育相談の基礎と方法	2
	教育実習事前事後指導	1
	教育実習Ⅰ	2
	教育実習Ⅱ	2
	養護実習(事前事後指導含む)	5
	教職実践演習(中・高)	2
教職実践演習(養護教諭)	2	

別表第9

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学料	授業料	教育充実費	合計	入学検定料
保健医療学部 鍼灸学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 理学療法学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 看護学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 臨床検査学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 作業療法学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 臨床工学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	

変更事項を記載した書類

○変更時期

平成30年4月1日

○変更事由

・平成30年度から保健医療学部に臨床工学科を新設し、さらに理学療法学科と看護学科の入学定員を10名ずつ増やすことに伴い、学則の条文と別表を修正しました。

・平成30年度から大学の目的と各学科の目的を変更することに伴い、学則の条文を修正しました。

○変更点

- ・第1条の、大学の目的を修正
- ・第4条の1の入学定員及び収容定員の、理学療法学科と看護学科の数字を修正し、臨床工学科の項目を追加
- ・第4条の2の、各学科の目的を修正
- ・第20条、第35条、別表9に、臨床工学科に関する記述を追加
- ・第28条の2、第45条、別表7、別表8の、別表番号のずれを修正
- ・附則を追加
- ・別表7として、臨床工学科の教育課程を追加

旧	新																																																			
<p>(目的)</p> <p>第1条 幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。</p> <p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学に保健医療学部鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科及び、作業療法学科を置く。 2 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">保健医療学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: center;">240</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: center;">240</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">320</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: center;">240</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">160</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td style="text-align: center;">300</td> <td style="text-align: center;">1200</td> </tr> </tbody> </table> <p>(学部及び学科の目的)</p> <p>第4条の2 保健医療学部は、大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。 2 鍼灸学科鍼灸コースは、豊かな人間性と幅広い知識や技術、それに基づく適正な判断力を身につけた指導的立場に立ち得る鍼灸師を育成することを目的とする。 3 鍼灸学科スポーツ特修コースは、前項の資格を有するとともに、保健体育に関する専門的知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の養成を目的とする。 4 理学療法学科は、人間性を重視し、協調性をもってリハビリテーションチームの一員として活躍できる理学療法士を育成することを目的とする。 5 看護学科は、地域社会で生活する人間を深く理解し、豊かな知識と確かな技術に裏づけられたヒューマンケアリングを創造的に実践するための基礎力を養うとともに、豊かな教養を身につけた看護師、保健師を育成することを目的とする。 6 臨床検査学科は、医療を行う上で強い倫理観と幅広い教養、豊かな人間性を持ち、医療現場で即戦力として活躍できる実践的かつ高度な専門技術と幅広い知識を備えた上で、臨床検査の知識や技術を生かして医学・医療の進歩に貢献できる人材を育成することを目的とする。 7 作業療法学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献するリハビリテーションの専門職を養成することを目的とする。 8 臨床工学科は、医学及び工学の幅広い専門的知識並びに最先端の診断・治療技術を修得し、医療従事者としての自覚及び倫理観をもち、患者との間に良好な信頼関係を樹立できる能力を身につけた、より質の高い医療を提供できる臨床工学科士を育成することを目的とする。</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	保健医療学部	鍼灸学科	60	240	理学療法学科	60	240	看護学科	80	320	臨床検査学科	60	240	作業療法学科	40	160	合計		300	1200	<p>(目的)</p> <p>第1条 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。</p> <p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学に保健医療学部鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科及び臨床工学科を置く。 2 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center;">保健医療学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: center;">240</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td style="text-align: center;"><u>70</u></td> <td style="text-align: center;"><u>280</u></td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td style="text-align: center;"><u>90</u></td> <td style="text-align: center;"><u>360</u></td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: center;">240</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">160</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td style="text-align: center;"><u>60</u></td> <td style="text-align: center;"><u>240</u></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td style="text-align: center;">380</td> <td style="text-align: center;">1520</td> </tr> </tbody> </table> <p>(学部及び学科の目的)</p> <p>第4条の2 保健医療学部は、大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。 2 鍼灸学科鍼灸コースは、<u>専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u> 3 鍼灸学科スポーツ特修コースは、<u>鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</u> 4 理学療法学科は、<u>科学性を持ちつつ人に優しい理学療法と、チーム医療を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u> 5 看護学科は、<u>チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u> 6 臨床検査学科は、<u>生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することが</u><u>できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u> 7 作業療法学科は、<u>チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u> 8 臨床工学科は、<u>チーム医療における使命を理解し、臨床工学科士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p>	学部	学科	入学定員	収容定員	保健医療学部	鍼灸学科	60	240	理学療法学科	<u>70</u>	<u>280</u>	看護学科	<u>90</u>	<u>360</u>	臨床検査学科	60	240	作業療法学科	40	160	臨床工学科	<u>60</u>	<u>240</u>	合計		380	1520
学部	学科	入学定員	収容定員																																																	
保健医療学部	鍼灸学科	60	240																																																	
	理学療法学科	60	240																																																	
	看護学科	80	320																																																	
	臨床検査学科	60	240																																																	
	作業療法学科	40	160																																																	
合計		300	1200																																																	
学部	学科	入学定員	収容定員																																																	
保健医療学部	鍼灸学科	60	240																																																	
	理学療法学科	<u>70</u>	<u>280</u>																																																	
	看護学科	<u>90</u>	<u>360</u>																																																	
	臨床検査学科	60	240																																																	
	作業療法学科	40	160																																																	
	臨床工学科	<u>60</u>	<u>240</u>																																																	
合計		380	1520																																																	

旧	新																																																												
<p>(教育課程) 第20条 追加</p> <p>(教職に関する免許) 第28条の2 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第2の鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第4の看護学科の教育課程及び別表第7の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。</p> <p>(学位の授与) 第35条</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>学位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">保健医療 学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td>学士(鍼灸学)</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td>学士(理学療法学)</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td>学士(看護学)</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>学士(臨床検査学)</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>学士(作業療法学)</td> </tr> </tbody> </table> <p>第45条 本学の入学検定料、入学料、授業料、教育充実費の納入額は別表第8のとおりとする。</p> <p>附 則 追加</p>	学部	学科	学位	保健医療 学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)	理学療法学科	学士(理学療法学)	看護学科	学士(看護学)	臨床検査学科	学士(臨床検査学)	作業療法学科	学士(作業療法学)	<p>(教育課程) 第20条 <u>8 臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。</u></p> <p>(教職に関する免許) 第28条の2 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第2の鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第4の看護学科の教育課程及び別表第8の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。</p> <p>(学位の授与) 第35条</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>学位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center;">保健医療 学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td>学士(鍼灸学)</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td>学士(理学療法学)</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td>学士(看護学)</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>学士(臨床検査学)</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>学士(作業療法学)</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>学士(臨床工学)</td> </tr> </tbody> </table> <p>第45条 本学の入学検定料、入学料、授業料、教育充実費の納入額は別表第9のとおりとする。</p> <p>附 則 <u>12 この学則は平成30年4月1日から施行する。</u> <u>13 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。</u></p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>1年次</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> <th>4年次</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>380人</td> <td>300人</td> <td>300人</td> <td>200人</td> <td>1180人</td> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td>380人</td> <td>380人</td> <td>300人</td> <td>300人</td> <td>1360人</td> </tr> <tr> <td>平成32年度</td> <td>380人</td> <td>380人</td> <td>380人</td> <td>300人</td> <td>1440人</td> </tr> <tr> <td>平成33年度</td> <td>380人</td> <td>380人</td> <td>380人</td> <td>380人</td> <td>1520人</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	学位	保健医療 学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)	理学療法学科	学士(理学療法学)	看護学科	学士(看護学)	臨床検査学科	学士(臨床検査学)	作業療法学科	学士(作業療法学)	臨床工学科	学士(臨床工学)	年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員	平成30年度	380人	300人	300人	200人	1180人	平成31年度	380人	380人	300人	300人	1360人	平成32年度	380人	380人	380人	300人	1440人	平成33年度	380人	380人	380人	380人	1520人
学部	学科	学位																																																											
保健医療 学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)																																																											
	理学療法学科	学士(理学療法学)																																																											
	看護学科	学士(看護学)																																																											
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)																																																											
	作業療法学科	学士(作業療法学)																																																											
学部	学科	学位																																																											
保健医療 学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)																																																											
	理学療法学科	学士(理学療法学)																																																											
	看護学科	学士(看護学)																																																											
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)																																																											
	作業療法学科	学士(作業療法学)																																																											
	臨床工学科	学士(臨床工学)																																																											
年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員																																																								
平成30年度	380人	300人	300人	200人	1180人																																																								
平成31年度	380人	380人	300人	300人	1360人																																																								
平成32年度	380人	380人	380人	300人	1440人																																																								
平成33年度	380人	380人	380人	380人	1520人																																																								

旧	新			
別表第7 臨床工学科を追加	別表第7 臨床工学科 教育課程			
	区分	授業科目	単 位	
	教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
			物理学	2
			生物学	2
			化学	2
			情報処理	2
			統計学	2
		人間理解と社会	心理学	2
			生命倫理学	2
			哲学	2
			社会福祉学	2
			日本国憲法	2
			東洋史概説	2
		語学	英語Ⅰ(初級)	2
			英語Ⅱ(中級)	2
			英会話	2
	医学英語		2	
	基礎英語演習		2	
	応用英語演習		2	
	学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	2
			健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
			健康管理学Ⅰ	2
			健康管理学Ⅱ	2
			ゲーム医療とコミュニケーション	2
			栄養学	2
			身体運動科学	2
			東洋医療概論	2
			統合医療概論	2
	学科専門科目群	専門基礎科目 及 び 機 能 人 体 の 構 造	医学概論	1
			公衆衛生学	2
			人体の構造Ⅰ	2
			人体の構造Ⅱ	1
			人体の機能Ⅰ	2
			人体の機能Ⅱ	1

旧	新																									
	学科専門科目群 専門基礎科目	臨床工学に必要な医学的基礎	<table border="1"> <tr><td>生化学</td><td>2</td></tr> <tr><td>病理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>免疫学</td><td>2</td></tr> <tr><td>薬理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>看護学概論</td><td>1</td></tr> <tr><td>基礎医学実習</td><td>1</td></tr> </table>	生化学	2	病理学	2	免疫学	2	薬理学	2	看護学概論	1	基礎医学実習	1											
		生化学	2																							
病理学		2																								
免疫学		2																								
薬理学		2																								
看護学概論		1																								
基礎医学実習		1																								
臨床工学に必要な理工学的基礎		<table border="1"> <tr><td>医用工学</td><td>2</td></tr> <tr><td>数学演習</td><td>1</td></tr> <tr><td>応用数学</td><td>2</td></tr> <tr><td>応用物理学</td><td>1</td></tr> <tr><td>応用化学</td><td>1</td></tr> <tr><td>電気工学Ⅰ</td><td>2</td></tr> <tr><td>電気工学Ⅱ</td><td>2</td></tr> <tr><td>電気工学実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>電子工学Ⅰ</td><td>2</td></tr> <tr><td>電子工学Ⅱ</td><td>2</td></tr> <tr><td>電子工学実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>放射線工学概論</td><td>1</td></tr> </table>	医用工学	2	数学演習	1	応用数学	2	応用物理学	1	応用化学	1	電気工学Ⅰ	2	電気工学Ⅱ	2	電気工学実習	1	電子工学Ⅰ	2	電子工学Ⅱ	2	電子工学実習	1	放射線工学概論	1
医用工学		2																								
数学演習		1																								
応用数学		2																								
応用物理学		1																								
応用化学	1																									
電気工学Ⅰ	2																									
電気工学Ⅱ	2																									
電気工学実習	1																									
電子工学Ⅰ	2																									
電子工学Ⅱ	2																									
電子工学実習	1																									
放射線工学概論	1																									
臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	<table border="1"> <tr><td>情報処理工学</td><td>2</td></tr> <tr><td>医療統計学</td><td>2</td></tr> <tr><td>システム制御工学</td><td>2</td></tr> <tr><td>情報処理・システム制御工学実習</td><td>1</td></tr> </table>	情報処理工学	2	医療統計学	2	システム制御工学	2	情報処理・システム制御工学実習	1																	
情報処理工学	2																									
医療統計学	2																									
システム制御工学	2																									
情報処理・システム制御工学実習	1																									
学科専門科目群 専門科目	医用生体工学	<table border="1"> <tr><td>生体物性工学</td><td>2</td></tr> <tr><td>生体材料工学</td><td>2</td></tr> <tr><td>バイオメカニクス</td><td>2</td></tr> <tr><td>バイオレオロジー</td><td>1</td></tr> <tr><td>計測工学</td><td>1</td></tr> <tr><td>生体情報処理工学</td><td>2</td></tr> </table>	生体物性工学	2	生体材料工学	2	バイオメカニクス	2	バイオレオロジー	1	計測工学	1	生体情報処理工学	2												
	生体物性工学	2																								
	生体材料工学	2																								
	バイオメカニクス	2																								
	バイオレオロジー	1																								
	計測工学	1																								
	生体情報処理工学	2																								
	医用機器学	<table border="1"> <tr><td>医用機器学概論</td><td>2</td></tr> <tr><td>生体計測装置学</td><td>2</td></tr> <tr><td>生体計測装置学実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>医用治療機器学</td><td>2</td></tr> <tr><td>医用治療機器学実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>画像診断装置学</td><td>2</td></tr> <tr><td>医用監視システム装置学</td><td>2</td></tr> </table>	医用機器学概論	2	生体計測装置学	2	生体計測装置学実習	1	医用治療機器学	2	医用治療機器学実習	1	画像診断装置学	2	医用監視システム装置学	2										
	医用機器学概論	2																								
	生体計測装置学	2																								
	生体計測装置学実習	1																								
	医用治療機器学	2																								
	医用治療機器学実習	1																								
	画像診断装置学	2																								
	医用監視システム装置学	2																								
	生体機能代行装置学	<table border="1"> <tr><td>体外循環装置学</td><td>1</td></tr> <tr><td>体外循環療法学</td><td>2</td></tr> <tr><td>体外循環実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>血液浄化装置学</td><td>1</td></tr> <tr><td>血液浄化療法学</td><td>2</td></tr> <tr><td>血液浄化実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>人工呼吸装置学</td><td>1</td></tr> <tr><td>人工呼吸療法学</td><td>2</td></tr> <tr><td>人工呼吸実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>人体機能補助装置学</td><td>1</td></tr> <tr><td>人体機能補助療法学</td><td>2</td></tr> <tr><td>人体機能補助実習</td><td>1</td></tr> </table>	体外循環装置学	1	体外循環療法学	2	体外循環実習	1	血液浄化装置学	1	血液浄化療法学	2	血液浄化実習	1	人工呼吸装置学	1	人工呼吸療法学	2	人工呼吸実習	1	人体機能補助装置学	1	人体機能補助療法学	2	人体機能補助実習	1
	体外循環装置学	1																								
	体外循環療法学	2																								
	体外循環実習	1																								
	血液浄化装置学	1																								
	血液浄化療法学	2																								
	血液浄化実習	1																								
	人工呼吸装置学	1																								
人工呼吸療法学	2																									
人工呼吸実習	1																									
人体機能補助装置学	1																									
人体機能補助療法学	2																									
人体機能補助実習	1																									
医用安全管理学	<table border="1"> <tr><td>医用機器安全管理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>医用機器安全管理学実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>関係法規</td><td>2</td></tr> </table>	医用機器安全管理学	2	医用機器安全管理学実習	1	関係法規	2																			
医用機器安全管理学	2																									
医用機器安全管理学実習	1																									
関係法規	2																									

旧						
学部名	学年	入学料	授業料	教育充実費	合計	入学検定料
保健医療学部 鍼灸学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 理学療法学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 看護学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 臨床検査学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 作業療法学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	

別表第7
別表第8

新						
学科専門科目群	専門科目	関連臨床医学	臨床医学総論（内科学・外科学）	2		
			内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	2		
			外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	2		
			臨床医学演習	1		
	臨床実習	臨床実習	4			
		専門特講	臨床工学技術特講	医用生体工学特講	1	
	医用機器学特講	1				
	生体機能代行技術特講	1				
	関連臨床医学特講	1				
	研究分野	先進科学技術	基礎工学特講	1		
			先進科学技術論	1		
			先進計測技術学	1		
			先進治療技術学	1		
			機能評価分析学	1		
			機能評価学演習	1		
			医療情報システム学	1		
			医療情報システム学演習	1		
			医用ロボット工学	1		
			遺伝子検査学	1		
			先進科学技術演習	1		
			卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2				
	卒業要件（最低必要単位数）				124	

別表第8
別表第9

学部名	学年	入学料	授業料	教育充実費	合計	入学検定料
保健医療学部 鍼灸学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 理学療法学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 看護学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 臨床検査学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 作業療法学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	
保健医療学部 臨床工学科	1年次	250,000	900,000	680,000	1,830,000	30,000
	2年次		900,000	680,000	1,580,000	
	3年次		900,000	680,000	1,580,000	
	4年次		900,000	680,000	1,580,000	

森ノ宮医療大学 教授会規程

平成19年4月1日制定
平成22年10月19日改定
平成26年7月29日改定
平成27年4月1日改定
平成28年5月24日改定

(趣旨)

第1条 森ノ宮医療大学学則の規定による森ノ宮医療大学教授会（以下「教授会」という。）の組織、権限、運営等については、この規程の定めるところによる。

(審議事項)

第2条 教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事
- (2) 授業及び試験に関する事
- (3) 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関する事、及び学位の授与に関する事
- (4) 学生指導に関する事
- (5) その他、教育または研究に関する事項

2 前項の規定に掲げる事項のほか、理事長ならびに学長の諮問した事項を審議し、意見を述べることができる。

(組織)

第3条 教授会は森ノ宮医療大学（以下「本学」という。）の理事長ならびに学長、教授、准教授、専任講師、法人本部長、事務局長をもって組織する。

(議長)

第4条 教授会は、学長が招集し、その議長となる。

2 議長に事故あるときは、構成員のうちから議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

(招集)

第5条 教授会は、前条の規定に関する事項について、審議する必要があると認めるときに、あらかじめ審議事項を通知して招集する。ただし、緊急の場合は、この限りではない。

(議事)

第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決す。ただし、特別の必要があると認められるときは別に定める割合以上の多数をもって議決することがある。
- 3 教授会は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。

(議事録)

第7条 議長は、議事録を作成しなければならない。

(議案の提出)

- 第8条 教授会に議案を提出しようとする者は、会議の開催日の3日前までに議長に申し出なければならない。
- 2 臨時に教授会を開くことを要求する者は、議長に議案を添えて申し出なければならない。

(委員会)

第9条 教授会に専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

(事務)

第10条 教授会の事務は、大学教務室において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成22年10月19日から施行する。
- 3 この規程は平成27年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成28年5月24日から施行する。

森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科

設置の趣旨等を記載した書類 目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 学部、学科等の特色	6
3. 学科の名称及び学位の名称	8
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	8
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	15
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	17
7. 施設、設備の整備計画	19
8. 入学者選抜の概要	26
9. 取得可能な資格	28
10. 実習の具体的計画	28
11. 管理運営	33
12. 自己点検・評価	35
13. 情報の公表	38
14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	41
15. 社会的・職業的自立に関する指導及び体制	44

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科 設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 大学設置の沿革

学校法人森ノ宮医療学園は、「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」という建学の精神のもと、昭和 48（1973）年、大阪市東成区に鍼灸師養成のための専門学校「大阪鍼灸専門学校（現：森ノ宮医療学園専門学校）」を開設した。その後は、「生命（いのち）への愛と畏敬」を学園の精神とし、基本理念である「人によりそい幸福（しあわせ）を希う学園」を目指して発展を続けてきた。平成 12（2000）年には同専門学校に柔道整復学科を新設し、これまでに 3000 人以上の鍼灸師、1500 人以上の柔道整復師を輩出している。

平成 19 年 4 月には、大阪市住之江区に保健医療学部鍼灸学科と理学療法学科を備えた森ノ宮医療大学を開設した。森ノ宮医療大学は、設立の目的を「幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす」と定めている。

また、開学から 4 年後の平成 23 年 4 月には、保健医療学部看護学科と、大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）を設置し、さらに 5 年後の平成 28 年 4 月には、保健医療学部に臨床検査学科と作業療法学科の 2 学科と、1 年課程の助産学専攻科を設置したことから、本学は現在 1 学部 5 学科、1 専攻科、大学院 1 研究科 1 専攻（修士課程）という体制になった。

平成 30 年 4 月に保健医療学部に臨床工学科を新設することで、大学の目的として掲げるチーム医療の教育をより充実させるとともに、広く社会に貢献できる医療人の育成を通してさらなる保健医療分野の発展に寄与することを目指す。

(2) 臨床工学科設置の必要性

本学は平成 19 年の開学以来、保健医療分野における社会貢献を目指し、社会的ニーズに即した教育と人材育成に努めてきた。この度本学が計画している保健医療学部への臨床工学科新設も、臨床工学技士に対する社会の要請と期待に応えるものである。

①臨床工学技士の現状

昭和 62（1987）年 5 月に臨床工学技士法が制定され、養成校卒業生のみ受験者に対して施行された第 7 回国家試験での資格取得者は 512 人であった。それ以降、養成校の増加とともに受験者数も増加し、平成 28 年 3 月 6 日に実施された第 29 回国家試験においては 1,987 人の合格者が発表され、同年 4 月 1 日現在の養成校出身の資格取得者数は 37,216 人となっている。【資料 1】このうち医療施設で臨床工学技士として業務に携わっている人数は、平成 18 年度 10,029.4 人、平成 27 年度 19,263.5 人となっている。【資料 2】

臨床工学技士法が施行されて 30 年が経過し、医療技術の進歩による医療機器の多様化・高度化が一層進み、臨床工学技士の専門性を活かした業務が円滑に実施できるように、昭和 63 年 9 月 13 日付けで厚生省健康政策局医事課長より発出された「臨床工学技士業務指針」が廃止され、社団法人日本臨床工学技士会及び関連学会団体等から構成する臨床工学合同委員会において「臨床工学技士基本業務指針」が策定された。

これにより、近年の医療技術の進展による医療機器の多様化・高度化に伴い、その操作や管理等の業務に必要とされる知識・技術の専門性が高まる中、当該業務の専門家として臨床工学技士の医療現場において果たし得る役割は大きなものとなっている。

②社会的ニーズ

厚生労働省は、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関相互および医療と介護の間の連携強化を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービス提供体制を構築するという改革の方向性を示している。これにより医療・介護の融合を図り、社会保障・税一体改革における医療・介護の機能分化と連携を推し進め、医療・介護サービスの需要と供給を平成 37（2025）年までに完結する改革シナリオを策定した。この社会保障・税一体改革のポイントは、脳梗塞や心臓病など治療の難度が高く緊急性を求められる治療に対応するため「高度・急性期総合病院制度」を創設する方針を固め、この高度急性期を担う特定集中治療室には、平成 26 年度の診療報酬改定において変更がなされた。この診療報酬改定において特筆すべきは、急性血液浄化療法の導入及び人工呼吸器の管理及び機器のトラブルは昼夜発生し、緊急性・重症度が高く迅速な判断とその対応が必要とされているために、臨床工学技士の 24 時間勤務がより診療密度の高い診療体制にある特定集中治療

室に対し不可欠であると判断されたことである。さらに、平成 37 年までの病床再編スケジュールの政策誘導における呼吸ケアチーム加算、医療機器安全管理料、経皮的カテーテル心筋焼灼術、経皮的中隔心筋焼灼術及び内視鏡手術用支援機器加算といった施設基準において常勤の臨床工学技士の配置が義務付けられ、医療行政の方針から臨床工学技士の増員が図られ、医療機関における臨床工学技士の需要は、今後益々増加すると考えられる。

上記のような社会ニーズに加え、本学の施設・設備、教室等の状況から教育の質を保つことが可能な入学定員数を検討し、臨床工学科の入学定員を 60 名に設定した。

③近畿及び大阪エリアにおける臨床工学科の必要性

近畿 2 府 5 県における臨床工学技士の養成校は、臨床工学技士法の制定から 23 年経過とともに増加し、平成 28 年 4 月現在の養成校数は法 14 条 1 号が大学 3 校と専門学校 4 校、法 14 条 2 号が専門学校 5 校、法 14 条 4 号が大学 2 校に増え、毎年 644 人の学生を受け入れ独自の教育を行っており、大阪エリアにおいてはこのうち 520 名の学生が臨床工学技士を目指している。ここで、臨床工学技士の国家試験に合格し、免許を取得する学生数は、各養成校の進級状況や国家試験の合格率から入学生の約 7 割の 360 人程度と推定され、全国の合格者数の 18%を占めているに過ぎない。このような教育の現状において、大阪府内の臨床工学技士数は 1,320 人（平成 27 年）、近隣の兵庫県内の技士数は 820.6 人（平成 27 年）が登録されているが、近畿ブロック圏内の病院からの求人ニーズに対し供給が不足している状況が改善されていないのが実情である【資料 3】。平成 37 年迄の医療行政の方針から近畿ブロックの高度急性期・一般急性期病院において、臨床工学技士の増員が見込まれるので、本学に臨床工学科を新設することの意義は大きく、社会保障・税一体改革における貢献に繋がると考えられる。

④質の高い臨床工学技士養成の必要性

臨床工学技士に対しては、医療機器の知識と技術を基にして、運用・操作することにより医療効果を高めると共に、保守点検管理により安全で適正に医療機器を活用することが求められている。したがって、教育に当たっては、これを実践するだけの臨床工学に関する知識と技術の十分な習得が求められる。

さらに、関西には、京都大学、大阪大学などの大学に加え、国立循環器病センター、産業技術総合研究所や SPring-8 といった国立研究機関などが立地している。また、関西文化学術研究都市、神戸医療産業都市、播磨科学公園都市、彩都ライフサイエンスパークといった学術都市が建設され、神戸に理化学研究所、発生・再生科学総合研究センターや、

彩都に医薬基盤技術研究施設などの大型研究施設が整備され、まさに日本の生命科学研究の中心的存在となっている。この生命科学領域における医療技術の革新により、医療機器のみならず治療技術も大きく変わり、臨床工学技士の業務の重要性も増大すると考えられる。したがって、4年制大学の教育では、臨床工学技士に関する知識と技術をベースとし、ロボット工学、シミュレーション工学及び情報システム等の知識や技術を習得することにより医療技術の進歩に即応し、業務を通じて知識や技術を高めていけるだけの資質や能力の育成が求められる。

臨床工学科においては、臨床工学技士法第14条第1号に定める文部科学大臣が指定した学校として、医療従事者に必要な医学的基礎や生命現象の統合的理解を促し、臨床工学に必要な広範な工学的基礎や情報技術及び臨床工学技士の業務を行う上で必要な医学的・工学的な専門知識を身につけることができるような教育カリキュラムを構築する。さらに、3年課程の4年コースとしての教育の有意性として、科学的・論理的思考力の獲得、情報化社会に対応できる能力の向上及び臨床工学技術の革新や推進を担うべき能力の育成を目的として、臨床工学に関する医学的・工学的な教育研究を展開し、医学と工学の統合領域で活躍できる人材を養成する。

(3) 教育研究上の目的及び学科の特色

1) 臨床工学科が研究対象とする学問分野

臨床工学科では「臨床工学」を研究対象とする。

2) 教育研究上の目的

森ノ宮医療大学は、「幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす」ことを目的とする。

なお、ここで言う「高度な専門技術」とは、大学教育で重視される教養教育や、基礎から応用まで体系的に積み上げられた専門教育をベースに、専門性を更に深めていく中で身につけていく様々なスキルの事であり、将来、医療の専門家として頼られ、各分野で重要な役割を担っていくために欠かせないものと考えている。

また、保健医療学部は上で述べた大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的としている。

臨床工学科においては、医学及び工学の幅広い専門的知識並びに最先端の診断・治療技術を修得し、医療従事者としての自覚及び倫理観をもち、患者との間に良好な信頼関係を樹立できる能力を身につけた、より質の高い医療を提供できる臨床工学技士を育成することを目的としている。すなわち、卒業時点で医療従事者としてのふさわしい態度、幅広い知識、安全に医療を行う技術を身につけており、臨床工学技士国家資格を取得したのち、医療現場においてチーム医療での役割に寄与すると共に、高度化・複雑化した医用機器のニーズに対応し、これに伴う治療技術の促進に資するとともに、高度に専門化した医療保健学分野の体系化を図り、豊かな人間性と創造性に基づいた科学的思考力と適切な判断力を有する人材の輩出を目指す。

下記①～③で、臨床工学科が目指す教育研究上の目的をさらに具体的に列挙する。

① 基礎教育の徹底

臨床工学技術領域に従事するためには、人の呼吸・循環・代謝等の基礎及び各種疾患の病態を体系的に学び、それらに関わる生命維持管理装置等の原理・構造の理工学的基礎知識を習得し、その適正かつ安全な使用法や保守管理に必要な知識・技術を習得する必要がある。このような臨床工学の基盤となる知識と技術の習得を徹底する。

② 生体工学的視点の育成

医学に工学的な手法と技術を取り入れ、工学的概念で生体を理解し、生命現象や病気のメカニズムを明らかにするとともに、医学診断や治療に有効な手段を提供できるような知識・技術を習得するために、人間工学的な視点を育成する。

③ 情報通信技術の習熟

情報化社会の進展により、医学・医療分野でも情報通信技術(ICT)を用いた手法が取り入れられているので、様々な ICT の手法や情報を適切に扱い、学習やコミュニケーションに利活用できる知識および技能の習得を確実なものとし、深刻な個人情報漏洩などの危険性・対策についても理解する。

④ シミュレーションの実践

臨床工学技士業務の複雑なタスクを基本的なスキルに分解・簡素化したシミュレータを使用することにより、習得した知識・技能を確実なものとするとともに、インストラクションによる業務タスクの実施に繋げ、「知っていること」を「できること」に導く。

3) 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

臨床工学科に 4 年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士 (臨床工学) の学位が与えられる。これは臨床工学技士国家試験受験資格となります。チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与する。

①精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける臨床工学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で臨床工学技士としての知識力と技術力を発揮することができる。

②チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができる。

③豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

④主体的問題解決能力

臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、健康に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、主体的に創造的に問題を解決することができる。

2. 学部、学科等の特色

臨床工学科の特色

臨床工学科が属する保健医療学部は、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択・実践し得る指導的人材を育成することを使命としている。

臨床工学科は保健医療学部を設置され、入学定員は 60 人、収容定員は 240 人とし、人間育成と人格養成を教育の根幹に据え、個性の尊重・品性の陶冶という理念を礎に、多様な背景や目的を持って入学してくる学生に、それぞれの個性に応じ、その総合力(専門力・応用力・即戦力)を最大化する教育を施すシステムを確立し、それにより人間社会の豊かな発展に貢献できる高度な臨床工学技士を育成することとしている。

また、高等教育のユニバーサル化による臨床工学科の高度専門職業人養成において、専門教育では臨床工学分野に関する基礎的知識と基本的技術の実践能力を有するとともに、専門性を進化させて生涯学び続けるだけの素養を育むとともに、常に前進し続けるための向上心を培うことを特色としている。

教育システムの具体的内容は、医学・健康科学とそれに関連した領域の学識と臨床工学領域での十分な知識を身に着け、医療・保健・福祉に関わる高度先進医療が理解できた上で、医療従事者としての意義と重要性を理解し、健康創生への情熱、病める人に対する共感、高い倫理観を持って、医療・保健・福祉の発展に寄与することができ、医療に関わる課題に取り組むための幅広い視野を身につけ、チーム医療の一員として円滑にコミュニケーションができる能力をもった臨床工学技士を養成することとしている。

臨床工学科の特色を、以下で具体的に示す。

① 医学・健康科学領域の学識と臨床工学領域の知識の取得

教養科目群・学部共通科目群では、幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を育成し、医療系統合教育や医学教育も含め、各専門分野における徹底した集団指導により、臨床工学技士に求められる学識と知識を涵養することを目指す。学科専門科目群では、医療および医学に関連する幅広い知識を身につけるために、基礎医学、臨床医学のみならず、生命科学領域を通して人のからだ全体を工学の目で見ることができ、次世代の臨床工学研究や医療をけん引できる人材の育成を目標とし、3、4 年次には研究分野の教育を実施し、生命科学領域を中心とした臨床工学に関する先進的・専門的知識を習得し、独創的な研究を展開する実行力を持ち合わせた臨床工学技士の育成を図る。

② 健康維持や増進への情熱と高い倫理観の育成

医療に携わる臨床工学技士としての感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意思と情熱を育むカリキュラムを構築し、カリキュラム全体を通し、医療専門職としてふさわしい使命感と倫理観を自覚し、適正な医療技術の提供とそれに対する責任の持てるプロフェッショナルを育

成する。さらに、医療を実施するための法的根拠、規律、規範、患者の権利、臨床工学技士の義務について学ぶことにより、法規・規範の遵守の精神を構築するとともに、医療人としての高い倫理性を有し、自己犠牲と奉仕の精神をもって行動できる臨床工学技士を育成する。

③ 円滑なコミュニケーション能力の取得とチーム医療の担い手の養成

問題解決型授業等の科目を設け、早期から看護学、臨床検査学、理学療法学、作業療法学、鍼灸学の個々の専門領域への興味と理解を深めるとともに、これら全専攻の学生が共同で学ぶ融合型授業により、チーム医療に不可欠な他職種への理解を深めるとともに表現能力とコミュニケーション能力を鍛える。これにより、患者の訴えを共感的に傾聴でき、専門的な知識、技術等を分かりやすく説明でき、臨床工学技士としてチーム医療を支え、他職種のスタッフとのチーム医療の重要性を理解し実践することによって患者の QOL 向上に貢献できるような人材を育成する。

④ 個性の尊重と到達目標の明確化

個々の学生が持つ異なる性格と特色ある才能を尊重し、画一化することなく、それぞれの才能を発揮できるような講義・実習を工夫することにより学生の知的好奇心を育む。さらに、臨床工学技士の業務指針に即したスペシャリストを学生自らの目標とし、それを実現する手段を探索しながら学び、達成するために自律的な努力を重ねることができるような養成カリキュラムを構築し、生涯学び続ける姿勢を堅持できる人材を育成する。

3. 学科の名称及び学位の名称

本学科は保健医療分野において臨床工学を担う専門医療人を育成するとともに、臨床工学の進展に寄与すべき教育・研究を行うことを目的としている。これを簡潔平易に表す学科名称として「臨床工学科」(Department of Medical Engineering) とする。

本学科の卒業要件を満たしたものに対して学士の学位を授与する。学位の名称はその教育・研究内容から「学士(臨床工学)」(B.S. in Medical Engineering) とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の基本構成と方針

臨床工学科が掲げる「養成する人材像」および「臨床工学科の特色」の趣旨を実現するために、本学科の教育課程は「教養科目群」、「学部共通科目群」、「学科専門科目群(専門基礎科目、専門科目、専門特論、研究分野)」と順次体系的に構成されている。この構成は医療に携わる専門職の養成に有効なプログラムを提供するのみならず、中央教育審議会の答申を踏まえ、学士力（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力）を育むように編成されている。臨床工学科もこれに従って科目編成を行い、人間性・科学性、国際性、倫理観に関する総合力ならびに社会人として広汎な知識を有し国際的かつ社会的素養を有した人材育成を目指します。

臨床工学科の教育課程編成・実施の方針としてカリキュラム・ポリシーを以下に記す。

①教育内容

- 1) 1、2年次には教養科目、学部共通科目ならびに専門知識の基礎を修得し、臨床工学技士の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。
- 2) 3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床実習において、臨床現場で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組みます。

②教育方法

- 1) 医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。
- 2) 臨床実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置します。
- 3) 他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。
- 4) 予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。

③学修成果の評価方法

- 1) 科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。
- 2) ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。

(2) 教養科目群の編成と特色

本学の教養科目群は「科学的思考」、「人間理解と社会」、「語学」の科目区分によって構成される。「科学的思考」では、物事の相互関係を正しく理解し分析できる力、また得られたデータから推論によって仮説を出し、それを検証していくという科学的思考力を培う。

「基礎ゼミナール」を開講し、高校から大学へのスムーズな移行と、大学で自ら学ぶことへの動機付けをおこなう。そして医療従事者としての心構えと科学的思考の基礎を築く。

「情報処理」では昨今の情報コミュニケーション技術の発展にともなう膨大な知識と情報を有効に活用するためのメディア・リテラシーを修得する。

「人間理解と社会」の科目区分では、人と人との関係において他者を理解する事、すなわち人の心の様相を理解することの意味を学ぶ。また人と社会の結びつきについて学修することで、社会の中で生きていく人のあるべき姿を考える。「生命倫理学」、「哲学」では人の尊厳を幅広く理解し、医療に携わる上で必要な倫理的判断力を育む。

「語学」では、国際共通語である英語に特化した語学力の向上を目指す。医療の分野においても、グローバル化に対応するために英語の重要性は増している。英語を用いて異文化を理解し、英語でコミュニケーションがとれるよう実践的な英語力の修得を目指す。

(3) 学部共通科目群の編成と特色

「学部共通科目群」では既設の 5 学科と密に連携をもち、専門職種間での相互の理解を深めた教育を目指す。学科を越えて同じ目標に向かい、ともに学ぶ機会を設けることで異なる医療職種の理解につなげる。特に「チーム医療とコミュニケーション」は、医療の現場でチームとして協働するために必要とされる資質や素養を身につけるために必修とした。ここでは医療者と患者、そして医療者同士でのコミュニケーションを学ぶとともに、医療におけるコミュニケーションの重要性とチーム医療の意義を学び、多様な環境に対応できる能力を育む。また、同じく必修とした「IPW 論」では、異なる医療職を目指す他学科の学生との症例検討等を通し、専門職種連携の方法について学びを深める。

(4) 学科専門科目群（専門基礎科目）の編成と特色

「学科専門科目群」の専門基礎科目では、臨床工学の理論と実践の基盤となる医学・理工学の専門分野として人・工学・情報を焦点に、「生命現象や各種疾患の病態の理解、チーム医療における医療内容の把握、理工学的技術の医療機器への応用、情報処理技術の医療での利用」を習得するために、基礎科目群として「人体の構造及び機能」、「臨床工学に必

要な医学的基礎」、「臨床工学に必要な理工学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎」の4領域から構成されている。

「人体の構造及び機能」では、広く保健医療に携わる者としての共通認識の為の「医学概論」と「公衆衛生学」を学び、職種間相互理解において重要な位置を占める「人体の構造Ⅰ・Ⅱ」と「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」について系統的に学び、基礎事項を理解する。

「臨床工学に必要な医学的基礎」では、「人体の構造及び機能」を基本として、人体における生物学的、化学的な仕組みを「生化学」、「病理学」、「免疫学」、「薬理学」、「看護学概論」において系統的に学ぶとともに、「基礎医学実習」により生物、化学的な成分分析および理工学的な計測技術を学ぶことにより、生命現象の総合的な理解を目指す。

「臨床工学に必要な理工学的基礎」では、臨床工学の根幹である医学と工学の融合した医工学分野を中心とした内容を「医用工学」で学び、そこで必要となる理工学的素養を育むために「応用物理学」、「応用化学」、「放射線工学概論」を配置し、ここで必要とされる生命現象の数学的な理解を深めるために「応用数学」を配置する。また、数学的素養の必要性から「数学演習」では、問いかけや演習を交えたインタラクティブな講義を行う。さらに、医療機器を論理的に理解するための科目として、電気現象を解析する「電気工学Ⅰ・Ⅱ」と電子現象を解析的に捉え、再現する「電子工学Ⅰ・Ⅱ」を配置し、医療機器で使用される様々な電気・電子回路の働きを「電気工学実習」・「電子工学実習」で理解し、応用展開できるようにする。

「臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎」では、システム化、情報化を理解するために「情報処理工学」、「システム制御工学」を配置し、情報を解析するための「医療統計学」とコンピュータリテラシーとプログラミングの基礎を修得するために「情報処理・システム制御工学実習」を配置している。

(5) 学科専門科目群（専門科目）の編成と特色

「学科専門科目群」の専門科目では、臨床工学技士として必要な知識と技術を学び、問題解決のための基本的な能力、臨床現場で必要とされる基礎的な業務実践能力、チーム医療の一員として医療に携わることの重要性を理解できる能力及び社会人としての基本的な遵守事項を育む。科目区分は「医用生体工学」、「医用機器学」、「生体機能代行装置学」、「医用安全管理学」、「関連臨床医学」、「臨床実習」の5領域から構成する。

「医用生体工学」では、生体の物理、化学的特性などの概念と工学の基礎概念を用いて生体を理解する「生体物性工学」、「生体材料工学」、「バイオメカニクス」、「バイオレオロジー」を配置し、医療機器の構造や動作原理及び各種センサの原理と使用法を理解する「計測工学」、「生体情報処理工学」が配置されている。

「医用機器学」では、計測工学の基礎知識をベースに臨床で用いられる種々のエネルギーを用いた計測法、原理、装置の取り扱いを理解する「医用機器学概論」、「生体計測装置学」、「画像診断装置学」、「医用監視システム装置学」と種々のエネルギーによる治療法を理解する「医用治療機器学」などで構成されている。ほかに、各々の医療機器の操作、保守・点検・管理が実践できるように「生体計測装置学実習」・「医用治療機器学実習」が配置され、機器を適切に操作運用できる能力を養う。

「生体機能代行装置学」では、厚生労働大臣が指定する高度管理医療機器、特定保守管理医療機器に分類され、臨床工学技士の主業務である人の呼吸、循環又は代謝の機能の一部を代替し、又は補助する生命維持管理装置について学ぶための科目群である。この生命維持管理装置を体系的に学ぶための科目として「体外循環装置学」、「体外循環療法学」、「血液浄化装置学」、「血液浄化療法学」、「人工呼吸装置学」、「人工呼吸療法学」、「人体機能補助装置学」、「人体機能補助療法学」が配置されている。

「体外循環装置学」、「人工呼吸装置学」、「血液浄化装置学」、「人体機能補助装置学」は、人工心肺装置、人工呼吸器、血液透析装置及び IABP・PCPS・ペースメーカーなどの原理、構造、操作法などの知識・技能及び保守、点検に必要な安全対策の概念等を修得するために配置されているのに対し、「体外循環療法学」、「人工呼吸療法学」、「血液浄化療法学」、「人体機能補助療法学」は、それらの装置を操作するために必要な心疾患、肺疾患、腎疾患の病態や手術法、治療法などの知識を習得するために配置されている。これらの知識を基に「体外循環実習」、「人工呼吸実習」、「血液浄化実習」、「人体機能補助実習」では、それらの装置についての原理構造や機能を確認し、シミュレーションを用いた操作法とトラブル対策、関連機器および医療材料の特性などを学び、適切に操作運用できる実践的スキルを養成する。

「医用安全管理学」では、医療において医用機器やシステムを安全に取り扱い、適切に操作・運用するための基礎知識を習得し、医療機器の安全性確保と有効性維持を実践するための科目として「医用機器安全管理学」、「医用機器安全管理学実習」を配置し、実習では医用機器とそれが使用される病院の電気、ガス等の各種設備に関する検査機器（チェッ

カー)を用いて、安全管理及びシステム安全等に関する知識の確認と適切に運用できる能力と技術を育成する。さらに、医療人として患者や自分自身を守るための法律的な知識を学ぶための科目として「関係法規」が配置され、単に法律の知識を学ぶだけでなく、臨床工学技士や医師が関係した過去の判例から法的根拠を検討し、医療上の法的な話題に関して、根拠を基に自分の考えをまとめる作業を通じて、将来臨床工学技士としての自覚を養う。

「関連臨床医学」では、臨床の現場で必要となる疾患について、幅広い医学的な知識を習得するための科目とし「臨床医学総論(内科学・外科学)」、「内科学各論(循環器・呼吸器・腎・感染症)」、「外科学各論(循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療医学)」が配置されている。さらに、応用可能な能力を身につけるための科目として「臨床医学演習」が配置され、チュートリアル、ブレインストーミングなどの教育方法によりコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

「臨床実習」では、臨床工学技士の行う業務等について臨床の現場を体験することにより、学内で学んだことを再認識すると同時に、関連業務についての実際的な技術を習得する。また「チーム医療」における臨床工学技士の役割と、関連する他職種との関わりなどについて理解する。

(6) 学科専門科目群(専門特講・研究分野)の編成と特色

「学科専門科目群(専門特講)」では、4年間積み上げた知識と技術を臨床現場で実践できるように、臨床工学技士としての専門的知識と実践的能力を最終確認するための科目群「臨床工学技術特講」として、「医用生体工学特講」、「医用機器学特講」、「生体機能代行技術特講」、「関連臨床医学特講」、「基礎工学特講」の5科目を配置している。講義においては、チュートリアル、ブレインストーミングなどの講義法によりコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を高めるとともに、講義内容の事前事後学習のために e-learning システムを構築し、学生の習熟度に合わせて、いつでもどこでも自己学習ができるような携帯型端末を活用した IT 活用教育を推進し、多様な情報を分析・統合し、理解を深めることで問題解決能力を養成する。

「学科専門科目群(研究分野)」では、医療現場においてチーム医療での役割に寄与すると共に、高度化・複雑化した医用機器のニーズに対応し、これに伴う治療技術の促進と医

療イノベーションに資する臨床工学技士を輩出するための科目群として「先進科学技術」と「卒業研究」を配置する。

「先進科学技術」では、「先進科学技術論」、「先進計測技術学」、「先進治療技術学」、「遺伝子検査学」の講義4科目と、「機能評価分析学」、「機能評価学演習」、「医療情報システム学」、「医療情報システム学演習」、「医用ロボット工学」「先進科学技術演習」の演習6科目から構成することとしている。構成科目として、低侵襲術式である腹腔鏡下手術などの特徴を生かしロボット機能を付加した手術支援ロボット「ダヴィンチ」、末期重症心不全の治療において優れた植込み型補助人工心臓「エバハート」、レーザーアップルの概念の下での内科的・外科的レーザー治療及びES細胞、iPS細胞による再生医療に関する内容を「先進科学技術論」、「先進計測技術学」、「先進治療技術学」において学び、「機能評価分析学」、「医療情報システム学」、「医用ロボット工学」、「遺伝子検査学」などの選択科目から、学生自身の興味と習得した知識及び卒業研究の内容に即した科目を選択し、ミクロの世界である細胞、DNA、微生物などの基礎部分から、エネルギー生産、医療品生産、環境保全などで展開されるマクロな分野までの幅広い領域をより深く学び、21世紀の生命科学を担う人材やマイクロコンピュータを利用した組み込み機器の構築などを目指すメカトロニクスのと技をそなえた臨床工学技士を育成する。

「卒業研究」では、必修科目として徹底した個別指導を行い、これまでに学んだ専門知識の集大成を図るとともに、修得した知識・問題解決能力・コミュニケーション能力を主体的に発揮できる能力を修得する。3年次の「卒業研究Ⅰ」では、能動学習を主体とした自律的学習態度を身につけて生涯研修の能力的基盤とし、専門科目で身につけた知識や技能を統合するために Problem-based learning や Team-based learning などの多様な教育方略を採用するとともに、形成的評価により自分の学習到達度を確認しながら学修を進めることができるようにする。4年時の「卒業研究Ⅱ」では、臨床実習等で明確になった課題や疑問に対し指導教員のもと自分でものを考える能力や種々の問題を解決できる能力を養成し、研究者としても活躍できるデザイン力を養う。

(7) 卒業認定

臨床工学科に4年以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数(124単位)を修得し、卒業までに身につける能力としての臨床工学科のディプロマ・ポリシーの必要要件を満たしたものに卒業を認定する。

カリキュラム・ポリシーおよび授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応および関連を示すカリキュラムマップを【資料4】に示す。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織の編成について

臨床工学科の専任教員は10名（教授4名、准教授4名、講師2名）で組織される。中心となる研究分野は「臨床工学」であり、臨床工学技士が中心となり、工学者と医師がそれをサポートする形で教員組織を構成している。

具体的には、博士（工学）の学位を取得している者が5名、博士（応用情報科学）が2名、博士（医学）が2名で、専任教員10名のうち9名が博士号保有者である。また、残る1名も修士（応用情報科学）の学位を取得している。

医療資格では、10名のうち5名が臨床工学技士、1名が医師、1名が臨床検査技師の資格を有する。臨床工学技士5名は、いずれも教員就任時に10年以上の臨床経験を持っている。

(2) 主要科目と教員配置について

学科専門科目群の専門基礎科目に区分されている理工学的基礎、医療情報技術とシステム工学の基礎においては、その領域に十分な教育経験と研究業績を持つ工学系の専任教員が担当し、人の構造及び機能と医学的基礎においては、その領域に十分な教育経験と研究業績を持つ医学系の専任教員と本学他学科の兼担の教員が担当し、臨床工学技士の専門科目の基礎となる知識と技術を体系的に享受できるように配置した。

学科専門科目群の専門科目に区分されているいずれの授業科目においては、その領域に十分な教育経験と研究業績を持つ教員を配置した。医用生体工学においては工学系の専任教員が担当し、医用機器学においては臨床工学分野の科目に対しては臨床工学技士の専任教員が、臨床検査学分野の科目に対しては臨床検査技師の専任、兼任教員が、生体機能代行装置学と医用安全管理学においては臨床工学技士の専任教員が担当する。生体機能代行装置学においては、「体外循環」「血液浄化」「人工呼吸」といった臨床工学の要の科目に対し、専門職業人養成の観点から、臨床現場において工学系の経験が豊富な臨床工学技士と医学系の経験が豊富な臨床工学技士とを教員として配置した。さらに、

学科専門科目群においては、演習科目を多く配置し、グループワークやプレゼンテーションによる学習指導、チュートリアルやブレインストーミングなどの教育を実践できる教員を配置している。

(3) 教員の年齢構成について

開設時、専任教員の年齢構成は、60歳代に教授2名、50歳代に教授1名、40歳代に教授1名、准教授2名、講師1名、30歳代に准教授2名、講師1名となっている。

本学の定年年齢が満60歳であり、森ノ宮医療大学 教員等定年規程では、「大学の学部学科等の設置に係り、就任することが予定されている者は、それぞれの学部学科等の開設後、学年進行が終了する年度末まで在職を認める」と規定しているため、定年年齢に達した教員については、完成年度まで在職させるものとする。臨床工学科での完成年度では、開設時に定年年齢を超えている60歳代の教授2名のみが定年年齢に該当するので、学年進行終了時以降においては、本学の再雇用規定に基づき、必要に応じて在籍を継続する。【資料5】【資料6】

さらに、学年進行終了時以降は、教育研究水準に支障をきたさず世代交代が円滑に行われるよう、退職する教員の専門性、年齢、職位等を考慮し、適宜後任を補充する。この後任の採用は以下に示す方針で行う。

- ・本学の教育研究の維持・向上をはかるため、採用方法を内部昇格のみに限定せず、公募により外部からも広く候補者を求め、その中から適任者を確保する。
- ・採用はバランスのとれた年齢構成となるよう年齢も考慮する。
- ・原則として、定年まで4年以上の期間がある者を採用する。
- ・年齢構成は、下の表で職位ごとに定めた構成を目途に配慮して採用する。

表：将来（平成37年頃）の教員配置計画

	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
教授		3	1	1	5
准教授		3			3
講師		1			1
助教	1				1

計	1	7	1	1	10
---	---	---	---	---	----

○若手教員の育成計画

本学では、教員の自己研鑽を促し研究・研修を推進する目的で、研究内容や研究環境を考慮した上で、専任教員が週半日～1日を学外等での研究・研修活動に充てることを認めている。

若手教員に対しては、本学で教職課程を担当する教員を中心メンバーとする「教育方法改善研究部会」が、学内で年2回実施している授業アンケート結果を基に、授業内容の設計や改善策を検討し、指導法等のアドバイスをを行う。

また、「学術研究委員会」では、若手教員の研究に対する助言や支援に加え、研究における倫理教育を実施している。同委員会では研究費配分も行っており、若手教員のプロジェクトについても積極的に採用していく。さらに、若手教員の教育研究活動の資質向上のため、助教等を対象とした大学院（修士課程・博士課程）への進学についてもサポートしていく。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

臨床工学科が掲げる「養成する人材像」および「臨床工学科の特色」の趣旨を実現するため、また学生が主体的に学習に取り組むことができるようにするために効果的な教育方法として以下のような体制をとる。

① 他学科との連携教育

チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成するためには他学科（他職種）との連携教育が必要不可欠となる。学部共通科目においてチーム医療やIPW（Interprofessional Work）（専門職連携）を他学科の学生と共に学び、自分の専門領域のみならず他領域の広範な視点を加えてチームで目標を共有し実践できる能力を育成する。

② 少人数教育

実習・演習は少人数のグループを編成することで、学生の積極的な参加を促し学修効果を高める。講義に関しても、科目に応じてグループワークや討論の場を積極的に設けて学生の主体的・能動的な学修態度を育成すると共に、個別的な学修支援の徹底を図る。3年次

からは学生を各研究室に振り分け、卒業研究に必要な専門知識を深めるために学生一人ひとりの志向や能力を見極め、きめ細かな指導を行う。

なお、臨床工学科の臨床実習は4年次前期の必修1科目4単位で、期間も最長8週間であり、教員にかかる負担は限定的である。このため、教育全般においてきめ細かな少人数制の指導を行うことが可能である。

③ 課題探究・問題解決能力を養う教育

将来、臨床で遭遇する可能性のある多種多様な問題を解決するには論理的・総合的な判断能力が必要である。実習・演習では「なぜ」という問いを大切にし、教員が安易に答えを提示するのではなく学生自ら答えを導き出すことを手助けする。たとえその答えが間違っているとしてもそのプロセスを重視し掘り下げて考える力を育む。また卒業研究では問題点を抽出し解決するための科学的思考力や、日常検査の中に新しいものを見つけようとする課題探究能力を養う。

④ 担任制・チューター制の導入

本学では学科毎に担任制あるいはチューター制度を導入し、担当教員が定期的に履修方法や学生生活に関して面接指導を行う。臨床工学科では、1、2年次は担任制をとり、3年次以降は卒業研究担当教員がチューターとなって対応や指導にあたる。

また、学生と教員とのコミュニケーションを充実させるため、専任教員はオフィスアワーを設定し、講義に関する質問だけでなく、勉強の仕方や学生生活に関する相談にも応じる。

⑤ キャップ制の導入

臨床工学科においてはキャップ制を導入し、履修科目の年間登録上限単位数を44単位(半期では22単位)で設定している。

年間登録上限単位数を設定することは、単位の実質化を目的に、学生負担の軽減と履修科目の学修時間の確保を行うことで、十分な学修効果を上げることを目指している。特に、病院等医療施設における臨床実習を履修するまでに臨床工学技士学校養成所指定規則に定める単位数をおおよそ修得し、必要な知識を備えたうえで臨床実習に出ることが望ましいことに加え、一般教養科目群等に関する科目の履修に関し十分な学修時間を確保できるような上限とした。

(2) 履修方法とその指導

大学における履修は高等学校までの履修と比べて相違点が多いことから、学生が履修方法を理解できるよう定例的に履修指導を行い、最終的には自律できるようにする。

まず、各年次の前期開始日のオリエンテーションで履修指導を実施し、学生自身の興味・関心を尊重し、卒業後の進路も視野に入れた科目履修を促す。さらに、履修に関わる質問への対応や成績不良者の指導などは、随時個別に実施する。

担任あるいはチューターが中心となって学生指導に当たり、適切な対応・指導を実施する。

(3) 卒業要件

卒業の要件は4年以上在籍し、教養科目群から必修8単位+選択4単位以上、学部共通科目群から必修3単位+選択4単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目から必修44単位、学科専門科目群の専門科目から必修42単位+選択3単位以上、学科専門科目群の専門特論から必修5単位、学科専門科目群の研究分野から必修7単位+選択4単位以上の計124単位以上の計124単位以上を修得することとしている。

なお、半期で履修できる単位数は上限22単位、通年では44単位以内としている。授業科目の単位の考え方は、講義については15時間をもって1単位とし、実習・演習は30時間をもって1単位とした。臨床実習に関しては十分な学修が必要と考え45時間を1単位とした。

なお、履修モデルを【資料7】に示す。

7. 施設、設備の整備計画

1) 校地の状況

校地は平成18年に大阪市住之江区南港北1丁目26番16号(地番:1丁目39番1号)に7,683.81㎡の土地(容積率800%)を大阪市から購入し、平成20年に隣接する同南港北1丁目39番2号に8,311.43㎡を追加購入、さらに平成28年に隣接する同南港北1丁目40番1号~3号、8号~9号に16,941.41㎡を追加購入したことにより、合計32,936.65㎡を保有している。大阪市営地下鉄中央線のコスモスクエア駅から徒歩約1分の場所にあり、学生の通学や教職員の通勤に高い利便性と、市民に開かれた大学としての役割を担うことができる立地条件である。

近隣には、高層マンションやオフィスビルが林立し、徒歩5分圏内には入国管理局や大阪府咲洲庁舎がある。さらに、近隣企業の運動クラブとの協力で、アスレチックトレーナー等の見学実習を行うなど、地域との結びつきを最大限に活用できる。一方、海辺等の自然が間近にあり、学生と市民が触れ合うことができる憩いの場を介し、豊かな人間性を醸成し、学生に活力をもたらし、専門職医療人の育成の環境としてふさわしい立地であるとする。

2) 校舎の建設

校地は、平成19年の大学開学当時には既設の鍼灸学科および理学療法学科の校舎「東棟」を建設し、残りを緑豊かな空地とした。平成22年度は「学生食堂棟」、平成23年度には看護学科設置に伴い、「西棟」も建設した。また平成28年度には臨床検査学科、作業療法学科の設置に伴い、「南棟」を建設した。臨床工学科については南棟を使用する予定である。

3) 運動施設の確保

大学にとって運動場は、教育や休息のために必要であることから、校地内に整備することを検討したが、学内に設けるのではなく代替運動施設を利用することとした。その理由として以下の点が挙げられる。

- ・校地内にスポーツ系実習や課外活動を行うに足る、十分な広さを持つ運動場を設けることが困難である
- ・大学の近接地域に大規模な運動施設が存在している
- ・近隣運動施設を大学が使用することによって地域振興につながる
- ・現在ある大学の空地を運動場として区画するよりも、緑地として整備することで、学生が市民と触れ合い、学生の豊かな人間形成を醸成する場となり得る
- ・学内に運動場がなくとも、体育館を備えることで教育や研究に支障を来さない

① 代替運動施設

「運動場を設けることと同等と認められる措置」としての代替運動施設として、下記 i)～ii) のとおり舞洲スポーツアイランドを使用し、「運動場に係る要件の弾力化による大学設置事業(828)」の特例措置の適応を受けるべく、「ビジネス人材育成特区」として申請、認定されている。また、学生の経済的負担軽減のため、授業及び課外活動の際には中型バスを大学～舞洲スポーツアイランド間にて往復巡回させている。さらに学生数増加に伴う課外活動の活発化に合わせて、学科や学年の枠組みを超えて、共通の

目的や趣味を持つ仲間と互いに刺激しあいながらあらゆるスポーツを楽しむことができるよう、施設利用回数の増加や休憩施設等の充実を図り、課外活動運営を支援している。

なお、平成 28 年度の南棟竣工に合わせてバスケットボールコート 2 面、バレーボールコート 2 面、バドミントンコート 6 面を取ることができる新体育館を南棟に併設し、学内における運動施設環境の充実も図っている。

i) 舞洲スポーツアイランド

所在地 大阪市此花区北港緑地 2 丁目 2 番 1 5 号

ii) 本学体育館

「舞洲スポーツアイランド」は、運動場 4 面、球技場 2 面、体育館 2 棟、テニスコート 21 面を有し、大学から専用バスでほぼ遅延無く約 7 分で到着する。授業としては、大学内の体育館も使用するが、上記施設への移動時間を考慮し、実習自体や前後の授業に時間的な支障が生じないよう時間割の策定に配慮する。

② 体育系の授業

既設学科においては「スポーツ健康科学演習（2 単位）」の授業を「舞洲スポーツアイランド」を活用して実施している。今回の新設学科においてはこれらの施設に加え、本学体育館を活用する。

③ 課外活動支援

課外活動においては現在、大学が認可した部 13 団体（柔道部、バドミントン部、バレーボール部、陸上部、ハンドボール部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、サッカー部、茶道部、軽音部、硬式テニス部、準硬式野球部、ライフサポート部）および公認サークル 2 団体（ボランティアサークル、アコースティックギターサークル）の合計 15 団体が活動している。

主な活動場所としては、本学体育館に加え、隣接地域にある運動場・競技施設を活用している。

i) 府民共済 SUPER アリーナ

利用時間：17：30～21：00（休暇期間中 13：00～16：00）

利用回数：年間約 70 日 100 コート

ii) 舞洲運動広場 運動場

利用時間：19：00～21：00（休暇期間中 13：00～15：00）

利用回数：年間約 109 日 109 コート

iii) その他各団体の施設

(例：ミズノ株式会社所有テニスコート・港スポーツセンターなど)

上記施設を確保し、課外活動運営を支援している。今後も本学体育館の利用状況に応じて継続予定である。

(2) 校舎等施設の整備計画

現有校舎は、地上 4 階建ての「東棟」(7, 193. 15 m²)、2 階建ての「学生食堂棟」(603. 63 m²)、6 階建ての「西棟」(4, 523. 74 m²)、7 階建ての「南棟」(11, 499. 8 m²) がある。

校舎の基本的な整備方針として、高度な知識と臨床技術を修得した専門職医療人を育成することから、少人数の教室を備えるとともに、特に実習室の充実を図る。

校舎整備の具体的な方針として、①少人数指導も可能な講義室群、②基礎的な技術指導が可能な実習室群、③個人指導及び問題解決能力を養う演習室群、④教員の積極的な研究を促す実験・研究室群、⑤地域との交流の場、生涯学習の場となり得る施設群などを目指し、各室を整備する。

なお、選択科目なども考慮し、時間割に基づいて講義室・実習室等の使用状況を調査した結果、年間を通じ 4 学年が全ての曜日において、同一の部屋を重複して使用する可能性はない。【資料 8】

1) 講義室群

講義室は大学全体で大小合わせて 41 室ある。このうち、臨床工学科が使用するものとして、南棟の 4 階と 5 階に、1 室あたり約 90 人を収容できる講義室を計 4 室整備する。このほか、大学全体に、保健医療学部全体で共有する講義室として少人数用の小講義室や 150 人を収容できる大講義室等を備え、人数規模に合わせて使用できるよう配慮している。

2) 基礎的な技術指導が可能な実習室

実習室は大学全体で 36 室ある。このうち臨床工学科が使用するものは、それぞれの用途に合わせた設備を有する 3 室の実習室で、約 100 m²～229 m²の広さを持つ。学生数に対応した機器・備品を配備し、多様な臨床工学の実習に即して整備する。さらに、学部共有の顕微鏡室 1 室を南棟に、情報処理室 1 室を東棟にそれぞれ設けている。

3) 専任教員の実験・研究施設

専任教員の研究室は、大学全体で 60 室ある。このうち、臨床工学科の教員が使用するものとして、南棟 7 階に教授用の個人研究室 4 室と、他学科と共同で使用する共同研究室 1 室を整備する。共同研究室 (115.97 m²) は 30 人程度を収容可能であり、准教授、講師、助教、助手が共同で使用するのに十分な広さを有する。なお、室内はパーティション等で仕切りを設けるなどして、教員一人ひとりの研究環境が確保されるよう配慮する。

専任教員の実験室は大学全体で 10 室あり、各教員の研究分野に応じた実験に対応している。東棟には動物を対象とする実験室、生理学系実験室、病理学系実験室が 1 室ずつ、西棟には多目的実験室 4 室がある。南棟には臨床検査、臨床工学等に関連した実験室を 3 室整備する。

4) 個別指導及び問題解決能力を養う演習室

語学演習や卒業研究に活用できる小スペースの演習室を、大学全体で合計 14 室設け、このうち、臨床工学科が使用する演習室を南棟に 2 室備える。学生と教員が直接対話できる小空間を用いることにより、問題提起の訓練や解決能力向上の育成に役立たせるほか、卒業研究の指導等にも活用する。

5) 地域との交流の場、生涯学習の拠点

大学共有の図書館は、南棟 2 階に設置されており、図書館の面積は 1027.17 m²、閲覧座席数は 150 席、収容可能冊数は 8 万冊となっている。また、体育館についても、前述のとおり南棟に併設されている。

図書館や体育館、大講義室等の学内施設は、内部の利用だけに留まらず、研修会や市民講座等を誘致して地域の人たちの利用を促し、生涯学習の拠点とする。

6) その他

学生が自習等を行うためのフリースペースは、東棟 1 階、西棟 1 階、2 階、南棟の 1 階と 7 階に整備されている。特に南棟 7 階では、専任教員の研究室前に学生の自習等のスペースを設けることにより、学生と教員が気軽にコミュニケーションをとれる空間をつくる。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

平成19年の開学以降、医療系大学に必要な専門分野の資料を積極的に収集すると同時に、大学高度教育機関として、教養関連の資料の充実に尽力してきた。10年目を迎える平成28年5月には新校舎へ移転。資料の所蔵容量を大幅に増やした。

「豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する」という大学の目的に基づき、「チーム医療」に重点を置いて更なる資料の充実に努めている。

新学科設置に向けては、下記に記載の点において準備し、整備を進める。

1) 図書館の整備計画

新校舎の2階部分に開設され、面積は10,27.17m²。図書収容能力は約8万冊、座席数は150席である。開館時間は平日8時から20時30分、実習中の学生も利用できるよう、土曜日は11時から17時まで開館している。早朝の講義前の朝活支援と、講義後の復習支援にも力を注いでおり、必須科目の講義と連携し、毎年、全クラスを対象としてクラス内容に合った図書館ガイダンスを実施している。

ソファとカウンター完備の、蓋つき飲み物が持込可能なブラウジングスペースを設置する一方で、私語を一切禁止としたクワイエットスペースを設置。くつろげる環境と自習学習に集中する環境の両者を提供することで利用者の多様なニーズに沿った環境を提供している。

本学の特色でもある「チーム医療」の一環として、他学科合同でのグループ学習の際に利用可能なグループ学習室を3室設置している。ノートパソコンを持ち込んでのプレゼンテーション練習や、視聴覚資料を用いたグループ学習が可能である。

館内はWiFi環境が完備され、貸出用ノートパソコン10台、電子情報の閲覧及び情報検索用常設パソコン55台、プリンター5台を設置し、ノートパソコンからも出力が可能で、利用者の多様なニーズに沿ったパソコン利用ができるよう配慮している。

また、蔵書検索(OPAC)と、データベース検索専用端末を2台設置、図書館入口には磁気ゲートシステム(BDS)を設置し、資料を管理している。

2) 図書資料整備計画

現在、既に所蔵している基礎医学系、看護学系専門分野の資料は充実しているが、改訂版や、新たに出版された基礎科目関連資料を購入することで今後の更なる充実を図るとともに、専門科目の高度な研究を支援するため、専門書に特化した収集を目指す。

毎年1,750万円の資料購入予算が予定されており、各学科・専攻からの教員や学生からのリクエストを反映した所蔵を行っている。

また、教養科目の資料については、常時リクエストを受け付けている他に、学生・教員を主に対象として年2回実施しているブックハンティングイベント時や、平成23年から教員を対象に実施している指定・推薦図書制度において募集を行う際に購入が可能となっている。

学術雑誌の資料整備計画については、既存の医学・保健衛生学およびその他の分野の雑誌253誌（和雑誌209誌、洋雑誌44誌）に加え、臨床工学科の専門雑誌として、和雑誌5誌、外国語雑誌2誌を新たに購入予定である。購入予定雑誌のリストは資料で示す。【資料9】

電子ジャーナルについては、既存の洋雑誌8誌と和雑誌10誌に加え、この洋雑誌のうち1誌がオンライン購読可能な電子ジャーナルの導入を予定している。

3) 他情報機関との協力

国立情報学研究所目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に加入しており、全国の情報機関と連携し、文献複写受付・依頼と、相互貸借機能の充実を図っている。また、私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会に所属し、地区内での相互協力を努めている。

4) 学術情報センターとしての機能

学内外から検索可能な蔵書検索機能（OPAC）を導入し、学外者への資料検索機能の充実を図るため、図書館システムのバージョンアップを随時、実施している。電子書籍も購入しており、スマホから必要な書籍を閲覧することを可能としている。また、文献ナビゲーションシステムとして、「360Link」を導入しており、スムーズな文献検索を可能にしている。

更に、実習先などで文献検索ができ、かつ、文献を入手できるよう「ProQuest」「メディカルオンライン」の学外利用サービスを導入し、学外でも学習支援をサポートするシステムを構築している。

8. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

保健医療学部臨床工学科が求める学生像は以下のとおりである。

教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求める。具体的には以下のような人物像（アドミッション・ポリシー）を求める。

- ①医療職の仕事を理解し、医療に関する学修を継続的に続ける意欲がある。
 - ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。
- ※ただし理系科目は必ず修得していること
- ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。
 - ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。
- ①～④の評価は、各入試種別の特徴に合わせて以下の選抜方法を組み合わせて行う。

・国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目、一般常識

※文系科目（国語、英語）のみの選択は不可

・面接

・調査書（評定値、資格取得、課外活動などを評価）

【禁煙への取り組み】

本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施している。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる者とする。

(2) 入学者選抜方法

本学科が求める学生を多面的に評価し選抜できるよう、多様な選抜方法を実施する。具体的には以下のとおりである。

1) AO（アドミッション・オフィス）入試（10名）

「将来、社会に貢献するために本学で学びたい」という高い目的意識と強い学習意識を持った人たちを積極的に評価するために実施する。総合基礎学力試験による基礎学力、面接による人物評価、高等学校や社会での取り組みを総合的に判定する。

2) 公募推薦入試 (20名)

入学志望動機書、推薦書、基礎学力試験、面接試験によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

3) 指定校推薦入試 (若干名) 平成 31 年度入試から導入予定

入学志望動機書、推薦書、面接試験によって学力到達度や適性を総合的に判定する。

4) 一般入試 (28名)

入学志望動機書、学科試験、面接試験によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

5) 社会人入試 (若干名)

職業に従事した経験を持つ社会人を対象とし、面接を重視し、学科試験を含め、総合的に判定する。なお、社会人とは、下記のいずれかに該当する現役高校生以外のすべての方で、おおむね 2 年以上の就労経験（アルバイトも含む）がある方とする。

- ① 高等学校・中等教育学校を卒業した方
- ② 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した方
- ③ 学校教育法施行規則第 150 条の規定により、高等学校卒業と同等以上の学力があると認められる方

試験区分	試験科目	募集人員
AO 入試	○総合基礎学力試験:高校での学習を前提とした基礎的知識【「国語総合」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「生物基礎・化学基礎」、「一般常識】を問う問題 ○個人面接	10名
公募推薦入試	○基礎学力試験:「国語総合(古文・漢文を除く)」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「生物基礎」、「化学基礎」に相当する科目 ○グループ面接	20名

指定校推薦入試	○個人面接	若干名
一般入試	○学科試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」「物理基礎・物理」 ○グループ面接	28名
社会人入試	○学科試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」「物理基礎・物理」 ○個人面接	若干名

9. 取得可能な資格

本学科においては、卒業単位に含まれる科目に加えて、それぞれの関連科目を履修することで、以下の資格を取得することができる。

資格名称	国家資格・民間資格の別	資格取得・受験資格取得の別	要件
臨床工学技士	国家資格	受験資格取得	卒業要件を満たす

10. 実習の具体的計画

(1) 実習の基本方針

大学での実習は、将来医療機関における各種医療機器の管理者として頼られ、指導的な立場で重要な役割を担っていくために必要な技術・知識を修得するためのものと位置づけられる。したがって、長期的な視点で臨床工学技士としての仕事を見据え、科学的な思考で物事を捉え、主体的に課題を探究していく姿勢を重視して実習を進めていく点が、専門学校とやや異なる。具体的には症例検討による実習内容の振り返りや実習後に課されるレポートで先行研究を踏まえた考察を行うことに重点を置き、問題解決能力を養う。

1年次前期における医学概論、2年次後期におけるチーム医療とコミュニケーション、3年次前期の関係法規、IPW論、後期の臨床医学演習等の科目履修により、医療チームの一員として臨床工学技士の役割と責任を学修し、3年次までに履修する学科専門科目群の専門基礎科目、専門科目において臨床工学に不可欠な知識と技術を学修した後、4年次の臨床実習に臨む。臨床実習では、社会人としての良識や医療人としての倫理観を身につけた上で、学内での学修内容を基礎として、臨床工学の基本的な実践技術を体験し修得する。さらに患者を中心としたチーム医療における臨床工学技士の重要性を理解し、他職種との協調性、患者とのコミュニケーション方法など具体的事例を通して学ぶ。またこれまで個別に学修した臨床工学技術が患者の診断治療にどのように関わっているのかを臨床現場で総合的に学修することにより、臨床工学技士の業務責任の重要性について自覚させる。

(2) 実習先の確保の状況

本学が所在する大阪市内をはじめとして、大阪府、兵庫県の中核病院あるいは大学病院を選定し、合計47施設から臨床実習受け入れの承諾を得ている。各施設の実習受け入れ可能人数の合計は120名を超えており、本学科の定員60名に対して十分な臨床実習先を確保できている。なお、一部遠方の施設については帰省先近くの学生のみ配置するなど、配慮する。【資料10】【資料11】

(3) 実習先との契約内容、個人情報保護、感染防止対策、事故防止対策、大規模災害発生時の対応について

1) 個人情報保護について

臨床実習では、臨床実習先の患者個人の診療情報を入手できる環境にあるため、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努める必要があり、以下の点に注意して、学生に対して事前指導を徹底する。

- ①対象者への説明と同意
- ②匿名性の確保と守秘義務について
- ③実習に関する紙媒体・電子媒体の使用方法
- ④個人情報の転記
- ⑤個人情報の転送と保管

また、決して情報漏えいのないよう、学生に「誓約書」を提出させ、個人情報取扱いに

関する保護ガイドラインを十分に理解させた上で実習に臨ませる。【資料1 2】【資料1 3】

2) 感染防止対策について

臨床実習中には、学生自身が感染したり、学生を介して患者に感染させたりする可能性があるため、学内にて感染防止に関する知識、感染防止手順を学修させるとともに、感染事故発生時や感染が疑われる場合には、施設の臨床実習指導者（以下、臨床実習指導者）並びに大学実習担当教員に直ちに報告するように指導する。

また、1年次に麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘及びB型肝炎ウイルスの抗体検査を行い、必要に応じて予防接種を指導する。B型肝炎ウイルスのワクチンを3回接種し、必要に応じHBs抗体検査を実施し免疫の獲得を確認する。なお、実習中、実習後にこれらの感染症を発症した場合には、臨床実習指導者並びに大学実習担当教員に直ちに報告するように指導する。

3) 事故防止対策について

臨床実習中に学生が当事者となり、機器破損、患者等に対して身体損傷などを引き起こす可能性がある。このため、学生全員を「一般社団法人日本看護協会協議会共済会共済制度」に加入させるとともに、事故防止に関する事前教育を行い、以下の事項を徹底する。

- ① 安全なケアが提供できるよう、十分な事前学習・練習を踏まえて実習に臨む。
- ② ケアの実施前後は必ず臨床実習指導者に確認・報告をし、決して独断で行動しない。
- ③ 事故・インシデントの発生時は、直ちに臨床実習指導者と大学実習担当教員に報告するとともに、施設によって別途届け等の必要がある場合は、所定の手続きに従って行動する。
- ④ 大学には、「臨床実習事故報告書」を提出する。

対応方法等は「事故・インシデント発生時の手引き」（本学で作成中の「臨床工学科臨床実習要項（案）」より抜粋）を参照し、事故・インシデントのレベルや連絡ルートの判断について「臨床実習に伴う連絡ガイドライン」に基づいて行う。【資料1 4】【資料1 5】

4) 大規模災害発生時の対応について

臨床実習中に大規模災害が発生した際には、学生は自身の安全確保を最優先する。自身の安全を確保した後、所在地・現況等を臨床実習指導者と大学実習担当教員に報告する。臨

床実習施設内においては、臨床実習指導者の指示に従う。大学実習担当教員は学科内で決定した今後の実習方針に従って行動する。連絡ルートの判断について「臨床実習に伴う連絡ガイドライン」に基づいて行う。

(4) 臨床実習先との連携体制

臨床実習を行う上で、臨床実習施設と本学との連携体制を強化することは大変重要となる。そこで、臨床実習指導者と本学との連絡を密にするため、各臨床実習施設に施設担当教員を配置し、原則として同一教員が連絡を取るようにする。

実習前には、大学実習担当教員が臨床実習指導者を訪問し、本学教育水準と臨床の理解を深め、実習カリキュラムの検討、学生の実習への適応、実習の評価に関する基準などについて話し合う。また、大学実習担当教員と臨床実習指導者は、実習での指導についてどのように役割分担するか、協議し、共通認識を図っておく。

臨床実習期間中についても、大学実習担当教員と臨床実習指導者は適宜、相談の場を持ち、連絡を密にしておくことで、実習指導者上の問題が発生した際に迅速に対応できるようになる。

(5) 臨床実習水準確保についての方策

臨床実習は学内で習得した知識・技術を臨床で実践する場であり、実習に本学の教育水準が反映され、学内での学修と実習の質が同レベルに保たれることが重要となる。実習水準の確保の方策として、下記に示すことを実施する。

1) 本学の教育について共通認識を持つこと等を目的とし、臨床実習前に大学実習担当教員が臨床実習施設を訪問し、臨床実習指導者と打ち合わせを行う。

2) 実習カリキュラムは、公益社団法人日本臨床工学技士会の「臨床実習指導ガイドライン改訂版」をもとに、血液浄化装置実習 1 単位分、集中治療室及び手術室実習 1 単位分、医療機器管理業務実習 1 単位分を含めた上で学修する事項を決め、目標を立てて達成するシステムをとる。各実習の内容、到達目標は以下の通りとする。

①血液浄化装置実習（1 単位）

各種血液浄化法の構成や管理感染対策、血液浄化器の機能、血液浄化監視装置の構成と機能（関連機器含む）、各種血液浄化療法の適応疾患と治療効果、各種血液浄化療法の実際（準備（始業点検含む）から終了まで）、血液浄化装置（水処理装置等の関連機器含

む) の保守管理及び他職種との連携等について理解させる

②集中治療室及び手術室実習（1単位）

集中治療室や手術室の衛生管理、機能、設備（電源、医療ガス、空調など）及び各種治療機器等（生体情報モニター、人工呼吸器、補助循環装置、人工心肺装置等）の構成や機能、使用方法並びに保守管理、患者への配慮や管理等及び他職種との連携等について理解させる。

③医療機器管理業務実習（1単位）

医療機器管理の役割、保守点検（使用前後の点検と記録の実際、定期バッテリー交換、注入量実測、漏れ電流、接地抵抗測定、アラーム作動状態確認等）及び機器貸し出し時の患者や家族とのコミュニケーション等について理解させる。

④その他（高気圧装置、心臓ペーシングおよび心臓カテーテル関連業務）に関する実習（1単位）

高気圧装置実習については高気圧治療の適応疾患と治療効果、高気圧治療の種類と機能、操作方法、保守管理について理解修得させる。当該実習については設備を有している病院が大阪市立大学医学部附属病院および大阪労災病院の2病院であることから、4年次の臨床実習中にこの2病院で順次2日間行う。また、心臓ペーシングや心臓カテーテル関連業務については心臓カテーテル室の管理、設備、機能、役割の理解およびカテーテル検査の実際などについて理解する。心臓ペーシング関連では心臓ペーシングの適応疾患や治療効果、機器の管理等について理解させる。

3) 臨床実習前に、学生が臨床実習施設を訪問し、施設ごとにオリエンテーションを行うことで、各実習施設での実習に必要な情報や知識について、学生が事前に学修しておくようにする。

4) 臨床実習期間中は、本学と臨床実習施設の間で相談の場を設け、臨床実習教育の水準を向上し、臨床実習指導者と大学実習担当教員がともに成長できるように連携を図る。

(6) 臨床実習前の準備及び事後の指導計画

臨床実習に先立って、大学実習担当教員が各臨床実習施設を訪問し、臨床実習の概要等をもとに説明し、臨床実習指導者と十分に協議する。各施設の実習には、臨床実習指導者に5年以上の臨床経験を有する人材が加わるように依頼する。

臨床実習に臨むにあたり、学生には事前に身だしなみや心構え、患者に対する接遇、感

染事故防止、感染や事故発生時の対応について十分に学修させる。実習後はレポート提出を課し、さらに実習後のレポートとは別に臨床実習の総括をするために臨床実習発表報告会を行う。また各施設の臨床実習指導者には、実習終了後、臨床実習評価表による評価をお願いし、本学の成績評価の参考とする。

(7) 臨床実習に際しての専任教員の配置並びに巡回指導計画

大学実習担当教員は、各臨床実習施設での実習が安全かつ適正に行われるように、実習開始前と実習中の2回にわたって各施設を訪問し、臨床実習指導者と協議及び学生の指導に当たる。また必要に応じて臨床実習先に赴き、臨床実習が円滑に進むように努める。施設担当教員には、毎週1日、授業を担当しない曜日を設定しており、実習先の巡回指導と授業を両立しやすいよう配慮する。

なお、遠隔地に位置する臨床実習施設については、公共交通機関に比べて乗用車でのアクセスが良い場合、なるべく乗用車を活用するなどして教員の巡回指導が効率よく行えるように工夫し、教員の負担軽減に努める。また、同施設の巡回指導は周辺の地理に詳しく、乗用車の運転に慣れた教員が担当するように配慮する。【資料16】

(8) 臨床実習施設における実習指導者及び学生の配置計画

臨床実習での指導は、各実習施設で、最低5年以上の臨床経験を持つ臨床実習指導者が当たる。また学生に関しては、受け入れ施設の実態、学生の居住地など総合的に判断し、2～4名の学生を配置する。【資料16】

(9) 臨床実習の成績評価体制及び単位認定方式

成績評価は臨床実習の評価基準を認定し、大学実習担当教員と臨床実習指導者による協議後に、本学が目標達成状況を総合的に判断し、決定する。臨床実習評価基準は、臨床実習の規定日数以上の出席、指定された実習記録の提出、実習後のレポートなどを項目として設定している。【資料17】【資料18】【資料19】

1 1. 管理運営

(1) 教学面における管理運営体制

本学では教育研究目的の達成のため、以下の管理運営体制を構築する。

1) 教授会

森ノ宮医療大学学則及び教授会規程に基づき、以下の教学面における重要事項を審議する。

- ① 教育課程に関すること
- ② 授業及び試験に関すること
- ③ 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関すること、及び学位の授与に関すること
- ④ 学生指導に関すること
- ⑤ 学則その他重要な規程の制定改廃に関すること
- ⑥ 森ノ宮医療大学の教学に関する予算の具体的運営に関すること
- ⑦ その他、教育または研究に関する事項

また、これらの事項のほか、理事会ならびに学長の諮問した事項を審議する。

教授会の編成は学長、副学長、教授、准教授、専任講師、事務局長のほか、教学面からの設置者への要望と連携を効果的にするため学園理事長をもって組織する。

教授会の開催については、月1回（毎月第3木曜日）を定例教授会とし、また、教授会構成員もしくは、議長は必要に応じて会議を招集し、臨時教授会を開催することができることとし、教授会の機動的な体制を確保している。

2) 管理運営会議

上記教授会で審議する事項及び重要事項をあらかじめ検討、調整するために、管理運営会議を置く。この構成メンバーは、学長、副学長、学部長、学科長、図書館長の他、理事長、法人本部長、事務局長、教務室長、学生支援室長、総務室長、広報室長等で構成し、会議については月1回(毎月第2木曜日)を定例の管理運営会議とする。

(2) 教授会に関連する下部組織としての委員会

教授会との連携を適切かつ有効的に行うために、専門的事項を審議、起案、また実行することを目的として、教授会の諮問機関として下記委員会を常設し、構成メンバーは各委員会において定める。

1) エンロールメントマネジメント委員会

エンロールメントマネジメント委員会は、大学入学から在学中、また就職支援や卒業

教育等、一連の教育活動、すなわち入学者選抜、入試運営、就職活動支援、卒後教育、入試広報に関する情報の調査分析を実施し、有効的な教育活動を実施することを目的として設け、教授会に提言する。また大学として一貫性を持ち学習者への支援活動に資するための委員会でもある。なお、このエンロールメントマネジメント委員会の下部に専門部会を設け、審議した事項を企画運営実施する組織として、大学事務局と連携して、入試専門部会等を設置している。

2) 教務委員会

教育課程の編成、運営及び授業科目の履修、試験等に関することなどを審議検討し、教授会に上申するため設けている。

3) 自己点検評価・FSD委員会 (FSDとはFDとSDを総称する本学独自の造語。以下FSDとする。)

自己点検・評価に関する必要な事項を審議するとともに、教職員の資質向上に資する組織的な取り組みについて検討、提案、具体的運営を図るため設けている。

4) 人権問題委員会

人権を尊重し、人権侵害問題が発生した際に適切な対処を行うことを目的に設けている。活動の一環として、人権意識の啓発のためにセミナー等を定期的で開催する。

5) 附属図書館運営委員会

附属図書館の運営に関する重要事項を協議し、充実した図書館運営を行うことを目的とするため設けている。

6) 学術研究委員会

本学の学術研究の振興を図るため設けている。

さらに、上記常設の委員会のほか、教授会は必要に応じて専門的事項を審議するため、特別の委員会を置くことができる。

12. 自己点検・評価

(1) 実施の方法と体制

本学では、自己点検・評価に関して、必要な事項を定めた「自己点検評価・FSD委員会規程」に則り、「自己点検評価・FSD委員会」を設置して、自己点検・評価に関わる活動を展開している。

自己点検評価・FSD 委員会は、法人本部長、学部長、学科長、事務局長、事務局管理職、専任教員と専任事務職員各 1 名で構成し、積極的に自己点検・評価活動及び FD 及び SD への取り組みを推進する。

教育活動評価の重要な指標として、「授業評価アンケート」を年 2 回実施しているほか、年に 2 回、教員どうしが相互に評価をおこなう「公開授業週間」を全学的に実施している。

自己点検・評価は 4 年に 1 回実施することになっており、本学では平成 25 年度大学機関別認証評価「自己点検報告書」として平成 26 年 3 月に公開した。また、ホームページの「数字で見る森ノ宮医療大学」の中でも各種の教育関連データの公表を行っている。

(2) 結果の活用・公表

1) 結果の活用

評価の結果に基づき、成果が到達目標に至った項目については、さらに向上を目指すための検討材料として利用する。また、成果が到達目標に至らず、今後も継続して改善が必要な項目については、「自己点検評価・FSD 委員会」と対象部署が協力して原因を追求するとともに、改善の方向性を検討し、随時具体化を図る。また、評価の結果については「中期経営計画」にも反映させている。

2) 評価報告書の作成と公表

各評価項目の評価結果とそれらを集約、分析した結果、見出された課題等の詳細を「自己点検報告書」にまとめている。

自己点検・評価の結果等の関連情報の発信手段としては、大学のホームページや各種制作物を活用して、学内外へ公表している。

3) 評価

各評価項目について、4 段階で評価する。さらに、「自己点検評価・FSD 委員会」では、評価の指標によって表現しきれない側面、要因、状況等を考慮に入れて結果を総合的に検討、点検し、必要な調整、修正により補正を行い、自己点検・評価を確定する。

自己点検・評価・改善のそれぞれの活動の中でも、大学を改革し発展させるために最も重要なことは、全学を挙げて達成に取り組む姿勢と不断の努力の積み重ねであると考えられる。本学では 1 年サイクルで「事業報告書」と「事業計画書(年報)」を作成し自

自己点検・評価を実施している。

(3) 評価項目

本学の大学院および全学科の教育、研究活動に携わる全部門の活動を対象とし、認証評価機関である公益財団法人日本高等教育評価機構の定める大学評価基準を基本に、以下の項目について自己点検・評価を行っている。

①使命・目的等

- ・使命・目的及び教育目的の明確性
- ・使命・目的及び教育目的の適切性
- ・使命・目的及び教育目的の有効性

②学修と教授

- ・学生の受入れ
- ・教育課程及び教授方法
- ・学修及び授業の支援
- ・単位認定、卒業・修了認定等
- ・キャリアガイダンス
- ・教育目的の達成状況の評価とフィードバック
- ・学生サービス
- ・教員の配置・職能開発等
- ・教育環境の整備

③経営・管理と財務

- ・経営の規律と誠実性
- ・理事会の機能
- ・大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ
- ・コミュニケーションとガバナンス
- ・業務執行体制の機能性
- ・財務基盤と収支
- ・会計

④自己点検・評価

- ・自己点検・評価の適切性

- ・自己点検・評価の誠実性
- ・自己点検・評価の有効性

(4) 認証評価

学校教育法第 109 条において、大学・大学院は政令で定める期間（7 年以内）ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を受けることとされている。

森ノ宮医療大学及び大学院では、平成 25 年度に「公益財団法人日本高等教育評価機構」による認証評価を受審し、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合しているという大学機関別認証評価を受けた。認定の期間は、平成 32（2020）年までとなっている。

今後も次回の認証評価を受けるべく、自己点検・評価・改善計画に則り、教育に関わる様々な情報を集約し、教育の質の保証に向けたシステムを構築するが、今後も「中期計画」とリンクしながら PDCA サイクルを取り入れた取り組みを実施していく。

1 3. 情報の公表

学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する説明責任を果たすため、法人の基本情報、法人の経営及び財政に関する情報、法人が設置する学校の教育研究に関する情報、事業報告に関する情報、設置認可(届出)申請に関する情報等を刊行物及びホームページによって広く公開している。

学校教育法施行規則の一部改正に伴い、平成 23（2011）年 4 月 1 日より施行された教育情報の公表については、ホームページのトップページに「情報の公表」のタブを設定して、必要十分な情報にすばやく到達できるよう設定し、年度ごとの事業報告（年報）等の最新情報を提供している。

財務情報の公開についても、ホームページ上で計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、固定資産明細表）監査報告書を公開し、閲覧や印刷ができるようにしている。また、財務情報については、別資料を作成し、解説、グラフ等を多用して、分かりやすさに配慮して公表・公開している。

本学では、教育研究活動を含め、大学運営に関わるあらゆる状況について、事業報告書（年報）等の刊行物への掲載やホームページ等により広く周知を図っている。情報の提供

は、以下の方法により教育研究活動、入学試験情報、社会活動等に関わる内容を広く提供している。この際、個人情報保護への配慮を怠らないようにしている。なお、情報の提供については、学部等と協働して実施している。

以下の本学のホームページアドレスは、細分化されているので主なアドレスのみ記載している。

①大学の教育研究上の目的に関すること

森ノ宮医療学園の概要や大学の目的、学部の目的、学科の目的（鍼灸学科・理学療法学科・看護学科・臨床検査学科・作業療法学科）を公表している。

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/mind.html>

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/1_1_130902.pdf

②教育研究上の基本組織に関すること

学校法人森ノ宮医療学園の構成等について公表している。

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/organizational.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

専任教員数・教員が有する学位及び業績・教員 1 人当たりの学生数・年齢別教員数・職階別教員数・専任教員数と非常勤教員数の比率等について公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/pdf1_2_140312.pdf

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/2_1_2_130902.pdf

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_1_130902.pdf

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_3_130902.pdf

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_4_130902.pdf

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_5_130902.pdf

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数、並びに進学者数及び就職者数、その他進学及び就職等の状況に関すること

アドミッションポリシー、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、就職者（進学者）数、収容定員充足率、入学者推移、社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数等について公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/2_2_1.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/2_2_2_130902.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/2_2_6_130902.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_2_130902.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_8_130902.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_12_130902.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_13_130902.pdf

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

各学科の授業科目・単位数・講義概要の検索と一覧表・シラバス照会システム等を公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/syllabus_list.html

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること(学則からの抜粋)や教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学位授与数と授与率、退学・除籍者数、中退率、留年者数等を公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/2_5.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/2_6.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_6_130902.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_9_130902.pdf
http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/5_1_11_130902.pdf

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎の概要、キャンパスマップ、施設紹介、図書館の概要や学生生活(クラブサークル紹介、学生支援センター、年間スケジュール、学生食堂、下宿・マンション紹介、交通アクセス)について公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/1_3_1_130902.pdf
<http://www.morinomiya-u.ac.jp/campus/index.html>
<http://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/access.html>

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料、入学料その他の大学が徴収する費用(年間)を公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/1_4_130902.pdf

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
学生の修学に関する支援体制、学生の進路選択に関する支援体制、心身の健康等に関する支援体制について公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/2_5_130902.pdf

⑩その他

1) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検報告書、認証評価の結果等について公表している。

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/certification/jikosaiten.pdf>

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/certification/hyouka.pdf>

2) 財務に関する情報

財産目録、貸借対照表、収支計算書、監事の監査報告書、財務の状況を平易に説明する資料、事業報告書（年報）、事業計画書等を公表している。

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/h27_kansa_hokokusho.pdf

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/h27_kessan_hokokusho.pdf

http://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/h27_jigyohokoku.pdf

以上のように、教育情報と財務情報は、刊行物（大学案内・大学ガイド・学生便覧等）と「ホームページ」<http://www.morinomiya-u.ac.jp/>により、学内外すべてに公開されている。

1 4. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、教育、研究、臨床を通じて広く社会的、国際的貢献を果たすため、それらに携わる教員の資質の維持向上を目的に自己点検評価・FSD 委員会を設置し、方策を立て実施、改善を図る。

(1) 自己点検評価・FSD 委員会実施体制

自己点検評価・FSD 委員会は、法人本部長、学部長、学科長、事務局長、事務局管理職、専任教員と専任事務職員各 1 名で構成し、積極的に自己点検・評価活動及び FD 及び SD への取り組みを推進する。

(2) SDの実施体制

毎年2回以上、SDに関する研修会等を開催している。平成27年度においては教職員を対象としたものとして、学外から講師を招聘して研究費の取り扱いやリスクマネジメント、他大学の組織改善を事例にした勉強会などを開催した。また、若手・中堅職員向けには初任者管理職研修やロジカルシンキング、タイムマネジメントなどに関する研修を実施し、職員の底上げなどを行っている。これらの企画は本学人事制度などにに基づき、自己点検・評価FSD委員会において年度計画が検討され、研究科委員会、教授会等で承認を受け毎年開催されている。

(2) FDの実施体制

1) 教員の資質を判断する客観的・合理的な評価の策定

以下の5項目の視点から各教員を客観的・合理的に評価し、人事配置、その他本学のシステムを検証し改革するための指針とし、さらに学生による授業評価ならびに教職員による公開授業見学会の結果分析を踏まえ、教育環境の改善を図り教員の資質向上に資する。なお、教員の資質を判断する際の客観的・合理的基準や評価項目については、本学の管理運営体制、社会的要請などを考慮し策定を進めるものとする。

①学生による授業評価

学生による授業評価を前期と後期に1回ずつ実施し、全教員が最低でも年に1回は評価されるよう対象となる科目を設定している。各科目の評価結果は自己点検評価・FSD委員会を通じて各教員に還元するとともに、結果の総括を学内に公表し、それ自体を本学の自己評価の対象とすることにより、教育活動の向上・改善に活用する。状況に応じ、学長、学部長、学科長より直接指導を行うことがある。

②教職員による公開授業見学会

教職員による公開授業見学会を、前期と後期に1回ずつ実施し、全教員が最低でも年に1回は評価されるよう対象となる科目を設定している。

公開授業見学会に参加した教職員は見学した授業のアンケートを記入し、そのアンケート集計結果については自己点検評価・FSD委員会を通じて各教員に還元するとともに、結果の総括を学内に公表し、それ自体を本学の自己評価の対象とすることにより、教育活動

の向上・改善に活用する。状況に応じ、学長、学部長、学科長より直接指導を行うことがある。

③研究活動の評価

各年度に研究成果の専門誌掲載、著作、学会発表、さらに学会やセミナー、シンポジウム開催への貢献など、研究活動における評価を行う。その結果を年報等に記録し、それ自体を本学の自己評価の対象とすることにより、研究活動の向上・改善に活用する。

④大学運営への貢献度に対する評価

担任やチューター業務、各種委員会活動等、大学運営にかかわる様々な業務での取り組み内容に対し評価を行う。その結果を本学の自己評価の対象とすることにより人事配置、その他本学のシステム検証の際に活用する。

⑤その他の活動報告

各種社会活動やボランティア活動など、教員が参加しているさまざまな活動についても評価の対象とし、教員の資質向上の契機とする。

2) 教員の研修・研鑽機会の創出

教育活動改善への取り組みを積極的に進める。学生による授業評価および公開授業見学会（前述）に加え、大学としての組織的な教育方法、教育内容の改善に取り組み、教員の研修、研鑽機会の創出を通じて、大学に対する社会の要請に応えるとともに、教員の資質向上を目指す。具体的には以下の方策をとる。

①教育活動改善担当者の配置

教授会のもと、自己点検評価・FSD委員会が下部組織である教育方法改善研究部会において教育活動改善担当者を指名して各教員の教育活動改善への取り組みを担当し、必要に応じて教員に対して助言や指導を行う。

②教育活動改善に関する研修、研究機会の確保

各年度末に1回、学内で教員相互が多様な観点から教育活動改善について研修・研究する機会を設ける。また、教員に学外での教育活動改善に関する研修・研究機会の情報提供を行うとともにその活用を奨励する。

③教員の相互研鑽

半期ごとに教員相互で授業評価を行う。具体的には、板書、授業の準備状況、教育手法、授業内容等について授業評価表を作成し、各項目について評価する。その評価結果につい

て教員相互で討議、意見交換を行う。さらに、全ての結果を教育活動改善担当者が取りまとめ、学長に報告するとともに、本人にも通知して授業の改善に役立てる。

1 5. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取り組み

臨床工学科では、自立した医療人としての自己実現を目指すために、修学を支援する学内の制度や施設についてのオリエンテーションを行う。臨床工学技士という職業の職務内容、職業倫理等に関しては1年次の「基礎ゼミナール」「医療概論」において概略を学び、専門教育への橋渡しとなる基礎的知識・技能に関しては専門基礎科目において臨床工学の専門職になるための基盤づくりを行う。

また3年次に「医用機器安全管理学」「医用機器安全管理学実習」「関係法規」を通じ臨床工学技士の具体的な業務の医用機器・設備の安全管理について学び、社会的・職業的自立を促す。さらに心身の健康や職業としての学問、医療人としての生涯学習の基礎を理解するとともに、演習科目でのグループ活動を通じて、チーム形成能力の動機づけを図る。

チーム医療に関する教育を通じて自己と他職種の役割を理解するために、1年次の「医療概論」にてチーム医療の必要性について教授し、2年次の「チーム医療とコミュニケーション」では具体的なコミュニケーションスキルを指導する。そして、3年次には、5学科合同の授業として、「IPW論」を開講し、症例を通じ各学科の専門性を基に専門職間連携の理念を実現するための方法について教員とともに討議する。

専門的知識・実践的技術を修得し、医療専門職として自立するための指導は、各領域別（医用生体工学、医用機器学、生体機能代行装置学、医用安全管理学、関連臨床医学）に行い、臨床実習では学内で修得した知識や技術を持ち、病院で実習を行う。臨床実習では、疾患と直結した知識や技能を高めることが最大の目的ではあるが、併せて医療人として患者や病院職員に対してのコミュニケーションの取り方や言葉遣い、振る舞い、仕事に取り組む姿勢等を学ぶ。卒業時には、臨床工学技士国家試験受験資格が与えられ、将来、医療人として活躍するために必要な知識を多く身につけることができる。

(2) 教育課程外の取り組みについて

医療に特化したプロフェッショナルの育成を目的とし、個々の学生の個性と進路志望に即した指導と、それに基づく進路先の開拓および斡旋を行うことを基本方針に掲げている。また、医療の現状を踏まえ、社会人として必要な知識を教育することにより、現代社会に対応できる医療に特化したメディカルキャリア教育の導入を行っている。そのために各学科と学生支援委員会、学生支援室、学習支援センター等が連携し、各業界において力を発揮できるよう、多面的で持続可能な支援体制を実現させている。

1. 社会人マナー講座（就職説明会前・卒業前）、医療接遇マナー講座（入学時オリエンテーション・実習前）、キャリア支援セミナー（講演会）、各種資格取得講座（公務員対策・教員採用試験対策等）の実施
2. 求人情報の提供および求職申込の受理
3. 学内就職説明会、卒業生による就職相談会の開催
4. キャリアガイダンスの開催
5. 就職または進学等、進路に関する個別面談および履歴書添削、面接指導
6. 学務システム、ホームページ等を通じた学生への情報提供

（3）適切な体制の整備

本学は、保健医療学部看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科、鍼灸学科を有しており、今回設置を申請している臨床工学科を含めた医療の総合大学として学科の枠を超えた他の医療職との連携やチーム医療を意識し、全人的医療の実践に向けて、高い意識と幅広く柔軟な知識を兼ね備えた医療者の育成を目指している。

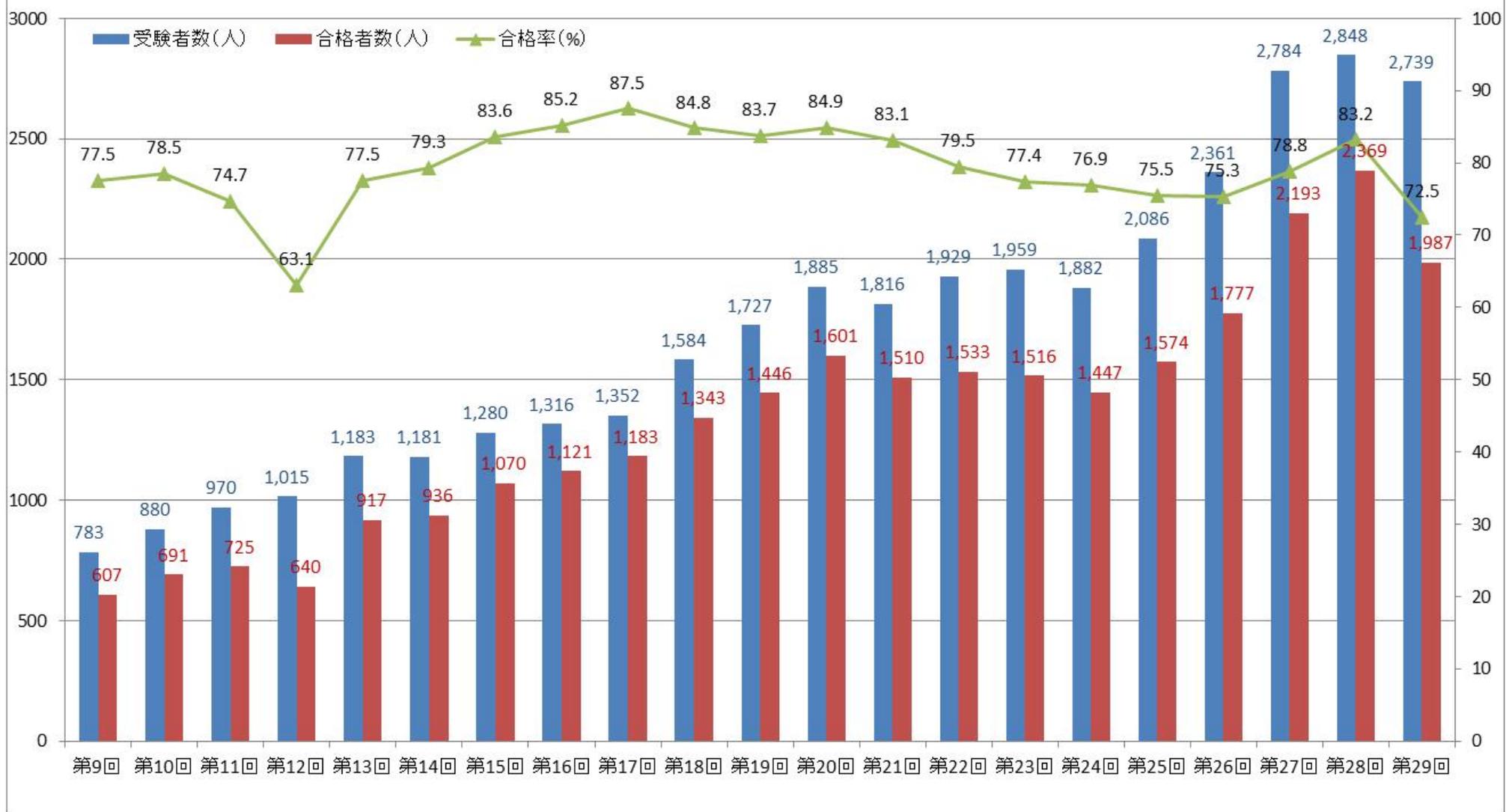
特に、キャリア支援については、各学科および進路担当教員、学生支援委員会、学生支援室が一体となって取り組んでいる。また、キャリアディベロップメントアドバイザー（CDA）や産業カウンセラー、キャリアカウンセリング研修を受講した職員を学生支援室に配置し、個々の学生の性格や希望に即したきめ細やかな対応ができる体制を整えている。

森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

- 資料 1 臨床工学技士 国家試験 推移
- 資料 2 病院内臨床工学技士数
- 資料 3 関西の施設内臨床工学技士数の推移
- 資料 4 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科カリキュラムマップ
- 資料 5 森ノ宮医療大学 教員等定年規程
- 資料 6 学校法人森ノ宮医療学園 再雇用規程
- 資料 7 臨床工学科履修モデル
- 資料 8 時間割（臨床工学科）
- 資料 9 臨床工学科 購入予定雑誌リスト
- 資料 10 森ノ宮医療大学 臨床工学科 臨床実習施設一覧
- 資料 11 実習受入承諾書の写し
- 資料 12 森ノ宮医療大学 個人情報取扱いに関するガイドライン
- 資料 13 誓約書
- 資料 14 事故・インシデント発生時の手引き
- 資料 15 臨床実習に伴う連絡ガイドライン
- 資料 16 教員の巡回指導計画（臨床工学科）
- 資料 17 臨床実習評価表（フォーマット）
- 資料 18 臨床実習出席表（フォーマット）
- 資料 19 臨床実習 実習日誌 実習レポート

臨床工学技士 国家試験 推移



資料 1

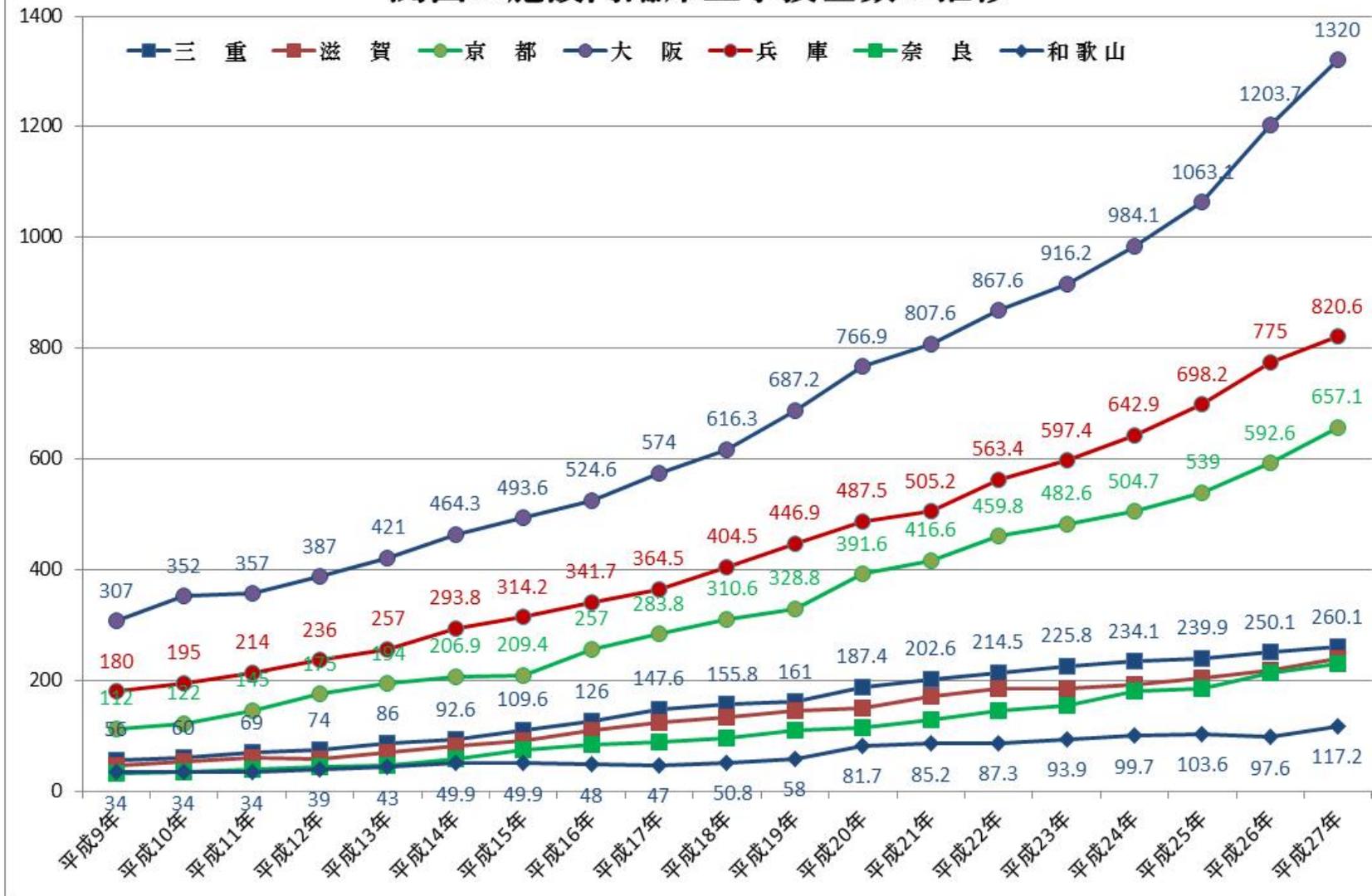
厚生労働省ホームページ上で発表された国家試験合格発表データを基に作成

病院内臨床工学技士数



厚生労働省 医療施設（静態・動態）調査・病院報告をもとに作成

関西の施設内臨床工学技士数の推移



出典：総務省統計局 e-Stat 病院報告

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●臨床工学科の方針

臨床工学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（臨床工学）の学位が与えられます。これは臨床工学技士国家試験受験資格となります。チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

①精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける臨床工学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で臨床工学技士としての知識力と技術力を発揮することができます。

②チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができます。

③豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。

④主体的問題解決能力

臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、健康に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、問題を解決することができます。

区分	授業科目	配次	単位数		履修方法及び卒業要件	D	D	D	D
			年	必修		選択	P	P	P
						①	②	③	④
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2			○	○	○
		物理学	1前	2				○	
		生物学	1前		2				○
		化学	1前		2				○
		情報処理	1前		2				○
		統計学	1後		2				○
	人間理解と社会	心理学	1前		2				○
		生命倫理学	1後		2				○
		哲学	2前		2				○
		社会福祉学	1前		2				○
		日本国憲法	1後		2				○
		東洋史概説	1後		2				○
	語学	英語Ⅰ(初級)	1前	2			○		
		英語Ⅱ(中級)	1後	2			○		
		英会話	2前		2			○	
		医学英語	2後		2			○	
		基礎英語演習	2前		2			○	
		応用英語演習	2後		2			○	
学部共通科目群	保健医療	スポーツ健康科学演習	1後		2				○
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	1前		2				○
		健康管理学Ⅰ	1後		2				○
		健康管理学Ⅱ	2後		2				○
		チーム医療とコミュニケーション	2後	2			○		○
		栄養学	1後		2				○
		身体運動科学	3後		2				○
		東洋医療概論	3前		2		○		○
		統合医療概論	3後		2			○	○
		IPW論	3前	1				○	

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●臨床工学科の方針

臨床工学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（臨床工学）の学位が与えられます。これは臨床工学技士国家試験受験資格となります。チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

①精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける臨床工学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で臨床工学技士としての知識力と技術力を発揮することができます。

②チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができます。

③豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。

④主体的問題解決能力

臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、健康に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、問題を解決することができます。

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	D	D	D	D	
			必修	選択		P	P	P	P	
						①	②	③	④	
学科専門科目群	人体の構造及び機能	医学概論	1前	1			○			
		公衆衛生学	1後	2			○			
		人体の構造Ⅰ	1前	2			○	○		
		人体の構造Ⅱ	1後	1				○	○	
		人体の機能Ⅰ	1前	2			○	○		
		人体の機能Ⅱ	1後	1				○	○	
	臨床工学的基礎	生化学	1前	2			○	○		
		病理学	2前	2			○	○		
		免疫学	2前	2			○	○		
		薬理学	2後	2			○	○		
		看護学概論	2後	1			○	○		
		基礎医学実習	2後	1			○	○		
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	1前	2			○			
		数学演習	1後	1			○			
		応用数学	2前	2			○			
		応用物理学	2前	1			○			
		応用化学	2前	1			○			
		電気工学Ⅰ	1後	2			○			
		電気工学Ⅱ	1後	2			○			
		電気工学実習	2前	1			○			○
		電子工学Ⅰ	2前	2			○			
電子工学Ⅱ		2前	2			○				
情報技術と医療工	情報処理工学	2前	2			○				
	医療統計学	2前	2			○				
	システム制御工学	2前	2			○				
	情報処理・システム制御工学実習	2後	1			○			○	
	放射線工学概論	2後	1			○				

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●臨床工学科の方針

臨床工学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（臨床工学）の学位が与えられます。これは臨床工学技士国家試験受験資格となります。チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

①精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける臨床工学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で臨床工学技士としての知識と技術力を発揮することができます。

②チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができます。

③豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。

④主体的問題解決能力

臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、健康に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、問題を解決することができます。

区分	授業科目	配当年	単位数		履修方法及び卒業要件	D	D	D	D
			必修	選択		P ①	P ②	P ③	P ④
学科専門科目群	医用生体工学	生体物性工学	2後	2	必修42単位＋選択3単位以上	○			
		生体材料工学	2後	2		○			
		バイオメカニクス	2後	2		○			
		バイオレオロジー	3前	1		○			
		計測工学	3前	1		○			
		生体情報処理工学	2後	2		○			
	医用機器学	医用機器学概論	2後	2		○			
		生体計測装置学	3前	2		○			
		生体計測装置学実習	3前	1		○			○
		医用治療機器学	3前	2		○			
		医用治療機器学実習	3前	1		○			○
		画像診断装置学	2後	2		○			
		医用監視システム装置学	3前	2		○			
	生体機能代行装置学	体外循環装置学	2後	1		○			
		体外循環療法学	3前	2		○			
		体外循環実習	3後	1		○			○
		血液浄化装置学	2後	1		○			
		血液浄化療法学	3前	2		○			
		血液浄化実習	3後	1		○			○
		人工呼吸装置学	2後	1		○			
		人工呼吸療法学	3前	2		○			
		人工呼吸実習	3後	1		○			○
		人体機能補助装置学	2後	1		○			
		人体機能補助療法学	3前	2		○			
		人体機能補助実習	3後	1		○			○
	医用安全	医用機器安全管理学	3前	2		○			
		医用機器安全管理学実習	3前	1		○			○
		関係法規	3前	2		○			
	関連臨床医学	臨床医学総論（内科学・外科学）	3後	2		○	○		
		内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	3後	2		○	○		
		外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	3後	2		○	○		
		臨床医学演習	3後	1		○	○		
	臨床実	臨床実習	4前	4		○		○	○

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●臨床工学科の方針
臨床工学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（臨床工学）の学位が与えられます。これは臨床工学技士国家試験受験資格となります。チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

①精度の高い専門的知識と専門技術
地域社会や医療現場等でのチームにおける臨床工学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で臨床工学技士としての知識力と技術力を発揮することができます。

②チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力
チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができます。

③豊かな人間力
他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。

④主体的問題解決能力
臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、健康に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、問題を解決することができます。

区分	授業科目	配当年	単位数		履修方法及び卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④	
			必修	選択						
学科専門科目群	専門特講 臨床工学技術	医用生体工学特講	4後	1	必修5単位	○				
		医用機器学特講	4後	1		○				
		生体機能代行技術特講	4後	1		○				
		関連臨床医学特講	4後	1		○				
		基礎工学特講	4後	1		○				
	研究分野 先進科学技術	先進科学技術論	3後	1	必修7単位＋選択4単位以上	○			○	
		先進計測技術学	3後	1		○			○	
		先進治療技術学	3後	1		○			○	
		機能評価分析学	3後	1		○			○	
		機能評価学演習	3後	1		○			○	
		医療情報システム学	3後	1		○			○	
		医療情報システム学演習	3後	1		○			○	
		医用ロボット工学	3後	1		○			○	
		遺伝子検査学	3後	1		○			○	
		先進科学技術演習	3後	1		○			○	
	卒業業	卒業研究Ⅰ	3通	2		○			○	
		卒業研究Ⅱ	4通	2		○			○	
	卒業要件単位数					124				

森ノ宮医療大学 教員等定年規程

平成19年4月1日制定

平成22年10月19日改訂

平成26年12月16日改訂

(目的)

第1条 この規程は、森ノ宮医療大学（以下「大学」という）の教授、准教授、講師及び助教（以下「教員」という）並びに助手の定年に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定年)

第2条 教員並びに助手は、満60歳に達した後に到来する3月31日をもって定年退職する。但し、大学の学部学科等の設置に係り、就任することが予定されている者は、それぞれの学部学科等の開設後、学年進行が終了する年度末まで在職を認める。

(再雇用)

第3条 前2条にかかわらず、本人が希望する場合で、労使協定に定める選考基準に達した教員は、1年の期間を定めて嘱託教員として、再雇用する。再雇用に関し必要な事項は、別に定める再雇用規程において定める。

(規程の改廃)

第4条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に在職する教員及び大学の設置に係り、就任することが予定されている者は、第2条の規定にかかわらず、平成23年3月31日まで在職することができる。
- 3 この規程は平成22年4月1日から施行する。
- 4 この規程施行の際、看護学科設置及び大学院設置に係り、就任をすることが予定されている者は、第2条の規定にかかわらず、それぞれの学年進行終了時まで在職することができる。
- 5 この規程は平成22年10月19日から施行する。(改廃条文)
- 6 この規程は平成26年12月16日から施行する。

学校法人森ノ宮医療学園 再雇用規程

平成27年3月24日制定

(目的)

第1条 この規程は、就業規則第17条第5項の規定に基づき、定年に達した職員の再雇用に関する事項を定めることを目的とする。

(定年の通知)

第2条 学園は、定年の日の3カ月前に本人に対して定年の通知を行う。

(再雇用の申出)

第3条 前条による定年の通知を受けた者で再雇用を希望する者は、通知日より15日以内に学園に再雇用の申し出を行わなければならない。

(再雇用の可否の決定)

第4条 学園は、再雇用の申し出があった場合は、労使協定に定める再雇用の基準に基づきその可否、並びに労働条件を決定し、再雇用の申し出の日から2カ月以内に本人に通知する。但し、就業規則第17条第1項但し書に該当する年齢に達するまでの間は、希望者全員を再雇用する。

(再雇用の期間)

第5条 再雇用の期間は1年とする。但し、労使協定に定める更新基準を満たした場合は、満65歳までを限度に再雇用契約を更新する。

(再雇用の解約)

第6条 再雇用の期間中に、再雇用の条件を欠くに至った場合は、雇用期間中とはいえども再雇用を打ち切ることがある。

(就業場所及び従事業務)

第7条 再雇用後の就業場所及び従事業務は再雇用契約締結の際、学園が決定する。

(再雇用後の給与)

第8条 再雇用後の給与は、本人の能力、経験等を勘案して学園が決定する。

2 定期昇給は行わない。

(賞与)

第9条 賞与は支給しない。

(退職金)

第10条 退職金は支給しない。

(労働条件)

第11条 再雇用者の次に定める労働条件については、個別に定める雇用契約による。

- (1) 始業時間及び終業時間
- (2) 休日
- (3) 年次有給休暇
- (4) 各種社会保険

附 則

- 1 この規程は平成27年4月1日から施行する。

●臨床工学科履修モデル (医療技術系)

黒字：必修科目 青字：選択科目

科目区分	学年	1年次			2年次			3年次			4年次			計
		科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	
教養科目群	科学的 社会的 語学	基礎ゼミナール	2											必修8 単位+ 選択4 単位
		生物学	2											
		情報処理		2										
		生命倫理学			2									
		英語Ⅰ(初級)	2											
英語Ⅱ(中級)	2													
小計		8	4										12	
学部共通科 目群	保健 医療	スポーツ健康科学演習	2		ゲーム医療とコミュニケーション	2		IPW論	1					必修3単位 +選択4単 位以上
		統合医療概論		2										
小計		0	4			2			1				7	
専門基礎科 目群	専門 基礎科 目	医学概論	1		病理学	2								必修4 4単位
		公衆衛生学	2		免疫学	2								
		人体の構造Ⅰ	2		薬理学	2								
		人体の構造Ⅱ	1		看護学概論	1								
		人体の機能Ⅰ	2		基礎医学実習	1								
		人体の機能Ⅱ	1		応用数学	2								
		生化学	2		応用物理学	1								
		医用工学	2		応用化学	1								
		数学演習	1		電気工学実習	1								
		電気工学Ⅰ	2		電子工学Ⅰ	2								
		電気工学Ⅱ	2		電子工学Ⅱ	2								
					電子工学実習	1								
					放射線工学概論	1								
					情報処理工学	2								
			医療統計学	2										
			システム制御工学	2										
			情報処理・システム制御工学実習	1										
小計		18		26				0	0				44	
学科専門科目群	専門 科目				生体物性工学	2		計測工学	1		臨床実習	4		必修4 2単位+ 選択3 単位以上
					生体材料工学	2		生体計測装置学	2					
					バイオメカニクス	2		生体計測装置学実習	1					
					医用機器学概論	2		医用治療機器学	2					
					体外循環装置学	1		医用治療機器学実習	1					
					血液浄化装置学	1		体外循環療法学	2					
					人工呼吸装置学	1		体外循環実習	1					
					人体機能補助装置学	1	1	血液浄化療法学	2					
								血液浄化実習	1					
								人工呼吸療法学	2					
								人工呼吸実習	1					
								医用機器安全管理学	2					
								医用機器安全管理学実習	1					
								関係法規	2					
						臨床医学総論(内科学・ 外科学)	2							
						内科学各論(循環器・呼 吸器・腎・感染症)	2							
						外科学各論(循環器・呼吸 器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2							
						人体機能補助療法学	2		2					
小計		0	0		11	1		27	2		4	0	45	
専門特 講	専門 特講										医用生体工学特講	1		必修5 単位
											医用機器学特講	1		
											生体機能代行技術特講	1		
											関連臨床医学特講	1		
											基礎工学特講	1		
小計		0	0		0	0		0	0		5	0	5	
研究分 野	研究 分野							先進科学技術論	1		卒業研究Ⅱ	2		必修7 単位+ 選択4 単位以 上
								先進計測技術学	1					
								先進治療技術学	1					
								機能評価分析学		1	1			
								医療情報システム学			1			
								遺伝子検査学			1			
								先進科学技術演習			1			
						卒業研究Ⅰ	2							
小計		0	0		0	0		5	4		2	0	11	
合計		26	8		39	1		33	6		11	0	124	

●臨床工学科履修モデル (医療工学系)

黒字：必修科目 青字：選択科目

学年 科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			計		
	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール 生物学 統計学	2 2 2										必修8単位+ 選択4単位 以上		
	社会理解と	社会福祉学	2												
	語学	英語Ⅰ (初級) 英語Ⅱ (中級)	2 2												
	小計		8	4										12	
	学部共通科目	保健医療医	保健科学 (スポーツ社会学を含む) 統合医療概論		2		2	IPW論	1						必修3単位+ 選択4単位以上
学科専門科目群	専門基礎科目	医学概論 公衆衛生学 人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 生化学 医用工学 数学演習 電気工学Ⅰ 電気工学Ⅱ	1 2 2 1 2 1 2 2 1 2 2	病理学 免疫学 薬理学 看護学概論 基礎医学実習 応用数学 応用物理学 応用化学 電気工学実習 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ 電子工学実習 放射線工学概論 情報処理工学 医療統計学 システム制御工学 情報処理・システム制御工学実習	2 2 2 1 1 2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 1								必修44単位 + 選択3単位以上		
	小計		18	26		0	0							44	
	専門科目	生体物性工学 生体材料工学 バイオメカニクス 生体情報処理工学 医用機器学概論 体外循環装置学 血液浄化装置学 人工呼吸装置学	2 2 2 2 2 1 1 1	生体物性工学 生体材料工学 バイオメカニクス 生体情報処理工学 医用機器学概論 体外循環装置学 血液浄化装置学 人工呼吸装置学	2 2 2 2 2 1 1 1	2 2 2 2 2 1 1 1		バイオレオロジー 計測工学 生体計測装置学 生体計測装置学実習 医用治療機器学 医用治療機器学実習 体外循環療法 体外循環実習 血液浄化療法 血液浄化実習 人工呼吸療法 人工呼吸実習 医用機器安全管理学 医用機器安全管理学実習 関係法規 臨床医学総論 (内科学・外科学) 内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症) 外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・神経・集中治療学)	1 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 2 2 2	臨床実習	4				
	小計		0	0	11	2	27	1		4	0			45	
	専門特講									医用生体工学特講 医用機器学特講 生体機能代行技術特講 関連臨床医学特講 基礎工学特講	1 1 1 1 1				必修5単位
	小計		0	0	0	0	0	0	5	0				5	
	研究分野								先進科学技術論 先進計測技術学 先進治療技術学 機能評価学演習 医療情報システム学 医療情報システム学演習 医用ロボット工学 卒業研究Ⅰ	1 1 1 1 1 1 1 2	卒業研究Ⅱ	2			必修7単位+ 選択4単位以上
	小計		0	0	0	0	5	4		2	0			11	
	合計		26	8	39	2	33	5	11	0				124	

前期 時間割
臨床工学科 1年

		月	火	水	木	金
1時限	科目	基礎ゼミナール				医学概論
	担当教員 教室	片山俊郎・中沢一雄・五十嵐淳介 講義室7				吉岡敏治 講義室11
2時限	科目	物理学	英語 I	人体の構造 I	生化学	(選)情報処理
	担当教員 教室	久国正章 講義室8	藤重仁子・長尾晋宏 演習室5,演習室6	森谷正之 講義室8	森誠司 講義室7	井手口範男 401
3時限	科目	(選)社会福祉学	(選)心理学	人体の機能 I		(選)生物学
	担当教員 教室	志賀信夫 講義室11	井手口範男 講義室13	五十嵐淳介 講義室11		安部辰夫 講義室13
4時限	科目		(選)化学	(選)健康科学(スポーツ社会学を含む)	医用工学	
	担当教員 教室		安部辰夫 講義室7	上田真也 講義室13	片山俊郎・布江田友理 講義室8	
5時限	科目					
	担当教員 教室					

前期 時間割
臨床工学科 2年

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目		(選)英会話		医療統計学	
	担当教員 教室		藤重仁子・長尾晋宏 演習室5・6		片山俊郎 講義室7	
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	(選)哲学	病理学	免疫学	応用化学	電子工学 I
	担当教員 教室	田中美子 講義室7	安部辰夫 講義室7	安部辰夫 講義室7	稲田慎 講義室8	原良昭 講義室7
3時限 13:00 ~ 14:30	科目	応用数学	電気工学実習	応用物理学		電子工学 II
	担当教員 教室	片山俊郎 講義室8	原良昭・稲田慎 実習室2	稲田慎 講義室7		原良昭 講義室7
4時限 14:40 ~ 16:10	科目	情報処理工学		(選)基礎英語演習	システム制御工学	
	担当教員 教室	中沢一雄 講義室11		藤重仁子・長尾晋宏 演習室5・演習室6	原良昭 講義室7	
5時限 16:20 ~ 17:50	科目					
	担当教員 教室					

前期 時間割
臨床工学科 3年

	月	火	水	木	金
1時限 9:00 10:30		医用機器安全管理学 片山俊郎・布江田友理・藤江建朗 講義室7		体外循環療法学 加納寛也 講義室8	
2時限 10:40 12:10	(選)東洋医療概論 小島寛久 講義室11	医用機器安全管理学実習 片山俊郎・藤江建朗・片山俊郎・原良昭 実習室1	生体計測装置学 片山俊郎・小宮山恭弘・脇英彦 講義室11	人工呼吸療法学 藤江建朗 講義室7・実習室3	医用治療機器学 布江田友理・加納寛也・西垣孝行 講義室7
3時限 13:00 14:30	IPW論 藤江建朗 講義室7	計測工学 片山俊郎・実習室1 講義室7	生体計測装置学実習 片山俊郎・小宮山恭弘・脇英彦 実習室2		医用治療機器学実習 布江田友理・加納寛也・西垣孝行 実習室3
4時限 14:40 16:10	血液浄化療法学 藤江建朗 講義室7	(選)バイオロロジ 中沢一雄 講義室8	(選)医用監視システム装置学 片山俊郎 講義室7	(選)人体機能補助療法学 加納寛也 講義室11	
5時限 16:20 17:50	卒業研究 I 専任全教員 演習室205・206・207・208 小講義室3・4・5 講義室7・8・11・12・13			関係法規 片山俊郎 講義室7	

前期 時間割
臨床工学科 4年

		月	火	水	木	金
1時限	科目					
	担当教員					
9:00 ~ 10:30	教室					
2時限	科目					
	担当教員					
10:40 ~ 12:10	教室					
3時限	科目					
	担当教員					
13:00 ~ 14:30	教室					
4時限	科目					
	担当教員					
14:40 ~ 16:10	教室					
5時限	科目					卒業研究Ⅱ
	担当教員					専任全教員
16:20 ~ 17:50	教室					演習室205・206・207・208 小講義室3・4・5 講義室7・8・11・12・13

【実習】

臨床実習：担当教員（片山 俊郎、西垣 孝行、加納 寛也、布江田 友理、藤江 建朗、辻 義弘）

後期 時間割
臨床工学科 1年

		月	火	水	木	金
1時間 9:00 ~ 10:30	科目目			(選)スポーツ健康科学演習	電気工学 I	
	担当教員 教室			宮本忠吉・中原英博・上田真也 体育館及び外部施設	原良昭 講義室13	
2時間 10:40 ~ 12:10	科目目	(選)統計学	(選)生命倫理学	(選)スポーツ健康科学演習	電気工学 II	(選)西洋史概説
	担当教員 教室	井手口範男 講義室7	田中美子 講義室8	宮本忠吉・中原英博・上田真也 体育館及び外部施設	原良昭 講義室13	松枝啓至 講義室7
3時間 13:00 ~ 14:30	科目目	(選)栄養学	英語 II	人体の機能 II	(選)東洋史概説	数学演習
	担当教員 教室	南方克之 講義室7	藤重仁子・長尾晋宏 演習室5・演習室6	五十嵐洋介 講義室11	重信あゆみ 講義室13	片山俊郎 講義室7
4時間 14:40 ~ 16:10	科目目	公衆衛生学	人体の構造 II		(選)健康管理学 I	(選)日本国憲法
	担当教員 教室	神田靖士 講義室7	森谷正之 講義室8		伊黒 浩二 講義室13	植田重幸 講義室7
5時間 16:20 ~ 17:50	科目目					
	担当教員 教室					

後期 時間割
臨床工学科 2年

	月	火	水	木	金
1時限 9:00 10:30	チーム医療とコミュニケーション 藤江建朗 講義室8	血液浄化装置学 辻義弘 講義室11・実習室3			(選)人体機能補助装置学 西垣孝行 実習室3
2時限 10:40 12:10	薬理学 青木邦 講義室8	(選)医学英語 藤重仁子・長尾晋宏 演習室5・演習室6	生体物性工学 稲田慎 講義室7	画像診断装置学 片山俊郎・長井英仁 講義室8	生体材料工学 稲田慎 講義室13
3時限 13:00 14:30	人工呼吸装置学 布江田友理 講義室8	看護学概論 伊津美孝子 講義室11	基礎医学実習 片山俊郎・布江田友理・西垣孝行 実習室3	放射線工学概論 長井英仁 講義室8	医用機器学概論 布江田友理 講義室13
4時限 14:40 16:10	(選)生体情報処理工学 中沢一雄 講義室8	電子工学実習 原良昭・稲田慎 実習室2	体外循環装置学 西垣孝行 講義室7・実習室3	ハイオメカニクス 稲田慎 講義室8	情報処理・システム制御工学実習 片山俊郎・中沢一雄・原良昭 実習室2・401
5時限 16:20 17:50			(選)応用英語演習 藤重仁子・長尾晋宏 演習室5・演習室6	(選)健康管理学Ⅱ 伊黒浩二 講義室8	

後期 時間割
臨床工学科 3年

	月	火	水	木	金
1時限	(選)医用ロボット工学	(選)遺伝子検査学	(選)先進科学技術演習		(選)医療情報システム学
担当教員	原良昭・西垣孝行	五十嵐淳介・布江田友理・藤江建朗	原良昭・布江田友理・藤江建朗		中沢一雄・稲田慎・辻義弘
教室	講義室11	講義室7	講義室8・実習室2		講義室8・実習室2
2時限	(選)機能評価分析学	(選)臨床医学演習	内科学各論(循環器・呼吸器・腎・感染症)	臨床医学総論(内科学・外科学)	先進計測技術学
担当教員	片山俊郎・加納寛也	片山俊郎・加納寛也・藤江建朗	五十嵐淳介	五十嵐淳介	片山俊郎・布江田友理・西垣孝行
教室	講義室11	講義室7	講義室8	講義室11	講義室8
3時限	体外循環実習	血液浄化実習	先進科学技術論		先進治療技術学
担当教員	加納寛也・西垣孝行	藤江建朗・辻義弘	中沢一雄・稲田慎・原良昭		五十嵐淳介・加納寛也・藤江建朗・辻義弘
教室	実習室3	実習室3	講義室8		講義室8
4時限	(循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学) 外科学各論	(選)統合医療概論	(選)機能評価学演習	(選)身体運動科学	人工呼吸実習
担当教員	前川佳敬	山下仁・増山祥子・森美侑紀	片山俊郎・加納寛也	外林大輔	布江田友理・藤江建朗
教室	講義室11	講義室7	講義室8・実習室2	講義室11	実習室3
5時限	卒業研究 I		(選)医療情報システム学演習	(選)人体機能補助実習	
担当教員	専任全教員		中沢一雄・稲田慎・辻義弘	加納寛也・西垣孝行	
教室	演習室205・206・207・208 小講義室3・4・5 講義室7・8・11・12・13		講義室8・実習室2	実習室3	

後期 時間割
臨床工学科 4年

		月	火	水	木	金
1時間 9:00 ~ 10:30	科目		医用生体工学特講			
	担当教員 教室		片山俊郎・稲田眞 講義室13			
2時間 10:40 ~ 12:10	科目			生体機能代行技術特講		
	担当教員 教室			加納寛也・西垣孝行・布江田友理・藤江建朗・辻義弘 講義室13		
3時間 13:00 ~ 14:30	科目	基礎工学特講				
	担当教員 教室	原良昭・片山俊郎 講義室13				
4時間 14:40 ~ 16:10	科目	関連臨床医学特講	医用機器学特講			
	担当教員 教室	片山俊郎・加納寛也・藤江建朗 講義室13	片山俊郎・西垣孝行・布江田友理・辻義弘 講義室13			
5時間 16:20 ~ 17:50	科目		卒業研究Ⅱ			
	担当教員 教室		専任教員全員 演習室205・206・207・208 小講義室3・4・5 講義室7・8・11・12・13			

臨床工学科 購入予定雑誌リスト

和雑誌

	タイトル	出版社
1	画像診断	学研メディカル秀潤社
2	CLINICAL ENGINEERING	学研メディカル秀潤社
3	医療機器学	日本医療機器学会
4	生体医工学	日本生体医工学会
5	臨床透析	日本メディカルセンター

洋雑誌

	タイトル	出版社
1	Transactions of the ASME. Journal of biomechanical engineering	Springer Nature (Springer)
2	Annals of Biomedical Engineering=EJのみ	ASME

森ノ宮医療大学 臨床工学科 臨床実習施設一覧

施設名		住所	受入 人数	所要時間 (分)
1	桜橋渡辺病院	大阪市北区梅田 2-4-32	2	30
2	住友病院	大阪市北区中之島 5-3-20	2	30
3	大阪府済生会中津病院	大阪市北区芝田 2-10-39	2	40
4	北野病院	大阪市北区扇町 2-4-20	2	35
5	淀川キリスト教病院	大阪市東淀川区柴島 1-7-50	2	35
6	大阪市立総合医療センター	大阪市都島区都島本通 2 丁目 13 番 22 号	2	40
7	大阪医療センター	大阪市中央区法円坂 2-1-14	2	25
8	大手前病院	大阪市中央区大手前 1-5-34	2	30
9	大阪警察病院	大阪市天王寺区北山町 10-31	2	30
10	大阪市立大学医学部附属病院	大阪市阿倍野区旭町 1-5-7	4	35
11	白鷺病院	大阪市東住吉区杭全 7-11-23	2	40
12	大阪病院	大阪市福島区福島 4-2-78	2	30
13	関西電力病院	大阪市福島区福島 2-1-7	4	30
14	阪和記念病院	大阪市住吉区苅田 7 丁目 11 番 11 号	2	50
15	大阪府立急性期・総合医療センター ※平成 29 年 4 月病院名変更予定	大阪市住吉区万代東 3-1-56	4	55
16	南大阪病院	大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18	2	40
17	関西メディカル病院	豊中市新千里西町 1 丁目 1 番 7-2 号	2	60
18	市立豊中病院	豊中市柴原町 4 丁目 14 番 1 号	2	60
19	箕面市立病院	箕面市萱野 5-7-1	2	75
20	大阪府済生会吹田病院	吹田市川園町 1-2	4	50
21	大阪大学医学部附属病院	吹田市山田丘 2 番 15 号	2	55
22	関西医科大学総合医療センター	守口市文園町 10 番 15 号	2	50
23	星ヶ丘医療センター	枚方市星丘 4-8-1	6	70
24	河内総合病院	東大阪市横枕 1-31	2	40
25	城山病院	羽曳野市はびきの 2 丁目 8 番 1 号	2	70
26	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター ※平成 29 年 4 月病院名変更予定	羽曳野市はびきの 3-7-1	2	65
27	PL病院	富田林市新堂 2204	2	70
28	大阪南医療センター	河内長野市木戸東町 2-1	4	70
29	大阪労災病院	堺市北区長曾根町 1179-3	2	45

	施設名	住所	受入 人数	所要時間 (分)
30	府中病院	和泉市肥子町 1-10-17	2	60
31	大阪府立母子保健総合医療センター ※平成 29 年 4 月病院名変更予定	和泉市室堂町 840	3	60
32	りんくう総合医療センター	泉佐野市りんくう往来北 2-23	2	70
33	田仲北野田病院	堺市東区北野田 707 番地	4	60
34	ベルランド総合病院	堺市中区東山 500-3	2	60
35	阪和第二泉北病院	堺市中区深井北町 3176 番地	2	75
36	近畿大学医学部奈良病院	生駒市乙田町 1248-1	2	80
37	神戸市立医療センター中央市民病院	神戸市中央区港島南町2丁目 1-1	4	70
38	川崎病院	神戸市兵庫区東山町 3 丁目 3 番 1 号	4	70
39	兵庫県立尼崎総合医療センター	尼崎市東難波町二丁目 17 番 77 号	2	45
40	西宮市立中央病院	西宮市林田町 8 番 24 号	2	65
41	明和病院	西宮市上鳴尾町 4-31	4	50
42	兵庫医科大学病院	西宮市武庫川町 1 番 1 号	2	45
43	市立伊丹病院	伊丹市昆陽池 1 丁目 100 番地	2	70
44	宝塚市立病院	宝塚市小浜 4 丁目 5-1	4	80
45	東宝塚さとう病院	宝塚市長尾町 2-1	2	60
46	協立病院	川西市中央町 16-5	2	60
47	北播磨総合医療センター	小野市市場町 926-250	6	140

実習承諾書

(実習先については資料 1 0 の実習先一覧を参照)

森ノ宮医療大学 個人情報取扱いに関する保護ガイドライン

I. 個人情報取扱いに関する 保護ガイドラインの趣旨

臨床工学技士は患者様の様々な情報を取り扱う業務である。直接、患者様より知りうる情報も多い。従って、実習に臨む学生が遵守すべきガイドラインを以下の通り定める。

II. 個人情報保護に関する基本的考え方

1. 学生は、対象者の個人情報を容易に入手できる立場であることを自覚し、不必要・不適格な情報収集をしてはならない。
2. 学生は、対象者の匿名性を確保し、守秘義務を遵守し、実習中に知り得た情報を漏らしてはならない。
3. 大学は、学生の個人情報の取り扱いについて教育を行う。

III. 大学と実習施設との事前協議について

個人情報の取り扱いについては、実習施設と大学との間で、以下に示す事項について十分に協議する。その際、実習施設の個人情報の取り扱いに関する規定を確認すると同時に、本ガイドラインを実習施設に提示する。

(協議事項)

1. 大学と施設との誓約書の必要性の有無について
2. 実習中の学生が学修するために行う実習記録物について
3. 学生の個人情報について（森ノ宮医療大学で定めている個人情報に関する規定について実習施設に説明）

IV. 実習記録物（実習メモ、デイリーレポート）に関する取扱い

学生は臨床実習で取り扱う個人情報について、以下の内容を遵守する。

- 1) 実習記録物には、個人が特定されるような情報は記入しない。
- 2) 実習記録物には、不必要、不確実な情報を記載しない。
- 3) 実習記録物の作成は、大学、実習施設及び自宅以外では行わない。
- 4) 実習に関する全ての書類はファイルに綴じ、施設、大学と自宅以外には持ち出さない。帰学日には実習記録物を常に携帯し、放置して他者の目の触れることのないように注意する。
- 5) 学生間で実習記録物の貸し借り、ファックスやメールのやり取りをしない。
- 6) 実習記録物は複写しない。
- 7) 実習期間中の取り扱いに関する上記事項が守れなかった場合、速やかに実習指導者及び担当教員に報告し、指示に従って事故報告書を提出する。

誓 約 書

森ノ宮医療大学
学長 様

私は、森ノ宮医療大学保健医療学部 臨床工学科の臨地実習において、下記の事項を遵守することをここに誓約致します。

記

1. 私は、森ノ宮医療大学保健医療学部学生として実習先病院等において実習・見学（以下「実習等」という。）を行うにあたり、「森ノ宮医療大学 個人情報保護に関するガイドライン」の事項を十分に理解し、これを遵守する。
2. 私は、実習先病院等の定める諸規則、心得等を遵守し、実習指導者の指示に従って、実習等を誠実に履行いたします。
3. 私は、実習・見学期間中はもちろん、その後においても、実習等において知り得た個人情報・法人機密情報が第三者に漏えいすることがないように、これらの情報の保護義務を遵守いたします。
4. 私は、私の故意又は過失により、実習先病院等、その関係者、あるいは第三者に事故、器物破損、個人情報・法人機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、大学と連帯してその賠償の責を負います。なお、大学が賠償負担を負った場合は、大学の救済に応じます。

以上、誓約いたします。

平成 年 月 日

森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科

学籍番号 ()

氏名 _____ 印

事故・インシデント発生時の手引き

1) 目的

学生が行う臨床実習において、不測の事態により事故が生じた場合や、事故につながるようなこと（インシデント）が起こった場合は、この手引きに従い適切な対応を速やかに行う。また、所定の報告書 **<様式 8>** 「事故・インシデント発生報告書」に基づき報告を行い、発生原因などを明らかにすることにより、事故・インシデントの再発防止を図り、また教育への指針とする。

2) 用語の定義

(1) ここでいう「事故」とは、以下のようなことをいう。

- ① 学生が臨床実習で対象者に対して傷害を与えた場合。
- ② 学生が対象者および実習施設の物品を破損するなどの損害を与えた場合。
- ③ 学生自身が臨床実習で感染や危害（セクシャルハラスメント、暴力を含む）を受けた場合。
- ④ 実習施設への通学途上および実習中に交通事故などに遭遇した場合。

(2) ここでいう「インシデント」とは以下のことをいう。

事故発生にはいたらなかったが、適切な対処を行っていなかったら事故になる可能性があるとして臨床実習指導者または大学実習担当教員が判断した場合。

3) 事故・インシデント発生時における対応方法

事故・インシデント発生時は、以下の方法に従って適切かつ迅速に対応する。また事故・インシデントのレベルに基づく発生時の具体的な対応は、**<表 2>**、**<図 1>**に準ずる。
*ここでいう事故のレベルは患者に影響を与えた場合に適応する。その事故のレベルは、その状況により適宜判断する。

(1) 学生の責務

- ① 学生は、実習中に事故が発生した場合は、**<図 1>**に従って速やかに大学実習担当教員および臨床実習指導者に報告する。
- ② 学生は、事故の状況により、**<様式 8>** 「事故・インシデント発生報告書」（以下、報告書と略称）に記載し、大学実習担当教員に提出する。

(2) 大学実習担当教員の責務

- ① 大学実習担当教員は、実習中の事故発生の実事関係の確認、および事故に関わる学生に対する指導・助言、施設側の直接の指導者との協議により、問題を適切かつ迅速に解決するように努める。
- ② 大学実習担当教員は、発生した事故について速やかに実習単位認定者へ報告する。
- ③ 大学実習担当教員は、学生からの報告書の受理を行う。

- ④ 大学実習担当教員は、関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知り得た秘密を漏らさないよう注意する。

(3) 実習単位認定者の責務

- ① 実習単位認定者は実習中の事故発生状況の詳細な把握、大学実習担当教員への指導・助言、臨床側の協議・調整を行い、問題を適切かつ迅速に解決するよう努める。
- ② 実習単位認定者は、大学実習担当教員から報告を受け、その受理を行う。
- ③ 実習単位認定者が学科長でない場合は、速やかに学科長へ報告する。
- ④ 実習単位認定者は、関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知り得た秘密を他に漏らさないよう注意する。
- ⑤ 実習単位認定者は、教員間で、事故の対応や事故防止教育が必要であると判断したときには、大学実習担当教員と協議を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。

(4) 学科長の責務

- ① 学科長は、単位認定者から実習中の事故について報告を受け、臨床実習指導者と協議・調整を行い、問題を適切かつ迅速に解決するように努める。
- ② 学科長は、報告書の受理を行う。
- ③ 学科長は、事故のレベルや状況により、速やかに学部長に報告する。
- ④ 学科長は、関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知り得た秘密を他に漏らさないよう注意する。
- ⑤ 学科長は、学内での事故の対応や事故防止教育が必要であると判断したときは、大学実習担当教員ならびに実習単位認定者、事故の関係者を招集し、協議、教育を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。
- ⑥ 学科長は、全容を掌握し臨床実習指導者、臨床実習施設責任者と協議し共通認識を図る。
- ⑦ 実習教育の質向上を目的とした学科と臨床実習施設との連携会議や臨床実習指導者への相談の場を設け、積極的な協議をとおして、相互に協力し合い、指導体制を強化する。

4) 記録物紛失事故

記録物紛失事故とは、その個人名が特定できると判断される記録物の紛失を言う。事故・インシデント発生の「レベル4」に相当すると判断して対処する。

＜表 2＞ 事故・インシデント発生のレベル

レベル	対象者への影響	報告判断基準
0	間違ったことは発生したが、対象者には実施されなかった（インシデント ^注 ）	大学実習担当教員は 実習単位認定者まで 報告
ハイ リスク	レベル0の状況ではあるが、実施されれば「レベル2」以上が予測される （インシデント ^注 ）	
1	事故による対象者への実害はなかったが、何らかの影響を与えた可能性がある。 観察を強化し、心身の配慮の可能性が生じた場合	
2	事故により対象者への観察の強化の必要性和バイタルサインに変化が生じた、ま たは、検査の必要が生じた場合	実習単位認定者は学 科長まで報告
3	事故により必要でなかった治療、処置の必要性や入院日数の増加が生じた場合	学科長は学部長まで 報告
4	事故による障害が一生続く場合	学部長は学長まで報 告
5	事故が死因となる場合	

注：レベル0あるいはレベルハイリスクを、2）用語の定義のインシデントとする。（参考、原 洋子：「リ
スクマネジメント」の体制づくりを考える。看護展望, 24(10), p41-45, 1999, 一部改変）

事故・インシデント発生報告書

<様式8>

平成 年 月 日

森ノ宮医療大学臨床工学科長 殿

実習科目名 () 実習施設名 ()

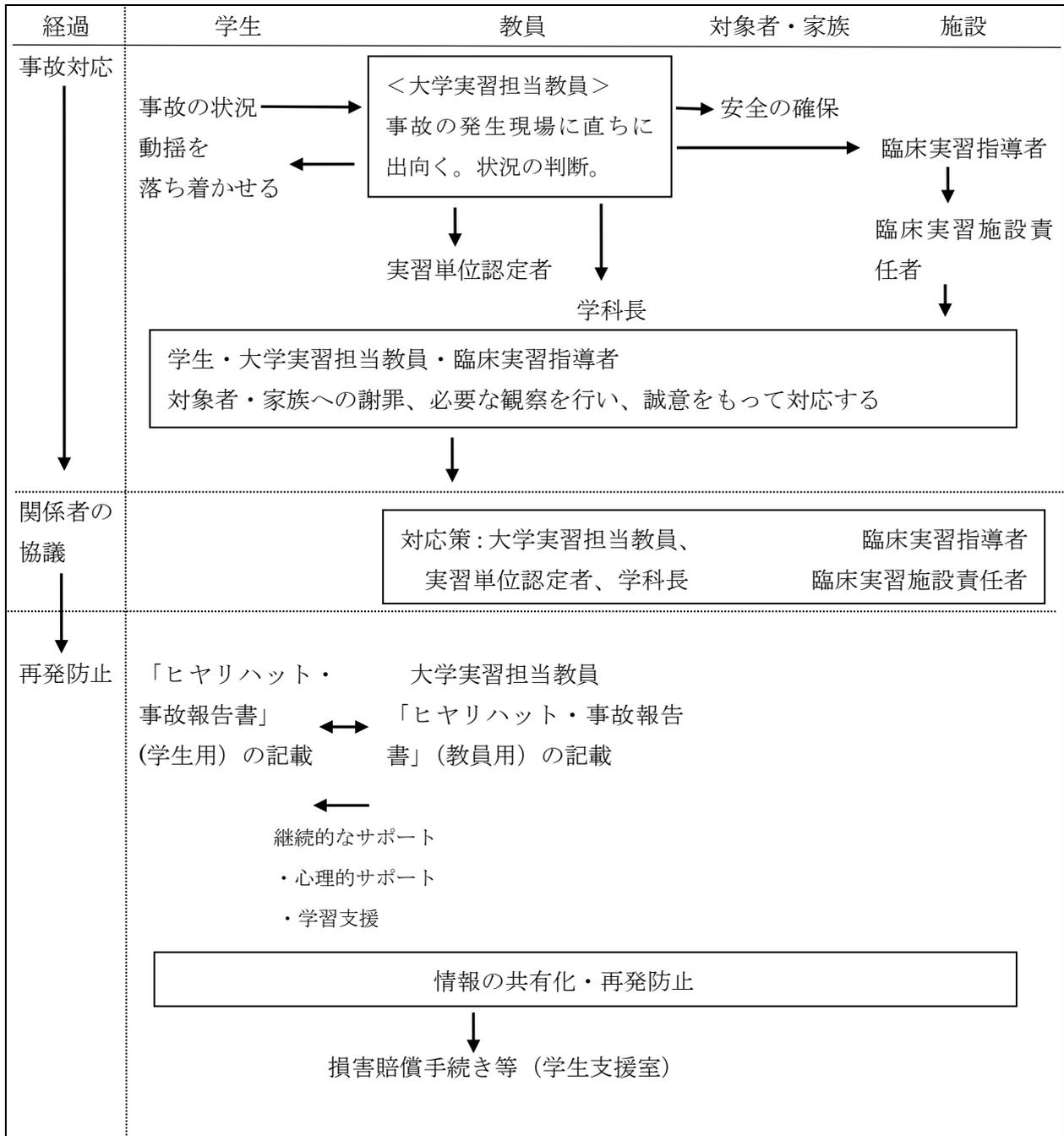
学籍番号 () 名前 ()

事故・インシデントの発生日時：	年	月	日	午前/午後	時	分
事故・インシデントの発生場所：						
事故・インシデントの種類：転倒・転落、誤薬、熱傷、患者誤認、針刺し事故						
その他 ()					
大学実習担当教員に報告した日時：	年	月	日	午前/午後	時	分
実習単位認定者に報告した日時：	年	月	日	午前/午後	時	分
事故・インシデントの状況ならびに対応						
(事故の場合) 事故発生後の対象者の状況						
事故・インシデントが発生した理由						
事故の発生を未然に防ぐための方法 (インシデントの発生を未然に防げた理由)						
反省と課題						

[学生]→[大学実習担当教員] → [実習単位認定者]→ [学科長]

事故発生時の対応の一例

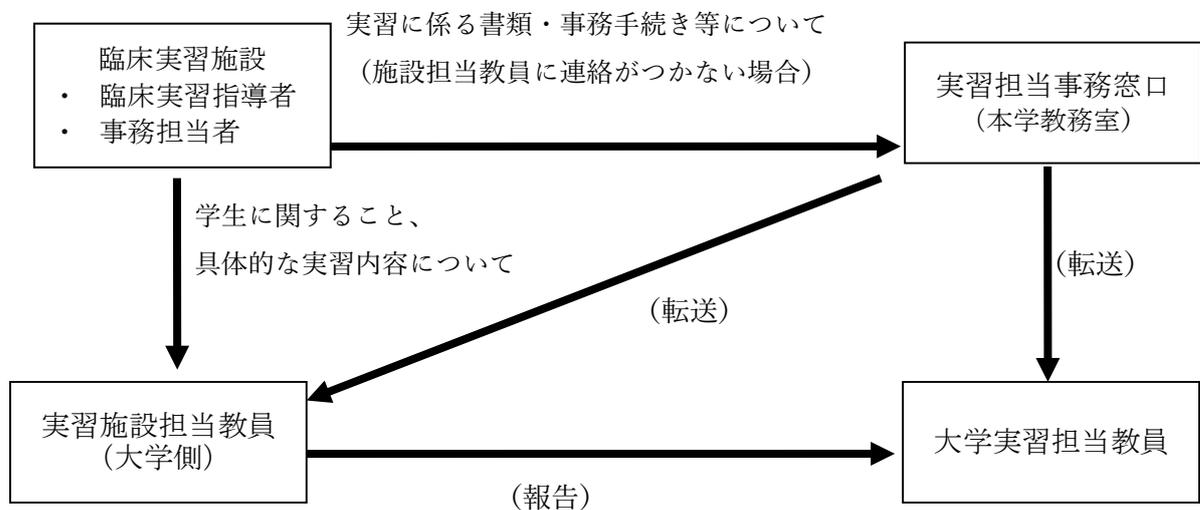
< 図 1 >



臨床実習に伴う連絡ガイドライン

① 臨床実習に関する連絡先 《 臨床実習施設 → 大学 》

平日（大学開講日）午前 8：45～午後 5：00



* 実習担当事務窓口（本学教務室）

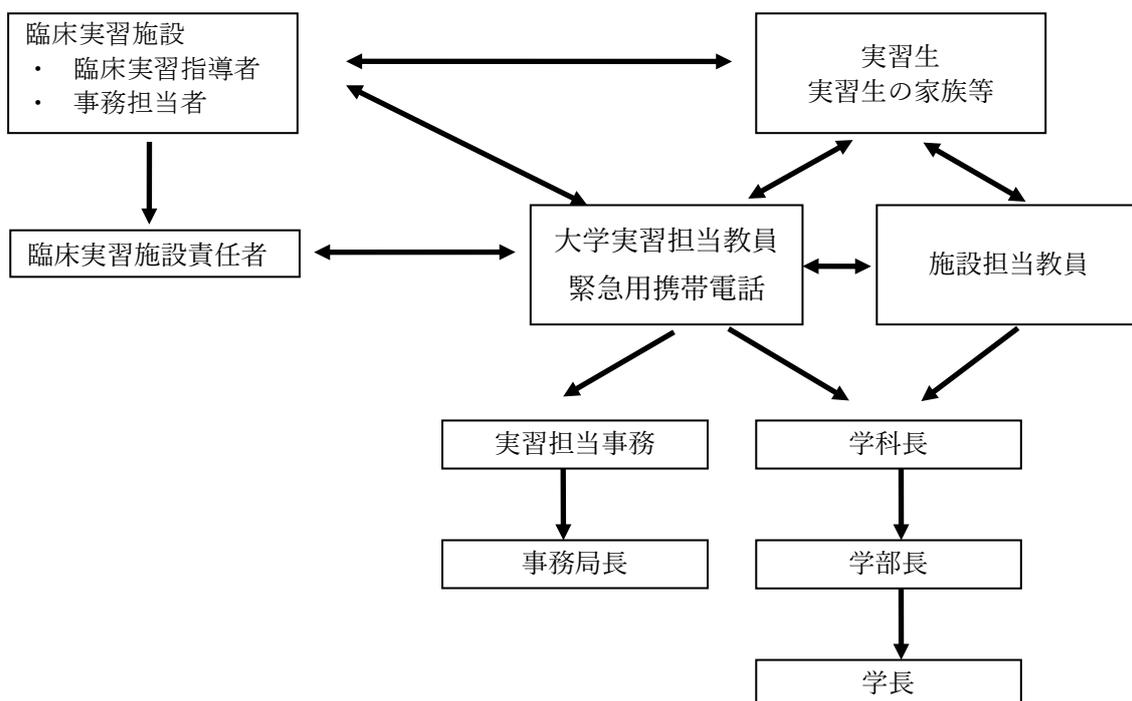
実習に係る事務手続きに関すること、連絡先に判断がつかない場合は本学教務室へお問い合わせください。お問い合わせ頂きました内容によりましては、施設担当教員または大学実習担当教員へお電話を転送させていただきます。

* 実習施設担当教員

学生に関すること、具体的な実習内容等につきましては、施設担当教員へお問い合わせください。

②臨床実習に関する緊急連絡網 《臨床実習施設→ 大学》
《実習生 → 大学》

この緊急連絡網は、学生の臨床実習に係る事故等の緊急連絡 または 本学の休日、時間外（午前8：45～午後5：00以外の時間）の緊急連絡に 利用してください。
緊急を要しない連絡等については、通常の連絡網の利用をお願いします。



* 緊急連絡の内容により連絡先を変更いたします

教員の巡回指導計画（臨床工学科）

グループ	学籍番号	担当教員	実習開始 1~3ヶ月前	1週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	2週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	3週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	4週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	5週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	6週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回		
1G	1	片山俊郎	各実習施設との事前協議・調整	大阪医療センター							
	2			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	3			大阪府立急性期・総合医療センター(2G) ※平成29年4月病院名変更予定							
	4			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	5			大阪府立急性期・総合医療センター(3G) ※平成29年4月病院名変更予定							
	6			医療危機管理業務	その他	血液浄化装置	集中治療室・手術室				
	7			大阪大学医学部附属病院(4G)							休
	8			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	9			大阪大学医学部附属病院(5G)							休
	10			医療危機管理業務	その他	血液浄化装置	集中治療室・手術室				
6G	11	西垣孝行		桜橋渡辺病院	桜橋渡辺病院						
	12			その他	血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務				
	13			大阪市立総合医療センター							
	14			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	15			住友病院							
	16			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	17			大阪府済生会中津病院							
	18			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	19			北野病院							
	20			集中治療室・手術室	血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他			
11G	21	加納寛也		淀川キリスト教病院							
	22			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	23			大手前病院							
	24			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	25			大阪警察病院							
	26			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	27			大阪病院							
	28			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	29			箕面市立病院							
	30			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				

は大阪市立大学医学部附属病院での高気圧治療装置実習(2日間)

グループ	学籍番号	担当教員	実習開始 1~3ヶ月前	1週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	2週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	3週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	4週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	5週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回	6週目 ※教員は施設へ 適宜連絡、巡回		
16G	31	布江田友理	各実習施設との事前協議・調整	関西医科大学総合医療センター							
	32			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	33			関西電力病院(17G)							休
	34			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	35			関西電力病院(18G)							休
	36			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	37			大阪南医療センター(19G)							
	38			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	39			大阪南医療センター(20G)							
	40			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
21G	41	藤江建朗		河内総合病院	河内総合病院						
	42			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	43			城山病院							
	44			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	45			近畿大学医学部奈良病院							
	46			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	47			大阪母子医療センター							
	48			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	49			りんくう総合医療センター							
	50			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
26G	51	辻義弘		神戸市立医療センター中央市民病院							休
	52			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	53			神戸市立医療センター中央市民病院							休
	54			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	55			兵庫県立尼崎総合医療センター							
	56			血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他				
	57			兵庫医科大学病院							
	58			医療危機管理業務	血液浄化装置	集中治療室・手術室	その他				
	59			東宝塚さとう病院							
	60			集中治療室・手術室	血液浄化装置	集中治療室・手術室	医療危機管理業務	その他			

は大阪労災病院での高気圧治療装置実習(2日間)

臨床実習評価表 (フォーマット)

実習施設	
学生氏名	
実習期間	年 月 日 ～ 年 月 日

1. 臨床実習評価【適正評価】

身だしなみ	医療人として身だしなみに気をつける。	A	B	C	D
態度	病院・施設の規則および時間を守る 節度ある言葉遣いができ、礼儀正しく接する	A	B	C	D
積極性	実習を意欲的に取り組み、意思表示ができる	A	B	C	D
協調性	周りとの十分なコミュニケーションがとれる	A	B	C	D
知識	知識・技術に対する向上心・探究心をもつ	A	B	C	D

2. 臨床実習評価【技能評価】

心構え	「臨床実習の手引き」その他注意事項を理解し、実習生としての心構えを実践できる	A	B	C	D
血液浄化装置実習	血液浄化室業務内容を理解し、基礎知識を活用して各実習項目を実践・理解できる	A	B	C	D
集中治療室実習 (人工呼吸器実習含む)	集中治療室業務内容を理解し、基礎知識を活用して各実習項目を実践・理解できる	A	B	C	D
手術室実習 (人工心肺装置実習含む)	手術室業務内容を理解し、基礎知識を活用して各実習項目を実践・理解できる	A	B	C	D
医療機器管理業務実習	医療機器管理業務を理解し、基礎知識を活用して各実習項目を実践・理解できる	A	B	C	D
その他の業務実習	その他ME業務を理解し、基礎知識を活用して各実習項目を実践・理解できる	A	B	C	D
各種機器の取り扱い	患者の安全をふまえて、機器の操作を十分に行うことができる	A	B	C	D
判断力	勝手な行動を起こさず、指導者の指示に従い行動できる	A	B	C	D

3. 臨床実習評価【課題評価】

内容	形式・客観的内容・専門用語などを取り入れて、資料・参考文献を活用している。また自分の考えを明確に表現できている	A	B	C	D
課題	与えられた課題を消化できている	A	B	C	D

4. 実習を通して、学生が変化した点または進歩が見られた点についてご記入ください

5. 指導しても改善が見られなかった点があれば具体的にご記入ください

6. 総合評価

1) 総合合所見

実習全体と通じて学生の優れている点、今後の課題についてご意見・ご助言をお願いします

2) 総合判定

1～5までを参考に総合的に判断して該当箇所に○印をつけてください

森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科

学生氏名 _____

優 良 可 不可

年 月 日

臨床実習施設名 _____ 印

臨床実習指導者名 _____ 印

臨床実習出席表 (フォーマット)

学籍番号:

学生氏名:

	月	火	水	木	金
日付	/	/	/	/	/
指導者印					
備考					
日付	/	/	/	/	/
指導者印					
備考					
日付	/	/	/	/	/
指導者印					
備考					
日付	/	/	/	/	/
指導者印					
備考					
日付	/	/	/	/	/
指導者印					
備考					
日付	/	/	/	/	/
指導者印					
備考					
日付	/	/	/	/	/
指導者印					
備考					

* 欠席、遅刻、早退等がありましたら備考欄に記入してください

臨 床 実 習

☆実 習 日 誌

☆実 習 レ ポ ー ト

実施日： 年 月 日 ()

氏名： _____

提出日	再提出日	
月 日	月 日	月 日
指導者 印	指導者 印	指導者 印

森ノ宮医療大学 保健医療学部

臨床工学科

実習レポート

実習（見学）症例	
実習（見学）機器	
観察点など	

課題

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科 学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア、定員充足の見込み

1) 入学定員設定の考え方

本学は開学以来安定して志願者数を確保しており、医療系大学として周辺地域の方々
に支持されてきた。この度、保健医療学部臨床工学科を開設するに当たり、①教員組織、
実習指導体制、学生支援体制、教育施設・設備等の面において現行の水準が確保でき
ること、②「学則の変更の趣旨等を記載した書類」に記載されている人材需要に
応えること、③長期的な学生確保が可能であること、等の観点を考慮した。

また、上記の要件に加え、「臨床工学技士学校養成所指定規則」にある定員等を考
慮し、教育効果や学習効率を十分に達成できる環境を構築する上で支障のない人
数として総合的に判断した結果、臨床工学科の入学定員を60名（収容定員240名）
に設定することとした。

2) 定員を充足する見込み

臨床工学科を開設するにあたり、全国の志願者動向、近畿エリアにおける志願者
動向、大学を取り巻く環境・競合大学の動向、本学保健医療学部臨床工学科へ
の進路希望状況等の調査や分析をおこなった。その結果、下記に記す内容により、
進学ニーズが拡大していること、拡大傾向が継続的であること、直接具体的な
志願者数が示されたことから、継続的に学生を確保し定員を充足する見通し
であると判断した。

- ①全国的に臨床工学を含む「保健系分野」への進学ニーズが高いこと
- ②近畿エリアにおいて臨床工学技士養成校への進学ニーズが見込めること
- ③近畿エリアにおいて臨床工学技士養成校である私立大学が少なく、特に大阪市内
には1校もないこと
- ④本学は開学以来順調に志願者を確保していること
- ⑤第三者機関による「臨床工学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケ
ート」の調査結果より、臨床工学科への十分な志願者を確保できると見込めること

イ、定員充足の根拠となる調査結果の概要

1) 理学療法、看護、臨床工学を含む「保健系分野」への全国的な進学ニーズ

文部科学省発表の学校基本調査（大学の関係学科別入学者数）より、保健系分野への
進学者数は年々増加していることがわかる。過去5年間の増加率を平均すると、大学全
体では毎年4.1%、私立大学では毎年5.1%ずつ進学者数が増加している。【資料1】

また、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター集計の「私立大学・短期大学等入学志願動向」より、理学療法、看護、臨床工学を含む保健系学部に対する「志願者数」「受験者数」「入学者数」はいずれも過去5年にわたり増加している。また同様に、志願倍率は6倍前後、入学定員充足率は100%を割ることなく安定的に推移していることからニーズの高さがわかる。【資料2】

2) 本学の医療系大学としての実績（入試状況）

本学は過去5年にわたり安定して志願者を確保しており、十分な学生数を継続して確保し続けている。そうした本学の医療系大学としての実績は、臨床工学科の定員充足の見込みを裏付ける一つの根拠といえる。

臨床工学科はこれから開設する新学科であるため本学での実績はまだないが、2016年4月に本学が開設した作業療法学科・臨床検査学科では定員を満たすに十分な志願者数を確保し、新設学科でも確実に志願者を集めることができた。これは、本学が医療者を育成する大学として社会的に認められつつあることを示しているといえる。

保健医療学部全体でみると、平成24年度入試の志願者数は925人（競争率3.20倍）、平成25年度入試の志願者数が1,808名（競争率6.10倍）、平成26年度入試の志願者数が1,529名（競争率4.72倍）、平成27年度入試の志願者数が2,978名（競争率4.89倍）、平成28年度入試の志願者数が3,299名（競争率5.73倍）となっており、競争率は常に高い水準を維持している。【資料3】

この度の臨床工学科の開設により、本学は医療分野6学科を有する医療の総合的な大学としてさらに認知されることが期待できる。よって、臨床工学科の定員充足だけでなく保健医療学部全体の更なる学生獲得についても、十分に期待できると考えている。

3) 近畿の臨床工学技士養成校（私立大）の入試動向および本学との競合関係

本学と同分野の学科等を有する近隣大学が志願者を十分に確保できていることも、本学が臨床工学科の定員を充足できると考える一つの根拠となっている。

近畿エリアには臨床工学技士養成校である私立大学が5校あり、いずれの大学も2016年度入試において入学定員の2.1倍から11.7倍の志願者数を確保している。【資料4】

なお、近畿エリアの臨床工学技士養成校である私立大学5校の設置場所をみると、大阪府茨木市（1校：藍野大学）、大阪府四條畷市（1校：大阪電気通信大学）、兵庫県姫路市（1校：姫路獨協大学）、和歌山県紀の川市（1校：近畿大学）、三重県鈴鹿市（1校：鈴鹿医療科学大学）となっており、本学の位置する大阪府大阪市には臨床工学技士養成校である私立大学が1校も設置されておらず、設置されれば私立大学では本学が大阪府で初めてとなる【資料5】。

また、本学の半径約20km圏内は、本学への出願者が多く居住するエリアであることも考慮すると【資料6】、本学の臨床工学科は大阪市内や大阪市と近接する市区町村か

らの学生確保が期待できる。さらに、私立大学の養成校がない京都府・奈良県・滋賀県からの学生確保もある程度見込めると考えられ、これらのことは、本学が臨床工学科の入学定員を充足できると考える根拠の一つになっている。

4) 「森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート」調査結果【資料7】

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への進学ニーズを調査する目的で、第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所による下記のアンケート調査を行った。

- ・実施者：一般財団法人日本開発構想研究所
- ・アンケート題目：森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート
- ・調査対象者：平成28年度において高等学校2学年である者
- ・調査対象校：森ノ宮医療大学近隣に所在する高等学校204校
- ・実施期間：平成28年10月～平成28年12月

アンケート調査により、以下の点が示された。

① 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への受験意向について [資料7-p.9]

臨床工学科への受験意向について調査した結果、「受験してみたい」144人(2.2%)、「受験先として検討したい」414人(6.4%)の合計558人(8.6%)が臨床工学科への受験意向を示した。

② 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への入学意向について [資料7-p.9]

上記①にて臨床工学科への受験意向を示した558人と、「わからない」と回答した2,781人、合計3,339人に、臨床工学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は「入学を希望する」が289人(8.7%)、「入学を検討する」が1,156人(34.6%)で、合計1,445人(43.3%)が臨床工学科への入学意向を示した。

③ 上記①と②をクロス集計した結果 [資料7-p.10]

臨床工学科を「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生は93人となり、臨床工学科の入学定員60人に対して約1.55倍の入学意向を実数にて確保したといえる。

また、臨床工学科を「受験してみたい」または「受験先として検討したい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生は合計157人となり、臨床工学科の入学定員60人に対し、約2.61倍が入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外の高校生の進学も考えられることから、臨床工学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

ウ、学生納付金の設定の考え方

本学科における学生納付金（授業料+施設設備費）は、近隣競合校の状況や既設学科の学生納付金を考慮し、158万円に設定されている。

近隣競合校の学生納付金は、概ね130～166万円であり、本学科が設定する学生納付金もこの範囲内に納められている。また、本学の既設学科（鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、作業療法学科、臨床検査学科）の学生納付金と同額に設定されている。【資料8】

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では学生確保に向け、アドミッションセンターが中心となり様々な取り組みを行っている。具体的には、広報室で起案している各種企画の内容的な報告・連絡・相談とその確定および学科内への業務依頼、情報の提供をアドミッションセンター会議において行い、それを各学科及び部署にフィードバックする体制が構築されている。この体制により、「オープンキャンパス」「進学相談会」「高校訪問」「教員対象説明会」等の学生募集活動を教職協働で連携し、長期的な学生確保のビジョンを持って取り組むことが可能となっている。

主な取り組み（予定含む）は以下のとおりである。

① オープンキャンパス

毎年、各高等学校のイベントや競合大学のスケジュールを考慮した上で、本学が求める学生が幅広く参加できるよう日程を調整し、内容においても開催時期ごとにテーマを設け、本学の認知向上とともに各学問領域への興味を喚起するものとなっている。また、高校3年生を対象とするだけでなく、1・2年生を対象としたプログラムや保護者を対象とした「保護者のための進学説明会」を実施することで、長期的な学生の確保に力を入れている。

② 受験雑誌・進学サイト

受験生等からの本学に対する資料請求件数は、開学以来順調に伸び続けている【資料9】。資料請求件数全体のうち、受験雑誌や進学サイトを經由した請求が概ね八割程度を占めていることから、それらを通じた長期的な学生確保の取り組みに力を入れる。

また、これまで受験雑誌や進学サイトに掲載してきた内容に加え、臨床工学科の新設に伴う新增設企画（新学科を特集するための専用の企画）への参加や、掲載雑誌およびサイトの拡大、広告枠の拡大などについても順次実施していく。

③ 進学相談会／高校ガイダンス

複数の大学がブースを設け、来場した高校生やその保護者から相談を受け付ける「進学相談会」と、大学の広報担当者などが高校に出向いて各学科の特色などを説明する「高校ガイダンス」を、本学の通学圏内となるエリアを中心に年間を通して実施する。参画する相談会／ガイダンスの学問分野を看護・医療系に限定し、看護・医療関連への興味関心の高い生徒との接点を増やすと同時に、高校1・2年生を対象とした相談会／ガイダンスへの参画を増やし、長期的かつ安定的な学生の確保に向けた取り組みを行っている。

進学相談会 2016年度（2016年4月～2016年12月）実績：延べ49会場で実施、682名と接触。

高校ガイダンス 2016年度（2016年4月～2017年2月）実績：延べ247校で実施、3,978名と接触。

④ 高校訪問

周辺的高等学校教員へ本学の認知度を向上させる目的で、高等学校を訪問する。訪問目的と必要性を吟味し、訪問対象校や訪問時期・訪問回数・提案内容等を精査する。本学と同じ学科を有する大学が少ない近隣府県的高等学校への訪問を強化し、本学の認知度を高めることで当該分野に興味のある生徒の獲得を狙う。

2016年度（2016年4月～2017年2月）実績：延べ1,032校（予備校含む）訪問。近畿2府4県では延べ877校訪問。

⑤ 教員対象説明会

近隣府県的高等学校の教員を対象とした説明会を実施する。認知度や募集力の短期的な向上ではなく、より長期的な学生募集力の強化を目的としており、そのため本学全体の情報提供のほか、各学科の設置の趣旨やアドミッションポリシー、入学者選抜の方法等の情報を提供する。

⑥ 本学WEBサイト

本学WEBサイトに新学科紹介ページを作成し、臨床工学科及び臨床工学技士への興味関心を促すとともに、日々更新される最新情報を滞りなく発信するツールとして活用する。受験生だけでなく、高校1・2年生を対象とした専用コンテンツも開設しており、長期的な学生の確保を意識した構成となっている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できるよう下記にある①～④の能力を身につけた人材を養成する。

①精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける臨床工学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で臨床工学技士としての知識力と技術力を発揮することができます。

②チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができます。

③豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。

④主体的問題解決能力

臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、健康に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、主体的に創造的に問題を解決することができます。

(2) 上記(1)が社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえていることの根拠

1) 社会的な需要

日本における臨床工学技士の需要は、少子高齢化とともに増加している。厚生労働省の「医療施設（静態・動態）調査・病院報告」によると、病院で働く臨床工学技士の数はここ10年間右肩上がりが増え続けており、平成18年と平成27年を比較すると約9,200人増加している【資料10】。また、臨床工学技士は病院、クリニック、医療機器メーカー等、多岐にわたる施設で必要とされている。日本透析医学会によると、慢性透析患者は平成27（2015）年12月時点で約32万5千人に達し、直近10年では約6万人増加している【資料11】。臨床工学技士は慢性透析患者の治療に従事できることから、臨床工学技士の必要性がますます高まっていると推察される。

2) 業界団体からの要請

大阪府や兵庫県の臨床工学技士でつくる「一般社団法人大阪府臨床工学技士会」「一般社団法人兵庫県臨床工学技士会」の2団体は、チーム医療に欠かせない知識や技術、寛容性を身につけた臨床工学技士が求められていることなどから、4年制大学での臨床工学技士養成が必要であるとして、本学の臨床工学科開設を要望している【資料12】。

よって、本学の臨床工学技士養成は、業界団体からの要請にも沿ったものである。

3) 近畿および大阪エリアにおける臨床工学技士の需要状況

平成 28 年度、近畿には大学と専門学校をあわせて 10 校の臨床工学技士養成校がある。

このうち 5 校は大阪にあり、大学が 2 校、専門学校が 3 校となっている。大阪市内に限ると、養成校は専門学校 3 校で、大学は 1 校もない【資料 13】。その一方で、近畿の養成校には臨床工学技士の求人が多数寄せられている。中には求人数が入学定員を大きく上回り、14 倍近い求人倍率となっているところもある【資料 14】。

よって、近畿および大阪エリアで輩出される臨床工学技士の数は需要に対してまだ十分とはいえないため、本学の臨床工学科卒業生への需要は十分に見込めると考えられる。

4) 既設学科の求人状況

本学の既存 3 学科（看護学科、理学療法学科、鍼灸学科）の就職状況は、過去を見ても良好である。理学療法学科および鍼灸学科においては過去 3 年間、看護学科においては完成年度を迎えた平成 26 年度以降の 2 年間、就職希望者全員が就職を果たしている【資料 15】。

ゆえに、本学は医療職を養成する医療系大学として医療機関等から一定の評価を得ていると言え、新設する臨床工学科の卒業生に対しても採用ニーズが見込める。

5) 第三者機関による採用意向調査結果【資料 16】

①調査の概要

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生に対する医療機関および企業の採用意向を調査する目的で、第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所によるアンケート調査を行った。

- ・実施者：一般財団法人日本開発構想研究所
- ・アンケート題目：森ノ宮医療大学保健医療大学臨床工学科（仮称）の卒業生に対する病院・医療系企業等の採用意向に関するアンケート調査
- ・調査対象者：卒業生の就職が見込まれる病院等 3,922 施設の臨床工学技士採用担当者
- ・実施期間：平成 28 年 11 月～平成 29 年 2 月
- ・有効回答率等：配布数・・・3,924 施設、有効回答数・・・673 施設、有効回答率・・・約 17.1%

②調査の結果

上記のアンケート結果から、以下のことが明らかになった。

- ・入学定員以上の求人件数の確保が見込める〔資料 16-p15～16〕

本学臨床工学科卒業生を「採用したい」と考える施設は 68 件だった。これらの

施設に対し、本学臨床工学科の卒業生を毎年何人採用したいか尋ね、その結果を基に算出したところ、入学定員 60 名の 1.68 倍にあたる 101 人分の求人が見込めることが明らかになった。したがって本学の臨床工学科の就職先は十分に確保できるといえる。

- ・ 5 割以上の採用先が、大学卒業の臨床工学技士を求めている〔資料 16-p7〕

医療施設等の人材採用における最終学歴についてはどのような最終学歴が採用対象として優先されるかを尋ねたところ、54.9%にあたる 325 件が「大学」を第 1 位に挙げた。専門学校や短期大学においては 206 件にとどまった。以上のことから、臨床工学技士の採用では専門学校や短期大学の卒業生より、学士号を有する大卒者が求められていることが分かった。

6) 結論

- ・ 臨床工学技士の社会的需要が高水準であると言える。
- ・ 近隣の臨床工学技士養成校に対する求人依頼数は順調である。
- ・ 本学既設学科卒業生の就職状況は良好であり、医療専門職を輩出する医療系大学として一定の評価を得ている。
- ・ 第三者機関によるアンケート結果から、本学臨床工学科の卒業生に対し、該当学年の定員に対する採用が毎年見込める。
- ・ 本学の教育内容は、第三者機関のアンケート結果から推察される「施設側が求める臨床工学技士像（大学卒業生）」に対応している。

以上により、本学の臨床工学科が養成する人材は社会的な要請に対応したものであり、卒業生に対する中長期的な人材需要が十分に確保できるものとする。

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科 学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

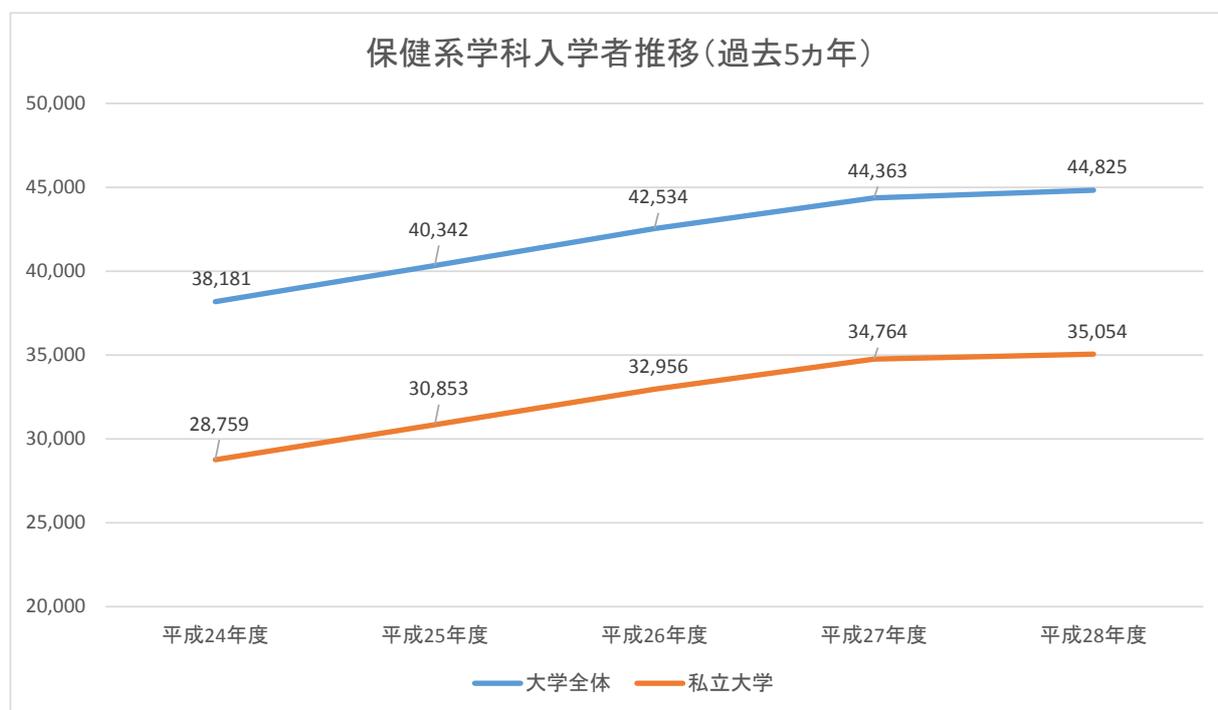
- 資料 1 保健系学科入学者推移表
- 資料 2 私立大学入学志願動向
- 資料 3 過去5ヵ年の本学入学試験状況
- 資料 4 近畿エリアの臨床工学技士養成校である私立大学の入試動向
- 資料 5 近畿エリアにおける臨床工学技士養成校である私立大学位置
- 資料 6 本学出願者の居住地ヒートマップ
- 資料 7 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート調査報告
- 資料 8 競合大学学納金一覧
- 資料 9 年度別資料請求者数
- 資料 10 職種別に見た病院の従事者数
- 資料 11 慢性透析患者数の推移
- 資料 12 臨床工学技士会からの要望書（大阪府、兵庫県）
- 資料 13 近畿の臨床工学技士養成校一覧
- 資料 14 近畿の臨床工学技士養成校における求人状況
- 資料 15 森ノ宮医療大学における既設学科の就職状況
- 資料 16 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の卒業生に対する病院・医療系企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

保健系学科入学者推移表

区分	大学区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
保健系(医学・ 歯学・薬学を除く)	大学全体	人数	38,181	40,342	42,534	44,363	44,825
		前年比増加率	—	105.7%	105.4%	104.3%	101.0%
	私立大学	人数	28,759	30,853	32,956	34,764	35,054
		前年比増加率	—	107.3%	106.8%	105.5%	100.8%

※文部科学省 学校基本調査（大学の関係学科別入学者数）保健系分野を年度ごとに抜粋【単位は人】

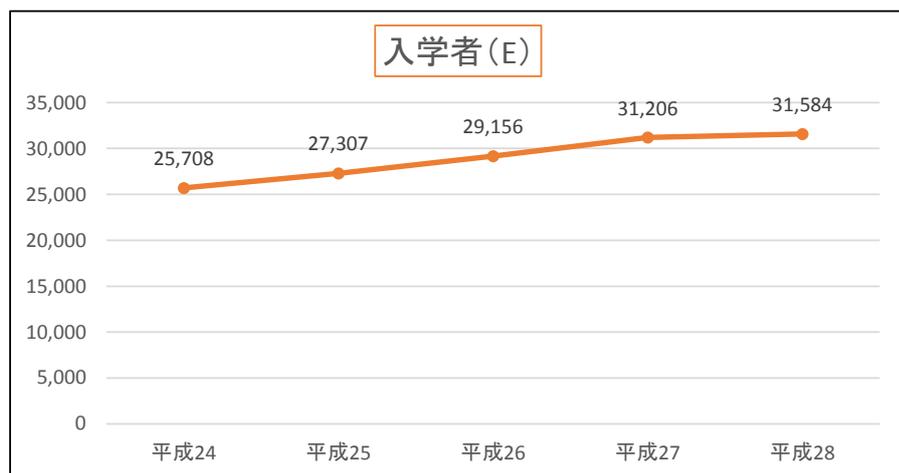
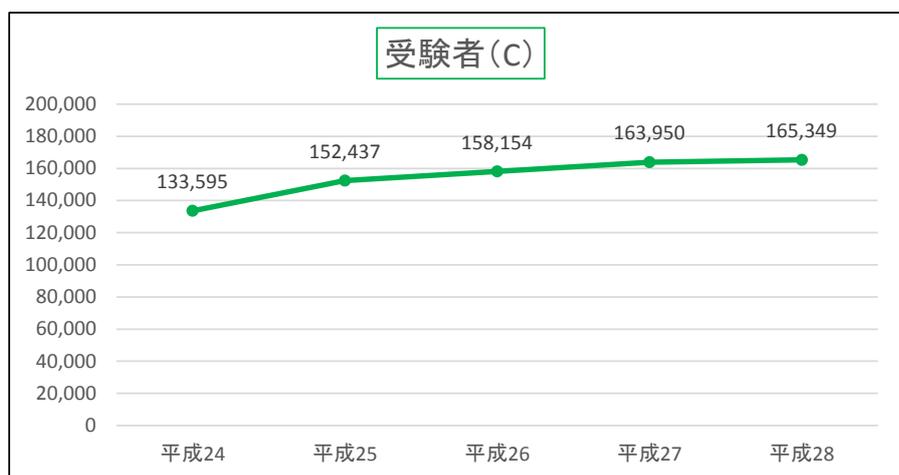
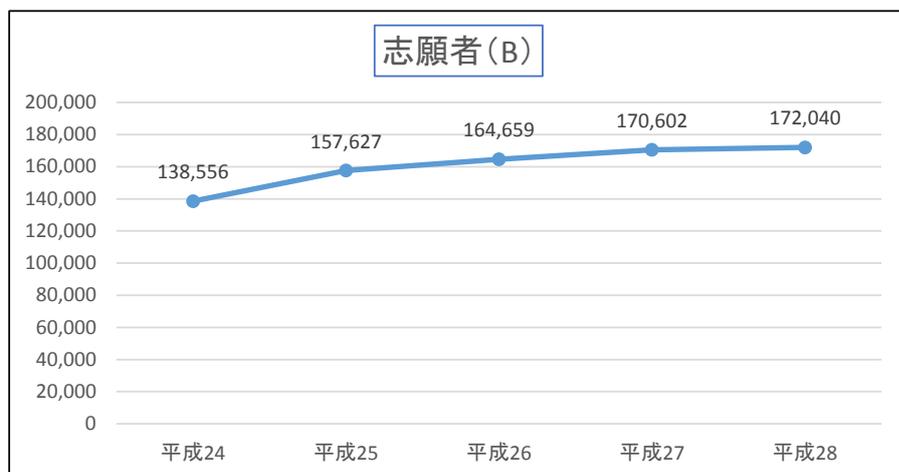
※平成28年度は速報値(2016年8月4日公表)



私立大学入学志願動向【学部系統別の動向(大学/過去5カ年)】

区分	年度	集計 学部数	入学定員 (A)	志願者 (B)	受験者 (C)	合格者 (D)	入学者 (E)	志願倍率 (B/A)	合格率 (D/C)	歩留率 (E/D)	定員充足 率(E/A)
保健系	平成24	154	23,414	138,556	133,595	46,612	25,708	5.92	34.89	55.15	109.8
	平成25	161	24,734	157,627	152,437	50,020	27,307	6.37	32.81	54.59	110.4
	平成26	175	27,033	164,659	158,154	56,334	29,156	6.09	35.62	51.76	107.85
	平成27	192	28,998	170,602	163,950	61,599	31,206	5.88	37.57	50.66	107.61
	平成28	198	30,330	172,040	165,349	63,762	31,584	5.67	38.56	49.53	104.13

※日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター「私立大学・短期大学等入学志願動向」より抜粋



過去5カ年の本学入学試験状況

2017.3.13現在

(志願者数・受験者数・合格者数・競争率・入学者数)

学部	学科	入試年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率(受験者数/合格者数)	入学者数	
保健医療学部	看護学科	H28	80	1,436	1,375	149	9.23	—	
		H27	80	1,315	1,278	173	7.39	90	
		H26	80	925	895	132	6.78	90	
		H25	80	1,119	1,073	116	9.25	88	
		H24	80	505	491	114	4.31	88	
	理学療法学科	H28	60	722	705	97	7.27	—	
		H27	60	792	775	103	7.52	70	
		H26	60	452	443	81	5.47	70	
		H25	60	490	473	80	5.91	68	
		H24	60	304	297	77	3.86	68	
	鍼灸学科	H28	60	183	180	112	1.61	—	
		H27	60	206	201	106	1.90	67	
		H26	60	152	149	102	1.46	64	
		H25	60	199	194	89	2.18	68	
		H24	60	116	112	90	1.24	68	
	作業療法学科	H28	40	381	367	76	4.83	—	
		H27	40	244	232	89	2.61	50	
		H26	H27年4月開設のため入試データなし						
		H25	H27年4月開設のため入試データなし						
		H24	H27年4月開設のため入試データなし						
	臨床検査学科	H28	60	577	560	122	4.59	—	
		H27	60	421	407	122	3.34	72	
		H26	H27年4月開設のため入試データなし						
		H25	H27年4月開設のため入試データなし						
		H24	H27年4月開設のため入試データなし						
合計	H28	300	3,299	3,187	556	5.73	—		
	H27	300	2,978	2,893	593	4.89	349		
	H26	200	1,529	1,487	315	4.72	224		
	H25	200	1,808	1,740	285	6.1	224		
	H24	200	925	900	281	3.2	224		

H28の入学者数は現時点で未確定のため、「—」と表記。

近畿エリアの臨床工学技士養成校である私立大学の入試動向

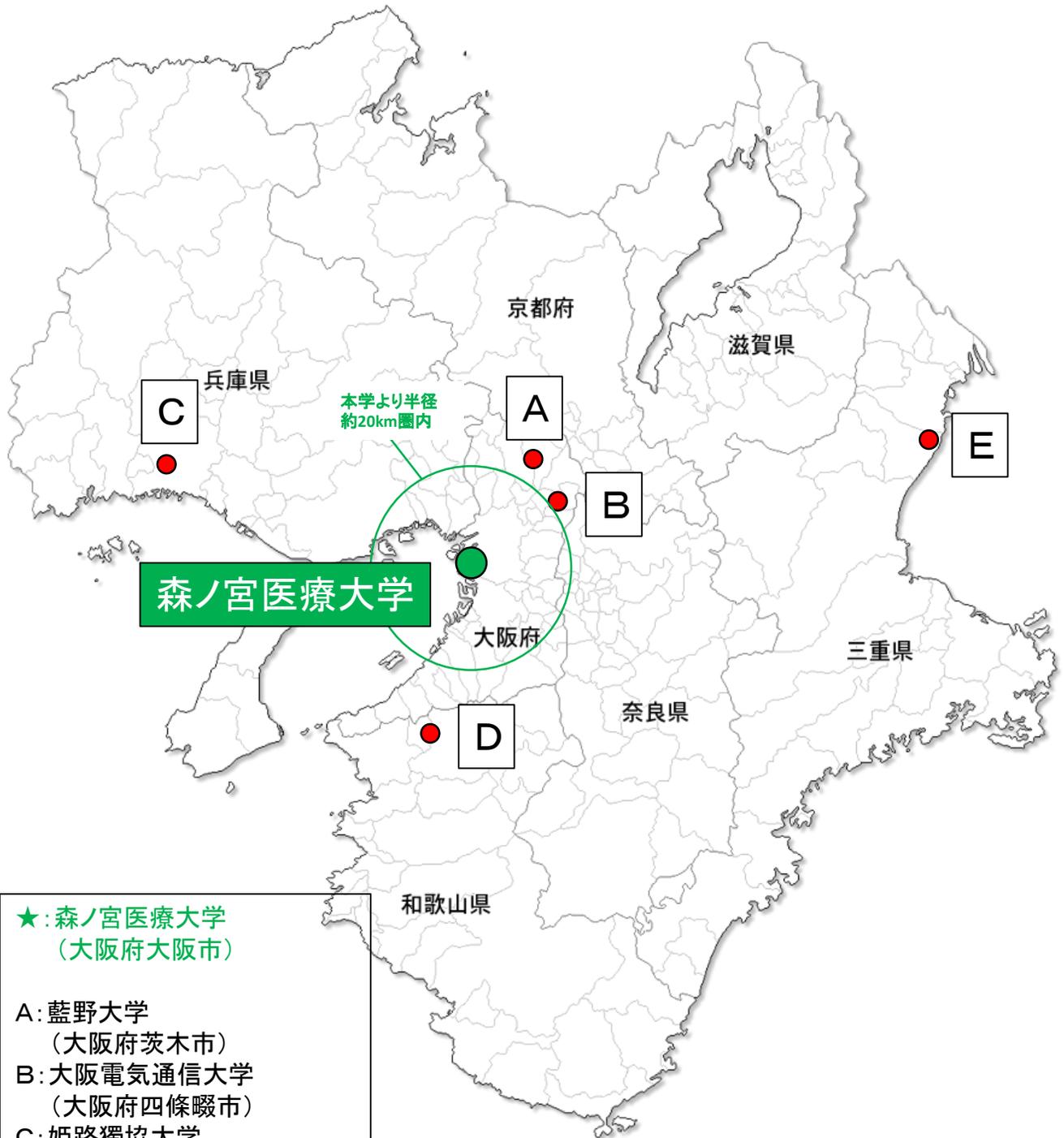
大学名	学部学科名(入学定員数)	年度	入試方法	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	入学者数
藍野大学	医療保健学部 臨床工学科 (40名)	2016	公募推薦	6	36	38	16	6.0	11
			一般	20	63	61	39	3.2	16
			AO	3	9	9	2	3.0	2
			センター試験	5	20	20	18	4.0	7
			指定校推薦入試	6	6	6	6	1.0	6
			合計	40	129	127	81	3.2	42
大阪電気通信大学	医療福祉工学部 医療福祉工学科 (80名)	2016	公募推薦	25	41	41	28	1.6	201(※1)
			一般	26	83	82	30	3.2	
			AO	10	24	24	24	2.4	
			センター試験	4	7	7	2	1.8	
			得意科目セレクト	6	9	8	6	1.5	
			専門・総合学科特別	5	1	0	0	0.2	
			合計	76	165	162	90	2.2	201(※1)
姫路獨協大学	医療保健学部 臨床工学科 (40名)	2016	公募推薦・指定校	15	27	17	17	1.8	データなし
			一般・セ併	20	31	26	26	1.6	
			センター利用	5	17	17	17	3.4	
			AO	35(※2)	6	6	6	-	
			その他	-	1	1	1	-	
			合計	40	82	67	67	2.1	
近畿大学	生物理工学部 医用工学科 (50名)	2016	公募推薦	16	130	130	54	8.1	61
			一般	20	304	264	91	15.2	
			センター併用	4	32	20	11	8.0	
			センター利用	10	119	119	52	11.9	
			合計	50	585	533	208	11.7	61
鈴鹿医療科学大学	医用工学部 臨床工学科 (40名)	2016	合計	40	264	119	48	6.6	データなし

※各大学情報については、公式ウェブサイトにより調査。志願倍率は募集人数に対する志願者数の割合です。

※1:医療福祉工学部全体

※2:医療保健学部全体

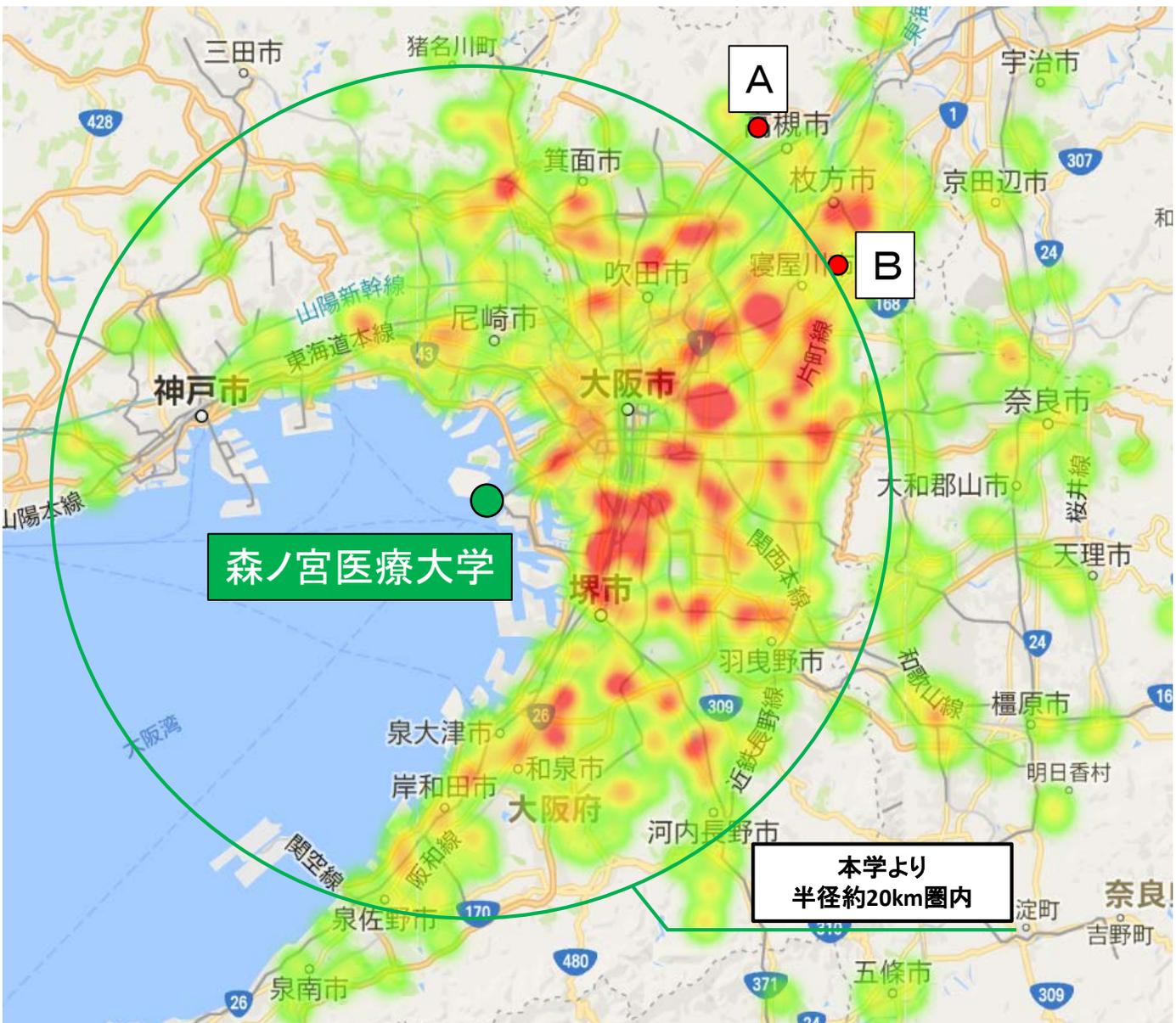
近畿エリアにおける臨床工学技士養成校である私立大学位置



★: 森ノ宮医療大学
(大阪府大阪市)

- A: 藍野大学
(大阪府茨木市)
- B: 大阪電気通信大学
(大阪府四條畷市)
- C: 姫路獨協大学
(兵庫県姫路市)
- D: 近畿大学
(和歌山県紀の川市)
- E: 鈴鹿医療科学大学
(三重県鈴鹿市)

本学出願者の居住地ヒートマップ(2017年度入試)

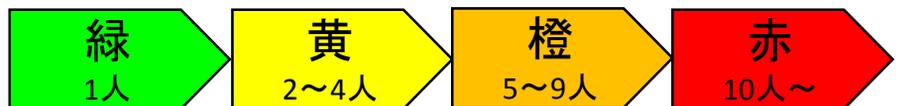


★: 森ノ宮医療大学
(大阪府大阪市)

A: 藍野大学
(大阪府茨木市)

B: 大阪電気通信大学
(大阪府四條畷市)

※本学調べ(2017年度入試 出願者の所在地)。
赤い部分ほど出願者数が多く、緑に近づくほど出願者数が少ないことを示す。



森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成 29 年 1 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）への 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 30 年 4 月に予定している森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または、森ノ宮医療大学に進学実績のある高等学校を中心に、2 府 4 県（京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県）に所在する高等学校の在学者で平成 30 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

(3) 調査方法

近隣に所在する高等学校、または、森ノ宮医療大学に進学実績のあるものを中心とした高等学校 204 校に 24,670 人分のアンケート用紙及び森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から直接郵送。

この結果、高校 2 年生 14,235 人から有効回答（有効回収率約 57.7%）があった。

集計結果より、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 28 年 10 月～平成 28 年 12 月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校 204 校 24,670 人

有効回答者数：高等学校 160 校 14,402 人の回答のうち、高校 2 年生 14,235 人

有効回収率：約 57.7%（高校 2 年生 14,235 人÷調査対象者 24,670 人）

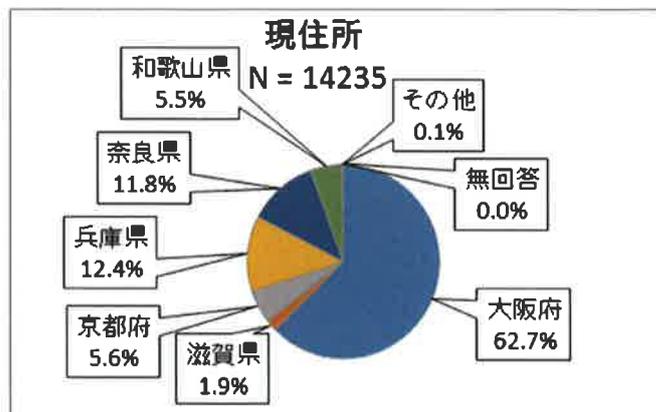
※森ノ宮医療大学にて設置を構想している保健医療学部臨床工学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生14,235人のうち、「大阪府」が8,912人（62.7%）と最も多く、次いで「兵庫県」1,761人（12.4%）、「奈良県」1,678人（11.8%）、「京都府」797人（5.6%）、「和歌山県」790人（5.5%）、「滋賀県」277人（1.9%）、「その他」17人（0.1%）、「無回答」3人（0.0%）の順になっている。

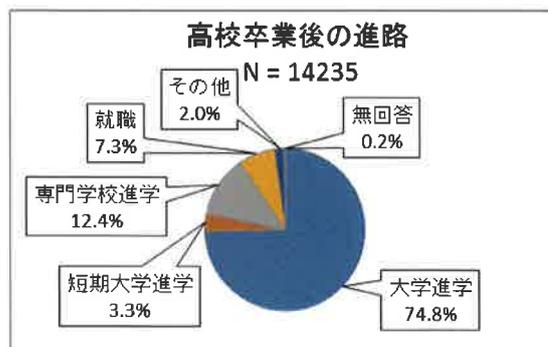
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大阪府	8,912	62.7
2	滋賀県	277	1.9
3	京都府	797	5.6
4	兵庫県	1,761	12.4
5	奈良県	1,678	11.8
6	和歌山県	790	5.5
7	その他	17	0.1
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	14,235	100



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生14,235人のうち、10,640人（74.8%）が「大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は472人（3.3%）、合わせて11,112人（78.1%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」1,763人（12.4%）を合わせると、12,875人（90.5%）が高等学校卒業後、進学を希望している。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	10,640	74.8
2	短期大学進学	472	3.3
3	専門学校進学	1,763	12.4
4	就職	1,042	7.3
5	その他	284	2.0
	無回答	34	0.2
	N (%ベース)	14,235	100

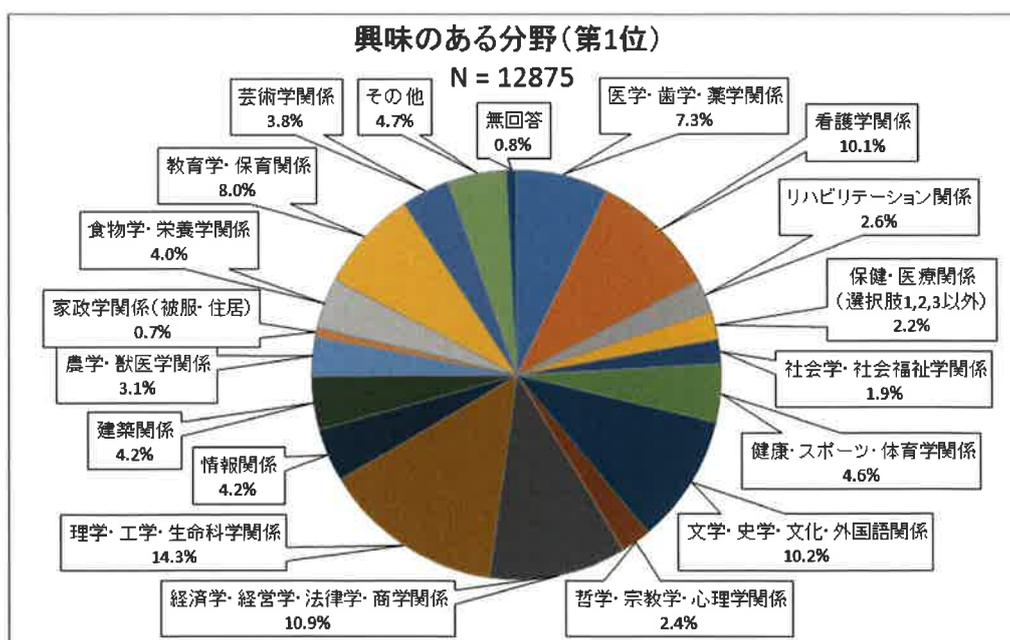


(3) 興味のある分野について

3-1 興味のある分野（第1位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 12,875 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 1,846 人（14.3%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法律学・商学関係」1,403 人（10.9%）、「文学・史学・文化・外国語関係」1,319 人（10.2%）、「看護学関係」1,301 人（10.1%）、「教育学・保育関係」1,031 人（8.0%）、「医学・歯学・薬学関係」942 人（7.3%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医学・歯学・薬学関係	942	7.3
2	看護学関係	1,301	10.1
3	リハビリテーション関係	331	2.6
4	保健・医療関係(選択肢1,2,3以外)	280	2.2
5	社会学・社会福祉学関係	247	1.9
6	健康・スポーツ・体育学関係	592	4.6
7	文学・史学・文化・外国語関係	1,319	10.2
8	哲学・宗教学・心理学関係	305	2.4
9	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,403	10.9
10	理学・工学・生命科学関係	1,846	14.3
11	情報関係	544	4.2
12	建築関係	535	4.2
13	農学・獣医学関係	395	3.1
14	家政学関係(被服・住居)	85	0.7
15	食物学・栄養学関係	518	4.0
16	教育学・保育関係	1,031	8.0
17	芸術学関係	495	3.8
18	その他	608	4.7
	無回答	98	0.8
	N (%ベース)	12,875	100

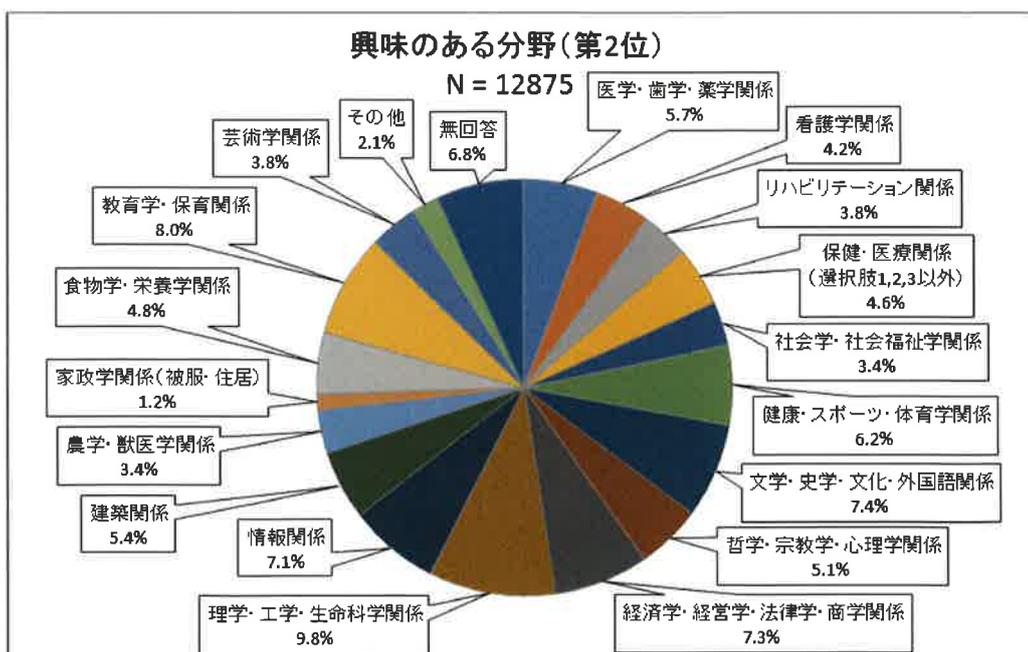


3-2 興味のある分野（第2位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 12,875 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 1,262 人（9.8%）と最も多く、次いで「教育学・保育関係」1,028 人（8.0%）、「文学・史学・文化・外国語関係」947 人（7.4%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」941 人（7.3%）、「情報関係」914 人（7.1%）、「無回答」873 人（6.8%）、「健康・スポーツ・体育学関係」800 人（6.2%）、「医学・歯学・薬学関係」738 人（5.7%）、「建築関係」691 人（5.4%）、「哲学・宗教学・心理学関係」660 人（5.1%）の順になっている。

興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医学・歯学・薬学関係	738	5.7
2	看護学関係	535	4.2
3	リハビリテーション関係	486	3.8
4	保健・医療関係(選択肢1,2,3以外)	588	4.6
5	社会学・社会福祉学関係	440	3.4
6	健康・スポーツ・体育学関係	800	6.2
7	文学・史学・文化・外国語関係	947	7.4
8	哲学・宗教学・心理学関係	660	5.1
9	経済学・経営学・法律学・商学関係	941	7.3
10	理学・工学・生命科学関係	1,262	9.8
11	情報関係	914	7.1
12	建築関係	691	5.4
13	農学・獣医学関係	439	3.4
14	家政学関係(被服・住居)	160	1.2
15	食物学・栄養学関係	615	4.8
16	教育学・保育関係	1,028	8.0
17	芸術学関係	493	3.8
18	その他	265	2.1
	無回答	873	6.8
	N (%ベース)	12,875	100

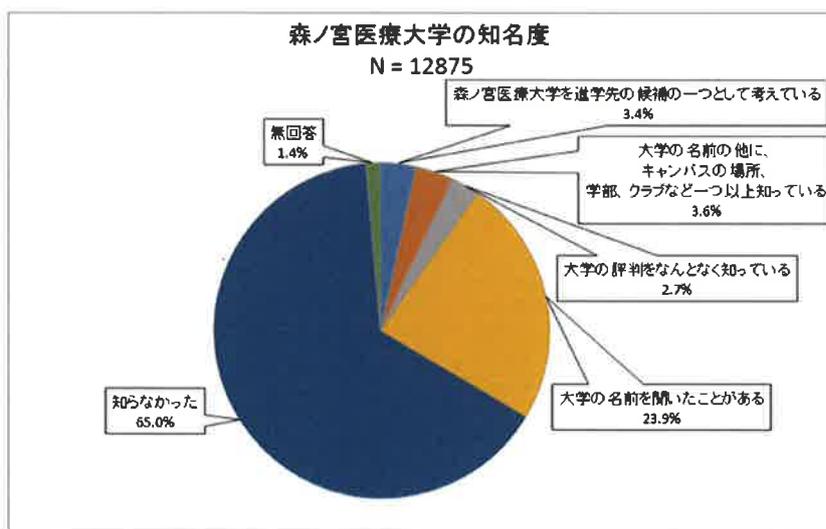


(4) 森ノ宮医療大学の知名度について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 12,875 人に、森ノ宮医療大学の知名度について調査した。その結果は、「知らなかった」が 8,378 人 (65.0%) と最も多く、次いで、「大学の名前を聞いたことがある」が 3,078 人 (23.9%)、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」461 人 (3.6%)、「森ノ宮医療大学を進学先の候補の一つとして考えている」439 人 (3.4%)、「大学の評判をなんとなく知っている」343 人 (2.7%)、「無回答」176 人 (1.4%) の順になっている。

森ノ宮医療大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	森ノ宮医療大学を進学先の候補の一つとして考えている	439	3.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	461	3.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	343	2.7
4	大学の名前を聞いたことがある	3,078	23.9
5	知らなかった	8,378	65.0
	無回答	176	1.4
	N (%ベース)	12,875	100

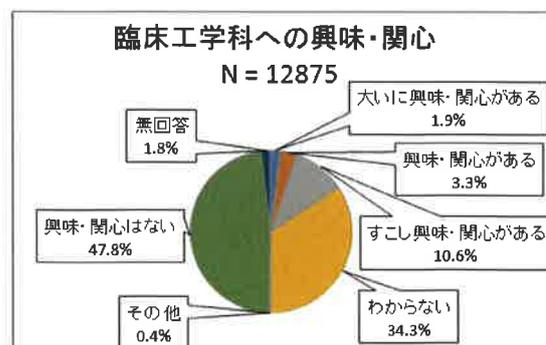


(5) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への興味・関心について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 12,875 人のうち、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 240 人 (1.9%) である。また、「興味・関心がある」427 人 (3.3%)、「すこし興味・関心がある」1,362 人 (10.6%) との回答があり、「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」の合計 2,029 人 (15.8%) が森ノ宮医療大学保健医療学部に興味を示している。

臨床工学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	240	1.9
2	興味・関心がある	427	3.3
3	すこし興味・関心がある	1,362	10.6
4	わからない	4,411	34.3
5	その他	53	0.4
6	興味・関心はない	6,152	47.8
	無回答	230	1.8
	N (%ベース)	12,875	100



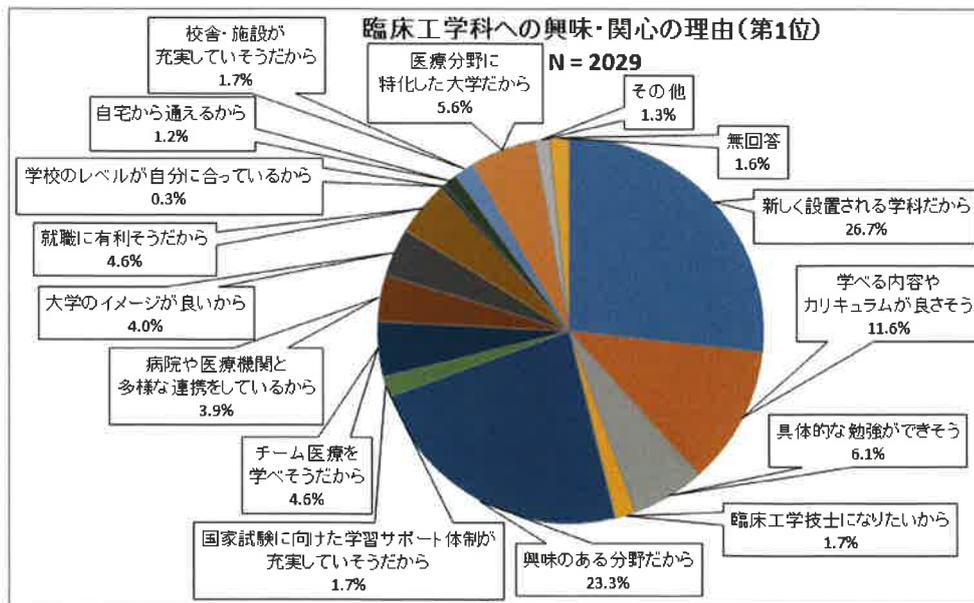
(6) 興味・関心の理由について

6-1 興味・関心の理由（第1位）について

「(5) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への興味・関心について」にて森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科に興味・関心を示した 2,029 人に、興味・関心の理由（第1位）について調査した。その結果、「新しく設置される学科だから」が 541 人（26.7%）と最も多く、次いで「興味のある分野だから」472 人（23.3%）、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」236 人（11.6%）、「具体的な勉強ができそう」123 人（6.1%）、「医療分野に特化した大学だから」114 人（5.6%）、「就職に有利そうだから」94 人（4.6%）、「チーム医療を学べそうだから」93 人（4.6%）、「大学のイメージが良いから」82 人（4.0%）、「病院や医療機関と多様な連携をしているから」79 人（3.9%）、「臨床工学技士になりたいから」35 人（1.7%）、「国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから」35 人（1.7%）、「校舎・施設が充実していそうだから」35 人（1.7%）、「無回答」33 人（1.6%）「その他」26 人（1.3%）、「自宅から通えるから」25 人（1.2%）、「学校のレベルが自分に合っているから」6 人（0.3%）の順になっている。

臨床工学科への興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	541	26.7
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	236	11.6
3	具体的な勉強ができそう	123	6.1
4	臨床工学技士になりたいから	35	1.7
5	興味のある分野だから	472	23.3
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	35	1.7
7	チーム医療を学べそうだから	93	4.6
8	病院や医療機関と多様な連携をしているから	79	3.9
9	大学のイメージが良いから	82	4.0
10	就職に有利そうだから	94	4.6
11	学校のレベルが自分に合っているから	6	0.3
12	自宅から通えるから	25	1.2
13	校舎・施設が充実していそうだから	35	1.7
14	医療分野に特化した大学だから	114	5.6
15	その他	26	1.3
	無回答	33	1.6
	N (%ベース)	2,029	100

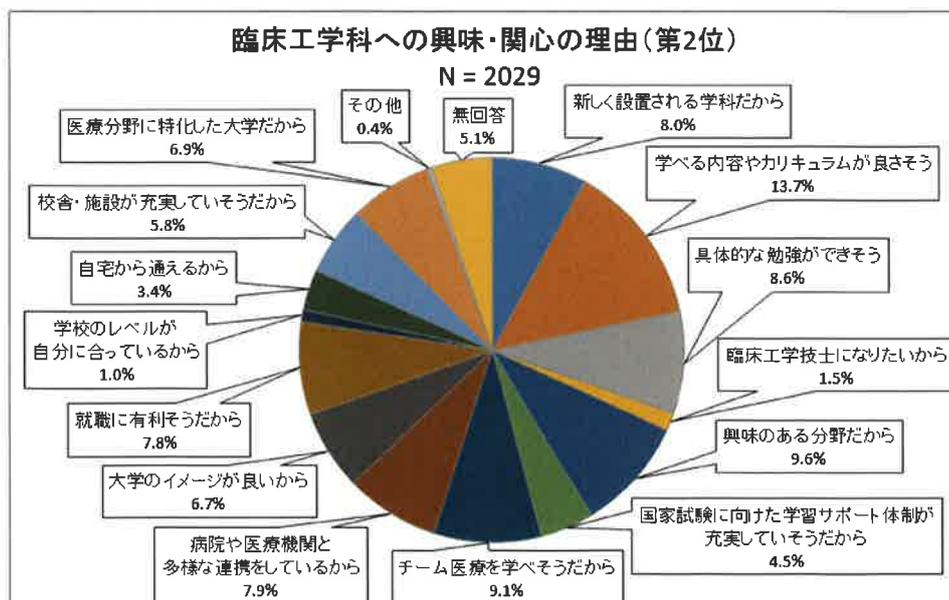


6-2 興味・関心の理由（第2位）について

「(5) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への興味・関心について」にて森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科に興味・関心を示した 2,029 人に、興味・関心の理由（第2位）について調査した。その結果、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」が277人（13.7%）と最も多く、次いで「興味のある分野だから」195人（9.6%）、「チーム医療を学べそうだから」184人（9.1%）、「具体的な勉強ができそう」174人（8.6%）、「新しく設置される学科だから」が162人（8.0%）、「病院や医療機関と多様な連携をしているから」161人（7.9%）、「就職に有利そうだから」159人（7.8%）、「医療分野に特化した大学だから」139人（6.9%）、「大学のイメージが良いから」136人（6.7%）、「校舎・施設が充実していそうだから」118人（5.8%）、「無回答」104人（5.1%）、「国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから」92人（4.5%）、「自宅から通えるから」69人（3.4%）、「臨床工学技士になりたいから」30人（1.5%）、「学校のレベルが自分に合っているから」21人（1.0%）、「その他」8人（0.4%）の順になっている。

臨床工学科への興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	162	8.0
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	277	13.7
3	具体的な勉強ができそう	174	8.6
4	臨床工学技士になりたいから	30	1.5
5	興味のある分野だから	195	9.6
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	92	4.5
7	チーム医療を学べそうだから	184	9.1
8	病院や医療機関と多様な連携をしているから	161	7.9
9	大学のイメージが良いから	136	6.7
10	就職に有利そうだから	159	7.8
11	学校のレベルが自分に合っているから	21	1.0
12	自宅から通えるから	69	3.4
13	校舎・施設が充実していそうだから	118	5.8
14	医療分野に特化した大学だから	139	6.9
15	その他	8	0.4
	無回答	104	5.1
	N (%ベース)	2,029	100

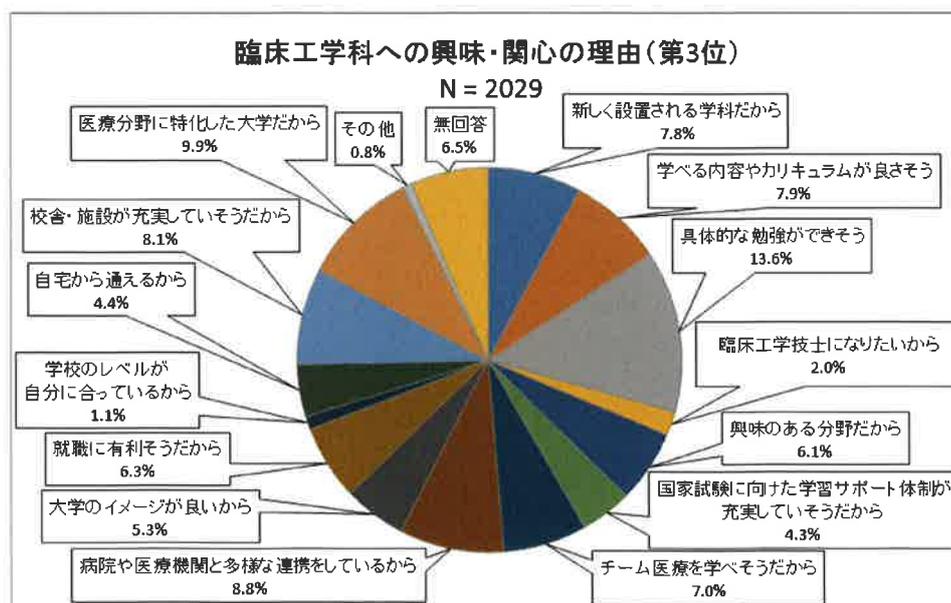


6-3 興味・関心の理由（第3位）について

「(5) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への興味・関心について」にて森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科に興味・関心を示した 2,029 人に、興味・関心の理由（第3位）について調査した。その結果、「具体的な勉強ができそう」が276人（13.6%）と最も多く、次いで「医療分野に特化した大学だから」200人（9.9%）、「病院や医療機関と多様な連携をしているから」179人（8.8%）、「校舎・施設が充実していそうだから」165人（8.1%）、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」160人（7.9%）、「新しく設置される学科だから」が158人（7.8%）、「チーム医療を学べそうだから」142人（7.0%）、「無回答」131人（6.5%）、「就職に有利そうだから」128人（6.3%）、「興味のある分野だから」124人（6.1%）、「大学のイメージが良いから」108人（5.3%）、「自宅から通えるから」89人（4.4%）、「国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから」88人（4.3%）、「臨床工学技士になりたいから」41人（2.0%）、「学校のレベルが自分に合っているから」23人（1.1%）、「その他」17人（0.8%）の順になっている。

臨床工学科への興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	158	7.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	160	7.9
3	具体的な勉強ができそう	276	13.6
4	臨床工学技士になりたいから	41	2.0
5	興味のある分野だから	124	6.1
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	88	4.3
7	チーム医療を学べそうだから	142	7.0
8	病院や医療機関と多様な連携をしているから	179	8.8
9	大学のイメージが良いから	108	5.3
10	就職に有利そうだから	128	6.3
11	学校のレベルが自分に合っているから	23	1.1
12	自宅から通えるから	89	4.4
13	校舎・施設が充実していそうだから	165	8.1
14	医療分野に特化した大学だから	200	9.9
15	その他	17	0.8
	無回答	131	6.5
	N (%ベース)	2,029	100

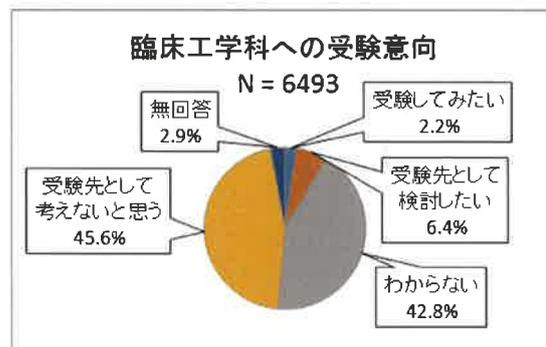


(7) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への受験意向について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 12,875 人のうち、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」、「わからない」、「その他」と回答した 6,493 人に、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への受験意向について調査した。

その結果は、「受験してみたい」144 人 (2.2%)、「受験先として検討したい」414 人 (6.4%) となり、合計 558 人 (8.6%) が森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への受験意向を示している。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	144	2.2
2	受験先として検討したい	414	6.4
3	わからない	2,781	42.8
4	受験先として考えないと思う	2,963	45.6
	無回答	191	2.9
	N (%ベース)	6,493	100

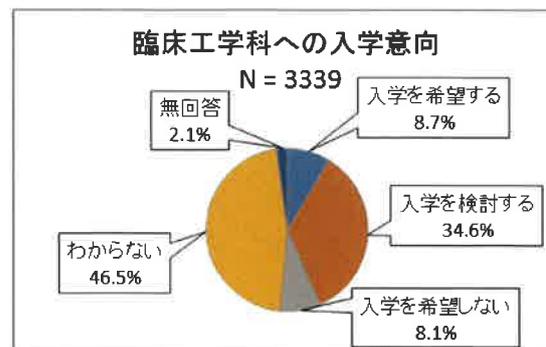


(8) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への入学意向について

「(7) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への受験意向について」にて、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への受験意向を示した 558 人と、「わからない」と回答した 2,781 人、合計 3,339 人に、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」が 289 人 (8.7%)、「入学を検討する」が 1,156 人 (34.6%) となり、合計 1,445 人 (43.3%) が森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への入学意向を示している。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	289	8.7
2	入学を検討する	1,156	34.6
3	入学を希望しない	272	8.1
4	わからない	1,553	46.5
	無回答	69	2.1
	N (%ベース)	3,339	100



3. 調査結果のまとめ

「(7) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への受験意向について」と、「(8) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への入学意向について」の調査結果をクロス集計した結果は下表である。

		受験意向			
		合計	受験してみたい	受験先として検討したい	わからない
上段:度数	下段:%				
入学意向	全体	3339 100.0	144 4.3	414 12.4	2781 83.3
	入学を希望する	289 100.0	93 32.2	64 22.1	132 45.7
	入学を検討する	1156 100.0	38 3.3	286 24.7	832 72.0
	入学を希望しない	272 100.0	3 1.1	15 5.5	254 93.4
	わからない	1553 100.0	9 0.6	42 2.7	1502 96.7
	無回答	69 100.0	1 1.4	7 10.1	61 88.4

上記の表から森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科に「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生は93人となり、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の入学定員60人に対して約1.55倍の入学意向を実数にて確保したといえる。

また、保健医療学部臨床工学科に「受験してみたい」または「受験先として検討したい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生は合計157人となり、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の入学定員60人に対し、約2.61倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものと考えられる。

調査票

森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科（仮称）の設置に係るアンケート調査

- ・森ノ宮医療大学では、平成30年4月を目処に、保健医療学部 臨床工学科（仮称）の新規設置を計画しております。このアンケート調査は、その計画の基礎資料にするため、高校2年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接記入してください。

森ノ宮医療大学において設置を計画している保健医療学部 臨床工学科（仮称）について

■臨床工学科（仮称）

- ・入学定員（予定）：60名
- ・取得可能な資格（予定）：臨床工学技士国家試験受験資格
- ・卒業後の想定進路：総合病院、クリニック、人工透析センター、医療機器メーカー など

*臨床工学科（仮称）の設置は計画中であり、学科名称、入学定員、取得可能資格等については変更する場合があります。

[あなたに関することについてお答えください]

問1. あなたの学年をおたずねします。

1. 高校2年生 2. その他（ ）

【回答欄】

問2. あなたの性別についておたずねします。

1. 男子 2. 女子

問3. あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

1. 大阪府 2. 滋賀県 3. 京都府 4. 兵庫県 5. 奈良県
6. 和歌山県 7. その他（ ）

[卒業後の進路についてお答えください]

問4. あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から 1つだけ選んでください。

1. 大学進学
2. 短期大学進学
3. 専門学校進学
4. 就職
5. その他（ ）

1～3 を選ばれた方は 問5 へお進みください。
4、5 を選ばれた方は問11へお進みください。

問5. あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを第2位まで選んでください。回答後は問6へお進みください。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 医学・歯学・薬学関係 | 10. 理学・工学・生命科学関係 |
| 2. 看護学関係 | 11. 情報関係 |
| 3. リハビリテーション関係 | 12. 建築関係 |
| 4. 保健・医療関係（選択肢1,2,3以外） | 13. 農学・獣医学関係 |
| 5. 社会学・社会福祉学関係 | 14. 家政学関係（被服・住居） |
| 6. 健康・スポーツ・体育学関係 | 15. 食物学・栄養学関係 |
| 7. 文学・史学・文化・外国語関係 | 16. 教育学・保育関係 |
| 8. 哲学・宗教学・心理学関係 | 17. 芸術学関係 |
| 9. 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 18. その他（具体的に ） |

第1位

第2位

次のページへお進みください



〔 ここからは保健医療学部 臨床工学科（仮称）の概要（リーフレット）と、
類似する大学・学部・学科一覧をご覧ください。 〕

問 6. あなたは森ノ宮医療大学を知っていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1. 森ノ宮医療大学を進学先の候補の一つとして考えている
 - 2. 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
 - 3. 大学の評判をなんとなく知っている
 - 4. 大学の名前を聞いたことがある
 - 5. 知らなかった
-

問 7. あなたは、森ノ宮医療大学の保健医療学部 臨床工学科（仮称）について、どのように考えますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1. 大いに興味・関心がある
 - 2. 興味・関心がある
 - 3. すこし興味・関心がある
 - 4. わからない
 - 5. その他（具体的に
 - 6. 興味・関心はない
- }

1～3 を選ばれた方は 問 8 へお進みください。

4、5 を選ばれた方は 問 9 へお進みください。

6 を選ばれた方は 問 11 へお進みください。

問 8. 問 7 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から 第 3 位まで選んでください。回答後は問 9 へお進みください。

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 新しく設置される学科だから 2. 学べる内容やカリキュラムが良さそう 3. 具体的な勉強ができそう 4. 臨床工学技士になりたいから 5. 興味のある分野だから 6. 国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから 7. チーム医療を学べそうだから 8. 病院や医療機関と多様な連携をしているから | <ul style="list-style-type: none"> 9. 大学のイメージが良いから 10. 就職に有利そうだから 11. 学校のレベルが自分に合っているから 12. 自宅から通えるから 13. 校舎・施設が充実していそうだから 14. 医療分野に特化した大学だから 15. その他 <div style="margin-left: 20px;"> <p>（具体的に:</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <p>）</p> </div> | <p>第 1 位</p> <p>第 2 位</p> <p>第 3 位</p> | <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> |
|--|---|--|---|

問 9. あなたは森ノ宮医療大学の保健医療学部 臨床工学科（仮称）を受験したいと思いませんか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1. 受験してみたい
 - 2. 受験先として検討したい
 - 3. わからない
 - 4. 受験先として考えないと思う
- }

1～3 を選ばれた方は 問 10 へお進みください。

4 を選ばれた方は 問 11 へお進みください。

問 10. 森ノ宮医療大学の保健医療学部 臨床工学科（仮称）に受験し合格した場合の入学意向について、次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1. 入学を希望する
 - 2. 入学を検討する
 - 3. 入学を希望しない
 - 4. わからない
-

問 11. 森ノ宮医療大学の新学科の設置計画にあたって、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

◆ご協力ありがとうございました。

類似する大学・学部・学科一覧

森ノ宮医療大学が設置を計画している学科：保健医療学部 臨床工学科（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
三重県	私立	鈴鹿医療科学大学	医用工学部	臨床工学科	40	200,000	1,300,000	0	93,370	1,593,370
大阪府	私立	大阪電気通信大学	医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	200,000	985,000	390,000	47,000	1,622,000
大阪府	私立	藍野大学	医療保健学部	臨床工学科	40	250,000	1,150,000	516,333	17,000	1,933,333
兵庫県	私立	姫路獨協大学	医療保健学部	臨床工学科	40	300,000	1,100,000	400,000	53,300	1,853,300
和歌山県	私立	近畿大学	生物理工学部	医用工学科	50	250,000	935,000	430,000	15,500	1,630,500
愛知県	私立	藤田保健衛生大学	医療科学部	臨床工学科	40	300,000	800,000	550,000	146,000	1,796,000
愛知県	私立	中部大学	生命健康科学部	臨床工学科	40	280,000	930,000	440,000	55,370	1,705,370
新潟県	私立	新潟医療福祉大学	医療技術学部	臨床技術学科	80	350,000	1,000,000	500,000	33,600	1,883,600
岡山県	私立	岡山理科大学	工学部	生命医療工学科	60	220,000	845,000	465,000	0	1,530,000
岡山県	私立	川崎医療福祉大学	医療技術学部	臨床工学科	60	300,000	1,000,000	400,000	60,000	1,760,000
広島県	私立	広島工業大学	生命学部	生体医工学科	60	250,000	1,120,000	320,000	41,000	1,731,000
広島県	私立	広島国際大学	保健医療学部	医療技術学科 臨床工学専攻	50	250,000	1,530,000	0	16,000	1,796,000
香川県	私立	徳島文理大学	保健福祉学部	臨床工学科	45	280,000	920,000	410,000	23,720	1,633,720
大阪府	私立	森ノ宮医療大学	保健医療学部	臨床工学科（仮称）	60 （予定）	250,000	900,000	680,000	129,000	1,959,000

注1) 各大学情報については、日本私立大学団体連合会発行の学生納付金等調査（平成28年度入学生）および公式ウェブサイト等により調査しました。

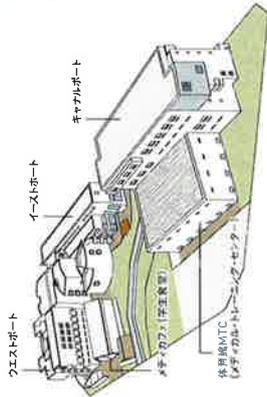
注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。

注3) 森ノ宮医療大学の学費は予定であり、変更する場合があります。

CAMPUS

2016年に新棟が完成し、躍進を続ける
ベイエリアのキャンパスが学びの舞台。

キャンパスは、大規模再建のベイエリア、海を身辺に感じながら、協力が
系ら新しい学びの場が広がっています。2016年には、1階建ての学食
で「キャンパス・ト」も完成。夜はと学生が一分もムダに学食で
(ラーニングコモンズ)や交流広場なども新設され、より充実した施設で
実習のスキルを身に付けていくことができます。



■図書館【メディアカル・アイ】

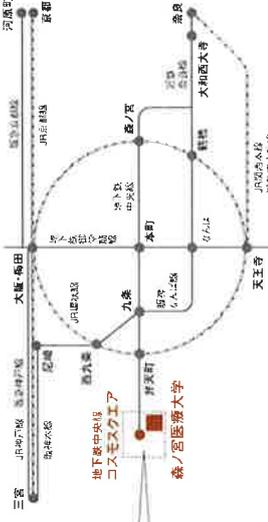
医学分野の豊富な雑誌や電子
ジャーナルをはじめ、パソコンを
使って検索できる雑誌、グループで
活用できる個室などを設置、学生
の学習・研究拠点として充実した設
置をすすめています。



ACCESS



大塚市常盤下駅前交差点
「コスモスクエア」駅2番出口より
徒歩**1分** (南へ約90m)



主要ターミナル駅
「大塚(有田)」「なんば」「天王寺」から
「神戸(三宮)」「京都」「奈良」
各方面から**約60分**
30分以内

森ノ宮医療大学

0120-68-8908

無料請求・お問い合わせは

〒559-4841 大阪府足立区藤原1-26-16
TEL: 06-4614-4911 [E-mail] info@moriomiya-u.ac.jp

【保健医療学部】
 ■看護学科
 ■理学療法学科
 ■作業療法学科
 ■鍼灸学科 3年コース
 ■鍼灸学科 3年コース/スポーツ特修コース
 ■助産学専攻科 [1年制]

【大学院】
 保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程
 【専攻科】
 助産学専攻科 [1年制]

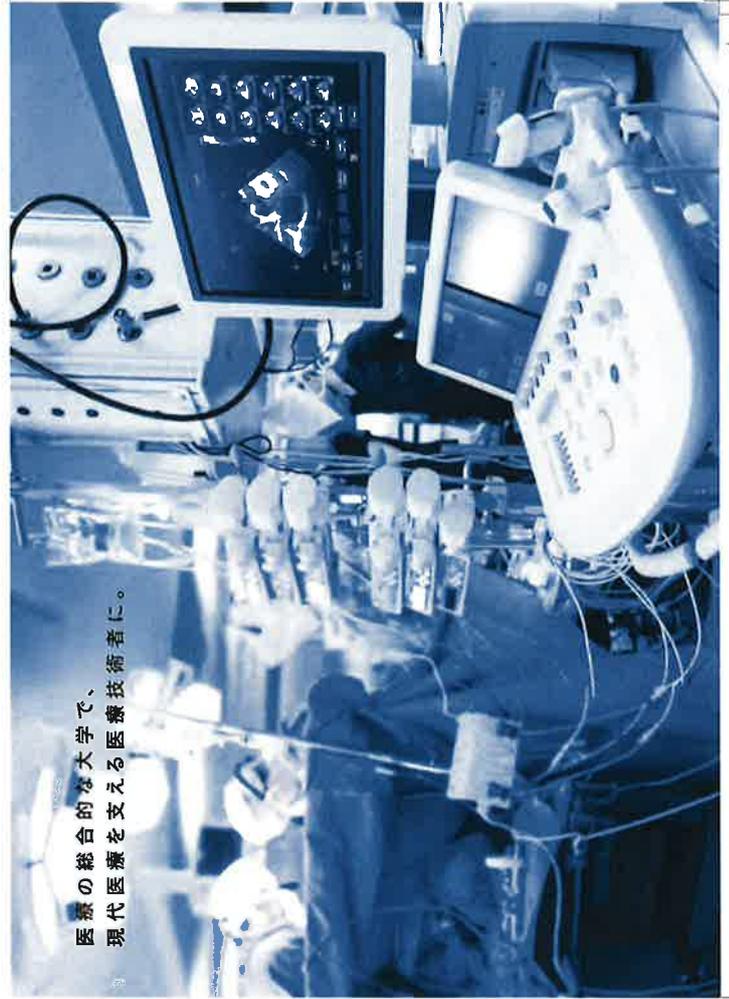
2016年9月発行

2018年4月 臨床工学科 誕生予定

入学定員60名(予定)
(仮称・構想中)

※構想中であるため、今後、名称・内容・定員などは変更する場合があります。

想いのすべてを、医療の力に。

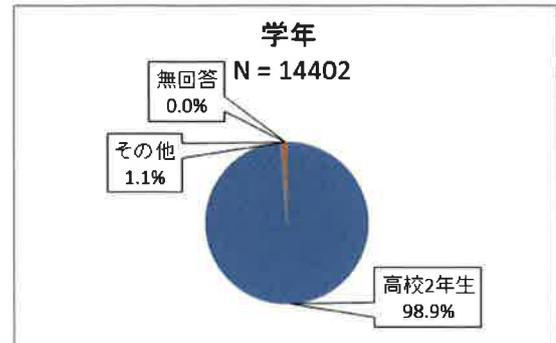


医療の総合的な大学で、
現代医療を支える医療技術者に。

単純集計表

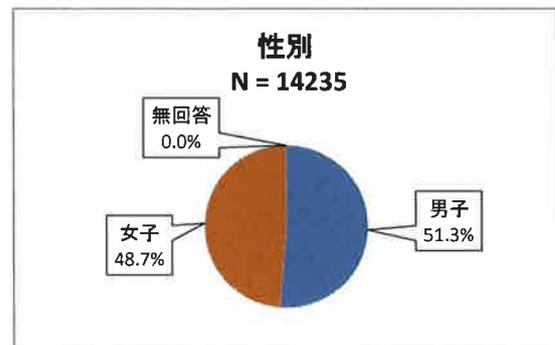
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	14,235	98.9
2	その他	164	1.1
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	14,402	100



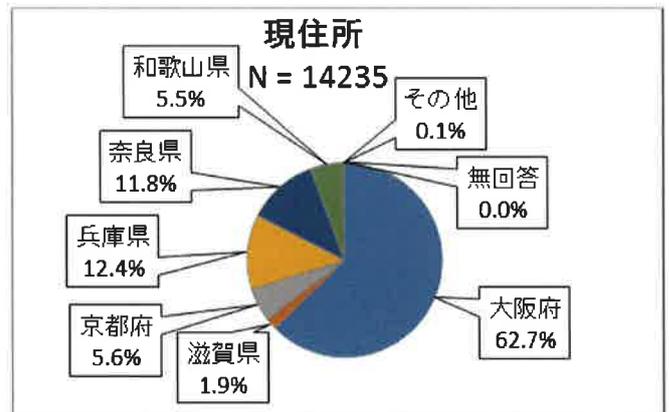
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	7,296	51.3
2	女子	6,936	48.7
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	14,235	100



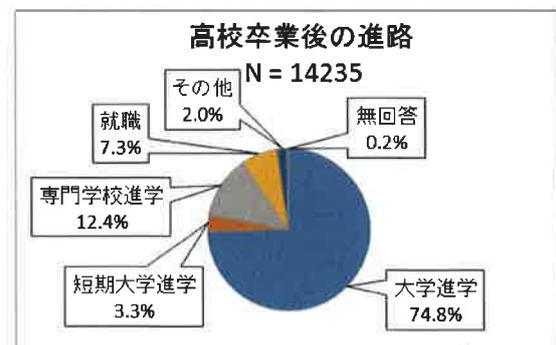
現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大阪府	8,912	62.7
2	滋賀県	277	1.9
3	京都府	797	5.6
4	兵庫県	1,761	12.4
5	奈良県	1,678	11.8
6	和歌山県	790	5.5
7	その他	17	0.1
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	14,235	100



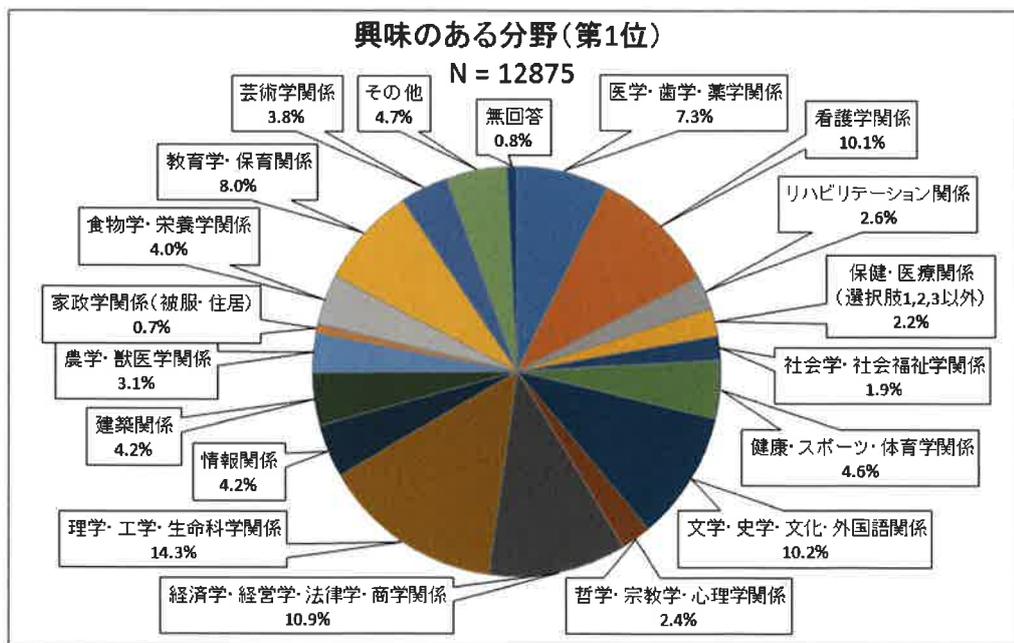
高校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	10,640	74.8
2	短期大学進学	472	3.3
3	専門学校進学	1,763	12.4
4	就職	1,042	7.3
5	その他	284	2.0
	無回答	34	0.2
	N (%ベース)	14,235	100



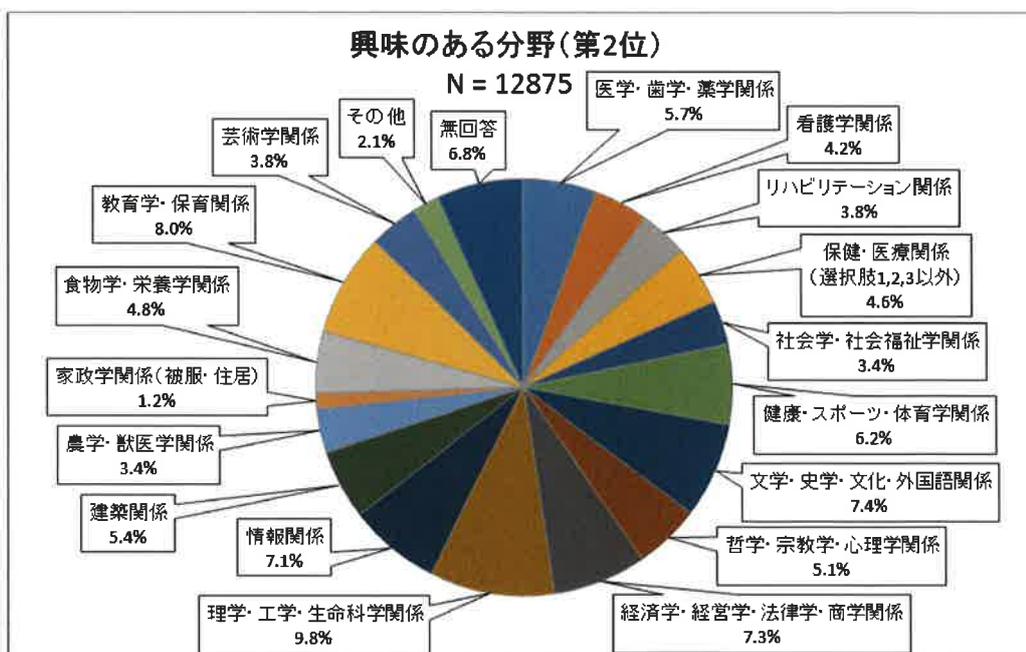
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医学・歯学・薬学関係	942	7.3
2	看護学関係	1,301	10.1
3	リハビリテーション関係	331	2.6
4	保健・医療関係(選択肢1,2,3以外)	280	2.2
5	社会学・社会福祉学関係	247	1.9
6	健康・スポーツ・体育学関係	592	4.6
7	文学・史学・文化・外国語関係	1,319	10.2
8	哲学・宗教学・心理学関係	305	2.4
9	経済学・経営学・法学・商学関係	1,403	10.9
10	理学・工学・生命科学関係	1,846	14.3
11	情報関係	544	4.2
12	建築関係	535	4.2
13	農学・獣医学関係	395	3.1
14	家政学関係(被服・住居)	85	0.7
15	食物学・栄養学関係	518	4.0
16	教育学・保育関係	1,031	8.0
17	芸術学関係	495	3.8
18	その他	608	4.7
	無回答	98	0.8
	N (%ベース)	12,875	100



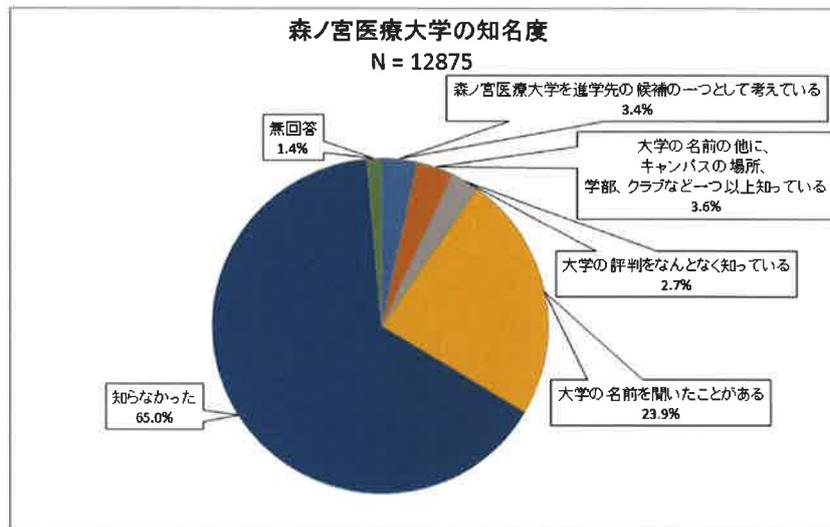
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医学・歯学・薬学関係	738	5.7
2	看護学関係	535	4.2
3	リハビリテーション関係	486	3.8
4	保健・医療関係(選択肢1,2,3以外)	588	4.6
5	社会学・社会福祉学関係	440	3.4
6	健康・スポーツ・体育学関係	800	6.2
7	文学・史学・文化・外国語関係	947	7.4
8	哲学・宗教学・心理学関係	660	5.1
9	経済学・経営学・法律学・商学関係	941	7.3
10	理学・工学・生命科学関係	1,262	9.8
11	情報関係	914	7.1
12	建築関係	691	5.4
13	農学・獣医学関係	439	3.4
14	家政学関係(被服・住居)	160	1.2
15	食物学・栄養学関係	615	4.8
16	教育学・保育関係	1,028	8.0
17	芸術学関係	493	3.8
18	その他	265	2.1
	無回答	873	6.8
	N (%ベース)	12,875	100



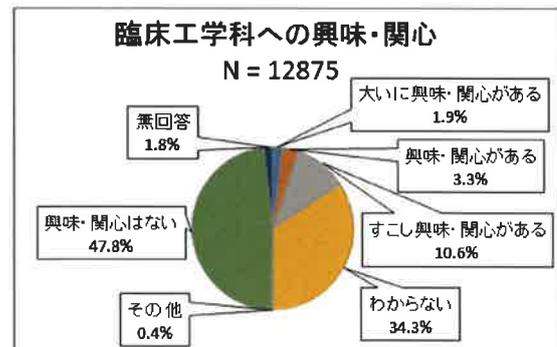
森ノ宮医療大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	森ノ宮医療大学を進学先の候補の一つとして考えている	439	3.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	461	3.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	343	2.7
4	大学の名前を聞いたことがある	3,078	23.9
5	知らなかった	8,378	65.0
	無回答	176	1.4
	N (%ベース)	12,875	100



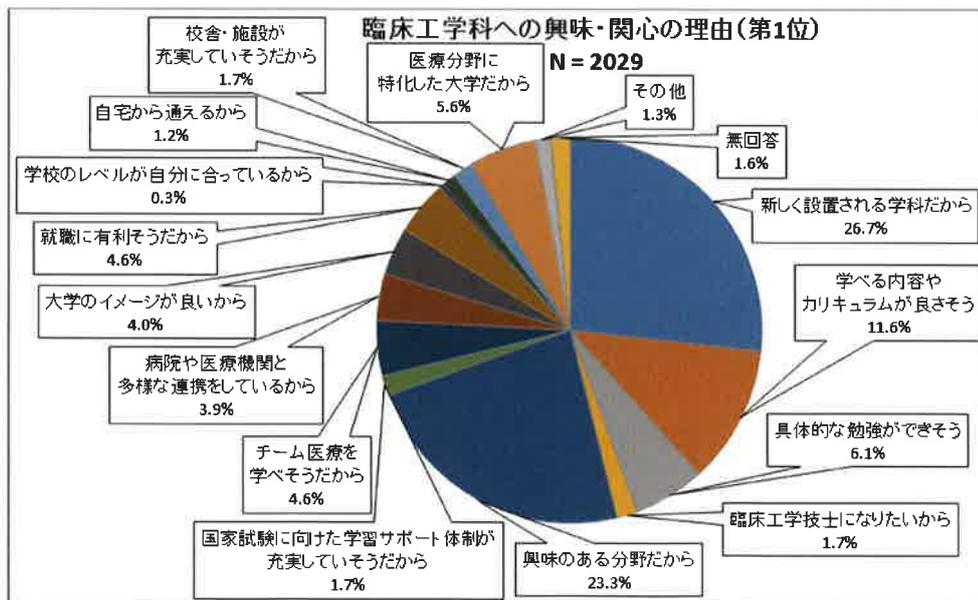
臨床工学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	240	1.9
2	興味・関心がある	427	3.3
3	すこし興味・関心がある	1,362	10.6
4	わからない	4,411	34.3
5	その他	53	0.4
6	興味・関心はない	6,152	47.8
	無回答	230	1.8
	N (%ベース)	12,875	100



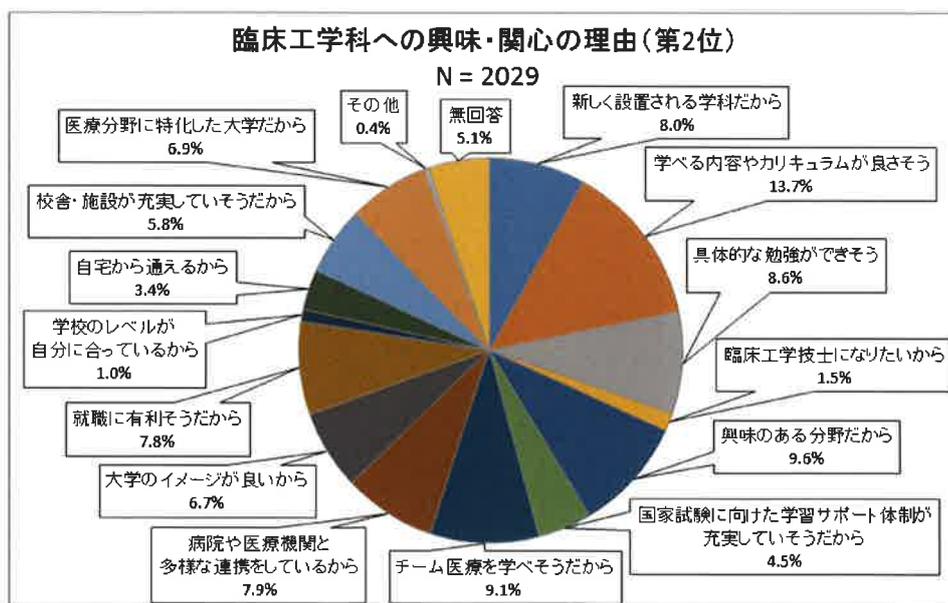
臨床工学科への興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	541	26.7
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	236	11.6
3	具体的な勉強ができそう	123	6.1
4	臨床工学技士になりたいから	35	1.7
5	興味のある分野だから	472	23.3
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	35	1.7
7	チーム医療を学べそうだから	93	4.6
8	病院や医療機関と多様な連携をしているから	79	3.9
9	大学のイメージが良いから	82	4.0
10	就職に有利そうだから	94	4.6
11	学校のレベルが自分に合っているから	6	0.3
12	自宅から通えるから	25	1.2
13	校舎・施設が充実していそうだから	35	1.7
14	医療分野に特化した大学だから	114	5.6
15	その他	26	1.3
	無回答	33	1.6
	N (%ベース)	2,029	100



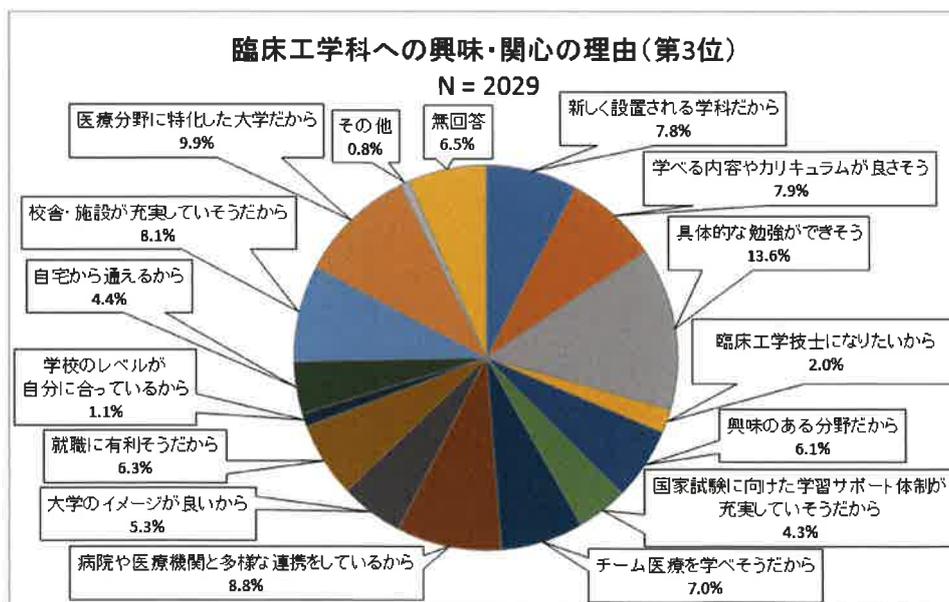
臨床工学科への興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	162	8.0
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	277	13.7
3	具体的な勉強ができそう	174	8.6
4	臨床工学技士になりたいから	30	1.5
5	興味のある分野だから	195	9.6
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	92	4.5
7	チーム医療を学べそうだから	184	9.1
8	病院や医療機関と多様な連携をしているから	161	7.9
9	大学のイメージが良いから	136	6.7
10	就職に有利そうだから	159	7.8
11	学校のレベルが自分に合っているから	21	1.0
12	自宅から通えるから	69	3.4
13	校舎・施設が充実していそうだから	118	5.8
14	医療分野に特化した大学だから	139	6.9
15	その他	8	0.4
	無回答	104	5.1
	N (%ベース)	2,029	100



臨床工学科への興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	158	7.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	160	7.9
3	具体的な勉強ができそう	276	13.6
4	臨床工学技士になりたいから	41	2.0
5	興味のある分野だから	124	6.1
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	88	4.3
7	チーム医療を学べそうだから	142	7.0
8	病院や医療機関と多様な連携をしているから	179	8.8
9	大学のイメージが良いから	108	5.3
10	就職に有利そうだから	128	6.3
11	学校のレベルが自分に合っているから	23	1.1
12	自宅から通えるから	89	4.4
13	校舎・施設が充実していそうだから	165	8.1
14	医療分野に特化した大学だから	200	9.9
15	その他	17	0.8
	無回答	131	6.5
	N (%ベース)	2,029	100



競合大学学納金一覧(臨床工学技士養成校)

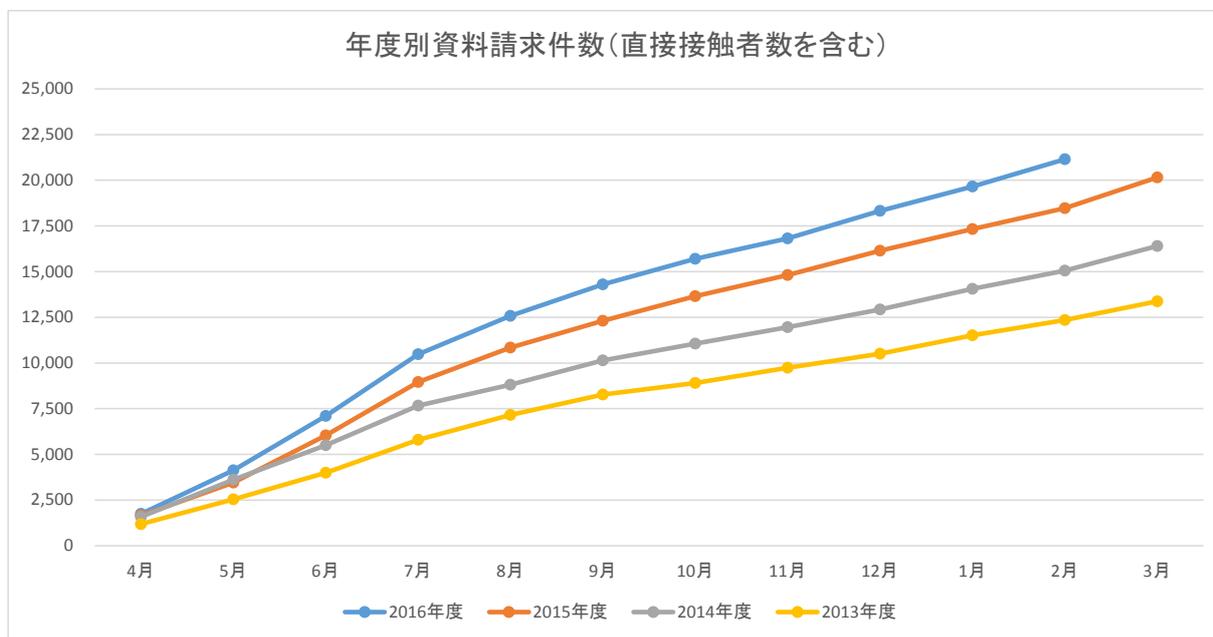
所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学金	授業料(A)	施設設備費等(B)	合計(A+B)
大阪府	私立	藍野大学	医療保健学部	臨床工学科	40	¥250,000	¥1,150,000	¥516,333	¥1,666,333
大阪府	私立	大阪電気通信大学	医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	¥200,000	¥985,000	¥390,000	¥1,375,000
兵庫県	私立	姫路獨協大学	医療保健学部	臨床工学科	40	¥300,000	¥1,100,000	¥400,000	¥1,500,000
和歌山県	私立	近畿大学	生物理工学部	医用工学科	50	¥250,000	¥935,000	¥430,000	¥1,365,000
三重県	私立	鈴鹿医療科学大学	医用工学部	臨床工学科	40	¥200,000	¥1,300,000	¥0	¥1,300,000
大阪府	私立	森ノ宮医療大学	保健医療学部	臨床工学科 (仮称)	60	¥250,000	¥900,000	¥680,000	¥1,580,000
				鍼灸学科	60	¥250,000	¥900,000	¥680,000	¥1,580,000
				理学療法学科	60	¥250,000	¥900,000	¥680,000	¥1,580,000
				看護学科	80	¥250,000	¥900,000	¥680,000	¥1,580,000
				作業療法学科	40	¥250,000	¥900,000	¥680,000	¥1,580,000
				臨床検査学科	60	¥250,000	¥900,000	¥680,000	¥1,580,000

※各大学情報については、日本私立大学団体連合会発行の学生納付金等調査(平成28年度入学生)および公式ウェブサイトにより調査

年度別資料請求件数(直接接触者数を含む)

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別累積請求数 (件)	2016年度	1,741	4,130	7,105	10,478	12,578	14,307	15,704	16,816	18,324	19,660	21,148		21,148
	2015年度	1,649	3,459	6,044	8,961	10,837	12,311	13,657	14,814	16,149	17,329	18,470	20,153	20,153
	2014年度	1,579	3,619	5,502	7,668	8,808	10,143	11,058	11,960	12,935	14,065	15,057	16,401	16,401
	2013年度	1,186	2,545	3,999	5,802	7,150	8,277	8,911	9,741	10,507	11,517	12,348	13,378	13,378

※2017年3月8日現在



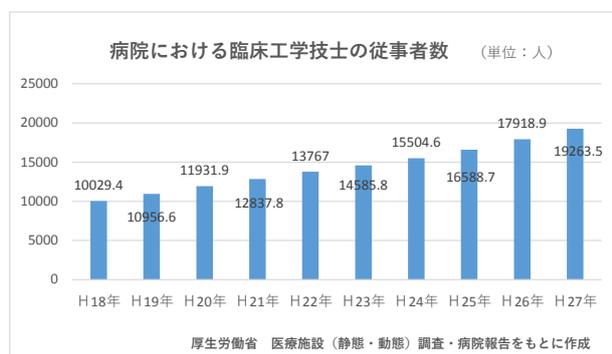
職種別に見た病院の従事者数（常勤換算）

（平成29年1月27日現在）

	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
看護師	596544.9	618406.4	636970.8	660142.9	682603.9	704626.7	725559.8	747009.2	767700.8	787404.2
理学療法士	31385.7	34782.7	38675.3	42813	47541.2	51800.1	56851.2	61720.6	66151.4	70492.4
臨床工学技士	10029.4	10956.6	11931.9	12837.8	13767	14585.8	15504.6	16588.7	17918.9	19263.5

（単位：人）

厚生労働省 医療施設（静態・動態）調査・病院報告をもとに作成

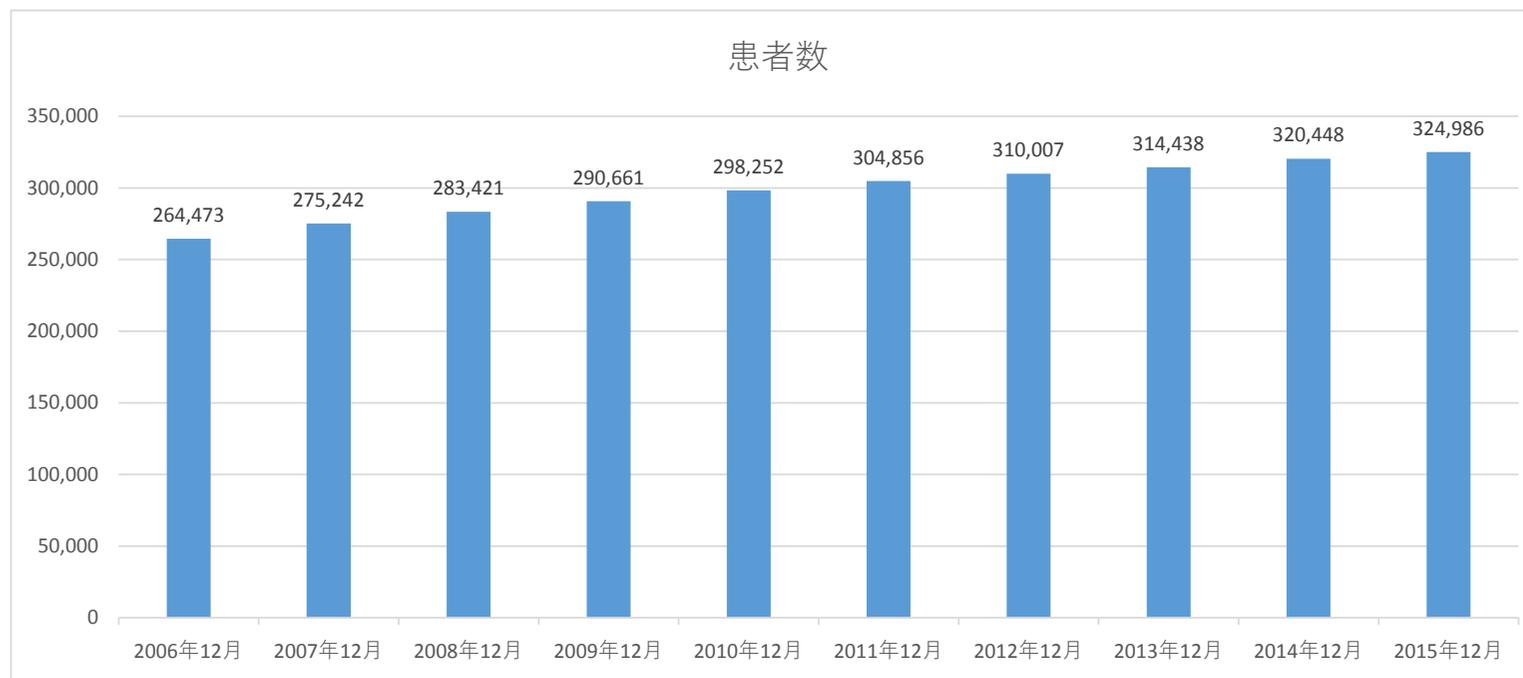


慢性透析患者数の推移（2006年～2015年）

一般社団法人 日本透析医学会「図説 わが国の慢性透析療法の現況 2015年12月31日現在」p.3掲載の「慢性透析患者数の推移」のデータから作成

年月	2006年12月	2007年12月	2008年12月	2009年12月	2010年12月	2011年12月	2012年12月	2013年12月	2014年12月	2015年12月
患者数	264,473	275,242	283,421	290,661	298,252	304,856	310,007	314,438	320,448	324,986

(単位：人)



近畿の臨床工学技士養成校一覧

(平成29年1月26日現在)

一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会のHPを基に作成

番号	都道府県	設置者	種別	名称	郵便番号	住所	定員
1	三重県	私立	大学	鈴鹿医療科学大学 医用工学部 臨床工学科	510-0293	三重県鈴鹿市岸岡町1001-1	40名
2	兵庫県	私立	大学	姫路獨協大学 医療保健学部 臨床工学科	670-8524	兵庫県姫路市上大野7-2-1	40名
3	和歌山県	私立	大学	近畿大学 生物理工学部 医用工学科	649-6493	和歌山和歌山県紀の川市西三谷930	50名
4	兵庫県	私立	専門	神戸総合医療専門学校 臨床工学科	654-0142	兵庫県神戸市須磨区友が丘7-1-21	70名
5	京都府	私立	専門	京都保健衛生専門学校 臨床工学技士専攻科	602-8155	京都府京都市上京区千本通竹屋町東入主税町910	24名
6	大阪府	私立	専門	大阪医専 臨床工学学科	531-0076	大阪府大阪市北区大淀中1-10-3	120名
7	大阪府	私立	専門	大阪ハイテクノロジー専門学校 臨床工学技士科	532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原1-2-43	200名
8	大阪府	私立	専門	日本メディカル福祉専門学校 臨床工学科	533-0015	大阪府大阪市東淀川区大隅1-3-14	80名
9	大阪府	私立	大学	藍野大学 医療保健学部 臨床工学科	567-0012	大阪府茨木市東太田4-5-4	40名
10	大阪府	私立	大学	大阪電気通信大学 医療福祉工学部 医療福祉工学科	575-0063	大阪府四條畷市清滝1130-70	80名

近畿2府4県の養成校 10校 (大学5校、専門学校5校)

うち、大阪府の養成校 5校 (大学2校、専門学校3校)

近畿の臨床工学技士養成校における求人状況（平成27年度）
（各校のホームページ等をもとに作成）
（求人倍率は入学定員に対する倍率）

	a大学	b大学	c専門学校
求人件数	227件	305件	—
求人数	485名	553名	919件
求人倍率	12.1倍	13.8倍	13.1倍

森ノ宮医療大学における既設学科の就職状況

(平成28年5月1日現在)

(その他既存の臨床検査学科および作業療法学科においては平成28年度開設のため、データはございません。)

学部	学科	平成25年度					平成26年度					平成27年度				
		卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数	卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数	卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数
保健医療 学部	鍼灸学科	52	32	32	100	268	46	33	33	100	283	52	39	39	100	277
	理学療法学科	54	53	53	100	700	73	64	64	100	683	59	46	46	100	714
	看護学科					352	65	61	61	100	373	81	72	72	100	428
保健医療学部計		106	85	85	100	1320	184	158	158	100	1339	192	157	157	100	1419
合 計		106	85	85	100	1320	184	158	158	100	1339	192	157	157	100	1419

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の
卒業生に対する病院・医療系企業等の採用意向に関する
アンケート調査報告

平成29年2月

一般財団法人 日本開発構想研究所

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の卒業生に対する 病院・医療系企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成30年4月に予定している森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の開設に向け、森ノ宮医療大学卒業生の採用実績のある、または卒業生の就職が見込まれる病院・医療系企業等の採用担当者にアンケートを実施し、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の卒業生に対する病院・医療系企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

森ノ宮医療大学卒業生の採用実績のある病院・医療系企業等、または卒業生の就職が見込まれる病院・医療系企業等 3,924 施設の採用担当者にアンケートを実施し、673 件の有効回答があった。

(3) 調査方法

森ノ宮医療大学卒業生の採用実績のある、または卒業生の就職が見込まれる病院・医療系企業等 3,924 施設の採用担当者にアンケート用紙及び森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ病院から直接郵送。

集計結果より、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成28年11月～平成29年2月

(5) 有効回収率等

配布数 : 3,924 施設

有効回答数 : 673 件

有効回収率 : 約 17.1%

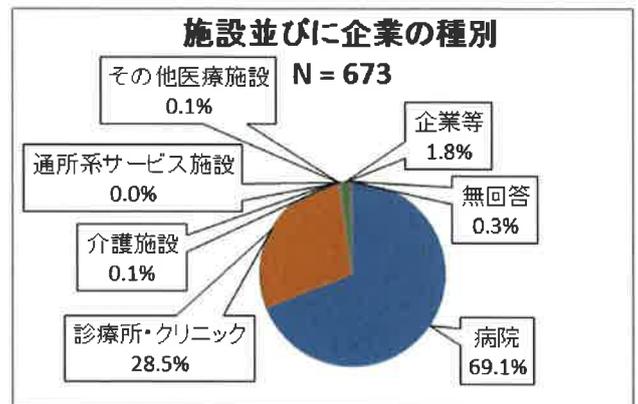
※森ノ宮医療大学にて設置を構想している保健医療学部臨床工学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 施設の種別について

施設の種別について調査した結果、回答のあった病院 673 件のうち、「病院」が 465 件 (69.1%) と最も多く、次いで「診療所・クリニック」192 件 (28.5%)、「企業等」12 件 (1.8%)、「無回答」2 件 (0.3%)、「介護施設」1 件 (0.1%)、「その他医療施設」1 件 (0.1%) の順になっている。

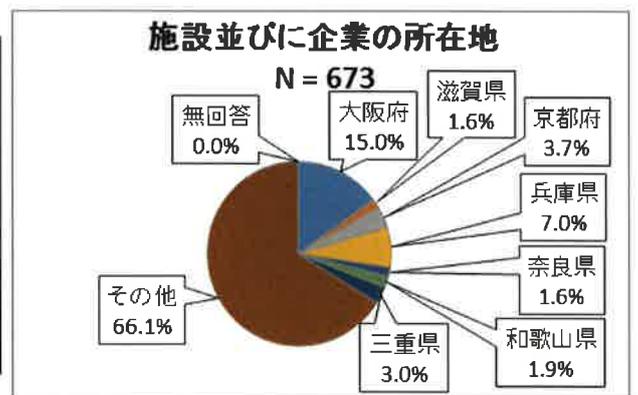
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	465	69.1
2	診療所・クリニック	192	28.5
3	介護施設	1	0.1
4	通所系サービス施設	0	0.0
5	その他医療施設	1	0.1
6	企業等	12	1.8
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	673	100



(2) 施設の所在地について

施設の所在地について調査した結果、回答のあった病院 673 件のうち、「その他」が 445 件 (66.1%) と最も多く、次いで「大阪府」101 件 (15.0%)、「兵庫県」47 件 (7.0%)、「京都府」25 件 (3.7%)、「三重県」20 件 (3.0%)、「和歌山県」13 件 (1.9%)、「滋賀県」11 件 (1.6%)、「奈良県」11 件 (1.6%) の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大阪府	101	15.0
2	滋賀県	11	1.6
3	京都府	25	3.7
4	兵庫県	47	7.0
5	奈良県	11	1.6
6	和歌山県	13	1.9
7	三重県	20	3.0
8	その他	445	66.1
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	673	100

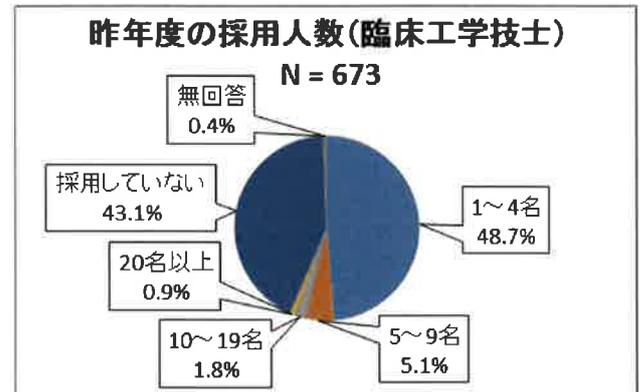


(3) 昨年度の採用人数（臨床工学技士）について

昨年度の採用人数（臨床工学技士）について調査した結果、回答のあった病院 673 件のうち、「1~4 名」が 328 件（48.7%）と最も多く、次いで「採用していない」290 件（43.1%）、「5~9 名」34 件（5.1%）、「10~19 名」12 件（1.8%）、「20 名以上」6 件（0.9%）、「無回答」3 件（0.4%）の順になっている。

昨年度の採用人数(臨床工学技士)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1~4名	328	48.7
2	5~9名	34	5.1
3	10~19名	12	1.8
4	20名以上	6	0.9
5	採用していない	290	43.1
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	673	100

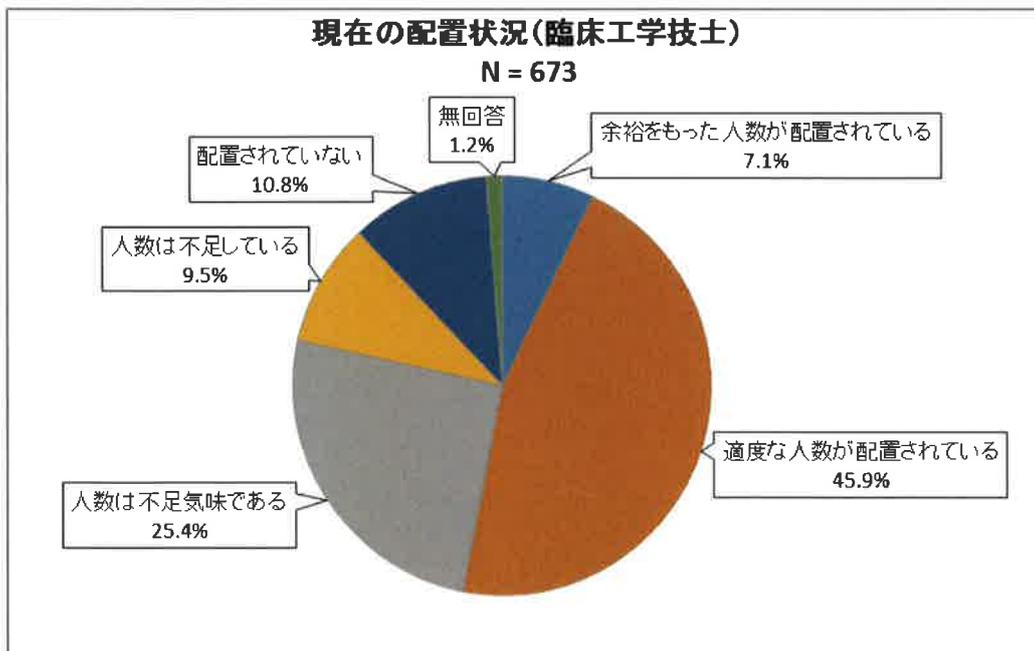


(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について

現在の配置状況（臨床工学技士）について調査した結果、回答のあった病院 673 件のうち、「適度な人数が配置されている」が 309 件（45.9%）と最も多く、次いで「人数は不足気味である」171 件（25.4%）、「配置されていない」73 件（10.8%）、「人数は不足している」64 件（9.5%）、「余裕をもった人数が配置されている」48 件（7.1%）、「無回答」8 件（1.2%）の順になっている。

「余裕をもった人数が配置されている」、「適度な人数が配置されている」、「人数は不足気味である」、「人数は不足している」と回答した施設数を合算すると 592 施設となり、この 592 施設には臨床工学技士が配置されていることがわかる。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕をもった人数が配置されている	48	7.1
2	適度な人数が配置されている	309	45.9
3	人数は不足気味である	171	25.4
4	人数は不足している	64	9.5
5	配置されていない	73	10.8
	無回答	8	1.2
	N (%ベース)	673	100



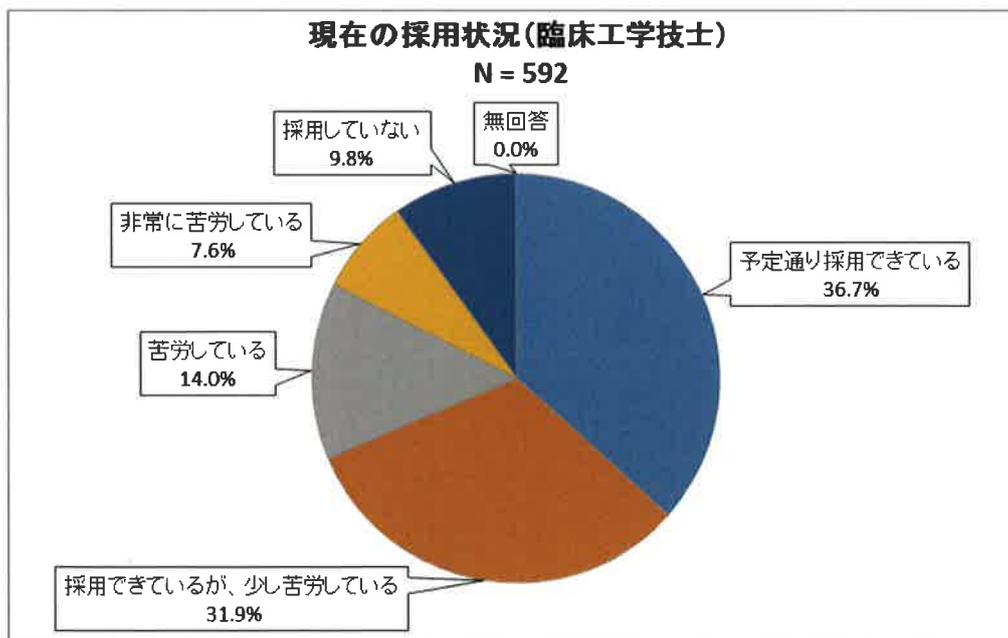
(5) 現在の採用状況（臨床工学技士）について

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に現在の採用状況（臨床工学技士）について調査した。

その結果、「予定通り採用できている」が 217 件（36.7%）と最も多く、次いで「採用できているが、少し苦勞している」189 件（31.9%）、「苦勞している」83 件（14.0%）、「採用していない」58 件（9.8%）、「非常に苦勞している」45 件（7.6%）の順になっている。

現在の採用状況(臨床工学技士)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	予定通り採用できている	217	36.7
2	採用できているが、少し苦勞している	189	31.9
3	苦勞している	83	14.0
4	非常に苦勞している	45	7.6
5	採用していない	58	9.8
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	592	100

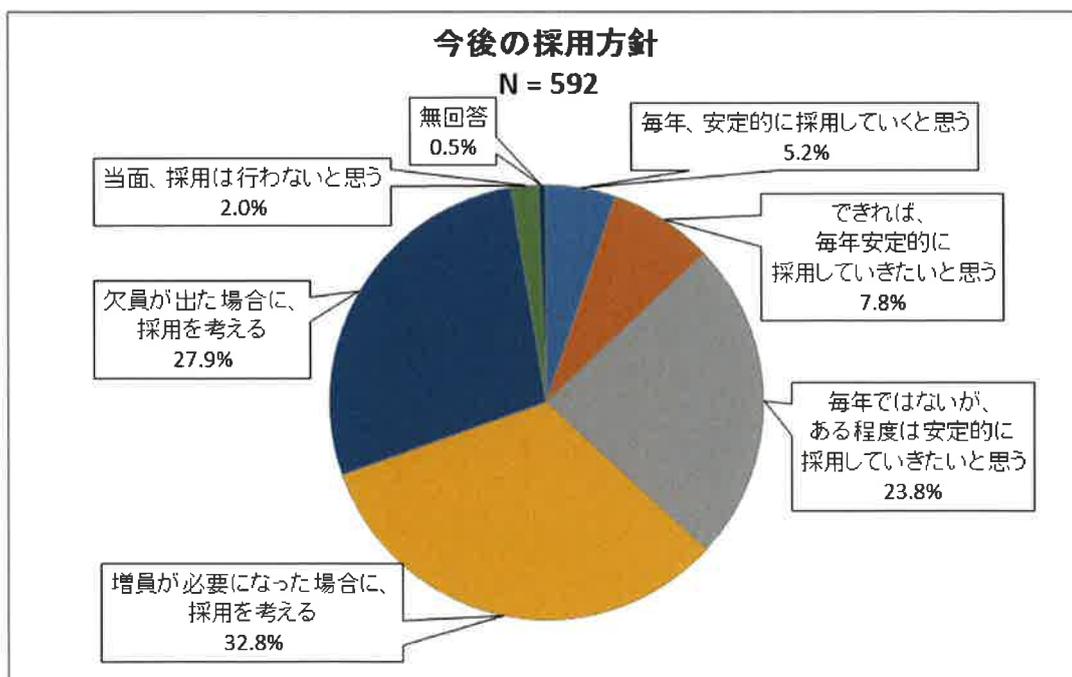


(6) 今後の採用方針について

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に今後の採用方針について調査した。

その結果、「増員が必要になった場合に、採用を考える」が 194 件（32.8%）と最も多く、次いで「欠員が出た場合に、採用を考える」165 件（27.9%）、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」141 件（23.8%）、「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」46 件（7.8%）、「毎年、安定的に採用していくと思う」31 件（5.2%）、「当面、採用は行わないと思う」12 件（2.0%）、「無回答」3 件（0.5%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	31	5.2
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	46	7.8
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	141	23.8
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	194	32.8
5	欠員が出た場合に、採用を考える	165	27.9
6	当面、採用は行わないと思う	12	2.0
	無回答	3	0.5
	N (%ベース)	592	100



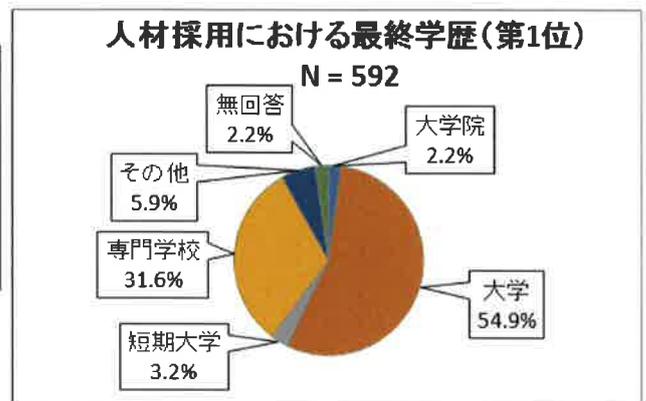
(7) 人材採用における最終学歴について

7-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、人材採用における最終学歴（第1位）について調査した。

その結果、「大学」が 325 件（54.9%）と最も多く、次いで「専門学校」187 件（31.6%）、「その他」35 件（5.9%）、「短期大学」19 件（3.2%）、「大学院」13 件（2.2%）、「無回答」13 件（2.2%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	13	2.2
2	大学	325	54.9
3	短期大学	19	3.2
4	専門学校	187	31.6
5	その他	35	5.9
	無回答	13	2.2
	N (%ベース)	592	100

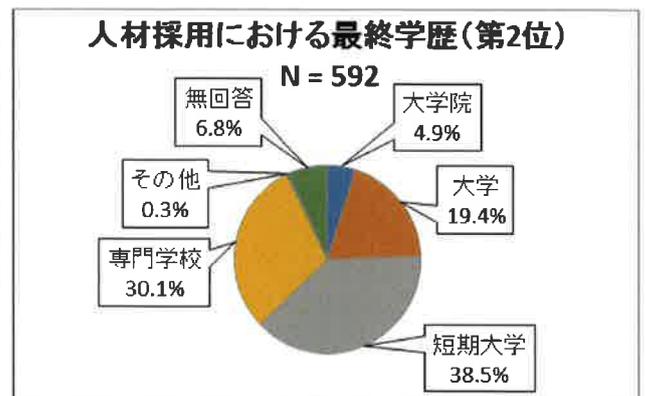


7-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、人材採用における最終学歴（第2位）について調査した。

その結果、「短期大学」が 228 件（38.5%）と最も多く、次いで「専門学校」178 件（30.1%）、「大学」115 件（19.4%）、「無回答」40 件（6.8%）、「大学院」29 件（4.9%）、「その他」2 件（0.3%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	29	4.9
2	大学	115	19.4
3	短期大学	228	38.5
4	専門学校	178	30.1
5	その他	2	0.3
	無回答	40	6.8
	N (%ベース)	592	100



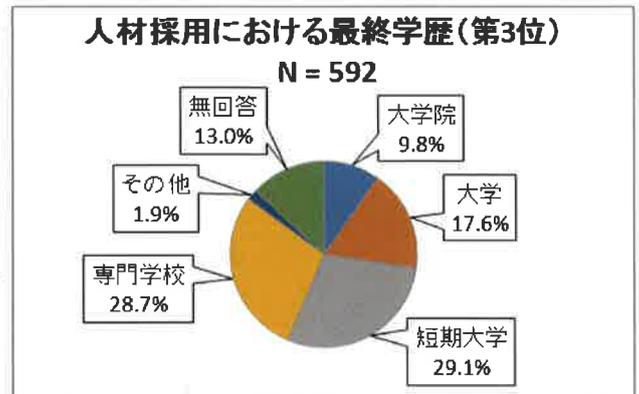
7-3 人材採用における最終学歴（第3位）について

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、人材採用における最終学歴（第3位）について調査した。

その結果、「短期大学」が 172 件（29.1%）と最も多く、次いで「専門学校」170 件（28.7%）、「大学」104 件（17.6%）、「無回答」77 件（13.0%）、「大学院」58 件（9.8%）、「その他」11 件（1.9%）の順になっている。

人材採用における最終学歴(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	58	9.8
2	大学	104	17.6
3	短期大学	172	29.1
4	専門学校	170	28.7
5	その他	11	1.9
	無回答	77	13.0
	N (%ベース)	592	100



(8) 人材を採用する際に重視する点について

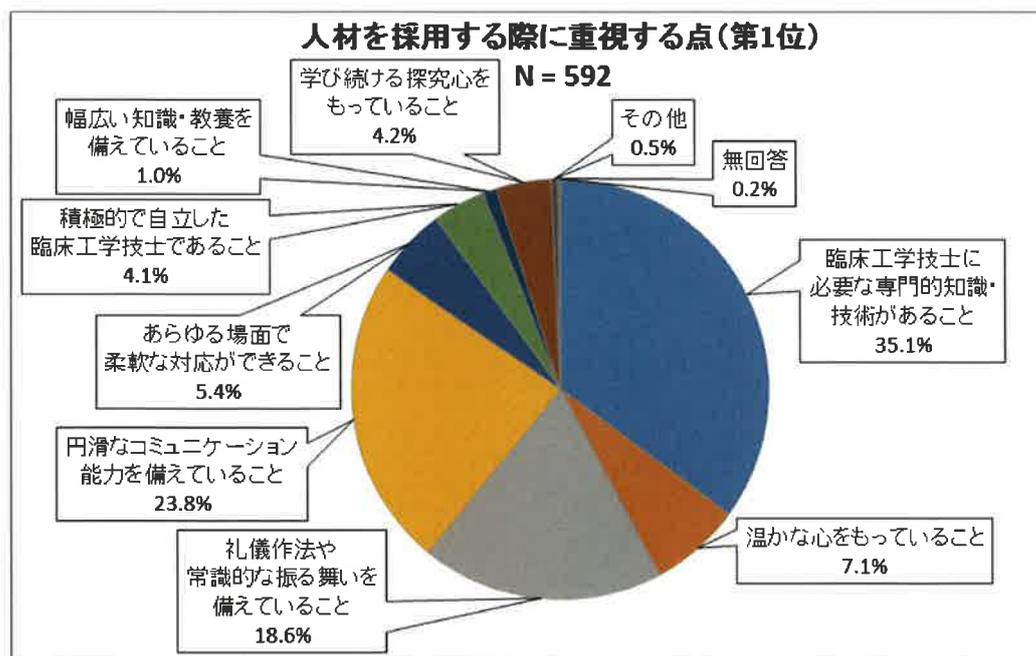
8-1 人材を採用する際に重視する点 (第1位)

「(4) 現在の配置状況 (臨床工学技士) について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、人材を採用する際に重視する点 (第1位) について調査した。

その結果は、「臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること」が 208 件 (35.1%) と最も多く、次いで「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」141 件 (23.8%)、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」110 件 (18.6%)、「温かな心をもって」いること」42 件 (7.1%)、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」32 件 (5.4%)、「学び続ける探究心をもって」いること」25 件 (4.2%)、「積極的に自立した臨床工学技士であること」24 件 (4.1%)、「幅広い知識・教養を備えていること」6 件 (1.0%)、「その他」3 件 (0.5%)、「無回答」1 件 (0.2%) の順になっている。

人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること	208	35.1
2	温かな心をもって	42	7.1
3	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	110	18.6
4	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	141	23.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	32	5.4
6	積極的に自立した臨床工学技士であること	24	4.1
7	幅広い知識・教養を備えていること	6	1.0
8	学び続ける探究心をもって	25	4.2
9	その他	3	0.5
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	592	100



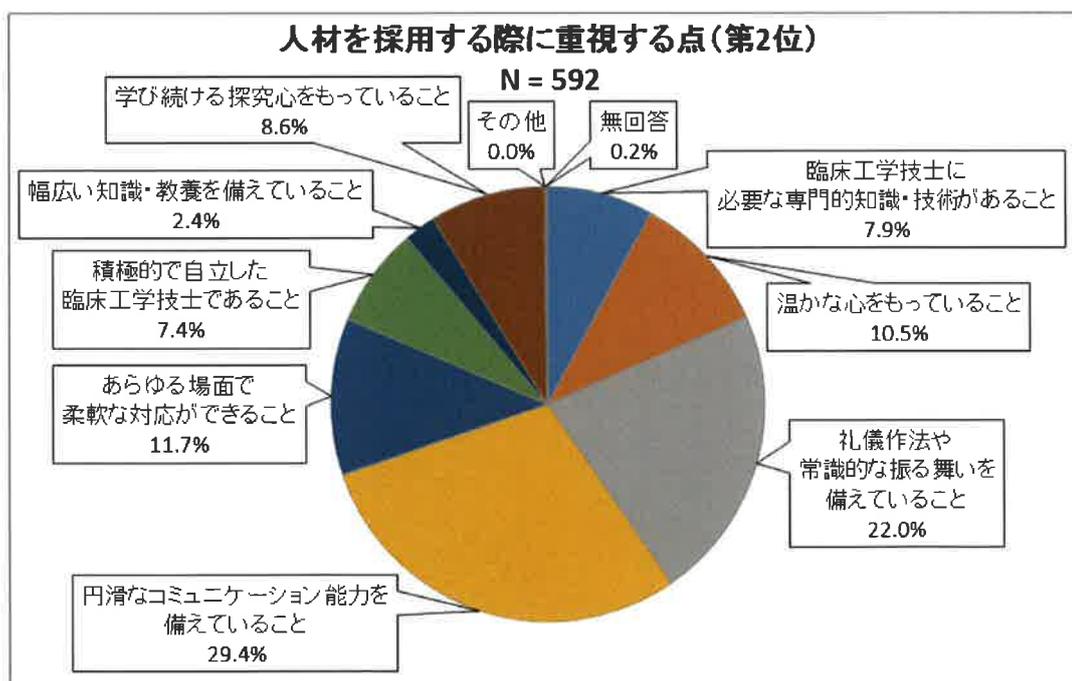
8-2 人材を採用する際に重視する点（第2位）

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、人材を採用する際に重視する点（第2位）について調査した。

その結果は、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 174 件（29.4%）と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」130 件（22.0%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」69 件（11.7%）、「温かな心をもっていること」62 件（10.5%）、「学び続ける探究心をもっていること」51 件（8.6%）、「臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること」47 件（7.9%）、「積極的で自立した臨床工学技士であること」44 件（7.4%）、「幅広い知識・教養を備えていること」14 件（2.4%）、「無回答」1 件（0.2%）の順になっている。

人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること	47	7.9
2	温かな心をもっていること	62	10.5
3	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	130	22.0
4	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	174	29.4
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	69	11.7
6	積極的で自立した臨床工学技士であること	44	7.4
7	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.4
8	学び続ける探究心をもっていること	51	8.6
9	その他	0	0.0
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	592	100

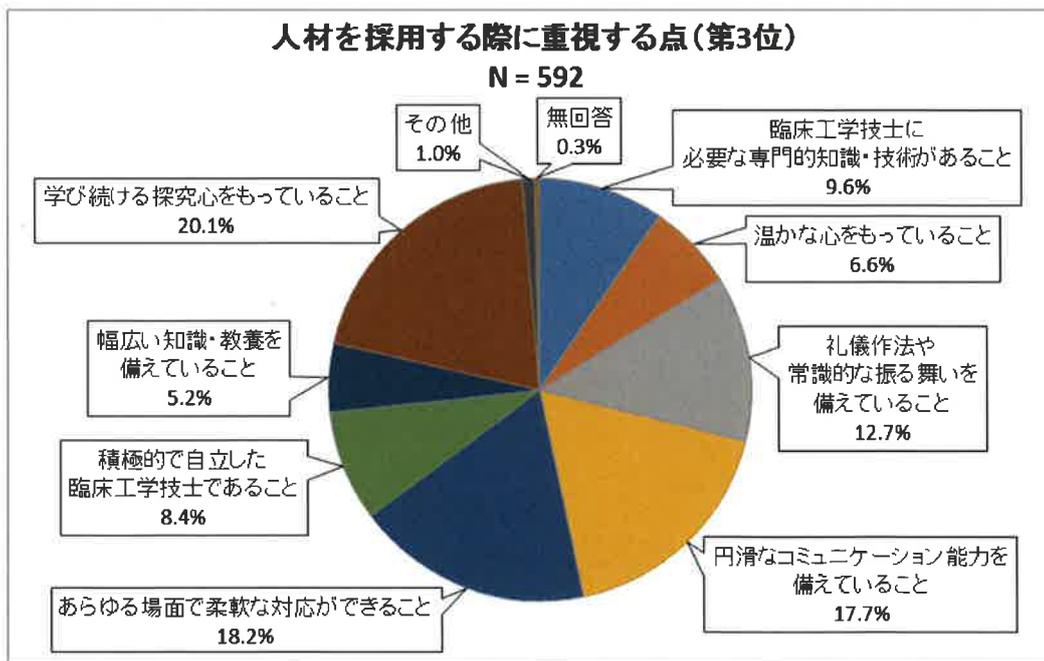


8-3 人材を採用する際に重視する点（第3位）

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、人材を採用する際に重視する点（第3位）について調査した。

その結果は、「学び続ける探究心をもっていること」が 119 件（20.1%）と最も多く、次いで「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」108 件（18.2%）、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」105 件（17.7%）、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」75 件（12.7%）、「臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること」57 件（9.6%）、「積極的で自立した臨床工学技士であること」50 件（8.4%）、「温かな心をもっていること」39 件（6.6%）、「幅広い知識・教養を備えていること」31 件（5.2%）、「その他」6 件（1.0%）、「無回答」2 件（0.3%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること	57	9.6
2	温かな心をもっていること	39	6.6
3	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	75	12.7
4	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	105	17.7
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	108	18.2
6	積極的で自立した臨床工学技士であること	50	8.4
7	幅広い知識・教養を備えていること	31	5.2
8	学び続ける探究心をもっていること	119	20.1
9	その他	6	1.0
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	592	100



(9) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の社会的必要性について

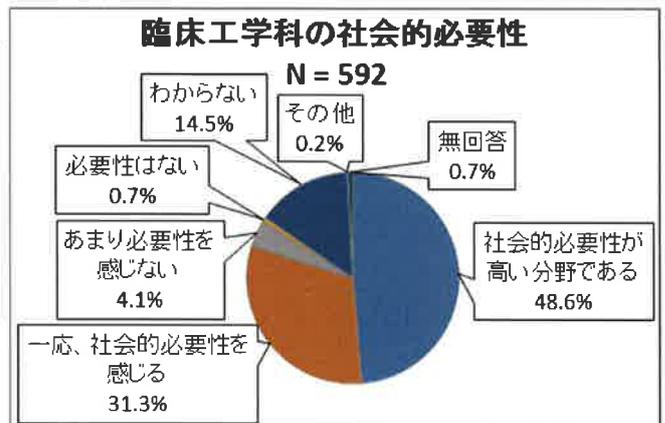
「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の社会的必要性について調査した。

その結果は、「社会的必要性が高い分野である」が 288 件（48.6%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」185 件（31.3%）、「わからない」86 件（14.5%）、「あまり必要性を感じない」24 件（4.1%）、「必要性はない」4 件（0.7%）、「無回答」4 件（0.7%）、「その他」1 件（0.2%）の順になっている。

なお、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、473 件（79.9%）となっている。

臨床工学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	288	48.6
2	一応、社会的必要性を感じる	185	31.3
3	あまり必要性を感じない	24	4.1
4	必要性はない	4	0.7
5	わからない	86	14.5
6	その他	1	0.2
	無回答	4	0.7
	N (%ベース)	592	100



(10) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への興味がある事柄について

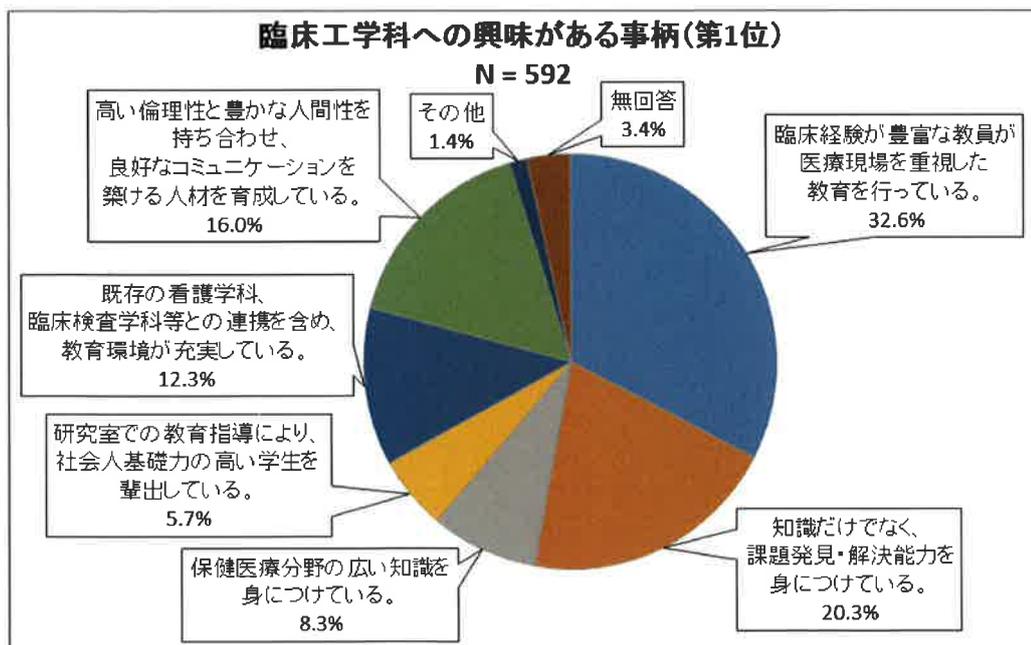
10-1 興味がある事柄 (第1位)

「(4) 現在の配置状況 (臨床工学技士) について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への興味がある事柄 (第1位) について調査した。

その結果、「臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている。」が 193 件 (32.6%) と最も多く、次いで「知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている。」120 件 (20.3%)、「高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している。」95 件 (16.0%)、「既存の看護学科、臨床検査学科等との連携を含め、教育環境が充実している。」73 件 (12.3%)、「保健医療分野の広い知識を身につけている。」49 件 (8.3%)、「研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している。」34 件 (5.7%)、「無回答」20 件 (3.4%)、「その他」8 件 (1.4%) の順になっている。

臨床工学科への興味がある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている。	193	32.6
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている。	120	20.3
3	保健医療分野の広い知識を身につけている。	49	8.3
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している。	34	5.7
5	既存の看護学科、臨床検査学科等との連携を含め、教育環境が充実している。	73	12.3
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している。	95	16.0
7	その他	8	1.4
	無回答	20	3.4
	N (%ベース)	592	100



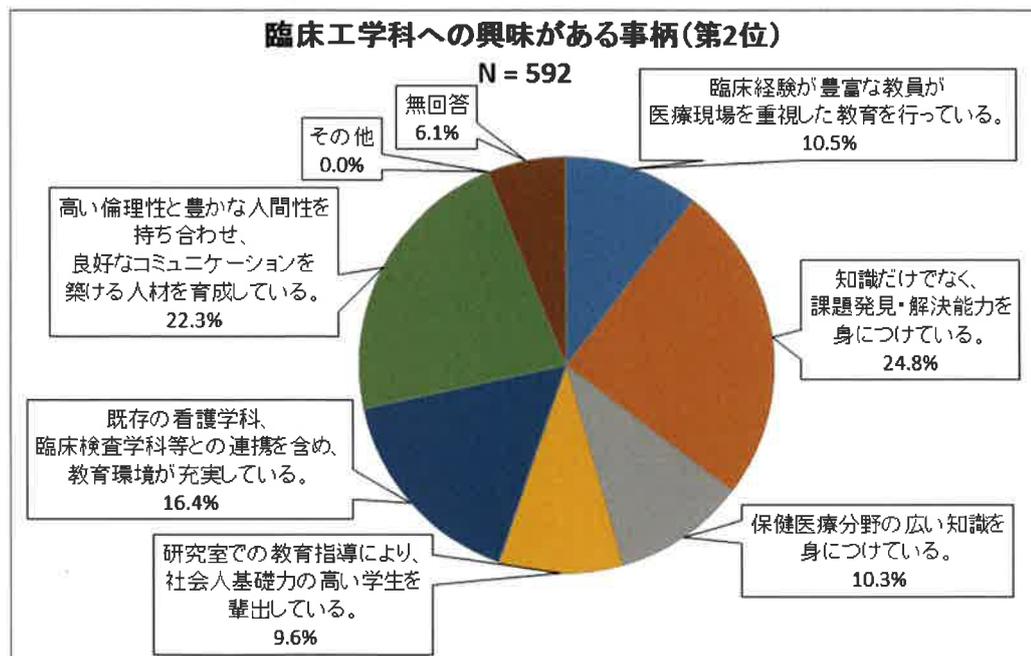
10-2 興味がある事柄（第2位）

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科への興味がある事柄（第2位）について調査した。

その結果、「知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている。」が 147 件（24.8%）と最も多く、次いで「高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している。」132 件（22.3%）、「既存の看護学科、臨床検査学科等との連携を含め、教育環境が充実している。」97 件（16.4%）、「臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている。」62 件（10.5%）、「保健医療分野の広い知識を身につけている。」61 件（10.3%）、「研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している。」57 件（9.6%）、「無回答」36 件（6.1%）の順になっている。

臨床工学科への興味がある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている。	62	10.5
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている。	147	24.8
3	保健医療分野の広い知識を身につけている。	61	10.3
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している。	57	9.6
5	既存の看護学科、臨床検査学科等との連携を含め、教育環境が充実している。	97	16.4
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している。	132	22.3
7	その他	0	0.0
	無回答	36	6.1
	N (%ベース)	592	100



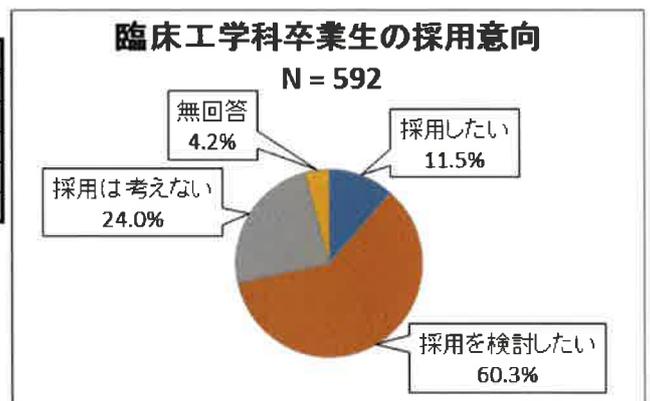
(11) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の採用意向について

「(4) 現在の配置状況（臨床工学技士）について」の結果から、現在臨床工学技士が配置されていることがわかった 592 施設に、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の採用意向について調査した。

その結果は、「採用を検討したい」が 357 件（60.3%）と最も多く、次いで「採用は考えない」142 件（24.0%）、「採用したい」68 件（11.5%）、「無回答」25 件（4.2%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、425 件（71.8%）となっている。

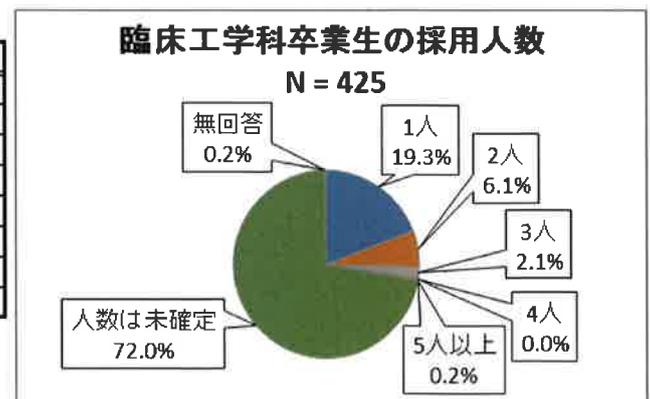
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	68	11.5
2	採用を検討したい	357	60.3
3	採用は考えない	142	24.0
	無回答	25	4.2
	N (%ベース)	592	100



(12) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の採用人数について

「(11) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の採用意向について」において肯定的な採用意向を示した 425 施設に対して、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 306 件（72.0%）と最も多く、次いで「1人」82 件（19.3%）、「2人」26 件（6.1%）、「3人」9 件（2.1%）、「5人以上」1 件（0.2%）、「無回答」1 件（0.2%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	82	19.3
2	2人	26	6.1
3	3人	9	2.1
4	4人	0	0.0
5	5人以上	1	0.2
6	人数は未確定	306	72.0
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	425	100



3. 調査結果のまとめ

森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(11) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(12) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定(※)」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(11) 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

保健医療学部臨床工学科

下記の表より、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、101人分となる。入学定員は60人であるため、約1.68倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は472人となり、これは、入学定員60人に対して、約7.86倍となる。

保健医療学部臨床工学科

回答数(件)	「採用したい」のみ		合計
人数(人)			
1人(A)	23	(a)	(A) × (a) 23
2人(B)	15	(b)	(B) × (b) 30
3人(C)	7	(c)	(C) × (c) 21
4人(D)	-	(d)	(D) × (d) -
5人以上(E)	1	(e)	(E) × (e) 5
人数は未確定(F)	22	(f)	(F) × (f) 22
無回答	-		

合計採用意向 101人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件)	「採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計
人数(人)			
1人(A)	82	(a)	(A) × (a) 82
2人(B)	26	(b)	(B) × (b) 52
3人(C)	9	(c)	(C) × (c) 27
4人(D)	-	(d)	(D) × (d) -
5人以上(E)	1	(e)	(E) × (e) 5
人数は未確定(F)	306	(f)	(F) × (f) 306
無回答	1		

合計採用意向 472人

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

調査票

Q8. 人材を採用する際に、貴医療関係機関ではどのようなことを重視していますか。
該当する番号を第3位までお選びください。

1. 臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること
2. 温かな心をもっていること
3. 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること
4. 円滑なコミュニケーション能力を備えていること
5. あらゆる場面で柔軟な対応ができること
6. 積極的で自立した臨床工学技士であること
7. 幅広い知識・教養を備えていること
8. 学び続ける探究心をもっていること
9. その他（具体的に:

第1位

第2位

第3位

（ここからは、同封の「保健医療学部 臨床工学科（仮称）の概要（リーフレット）」
をご覧になりながらお答えください）

Q9. 森ノ宮医療大学が設置を計画している臨床工学科（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない |
| 2. 一応、社会的必要性を感じる | 5. わからない |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他（具体的に: |

Q10. 森ノ宮医療大学が設置を計画している臨床工学科（仮称）の特徴や目指している事柄の中で、興味のあるものはどれですか。次の中から該当する番号を第2位までお選びください。

- | | |
|--|-----|
| 1. 臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている。 | 第1位 |
| 2. 知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている。 | |
| 3. 保健医療分野の広い知識を身につけている。 | 第2位 |
| 4. 研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している。 | |
| 5. 既存の看護学科、臨床検査学科等との連携を含め、教育環境が充実している。 | |
| 6. 高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している。 | |
| 7. その他（具体的に: | |

Q11. 森ノ宮医療大学が設置を計画している臨床工学科（仮称）の卒業生の採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------------|---|------------------------|
| 1. 採用したい | } | 1、2を選択された方はQ12へお進み下さい。 |
| 2. 採用を検討したい | | 3を選択された方はQ13へお進みください。 |
| 3. 採用は考えない | | |

Q12. 将来的に、本学設置予定の臨床工学科（仮称）の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 1人 | 3. 3人 | 5. 5人以上 |
| 2. 2人 | 4. 4人 | 6. 人数は未確定 |

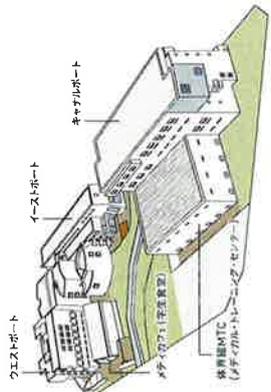
Q13. 森ノ宮医療大学が構想している、臨床工学科（仮称）の設置計画にあたり、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。
その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

CAMPUS

2016年に新棟が完成し、躍進を続ける
ベイエリアのキャンパスが学びの舞台。

キャンパスは、大阪府堺のベイエリア、海を身近に感じながら、物かに
落ち着いて学べる環境が揃っています。2016年には、7階建ての新棟
舎「キャンパスポート」も完成。教員と学生が一体となった学習空間
（ラーニングコモンズ）や研究拠点なども完成され、より充実した環境で
最新のスキルを身に付けていくことができます。



■図書館【メディアカル・アイ】

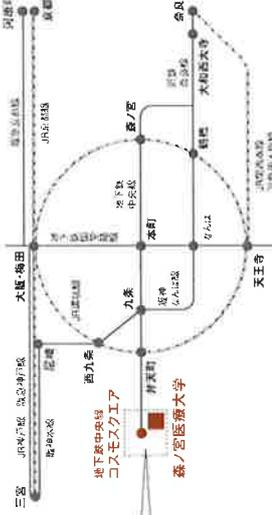
医療分野の豊富な図書や電子
データベースをはじめ、パソコンを
使って勉強できる環境、グループで
活用できる教室などを活用。学生
の学習・研究拠点として充実した環
境を整えています。



ACCESS



大阪府宮下駅中環線
「コスモスクエア」駅2番出口より
徒歩**1分**（南へ約90m）



主要ターミナル駅
「大阪(梅田)」「なんば」「天王寺」から
30分以内
「神戸(三宮)」「京都」「奈良」
各方面から約**60分**

想いのすべてを、医療の方に。



森ノ宮医療大学

資料請求・お問い合わせは ☎0120-68-8908

- 【保健医療学部】
- 看護学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科
- 臨床検査学科
- 鍼灸学科
- 【文学部】
- 保健医療学研究所
- 看護学専攻
- 看護学専攻科
- 【研究科】
- 看護学専攻科



2016年9月発行

2018年4月 臨床工学科 誕生予定

入学定員60名(予定)
(仮称・構想中)

※構想中であるため、今後、名称・内容・定員などは変更する場合があります。

想いのすべてを、医療の方に。



森ノ宮医療大学

医療の総合的な大学で、
現代医療を支える医療技術者に。



森ノ宮医療大学は「医療の総合的な大学」としてさらに進化します！ 2018年4月、新学科「臨床工学科」(仮称)を設置構想中。

森ノ宮医療大学は、5学科、大学院、助産学専攻科を擁する医療の総合的な大学として、これからの医療を支える人材育成、研究に力を注いでいます。そして2018年4月、医療界からのさらなるニーズに応えるべく、臨床工学科士を育成する臨床工学科(仮称)を新たに設置する予定です。医療に特化した大学ならではの体制で、「チーム医療」を推進できる臨床人材を育成します。



森ノ宮医療大学で「臨床工学科士」をめざす

徹底した「医学」「工学」「技術」の基礎教育で、医療現場で活躍できる人材を育成

生命維持装置の仕組みや医療機器の安全かつ適正に使用・管理するためには、更に技術教育だけでなく習得しても不十分です。人々の構想、構想や各種機器などを搭載する「医学知識」と、医療機器の原理・構造を習得する「工学知識」が必須となります。本学では、「医学」と「工学」の知識を「技術」の言葉集をハラスンスよく学び、徹底した基礎力を身につけます。

医学と工学を融合した「生体工学」の視点を大切にしたい学び

基礎教育で得た「医学知識」と「工学知識」を融合し、工学的な視点で生体を理解し、生命や病気のメカニズムを明らかにする能力を身につけます。人工知能やロボット技術の発展により、生体工学の分野はますます重要視されています。本学では、「医学」と「工学」の知識を「技術」の言葉集をハラスンスよく学び、徹底した基礎力を身につけます。

情報通信技術(ICT)を活用できる能力を習得

情報化社会の進展により、医療現場でも医療機器、医療情報システムなどは、情報通信技術(ICT)なしには実現されません。あらゆるICTの駆動原理や知識を習得し、活用できる能力を養成します。また、情報機器の故障やセキュリティ対策に対する知識についても学びます。

シミュレータを用いた実践的な学びで、「知っていること」を「できること」に

現場で働く臨床工学科士の高度なスキルを習得するための「知っていること」を「できること」にしています。シミュレータを用いた実践的な学びで、「知っていること」を「できること」にしています。



医学と工学の両面で人命を守る、医療機器のスペシャリスト

臨床工学科 (仮称) [入学定額] 40名(予定) [学位] 学士(臨床工学) [取得可能な資格] 臨床工学科士国家試験受験資格(予定)

臨床工学科士とは

高度化する医療機器を操作する専門家

医学の進歩につれて医療機器も高度化し、医師、工学的な知識を持つ医療機器操作できる専門家が求められてきました。臨床工学科士は、高度な医療機器、人工心臓装置、人工呼吸器といった生命維持装置の安全かつ的確に操作・管理するスペシャリストです。

手術をはじめ、第一線で医療を支える

手術に心臓を停止して行う手術の際、心臓と肺の機能を代行する人工心臓装置を操作する、あるいは人工呼吸器を操作するといった、医療の最前線で命をつなぐ重要な仕事です。大きな責任と緊張感を伴いますが、それが大きなやりがいとなります。

チーム医療に欠かせない存在

チーム医療では、患者さんを中心に多くの医療スタッフが連携して治療を行います。臨床工学科士は、チームでも医療機器に詳しい職種として、現代医療に欠かせない存在です。また、他の医療スタッフとともに患者さんと信頼関係を築いて治療にあたることも多くあります。



プロとして多様な機器を操作・保守

手術室から病室、集中治療室まであらゆる現場で医療機器を取り扱う。心臓を代行する人工心臓装置や呼吸力での呼吸が困難な人に用いる人工呼吸器など、多々の機器を操作します。病室をはじめ、手術室や集中治療室、救命救急の現場などあらゆる場所以外での活躍が求められます。

- 臨床工学科士が取り扱う代表的な機器
- 人工心臓装置
- 人工透析装置
- 人工透析センター
- 人工呼吸器

多彩に広がる活躍のフィールド

近年の医療法改正により人材が不足。全国的に求人が急増しています。以前は医療機器メーカーが限られた業務の操作を行うこともありましたが、ここ数年より専門的知識を有する臨床工学科士に対するニーズが急激に伸びています。就職先は、病院やクリニックなどの医療機関が中心となりますが、医療機器メーカーで機器開発に携わるケースもあります。

- 総合病院やクリニックなどの医療機関
- 人工透析センター
- 医療機器メーカー

森ノ宮医療大学だからできる医療教育

医療の総合的な大学だからできる「チーム医療」教育



多岐にわたる臨床系学科がそろった森ノ宮大学では、その協働を活かし医学部からチーム医療を志望した学生を支援しています。高学年では、専門選出連携教育(IPB)を取り入れ、各学部の学生が協力して学習。ひとつの事例における各分野からのアプローチを相互に学び、実践現場でチームワークで対応できる能力を養います。

医療機関と強固につながる「病院連携」体制



医療現場で実践的なスキルを学ぶことは、学生を各学部の医療機関、病院と連携する体制で進められています。各学部の多くの実地生体工学、そのほか前線へのつながり、ケースも豊富にあります。

在学中も卒業後も手厚く支援する「トリプルサポート体制」+「卒業教育」

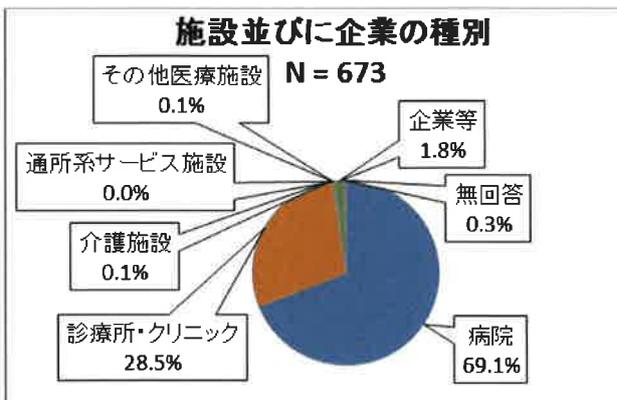
学生生活や進路などの相談、卒業後行う「学生支援」も、学生の進路を熟知した教員がサポートを行います。卒業後も、前線の学生から相談を受ける「担任・チューター」制、前線の学生から相談を受ける「卒業生」による「卒業生サポート体制」で学生の進路を支援します。卒業後も、前線の学生から相談を受ける「卒業生サポート体制」で学生の進路を支援します。



単純集計表

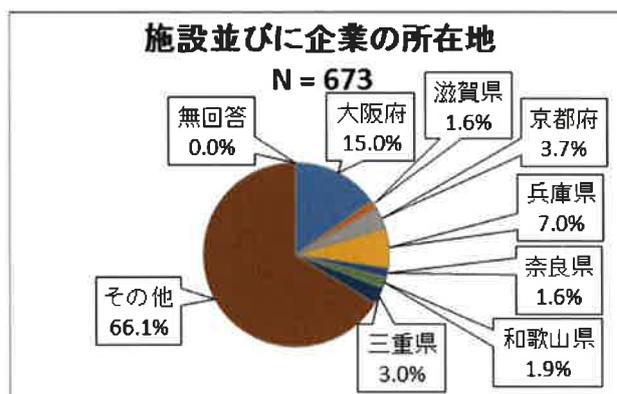
施設並びに企業の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	465	69.1
2	診療所・クリニック	192	28.5
3	介護施設	1	0.1
4	通所系サービス施設	0	0.0
5	その他医療施設	1	0.1
6	企業等	12	1.8
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	673	100



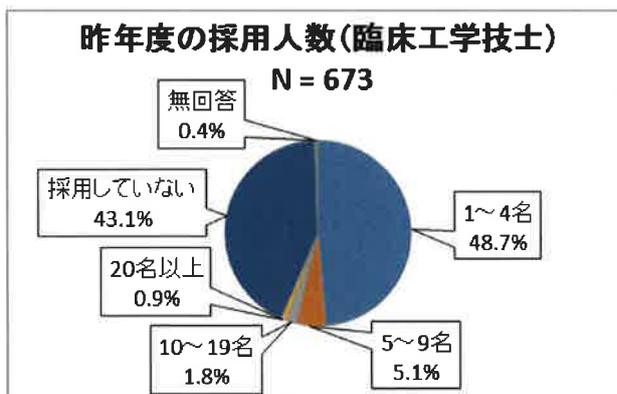
施設並びに企業の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大阪府	101	15.0
2	滋賀県	11	1.6
3	京都府	25	3.7
4	兵庫県	47	7.0
5	奈良県	11	1.6
6	和歌山県	13	1.9
7	三重県	20	3.0
8	その他	445	66.1
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	673	100



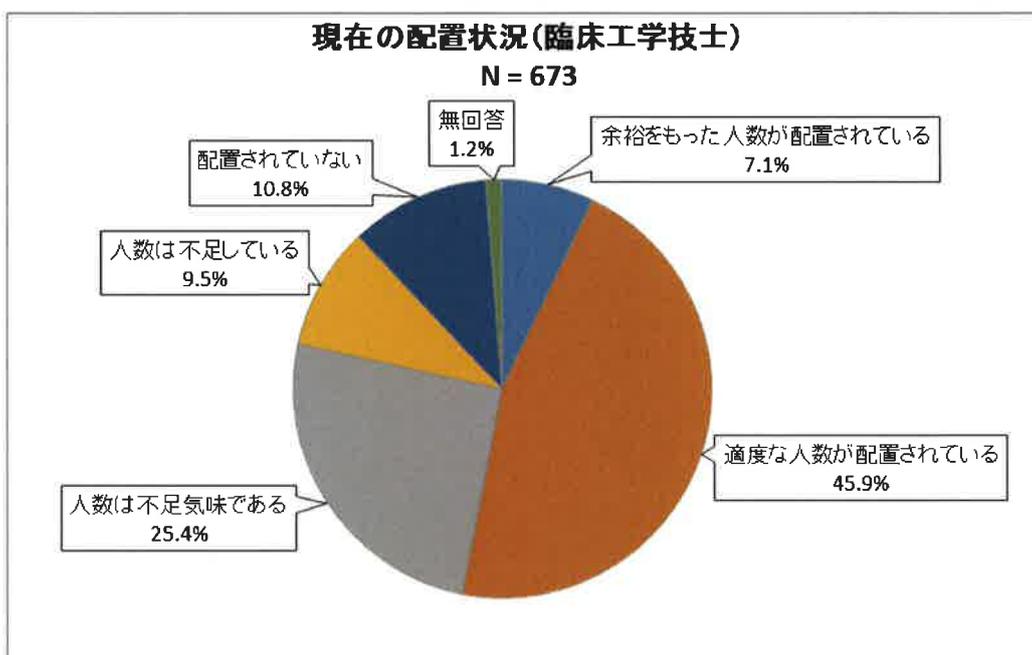
昨年度の採用人数(臨床工学技士)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1~4名	328	48.7
2	5~9名	34	5.1
3	10~19名	12	1.8
4	20名以上	6	0.9
5	採用していない	290	43.1
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	673	100



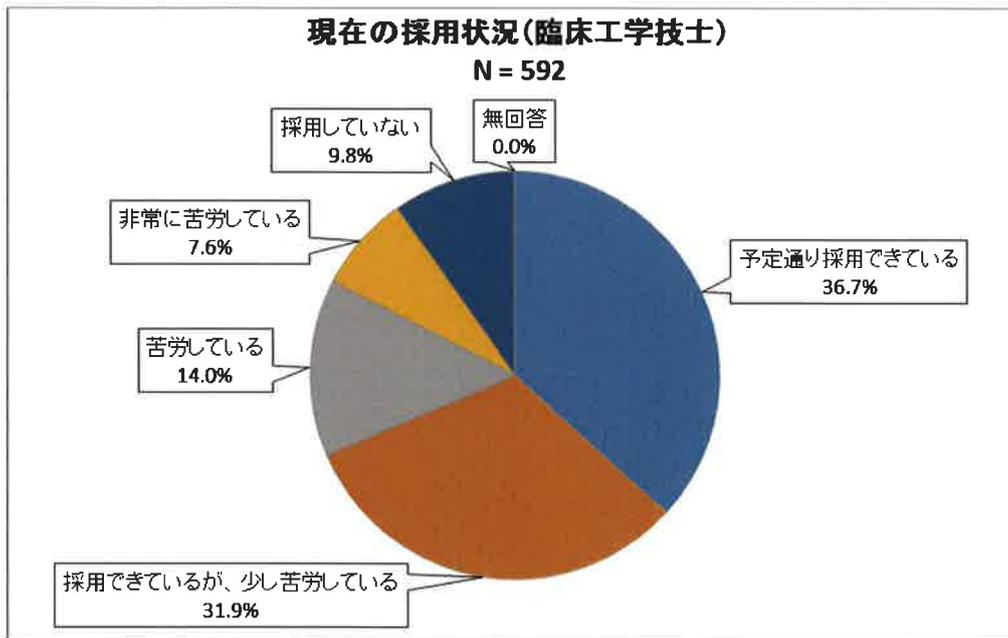
現在の配置状況(臨床工学技士)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕をもった人数が配置されている	48	7.1
2	適度な人数が配置されている	309	45.9
3	人数は不足気味である	171	25.4
4	人数は不足している	64	9.5
5	配置されていない	73	10.8
	無回答	8	1.2
	N (%ベース)	673	100



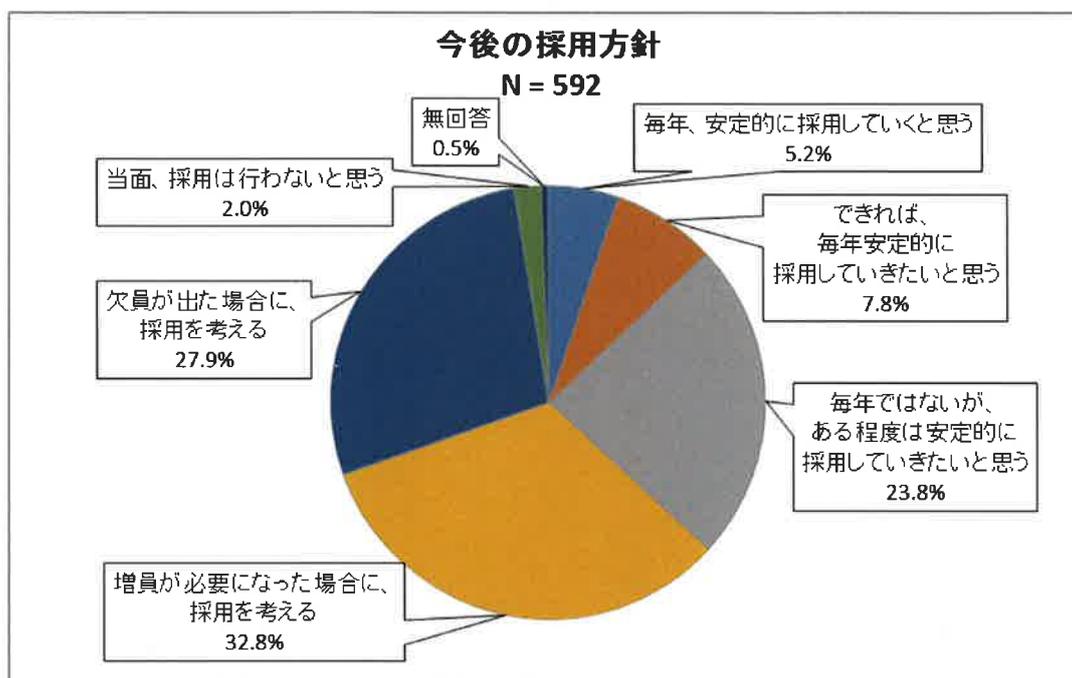
現在の採用状況(臨床工学技士)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	予定通り採用できている	217	36.7
2	採用できているが、少し苦労している	189	31.9
3	苦労している	83	14.0
4	非常に苦労している	45	7.6
5	採用していない	58	9.8
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	592	100



今後の採用方針

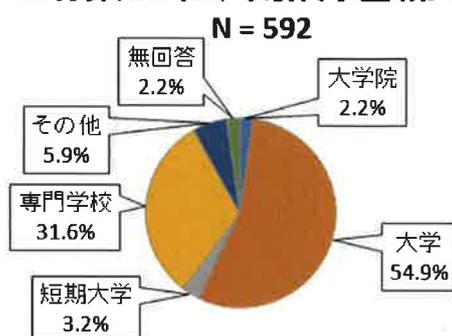
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	31	5.2
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	46	7.8
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	141	23.8
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	194	32.8
5	欠員が出た場合に、採用を考える	165	27.9
6	当面、採用は行わないと思う	12	2.0
	無回答	3	0.5
	N (%ベース)	592	100



人材採用における最終学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	13	2.2
2	大学	325	54.9
3	短期大学	19	3.2
4	専門学校	187	31.6
5	その他	35	5.9
	無回答	13	2.2
	N (%ベース)	592	100

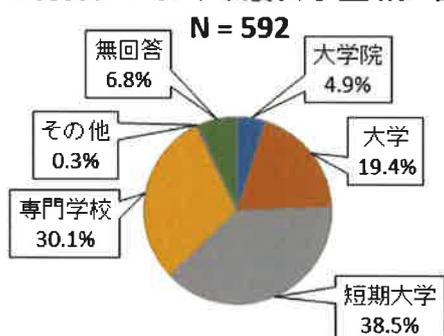
人材採用における最終学歴(第1位)



人材採用における最終学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	29	4.9
2	大学	115	19.4
3	短期大学	228	38.5
4	専門学校	178	30.1
5	その他	2	0.3
	無回答	40	6.8
	N (%ベース)	592	100

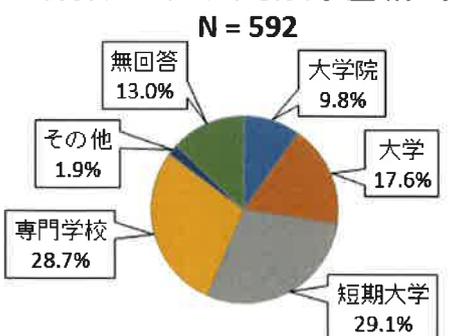
人材採用における最終学歴(第2位)



人材採用における最終学歴(第3位)

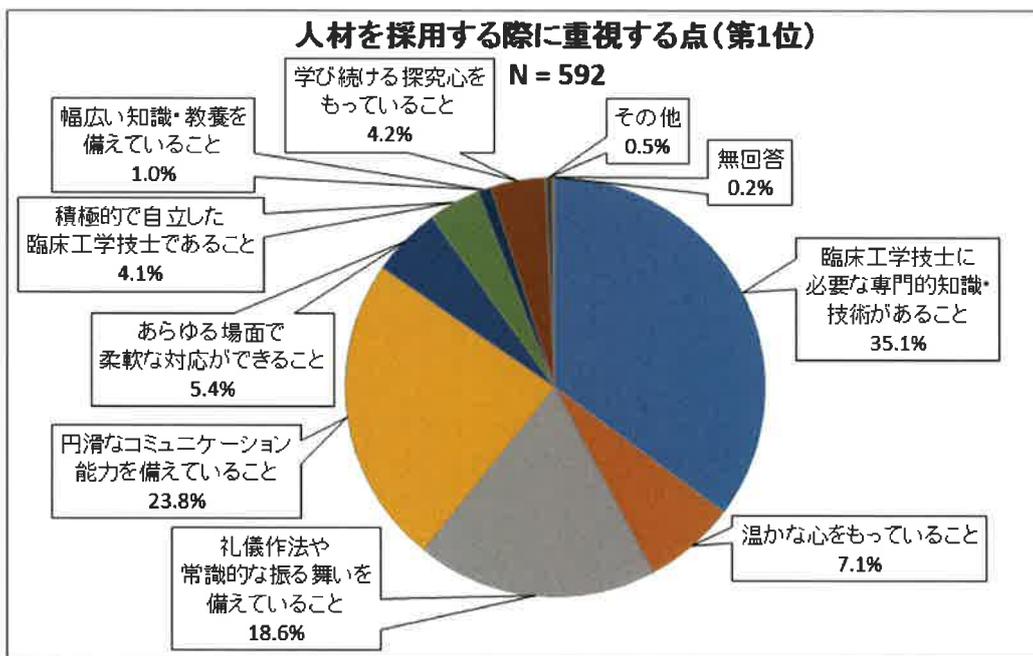
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	58	9.8
2	大学	104	17.6
3	短期大学	172	29.1
4	専門学校	170	28.7
5	その他	11	1.9
	無回答	77	13.0
	N (%ベース)	592	100

人材採用における最終学歴(第3位)



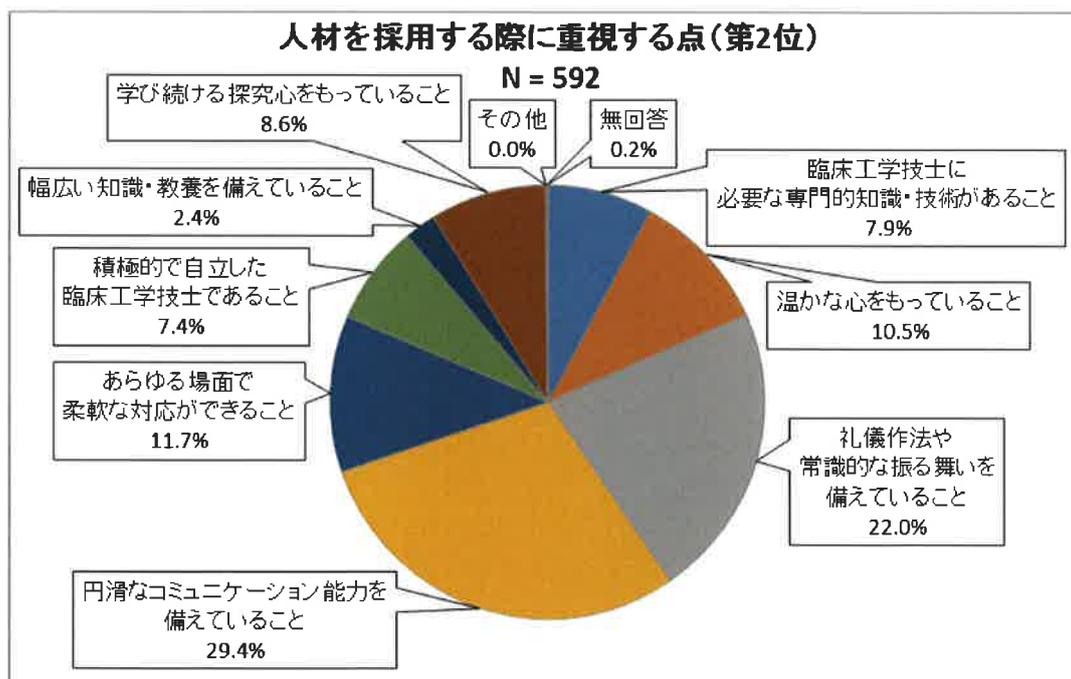
人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること	208	35.1
2	温かな心をもっていること	42	7.1
3	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	110	18.6
4	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	141	23.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	32	5.4
6	積極的で自立した臨床工学技士であること	24	4.1
7	幅広い知識・教養を備えていること	6	1.0
8	学び続ける探究心をもっていること	25	4.2
9	その他	3	0.5
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	592	100



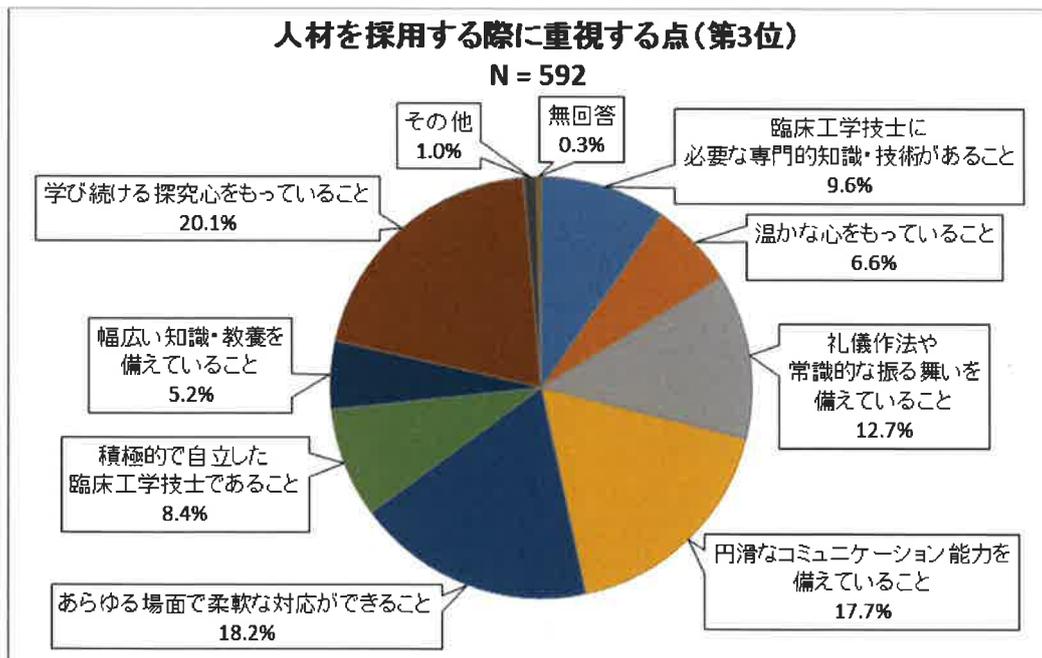
人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること	47	7.9
2	温かな心をもっていること	62	10.5
3	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	130	22.0
4	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	174	29.4
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	69	11.7
6	積極的で自立した臨床工学技士であること	44	7.4
7	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.4
8	学び続ける探究心をもっていること	51	8.6
9	その他	0	0.0
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	592	100



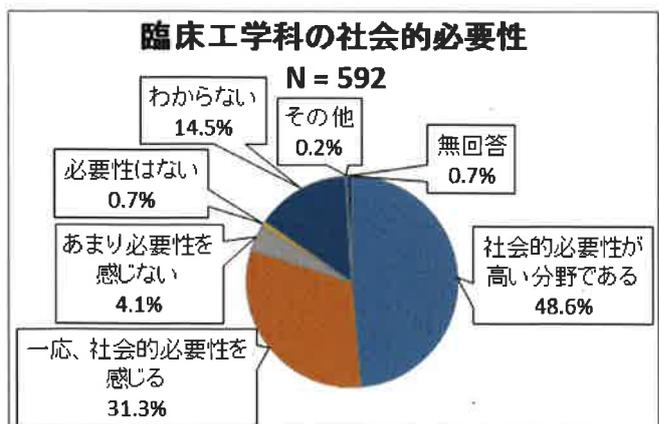
人材を採用する際に重視する点(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床工学技士に必要な専門的知識・技術があること	57	9.6
2	温かな心をもっていること	39	6.6
3	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	75	12.7
4	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	105	17.7
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	108	18.2
6	積極的で自立した臨床工学技士であること	50	8.4
7	幅広い知識・教養を備えていること	31	5.2
8	学び続ける探究心をもっていること	119	20.1
9	その他	6	1.0
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	592	100



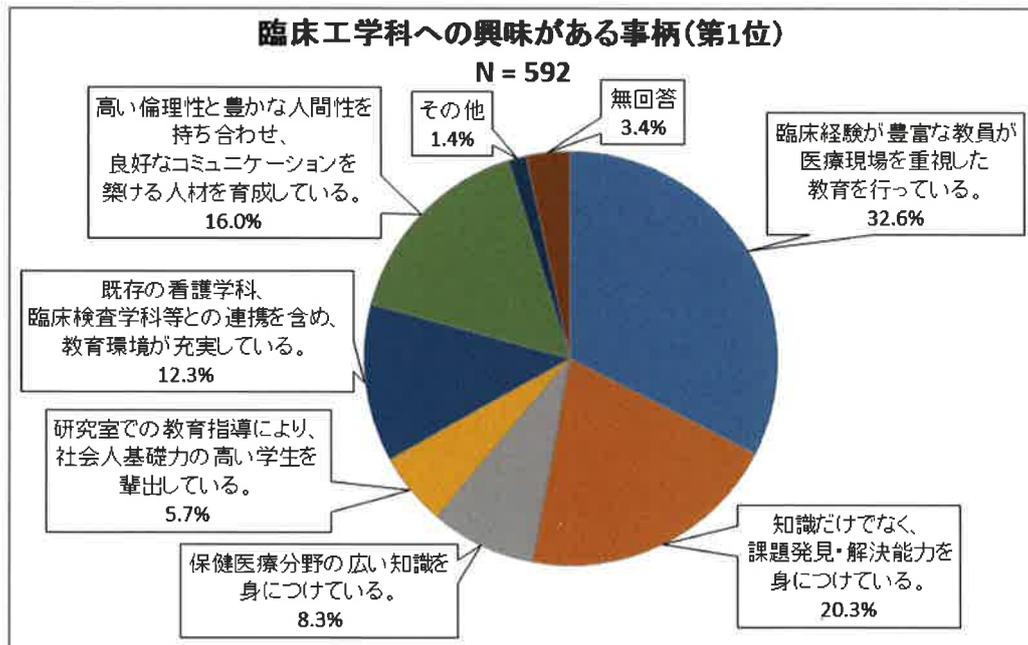
臨床工学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	288	48.6
2	一応、社会的必要性を感じる	185	31.3
3	あまり必要性を感じない	24	4.1
4	必要性はない	4	0.7
5	わからない	86	14.5
6	その他	1	0.2
	無回答	4	0.7
	N (%ベース)	592	100



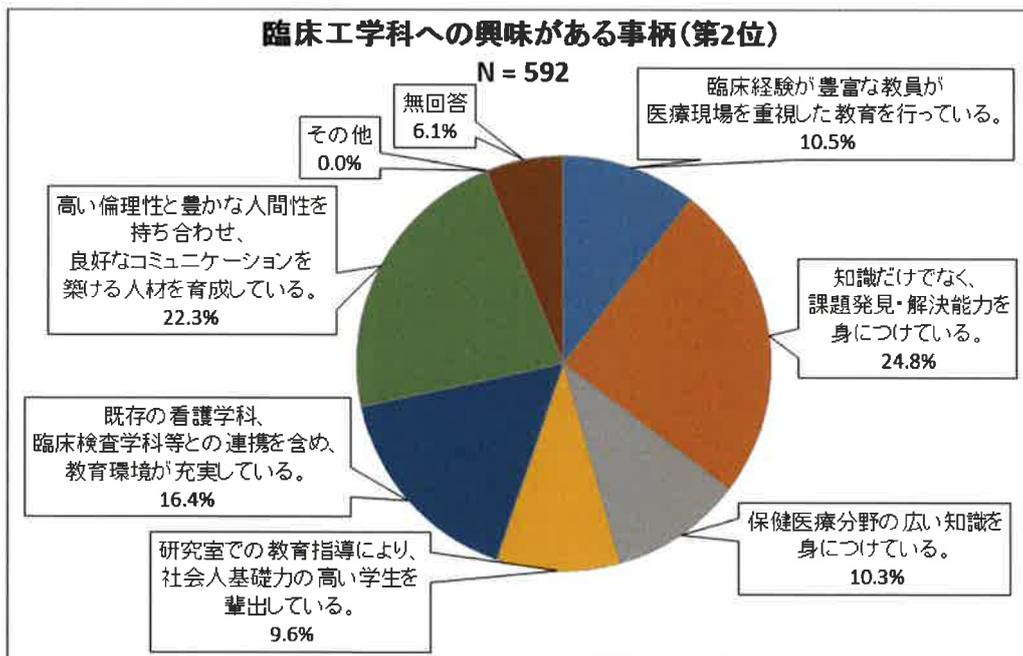
臨床工学科への興味がある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている。	193	32.6
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている。	120	20.3
3	保健医療分野の広い知識を身につけている。	49	8.3
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している。	34	5.7
5	既存の看護学科、臨床検査学科等との連携を含め、教育環境が充実している。	73	12.3
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している。	95	16.0
7	その他	8	1.4
	無回答	20	3.4
	N (%ベース)	592	100



臨床工学科への興味がある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている。	62	10.5
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている。	147	24.8
3	保健医療分野の広い知識を身につけている。	61	10.3
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している。	57	9.6
5	既存の看護学科、臨床検査学科等との連携を含め、教育環境が充実している。	97	16.4
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している。	132	22.3
7	その他	0	0.0
	無回答	36	6.1
	N (%ベース)	592	100

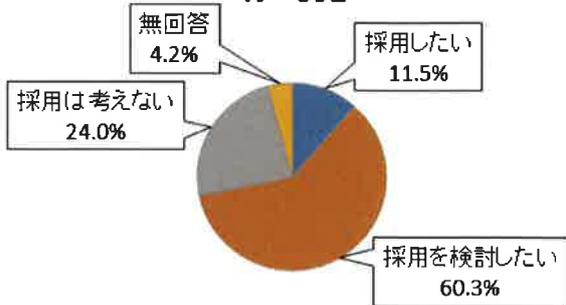


臨床工学科卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	68	11.5
2	採用を検討したい	357	60.3
3	採用は考えない	142	24.0
	無回答	25	4.2
	N (%ベース)	592	100

臨床工学科卒業生の採用意向

N = 592

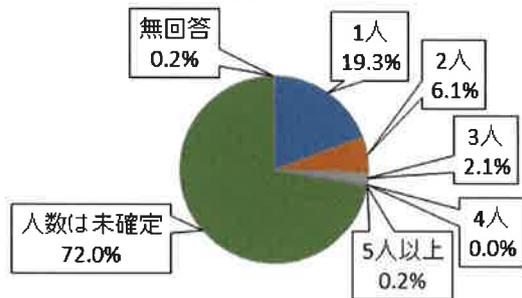


臨床工学科卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	82	19.3
2	2人	26	6.1
3	3人	9	2.1
4	4人	0	0.0
5	5人以上	1	0.2
6	人数は未確定	306	72.0
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	425	100

臨床工学科卒業生の採用人数

N = 425



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	サキハトヲ 荻原俊男 <平成23年4月1日>		医学博士		森ノ宮医療大学学長 (平成23年4月1日～平成31年3月31 日)

（注） 高等専門学校にあつては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
(保健医療学部臨床工学科)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
8	専	准教授	フエガユリ 布江田 友理 <平成31年4月>		博士 (工学)		基礎医学実習 医用工学※ 医用機器学概論 医用治療機器学※ 医用治療機器学実習 人工呼吸装置学 人工呼吸実習 医用機器安全管理学 医用機器安全管理学実習 臨床実習 医用機器学特講※ 生体機能代行技術特講※ 先進計測技術学※ 遺伝子検査学※ 先端科学技術演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後 1 1前 0.9 2後 2 3前 0.6 3前 1 3前 1 2後 1 3後 1 3前 2 3前 1 4前 4 4後 0.2 4後 0.1 3後 0.3 3後 0.2 3後 1 3通 2 4通 2		姫路獨協大学 医療保健学部 臨床工学科助教 (平成24年8月)	5日	
	兼任	講師	フエガユリ 布江田 友理 <平成30年4月>		博士 (工学)		医用工学※	1前 0.9	1			
9	専	講師	フジエタカウ 藤江 建朗 <平成30年4月>		修士 (応用情報科学)		チーム医療とコミュニケーション IPW論 血液浄化療法学 血液浄化実習 人工呼吸療法学 人工呼吸実習 医用機器安全管理学 医用機器安全管理学実習 臨床医学演習 臨床実習 生体機能代行技術特講※ 関連臨床医学特講※ 先進治療技術学※ 遺伝子検査学※ 先端科学技術演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後 2 3前 1 3前 2 3後 1 3前 2 3後 1 3前 2 3前 1 3後 1 4前 4 4後 0.2 4後 0.3 3後 0.2 3後 0.2 3後 1 3通 2 4通 2		社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 臨床工学科 (平成19年4月)	5日	
10	専	講師	ツジヨシヒロ 辻 義弘 <平成30年4月>		博士 (応用情報科学)		血液浄化装置学 血液浄化実習 臨床実習 医用機器学特講※ 生体機能代行技術特講※ 先進治療技術学※ 医療情報システム学※ 医療情報システム学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後 1 3後 1 4前 4 4後 0.2 4後 0.2 3後 0.2 3後 0.2 3後 1 3通 2 4通 2		特定医療法人 桃仁会病院 付属診療所 臨床工学科主任 (平成28年4月)	5日	
11	兼任	教授	アベタカオ 安部 辰夫 <平成30年4月>		博士 (医学)		生物学 化学 病理学 免疫学	1前 2 1前 2 2前 2 2前 2			森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授 (平成28年4月)	
12	兼任	教授	イゲケチノリ 井手口 範男 <平成30年4月>		修士 (人間科学)		情報処理 統計学 心理学	1前 2 1後 2 1前 2			森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平成27年4月)	
13	兼任	教授	フジシカ (フジシマ) ヒロ 藤重 (中嶋) 仁子 <平成30年4月>		博士 (言語文化学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 英会話 医学英語 基礎英語演習 応用英語演習	1前 2 1後 2 2前 2 2後 2 2前 2 2後 2			森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平成19年4月)	
14	兼任	教授	ミヤコ (ミナト) タカシ 宮本 (盛尾) 忠吉 <平成30年4月>		博士 (学術)		スポーツ健康科学演習	1後 2			森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平成19年4月)	
15	兼任	教授	コシマヨシキ 小島 賢久 <平成30年4月>		博士 (保健学)		東洋医療概論	3前 2			森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平成19年4月)	
16	兼任	教授	ヤマシタニ 山下 仁 <平成30年4月>		博士 (保健学)		統合医療概論※	3後 1.2			森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平成19年4月)	
17	兼任	教授	ヨシカミノボル 吉岡 敏治 <平成30年4月>		医学博士		医学概論	1前 1			森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科教授 (平成28年4月)	
18	兼任	教授	モリタマサキ 森谷 正之 <平成30年4月>		博士 (歯学)		人体の構造Ⅰ	1前 2			保健医療学部 理学療法学科教授 (平成20年4月)	
							人体の構造Ⅱ	1後 1				

教 員 の 氏 名 等												
(保健医療学部臨床工学科)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
19	兼任	教授	モリセウ 森 誠司 <平成30年4月>		博士 (保健学)		生化学	1前	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床検査学 科教授 (平成28年4月)	
20	兼任	教授 (学部長)	アキモトキ 青木 元邦 <平成30年4月>		博士 (医学)		薬理学	2後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学 科教授 (平成19年4月)	
21	兼任	教授	イヅミカコ 伊津美 孝子 <平成30年4月>		修士 (看護学)		看護学概論	2後	1	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授 (平成25年4月)	
22	兼任	教授	コヤマサヒロ 小宮山 恭弘 <平成30年4月>		博士 (生活科学)		生体計測装置学※ 生体計測装置学実習	3前 3前	0.8 1	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床検査学 科教授 (平成28年4月)	
23	兼任	教授	ヲネヒデヒコ 脇 英彦 <平成30年4月>		博士 (保健学)		生体計測装置学※ 生体計測装置学実習	3前 3前	0.6 1	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床検査学 科教授 (平成28年4月)	
24	兼任	教授	マエカワヨシヒロ 前川 佳敬 <平成30年4月>		博士 (医学)		外科学各論(循環器・呼吸器・ 泌尿器・麻酔・集中治療学)	3後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床検査学 科教授 (平成28年4月)	
25	兼任	准教授	ナカハレヒデヒロ 中原 英博 <平成30年4月>		博士 (医学)		スポーツ健康科学演習	1後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 准教授 (平成23年4月)	
26	兼任	准教授	モリユキ(ヒロコ) 森 美有紀(広子) <平成30年4月>		博士 (医学)		統合医療概論※	3後	0.2	1	森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科准教授 (平成26年4月)	
27	兼任	講師	ウエダシノブ 上田 真也 <平成30年4月>		博士 (医学)		スポーツ健康科学演習 健康科学(スポーツ社会学を含む)	1後 1前	2 2	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平成24年4月)	
28	兼任	講師	イクロウジ 伊黒 浩二 <平成30年4月>		修士 (健康科学)		健康管理学Ⅰ 健康管理学Ⅱ	1後 2後	2 2	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学 科講師 (平成25年4月)	
29	兼任	講師	マサマシヨコ 増山 祥子 <平成30年4月>		修士 (心身健康科学)		統合医療概論※	3後	0.6	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平成25年4月)	
30	兼任	助教	ナガノキヒロ 長尾 晋宏 <平成30年4月>		修士 (英語英文学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 英会話 医学英語 基礎英語演習 応用英語演習	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 助教 (平成29年4月)	
31	兼任	講師	ヤマモトジュン 山本 淳 <平成30年4月>		博士 (文学)		基礎ゼミナール※	1前	0.9	1	立命館大学 兼任講師 (平成14年4月)	
32	兼任	講師	ヒサキマサアキ 久国 正章 <平成30年4月>		高等学校卒		物理学	1前	2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平成20年4月)	
33	兼任	講師	タナヨシコ 田中 美子 <平成30年4月>		修士 (文学)		生命倫理学 哲学	1後 2前	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平成16年4月)	
34	兼任	講師	シバノブオ 志賀 信夫 <平成30年4月>		博士 (社会学)		社会福祉学	1前	2	1	大谷大学 文学部社会学科助教 (平成28年4月)	
35	兼任	講師	ウチガシゲキ 植田 重幸 <平成30年4月>		修士 (法学)		日本国憲法	1後	2	1	東洋医療専門学校 専任講師 (平成20年4月)	
36	兼任	講師	シバノブアキ 重信 あゆみ <平成30年4月>		修士 (中国文学)		東洋史概説	1後	2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平成21年4月)	
37	兼任	講師	マツエケン 松枝 啓至 <平成30年4月>		博士 (人間・環境学)		西洋史概説	1後	2	1	大阪工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
38	兼任	講師	シバカクキ 南方 克之 <平成30年4月>		博士 (医学)		栄養学	1後	2	1	森ノ宮医療学園 専門学校専任講師 (平成18年4月)	
39	兼任	講師	リノハヤシタケ 外林 大輔 <平成30年4月>		修士 (医科学)		身体運動科学	3後	2	1	森ノ宮医療学園 専門学校専任講師 (平成21年11月)	

教 員 の 氏 名 等												
(保健医療学部臨床工学科)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 講 義 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
40	兼任	講師	カンダセイジ 神田 靖士 <平成30年4月>		博士 (化学)		公衆衛生学	1後	2	1	関西医科大学 公衆衛生学講座准教授 (平成16年4月)	
41	兼任	講師	ナガヒデヒト 長井 英仁 <平成30年4月>		専門学校卒		放射線工学概論 画像診断装置学※	2後 2後	1 1.4	1 1	姫路獨協大学 兼任講師 (平成26年4月)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	1人	人	2人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	4人	人	人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	6人	1人	人	2人	人	9人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	